

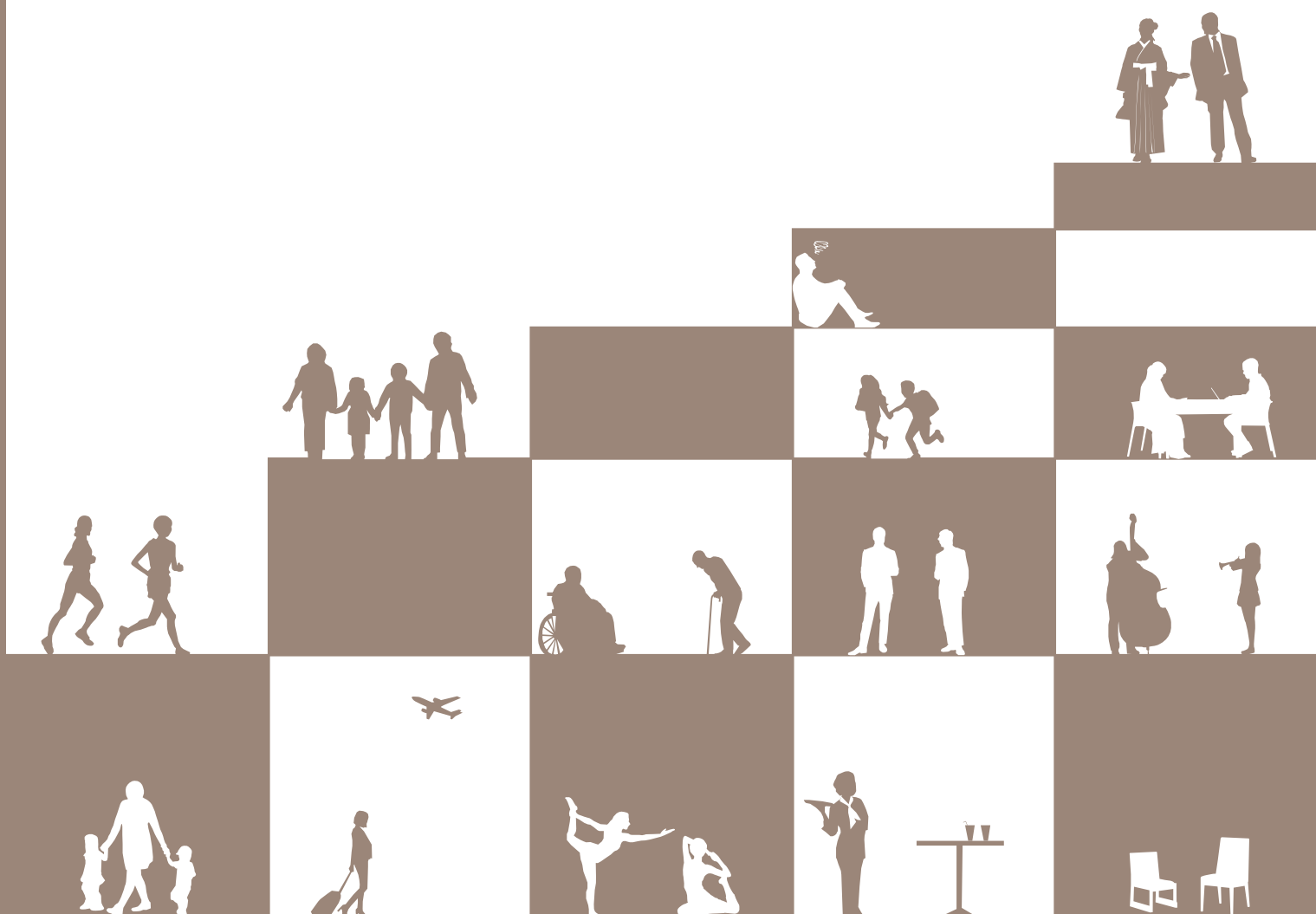
2018 年度
ライフデザイン学部

履修要覧

生活支援学科

健康スポーツ学科

人間環境デザイン学科



目次

はじめに	1
窓口・掲示板案内	3
ToyoNet-G/ToyoNet ACE/ToyoNetメール	4

学修にあたって	7
カリキュラムの概要	8
卒業・学位	10
授業について	12
試験・レポート	23
成績	27
その他	30

学部長挨拶・教育研究上の目的・教育方針	33
ライフデザイン学部長挨拶	35
ライフデザイン学部の教育研究上の目的	36
ライフデザイン学部教育方針	37

カリキュラムについて	39
生活支援学科生活支援学専攻	41
生活支援学専攻長の挨拶	43
教育研究上の目的・3つのポリシー	44
2018年度入学生 教育課程表・卒業要件・履修方法	46
生活支援学科子ども支援学専攻	63
子ども支援学専攻長の挨拶	65
教育研究上の目的・3つのポリシー	66
2018年度入学生 教育課程表・卒業要件・履修方法	68
健康スポーツ学科	83
健康スポーツ学科長の挨拶	85
教育研究上の目的・3つのポリシー	86
2018年度入学生 教育課程表・卒業要件・履修方法	88
人間環境デザイン学科	101
人間環境デザイン学科長の挨拶	103
教育研究上の目的・3つのポリシー	104
2018年度入学生 教育課程表・卒業要件・履修方法	106

ライフデザイン学部共通	119
大学院開講科目の先行履修制度について	120

副専攻	121
副専攻「障害学コース」の履修について	122

諸資格について	123
ライフデザイン学部で取得できる資格	125
1. 社会福祉士	126
2. 精神保健福祉士	130
3. 介護福祉士	134
4. 保育士	138
5. GFI (グループエカサイズフィットネスインストラクター)	142

6. 健康運動指導士	144
7. 健康運動実践指導者	148
8. 障がい者スポーツ指導員	150
9. レクリエーション・インストラクター	152
10. 第一種衛生管理者	154
11. トレーニング指導者	156
12. 公認スポーツ指導者	158
13. 建築士 (一級・二級・木造)	160
14. 人間環境デザイン学科で推奨する資格	162
15. 社会福祉主事	163

教職課程	165
ライフデザイン学部で取得できる教育職員免許状	167
1. 教育職員免許状	168
2. 介護等体験について	173
3. 教育実習について	174
4. 教育職員免許状取得までの流れ	176
5. 教育職員免許状の必要科目	178
幼稚園教諭1種免許状	180
高等学校教諭1種免許状 (福祉)	182
中学校教諭1種免許状 (保健)	184
高等学校教諭1種免許状 (保健)	186
中学校教諭1種免許状 (保健体育)	188
高等学校教諭1種免許状 (保健体育)	190
養護教諭1種免許状	192
高等学校教諭1種免許状 (工業)	194
高等学校教諭1種免許状 (工芸)	196

国際交流・国際教育プログラム	199
Toyo Global Leader (TGL) プログラム	200
海外留学・研修プログラム	202
ライフデザイン学部生の留学と単位認定について	205
英語特別教育科目 LEAPプログラム	208
ランゲージセンター課外英語講座	209

東洋大学と東京外国語大学の単位互換制度について	211
-------------------------	-----

各種手続	215
学籍情報	217
休学および復学	221
退学	224
除籍	226
再入学	226
その他学籍異動	227
各種証明書	229
納付金	231
学則	234
ライフデザイン学部規程	236



◆建学の精神◆

「諸学の基礎は哲学にあり」「独立自活」「知徳兼全」

◆東洋大学の教育理念◆

【自分の哲学を持つ】

多様な価値観を学習し理解するとともに、自己の哲学（人生観・世界観）を持つ人間を育成する。

【本質に迫って深く考える】

先入観や偏見にとらわれず、物事の本質に迫る仕方で、論理的・体系的に深く考える人間を育成する。

【主体的に社会の課題に取り組む】

社会の課題に自主的・主体的に取り組む、よき人間関係を築いていける人間を育成する。

◆東洋大学の心◆

【他者のために自己を磨く】

自分を磨くのは、人々のためにはたらくことができるようになるためであり、そのことを自覚して学業に励むのが東洋大学の心である。

【活動の中で奮闘する】

現実社会における活動の中にどこまでも前進してやまないのが、東洋大学の心である。

◆創立者 井上円了と東洋大学◆

東洋大学は、明治20（1887）年、哲学者・井上円了が創設した「私立哲学館」によってその歴史が始まりました。円了は幕末の安政5（1858）年、越後国長岡藩西組浦村（現在の新潟県長岡市浦）のお寺の長男として生まれ、明治14年、設立間もない東京大学文学部哲学科にただひとりの1年生として入学しました。勉学を通して「洋の東西を問わず、真理は哲学にあり」と確信します。当時のわが国は欧米文化至上主義の時代で、円了は西洋化に踊らされる日本を憂いていたと思われます。ここでいう哲学とは、「万物の原理を探り、その原理を定める学問」であり、それは観念的演繹的な哲学ではなく、事実と実証に基づく哲学であるという点が強調されました。

円了は創立前に「哲学はあらゆる事物の原理を定める学問であります。政治、法律はもとより科学や芸術まで、その根底には哲学がなくてはなりません」と述べています。この考えから明治20年「私立哲学館」という哲学専修の私立学校を創立しました。これが現在の東洋大学の前身にあたります。

円了が教育で目指した哲学は、いわゆる「哲学者」の養成ではなく、思想や精神を錬磨する術（すべ）であり、他に応用する能力も身につけなければならないものであると説いています。

哲学という言葉が初めて使われた明治時代から、哲学の欠如が問われている現在までの125年以上にわたり、東洋大学も激動の歴史を歩みながら、創立者井上円了の教育理念を継承してきました。

哲学館創立以降に、円了は「余資なく、優暇なき者」のために「社会教育」と「開かれた大学」を目指して活動を開始しました。その一つに、学校開設の翌年から『哲学館講義録』を発行して、通学できない者にも勉学の機会を与えました。これは当時としては画期的なことであり、この精神は現在の通信教育部に受け継がれています。

さらに、円了は30代から生涯続けることになる全国巡講を始めています。統計が残っている明治39年から大正7年までの13年間で、全国60市、2198町村において5291回の講演を行い、社会教育に力を入れました。明治の日本に新しい教育の扉を開こうとした円了の情熱がうかがえます。この心を引き継いで現在の東洋大学では「開かれた大学」を目指し、講師派遣事業や公開講座など、地域のみならず全国の人々に生涯学習の場を提供しています。

はじめに

本書の使用方法について説明します。

- ・ 履修要覧には学生生活を送るうえで、重要な事項が記載されています。
- ・ 履修要覧は、卒業時まで使用します。紛失した場合、再発行はしませんので、大切に保管してください。なお、履修要覧は本学ホームページにてダウンロード可能です。
- ・ 履修要覧の記載事項に修正が生じた場合は、掲示板等でお知らせします。

はじめに 窓口・掲示板案内

大学からの通知・連絡などは、すべて掲示により行います。必ず掲示板を確認してください（ToyoNet-Gを検索して確認することもできますが、すべての掲示がWeb上で確認できるわけではありません）。

※大学への問い合わせはすべて窓口で受け付けます。電話およびメールによる授業・休講・試験などに関する問い合わせには一切応じません。



夏季休暇・大学祭期間・冬季休暇・春季休暇中は、受付時間等が変更となる場合があります。掲示・ホームページで確認してください。

◆窓口等取扱時間◆

窓口等	場所	取扱時間（月～金）	取扱時間（土）
朝霞事務課	研究管理棟 1階	9:30～13:00 14:00～16:45	9:30～12:45
図書館カウンター	図書館 2階	8:45～19:45	8:45～15:45
医務室	講義棟 1階	9:30～17:45	9:30～12:45
学生相談室	図書館 1階 学生サポートスクエア内	9:30～13:00 14:00～16:45	9:30～12:45
自動証明書発行機	研究管理棟 1階 朝霞事務課前	9:00～16:45	9:00～12:45
PC教室	情報実習棟 2階	ホームページ・掲示を参照	
就職・キャリア支援室	研究管理棟 1階	9:30～16:45	9:30～12:45
教職支援室	図書館 1階 学生サポートスクエア内	9:30～16:45	—
ラーニングサポートセンター (LSC)	図書館 1階 学生サポートスクエア内	10:30～13:00 14:00～17:00	—

◆掲示板◆

	掲示内容	掲示場所
教務関係	休講	講義棟 1階 電光掲示板 およびToyoNet-G
	補講	講義棟 1階 補講掲示板 およびToyoNet-G
	教室変更・授業時間割	講義棟 2階 講209教室前掲示板
	試験・レポート・成績・学籍・学生呼出・資格	中央掲示板
総務関係	納付金・大学公示	
図書館関係	開室カレンダー・イベント情報など	
学生生活関係	学生呼出・奨学金・イベント情報・学生相談室・医務室・ セミナーハウス・キャリア形成支援・就職活動支援など	研究管理棟 1階掲示板
	キャリア形成支援・就職活動支援・ボランティア募集	

学生生活を過ごすにあたって、大学のさまざまなwebシステムを使用する機会が多くあります。授業や各種手続、お知らせを確認するための主なwebシステムについて紹介します。

◆情報システム利用通知書◆

学生の皆さんが本学において情報施設・設備・各種情報サービスを利用する際には、就学手続き時に配付された「情報システム利用通知書」に記載されているアカウント（ユーザーID、パスワード）が必要となります。

ユーザーIDおよびパスワードを必要とするもの

1. PC教室でのログイン
2. 有線・無線LANでのログイン
3. ToyoNet-G（学務システム）
4. ToyoNet-ACE（授業支援システム）
5. ToyoNetメール

各システムの利用方法は「東洋大学情報システム利用ガイドブック」、「学務システムToyoNet-G利用ガイドブック」を参照してください。

※「情報システム利用通知書」を紛失してしまった場合、通学課程の学生は、自動証明書発行機にて再発行することが可能です（ユーザーID、パスワードについて電話やメールでの問い合わせにはお答えできません）。「**情報システム利用通知書**」は、**皆さんの個人情報にアクセスする情報が記載されていますので厳重に管理してください。**

◎ToyoNet-G / ToyoNet-ACE / ToyoNetメール ログイン方法

東洋大学ホームページ（<http://www.toyo.ac.jp>）より、「情報ポータルToyoNet」のボタンをクリックしてください。

「ホーム／提供サービス」の「ToyoNet-G ログイン」「ToyoNet-ACE ログイン」または、「ToyoNetメール ログイン」をクリックし、「情報システム利用通知書」に記載されたユーザーID、パスワードを入力しログインしてください。

◆ToyoNet-G◆

大学での生活・学修上で必要となる手続き・登録を行うシステムです。大学生活に関する情報の発信も行っています。

<ToyoNet-Gを使う一例>

- ・各種登録（履修登録など）
- ・各種照会（成績、定期試験時間割など）
- ・各種申請の手続（住所変更、成績調査など）
- ・各種書類の印刷（履修登録確認表、成績表など）
- ・アンケート回答・申込
- ・大学からのお知らせ確認（個人宛／休講・補講情報など）
- ・教員のメールアドレスの照会

◆◆ToyoNet-ACE◆◆

授業時間内において、出席の管理や課題の提出などに使用されます。また授業時間以外でも授業への理解を深めるため、講義内容の補完として使用されることが多くあります。

<ToyoNet-ACEを使う一例>

- ・ 授業の出席確認
- ・ 配付資料の配信
- ・ 授業担当教員からのお知らせ
- ・ 小テスト、レポートの提出
- ・ テスト結果の通知
- ・ TGLプログラムの情報収集・各種申込み、達成状況確認

◆◆ToyoNetメール◆◆

本学の学生一人ひとりに付与されるメールアドレスです。無料で使用できます。メールアドレスを活用して、授業担当教員への連絡等が可能です。また、大学側からToyoNetメールアドレスへ連絡することができますので、頻繁に確認するように心がけてください。

<ToyoNetメールを使う一例>

- ・ 授業担当教員との連絡
 - ※ToyoNet-Gの「シラバス・教員プロフィール」で教員のメールアドレスを照会することができます。(P.22「教員との連絡」参照)
- ・ 就職活動での連絡先

Column

～学内のPC教室・自習用PC教室について～
大学内には自由に使うことができるPC教室があります。

<学内の常設PC教室>

- ・ 情報棟205教室・206教室
- ・ 情報棟203教室（英語学習に特化した設備になっています。）
 - ※利用にあたっては、授業が行われていない時間に限ります。

学修にあたって



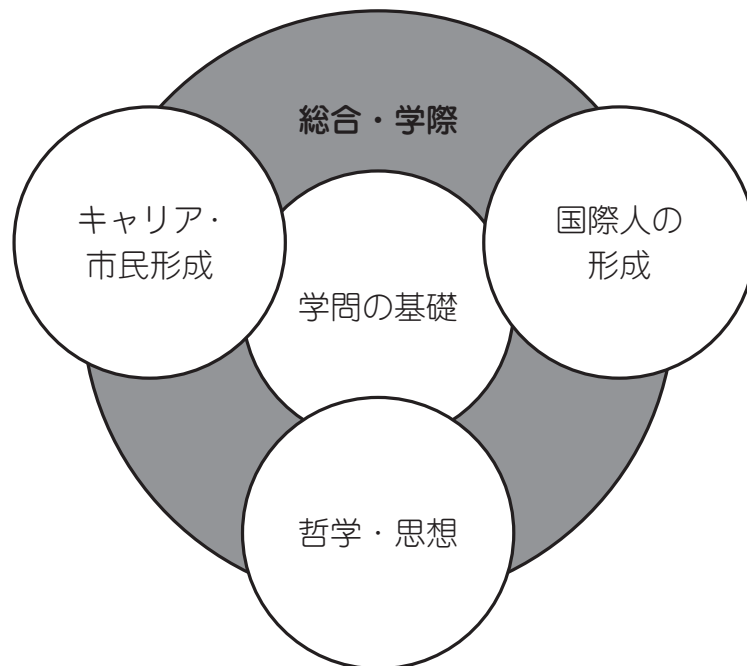
◆◆ 基盤教育「東洋大学スタンダード」 ◆◆

「諸学の基礎は哲学にあり」という建学の精神のもと、東洋大学は現在、地球規模の視点で物事をとらえ、自分の未来を切り開くことのできる「グローバル人財（人という財産）」の育成を目指しています。

「東洋大学スタンダード」は、教育目標である「哲学教育」「国際化」「キャリア教育」の3つの柱をつなぐ「教養教育」を強化し、学部の枠組みを越えて学ぶ基盤教育カリキュラムです。総合大学の特色を生かした幅広い教養教育として次のような枠組みを設けて展開しています。

＜基盤教育による全学的人財養成の目標＞

- (1) 哲学することを重んじ、自ら考え判断し行動する。
- (2) 知・徳・体の力を伸ばし、生命と自然を尊重する。
- (3) 学問を通じて、論理的思考力と生涯学習への礎を身につける。
- (4) 現代社会における諸課題を解決するための発想力・創造性を養う。
- (5) 自他の伝統と文化を相互に尊重するとともに、自らの個性を育む。
- (6) 21世紀のグローバル社会に貢献できる国際人・地球市民となる。
- (7) 総合的視野に立ち、他の分野の人々とも協働できるリーダーをめざす。



～基盤教育カリキュラム体系図～

基盤教育「東洋大学スタンダード」を学び幅広い知識・教養を身につけ、学科専門科目を深く体系的に学ぶことができるよう、本学の学士課程教育が構成されています。

基盤教育 東洋大学スタンダード	
哲学・思想	「建学の精神と思考鍛練の基礎」 東洋大学の伝統と歴史、創立者の考えを学ぶとともに、東西の哲学を通じて、自ら考え、判断し、行動する能力を身につけることを目指す科目群。創立者・井上円了によれば、「哲学教育」とは、思想鍛練の方法として必要な学問であり、ものの見方や考え方の基礎を身につけることにあります。グローバル人財の育成にあたり必要な実践哲学、倫理観の醸成を重視し、総合的な視野に立って他分野の人々とも協働できるグローバルリーダーを育成します。
学問の基礎	「普遍的な学問教育と論理的思考力の育成」 人文・社会・自然科学の学問領域を追究する、一般教養やリベラル・アーツといわれる科目群。学問上の方法論を修得し、論理的思考力の育成を目指すとともに、多様性を尊重し、地球環境の持続可能性を追求する人財を育成します。また、生涯にわたり学び続ける学習者としての態度を養います。
国際人の形成	「グローバル化した地球社会で生きる」 国際人を育成することに直接的に関わる、言語や情報等のコミュニケーション関連科目に加え、異文化理解や日本人としてのアイデンティティ、国際関係、地域文化などの理解を深める科目群。また、語学力・コミュニケーション能力を高めることで、他国の文化を受容・尊重し、自国の文化を世界に発信し、グローバル社会に貢献できる国際人・地球市民の養成を目指します。
キャリア・市民形成	「キャリア教育と知・徳・体の成長を重視した人格教育」 知・徳・体のバランスの取れた全人的人間性の養成を目指す科目群。めまぐるしく変化する現代社会においては、市民社会における個人の自由や権利を主張する一方で、地域のコミュニティを育て、連携して課題解決を目指し、協働することを学ぶ必要があります。社会的・職業的な課題における問題解決力や発想力の育成と、総合的な視野を持ち、他分野と協働できる能力の育成を目指し、自ら考え行動することを身につけ、自己実現を図ります。
総合・学際	「先進的で総合的な教育内容・学習法の取り組み」 さまざまな問題や課題を前面に出した複合的、総合的、学際的なテーマを設定する科目群。授業では最新の研究成果を広く他領域の学生に紹介し、複数の教員によるオムニバス形式、複数の教員が協働する同時登壇形式といった形式で行います。また、演習や討論、対話を通じて、学生が課題を探究・解決するアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れています。ICTを活用したキャンパス間をつないだ同時双方向遠隔授業なども行います。
留学支援	LEAP (学術英語習得プログラム)をはじめとする、学生の留学準備および英語強化を支援する準集中型英語プログラムが展開されています。 この科目群により、教室外の学習機会を設けることで、学生のTOEFLのスコアおよび全体的な英語スキルの向上を目指します。

◆ 専門科目 ◆

本学部、各学科の人材養成の目的その他教育研究上の目的を実現するために必要なカリキュラムが構成されています。

詳しくは、各学科の教育課程表のページを参照してください。

専門科目	
専門科目	カリキュラムの中心となる最も多く履修・修得する必要のある学科専門科目群です。必修・選択必修・選択科目等に分かれています。

学修にあたって 卒業・学位

◆卒業要件、修業年限／在学年限◆

卒業するには、修業年限4年以上在学し、各学科・専攻が定めている卒業要件をすべて充足することが必要です。

在学できる年数は最長で8年（休学期間を除く）と定められています（P.219「学籍」を参照）。

卒業要件

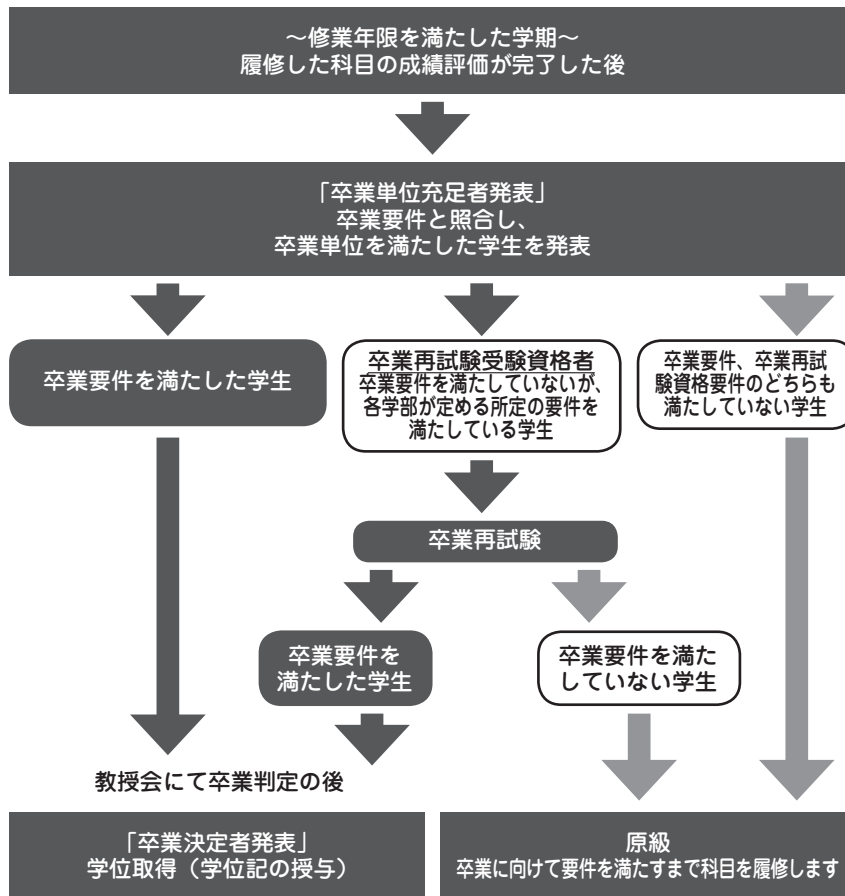
- (1) 修業年限を満たしていること。
- (2) 卒業要件となる科目で124単位以上を修得していること。
- (3) 各学科の卒業要件を満たしていること。

◆卒業決定の通知◆

教授会で各学科・専攻の卒業要件と照合し、卒業可能かどうかを判定した後、卒業決定者が発表されます。

卒業単位充足者、卒業決定者の発表は、ToyoNet-G等で通知されます。

卒業決定の通知の流れ



◆学位の授与◆

卒業要件（卒業に必要な単位数）を満たし、修業年限を経過した者には、以下の学位が授与されます。

学 科	学 位
生活支援学科	学士（生活支援学）
健康スポーツ学科	学士（健康スポーツ学）
人間環境デザイン学科	学士（人間環境デザイン学）

学修にあたって 授業について

◆ 学期・セメスタ ◆

本学では1年を次の学期に分けます。

春学期（※ 4月1日～9月30日）				秋学期（※ 10月1日～3月31日）			
授業期間				授業期間			
		夏季休暇期間				春季休暇期間	

※学則上の学期日程と実際の学年暦（授業カレンダー）は異なることがあります。

学籍異動等の取り扱いは、学則上の学期日程（春：4月1日～9月30日、秋：10月1日～3月31日）で取り扱います。

※学年暦（授業カレンダー）、授業開始日、授業終了日等は年度によって変更することがありますので、当該年度の「年度行事予定」（『学生生活ハンドブック』）で確認してください。

※履修登録期間は『履修登録のしおり・授業時間割表』（4月配付）で、お知らせします。

（セメスタ制）

セメスタ制とは、1年を2つの学期（セメスタ）に分け、4年間で8つのセメスタを段階的に積み上げて学修し、卒業する制度です。年に2回（4月・9月）履修登録を行います。学期単位で授業が完結し、試験やレポート等の成績評価に基づいて単位が認定されます。

◆ 授業の開講時限・時間帯 ◆

授業科目は、春学期又は秋学期のいずれかに開講され、授業は月曜日から土曜日まで行われます。

各授業は原則週に1回で、春学期・秋学期に各15週行い、定められた曜日時限に行われます。年度初めに配付される「履修登録のしおり・授業時間割表」を参照してください。朝霞キャンパスの授業時間帯は以下のとおりです。

時限	授業時間
1時限	9:00 ~ 10:30
2時限	10:40 ~ 12:10
昼休み	12:10 ~ 13:00
3時限	13:00 ~ 14:30
4時限	14:40 ~ 16:10
5時限	16:20 ~ 17:50
6時限	18:00 ~ 19:30

※6時限（18:00～19:30）に補講を実施する場合があります。

◆休講・補講／授業の欠席◆

休講

教員のやむを得ない理由および交通機関の混乱等により、授業を休講することがあります。休講の場合は、電光掲示板およびToyoNet-Gの「休講情報」にて通知します。

なお、電光掲示板およびToyoNet-G等に休講の掲示がされていないにもかかわらず、授業開始時刻から30分経過しても担当教員が不在の場合は、その科目は休講となり、後日補講が実施されます。朝霞事務課教務担当窓口にて連絡の上、指示を受けてください。

休講の確認方法

- ・ 電光掲示板（講義棟 1階）
- ・ ToyoNet-G
 - ※ToyoNet-Gログイン後、トップページでも確認することができます。

The screenshot shows the 'My Profile' section of the ToyoNet-G website. It includes a navigation bar at the top with links like HOME, 学生メニュー/Menu, 相談予約/Appointments, アンケート/Surveys, 各種資料/Resources, and リンク/Links. The main content area is titled 'Home' and features a 'お知らせ' (Notice) section with a 'バックナンバー' (Back Number) button. Below this, there are two 'お知らせ' sections: '未読のお知らせ' (Unread Notices) and '既読のお知らせ' (Read Notices). The '未読のお知らせ' section lists several categories: 教務関係(5), 学生生活関係(1), キャリア・就職関係(7), and その他(2). The '既読のお知らせ' section shows 'なし' (None). On the right side, there is a 'My Profile' section with the user's name (ライフデザイン学部 生活支援学科 生活支援学専攻 1年), a student ID number, and a 'CHECK' button. Below the profile is a calendar for the month of March, with a '詳細' (Details) link. At the bottom of the page, there are two buttons: '休講情報' (Absence Information) and '補講情報' (Makeup Information). Both buttons have a callout box pointing to them with the text '休講情報を確認できます' (Absence information can be confirmed) and '補講情報を確認できます' (Makeup information can be confirmed).

緊急時の授業の取扱い

(1) 台風の接近等により交通機関の混乱が予想される場合および災害等により交通機関が運行停止している場合の授業の取扱いについて

台風の接近等により交通機関の混乱が予想される場合および台風・地震の災害等により交通機関が運行停止となった場合（人身事故等一般的な運行停止を除く）の授業の取扱いについては、本学のホームページ・ToyoNet-Gにてお知らせしますので、大学の指示に従ってください。

なお、授業中に交通機関の混乱等が確認された場合は、学内掲示、学内緊急放送にてお知らせします。

(2) 大規模地震の警戒宣言が発令された場合の授業の取扱いについて

大規模な地震の発生が予想され、警戒宣言が発令された場合の授業の取扱いについても、本学のホームページ・ToyoNet-Gにてお知らせしますので、大学の指示に従ってください。

なお、授業中に警戒宣言が発令された場合は、学内掲示、学内緊急放送にてお知らせします。

※ホームページはアクセスが集中し、繋がりにくい場合がありますので、ToyoNet-Gも確認してください。

※学内で実施される講演会・講座等についても、上記措置に準ずるものとします。

補講・集中講義

次のような場合で、補講・集中講義を実施するときは、その内容を事前に学内補講掲示板およびToyoNet-Gに掲示情報を配信しますので、登校した際に必ず確認してください。

(1) 授業が休講となったとき。

(2) 特に補講・集中講義を必要とするとき。

※6時限（18:00～19:30）に補講を実施する場合があります。

欠席

やむを得ない事由（病気、怪我、交通機関の遅れ、忌引）により、授業を欠席した場合は**次の授業時に担当教員へ直接申し出てください**。連絡が取れる場合は、なるべく事前に連絡してください。

ただし、以下（1）～（4）の場合は、朝霞事務課教務担当窓口等にて所定の手続きを行ってください。

(1) 正課の学外実習のために欠席する場合

正課の学外実習のために欠席する際は、朝霞事務課教務担当窓口にて「学外実習に伴う欠席届」に必要事項を記入し、確認印を受けた後、それを担当教員へ提出してください（学外実習の実施日以前に提出する必要があります）。**ただし、「学外実習に伴う欠席届」は、その提出をもって出席扱いとするためのものではありません。**

対象となる実習は下記の通りです。

〔教育実習・養護実習、介護等体験、看護学実習、介護福祉実習、保育実習、社会福祉援助技術現場実習、精神保健福祉援助技術実習、健康産業施設等現場実習、地域医療福祉専門実習、国際健康スポーツ交流〕

(2) 介護福祉士コースおよび保育士養成課程の学生が、やむを得ない理由により欠席する場合

介護福祉士コースおよび保育士養成課程に所属する学生が、病気や怪我、交通機関の遅れ、忌引などやむを得ない理由で欠席した場合は、**欠席した日時と理由がわかる証拠書類**（医師の診断書や領収書等、遅延証明書、会葬案内等）を持参の上、朝霞事務課教務担当窓口にて「欠席届」に必要事項を記入して、確認印を受けた後、各自担当教員へ提出してください。**ただし、「欠席届」は、その提出をもって出席扱いとするためのものではありません。**

(3) 感染症により欠席する場合

麻疹やインフルエンザ等の感染症に罹患した場合、感染の拡大を防止するため、大学への出席は停止となります。医師により登校可能と判断されたのち、「感染症治癒証明書」を医務室に提出したうえで、担当教員に申し出てください。詳細は本学のホームページ等で確認してください。

※介護福祉士コースおよび保育士養成課程に所属する学生は、上記(2)の欠席届の手続きを行ってください。

(4) 長期間（3ヶ月以上）欠席する場合

病気や怪我・留学等の理由で、3ヶ月以上欠席する場合は、大学の許可を得て、休学することができます（P.221参照）。詳細は、朝霞事務課教務担当窓口にご相談してください。

◆単位のしくみ◆

授業科目には学修時間に応じた単位数が定められており、卒業要件等の履修基準は修得すべき単位数によって規定されています（P.39～「カリキュラムについて」を参照）。

1単位は、授業や自習をすべて含めた30～45時間の学修に対応しており、授業の占める時間は、講義・演習科目は15時間、外国語科目は30時間、実験・実技・実習科目は30～45時間と設定されています。

標準的な授業実施形態は、週1回1学期15回授業が実施されます。授業の講義時間はどの科目も、90分です。

授業科目等	単位数	授業回数 (1学期)	学修時間	
			授業時間	予習復習時間
講義・演習科目	1単位	15回	15時間	30時間
外国語科目	1単位	15回	30時間	15時間
実験・実技・実習科目	1単位	15回	30～45時間	0～15時間

◆履修計画・履修登録◆

授業を受け、単位を修得するためには事前に授業科目の登録が必要になります。これを「履修登録」といい、各学科・専攻の教育課程表に沿って履修計画を立て、授業科目の登録を学期毎に行います。

定められた期間に「履修登録」を完了しないと、履修する科目の受講・受験ができず、単位も修得できなくなりますので注意してください。

- (1) 履修登録にあたっては、履修要覧、シラバス（ToyoNet-Gを参照）、『履修登録のしおり・授業時間割表』等を熟読のうえ、時間割を作成してください。「履修登録」はToyoNet-Gから行ってください。
- (2) 教育課程表に示された配当学年に従って履修登録してください。配当学年が自分の学年よりも下の科目は履修することができます。
- (3) **履修登録期間以降の訂正・削除は一切認めません。**
- (4) 授業時間割及び講義内容等に変更があった場合は、学内掲示板に掲示します。
- (5) 履修登録後、「履修登録確認表」を必ず出力し、成績発表時まで保管してください。
- (6) 資格取得を希望する学生は、「諸資格について」および「教職課程」で資格取得のための条件を確認してください。
- (7) 1セメスタで履修登録できるのは**原則24単位まで**となります（P.19「履修上限単位数（CAP制）と履修科目の制限」を参照）。
- (8) 同一科目を2つ以上履修することはできません。
- (9) 一度単位を修得した科目を再度、履修登録することはできません。

各学科・専攻の教育課程表に沿って、計画的な履修をするようにしてください。また履修計画を立てるにあたっては、教職員の履修指導を受けるほか、カリキュラムマップを参考にしながら、段階的な学修に取り組むようにしましょう。

履修計画のポイント

- ①所属学科・専攻の卒業要件をよく理解すること。
- ②『履修登録のしおり・授業時間割表』をよく読み、当該年度の履修上のルールなどについて、きちんと把握すること。
- ③必修科目や選択必修科目など、卒業要件のうち優先度の高い科目については、配当学年において早めに履修すること。
- ④『履修登録のしおり・授業時間割表』をよく読み、履修希望する科目同士の時間割の重複（曜日・時限・開講学期）がないか確認すること。重複があった場合には、上記③の優先度を考慮して履修すること。
- ⑤進級する際や成績発表後は、これまで履修し、単位修得した科目を振り返り、残りの必要単位数や修得が必要な科目を特定すること。
また各学科・専攻のページに記載されている『カリキュラムマップ』を参考に、これまで履修した科目やこれから履修する科目の関係性を理解するとともに、卒業までに必要な知識・能力などを踏まえ、選択科目などの必要な履修の参考にすること。
- ⑥必要に応じて、教員に相談するほか、履修ガイダンスに参加し、必要な科目をチェックすること。



定められた期間に「履修登録」を怠ると、履修希望する科目の受講、試験の受験ができず、単位の修得もできなくなります。

◆履修登録の流れ◆

履修登録は、春学期の開始時と秋学期の開始時の年2回、ToyoNet-G を利用して行います。詳細については『ToyoNet-G 利用ガイドブック』を参照してください。

時間割の作成

- ・『履修要覧』『シラバス』『履修登録のしおり・授業時間割表』や前学期『成績表』等をもとに該当学期に履修する授業を決め、『履修登録のしおり・授業時間割表』にある「時間割作成用紙」に科目名、担当教員名等を記入しておくことで履修登録がスムーズに行えます。
(※『履修要覧』は入学時のみ配付しています)



履修登録（正規登録期間）

- ・時間割作成用紙をもとに履修登録（インターネット環境を通して登録）。
 - ・期間内なら何度でも追加や削除が可能（事前登録されている科目・抽選に通った科目等を除く）です。登録期間終了後は履修登録科目の追加・削除はできません。履修登録を行う度に必ず『履修登録確認表』を出力して確認をしてください。
- ※履修登録期間の最終日はアクセスが集中する場合がありますので、時間に余裕を持って登録してください。



抽選科目の抽選結果確認

- ・抽選実施科目・抽選結果についてはToyoNet-G で確認することができます。
- ・抽選に通った科目の履修登録期間内の変更は一切できません。
- ・抽選で外れた科目の履修は自動的に削除されます。



履修登録（追加登録期間）

- ・この期間内であれば、履修科目の追加・削除が可能です。
- ・抽選科目は、定員に達していない場合、先着順で履修登録することができます。



履修登録完了 履修登録確認表の出力・保管

- ・ToyoNet-G で必ず『履修登録確認表』を出力して内容を確認してください。出力した『履修登録確認表』は1学期間、大切に保管してください。成績発表時に履修登録の事実を証明する用紙となります。
- ・履修登録を証明する『履修登録確認表』の提示がない場合には、履修に関するトラブルは一切受け付けません。
- ・『履修登録確認表』に記載されていない科目の講義に出席し、試験等を受験しても単位は付与されません。



履修取消期間

- ・GPA制度の導入に伴い、「履修取消期間」を設定します。履修登録して、実際に授業を受けてみたものの、単位修得が困難と判断した科目についてのみ履修登録を取り消すことが可能です。履修取消期間などの詳細については、『履修登録のしおり・授業時間割表』を確認してください。

◆履修上限単位数（CAP制）と履修科目の制限◆

各学期（セメスタ）に履修登録することのできる単位数に制限があります。

履修上限単位数

年次	春学期	秋学期
1～4	24単位	24単位

※介護福祉士コースの履修単位数上限

「介護福祉士コース」の学生は、1年次の秋学期以降、履修登録の上限が1セメスタあたり28単位（通常の24単位に4単位を加算できる）となります。

※セッション科目の取り扱いについて

セッション科目（P.79参照）については、履修登録の上限に含みません。
なお、履修上限単位数に含まれる科目は以下のとおりです。

卒業要件 (124 単位)	区 分		履修制限
卒業要件に 含む	専門科目	学部共通科目	制限内
		学科専門科目	
		他学科・専攻開放科目	
	基盤教育	哲学・思想	
		学問の基礎	
		国際人の形成	
		キャリア・市民形成	
総合・学際			
	留学支援科目		
卒業要件に 含まない	教職科目		制限外

◆シラバス◆

シラバス（講義要項）には、授業の内容（概要）や到達目標など、科目の履修を通じて身につけることのできる知識、能力、また各回の授業の進め方や内容、成績評価方法・基準、使用テキストや予習・復習の指示などが、学生に示されています。

履修する科目を決めるにあたっては、シラバスを熟読することはもちろん、次回の授業の準備学習や復習の際の振り返りに用いるなど、シラバスを活用することによって学習効果を高めるよう努めてください。

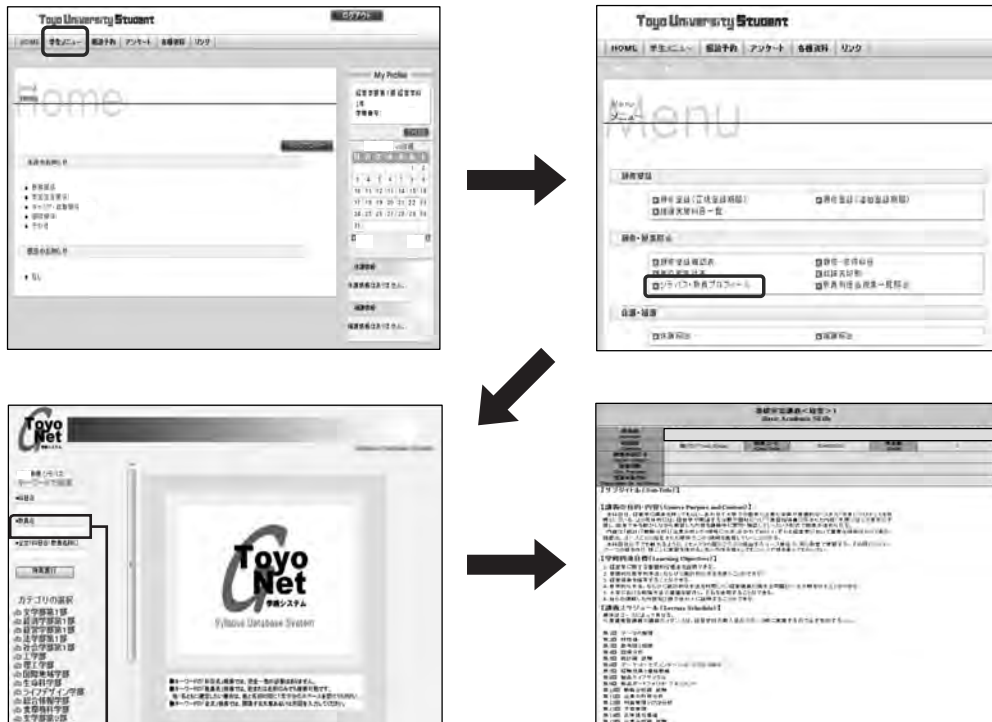
シラバスはToyoNet-Gで公開しています。

シラバスの記載項目

主な記載項目	記載内容
科目名	履修要覧・時間割表に記載されている科目名が示されています。
担当者	担当教員名が示されています。
サブタイトル	科目のサブタイトル、サブテーマが示されています。
講義の目的・内容	科目の目的として、どのような内容を学ぶのか、またどのように教授していくかについて示されています。
学修到達目標	履修を通じて身につけることのできる知識・能力などが具体的に示されています。
講義スケジュール	各回の授業内容・テーマをもとにしたスケジュールが示されています。
指導方法	担当教員がどのように授業内容を進めていくのかについて示されています。
事前・事後学習	授業を受講するにあたって、必要な予習・復習の指示が示されています。
成績評価の方法・基準	どのような評価方法で成績評価をするのか、また評価方法ごとにどれくらいの割合で成績に反映するのかについて示されています。
受講要件	履修にあたって予め必要な条件について示されています。
テキスト	授業で使用する教科書やテキストについて示されています。
参考書	授業に関連する参考書が紹介されています。

シラバスの検索方法

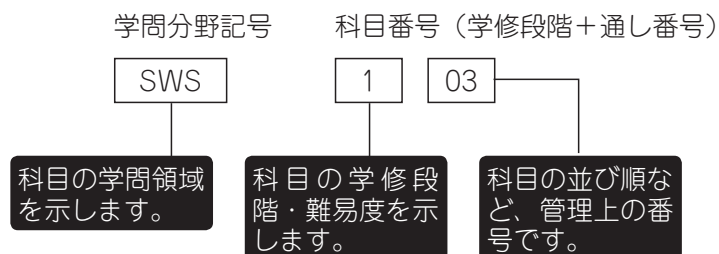
シラバスはToyoNet-Gの「学生メニュー」→「シラバス教員プロフィール」から検索することができます。



調べたい科目名や教員名を入力

◆ 科目の記号と番号（科目ナンバリング） ◆

それぞれの授業科目に「学問分野の略号」と「学修段階（難易度）」を明示することで、順次的・体系的な履修を可能としています。なお、科目ナンバリングは、2016年度以降の入学生より明示しています。



記号と番号の意味は以下のとおりです。

学問分野記号

教育課程表上の各科目に付されている学問分野記号は次のとおりです。

略号	学問分野名	略号	学問分野名	略号	学問分野名
ABE	建築学	ENG	語学（英語）	ITS	総合・学際
AEN	建築環境・設備	EPM	疫学・予防医学	KOR	語学（韓国語）
AHD	建築史・意匠	ESS	教科教育学	LIN	言語学
AHS	応用健康科学	FAS	学問の基礎	PED	小児科学
BSM	建築構造・材料	FLE	外国語教育	PHT	哲学・思想
CGS	認知科学	FRA	語学（フランス語）	PSS	精神神経科学
CHI	語学（中国語）	FUN	基礎看護学	RSW	リハビリテーション科学・福祉工学
CHS	子ども学（子ども環境学）	GEA	解剖学一般（含組織学・発生学）	SEM	ゼミナール基礎演習
CIV	キャリアインターンシップポランティア系科目	GER	語学（ドイツ語）	SOC	社会学
CLD	衣・住生活学	GIM	内科学一般（含心身医学）	SOF	ソフトウェア
CME	商学	GPH	生理学一般	SOL	社会法学
DEE	設計工学・機械機能要素・トライボロジー	HII	ヒューマンインターフェース・インタラクション	SPS	スポーツ科学
DES	デザイン学	HPC	高性能計算	SUS	留学支援
DMB	身体教育学	HPH	衛生学・公衆衛生学	SWS	社会福祉学
ECD	キャリア・市民形成	IHR	国際人の形成	THE	卒業論文卒業制作
EDP	教育心理学	INM	知能機械学・機械システム	TPA	都市計画・建築計画
EDU	教育学	ISE	情報セキュリティ	TYS	自校教育科目

科目番号（学修段階＋通し番号）

科目番号	説明
100番台	主に大学1年生を対象とした授業（1年次レベル）
200番台	主に大学2年生を対象とした授業（2年次レベル）
300番台	主に大学3年生を対象とした授業（3年次レベル）
400番台	主に大学4年生を対象とした授業（4年次レベル）

※上記の科目番号は授業の難易度を示すものとして付されています。教育課程表に記載されている配当学年とは異なる場合があります。

◆教員との連絡◆

教員と連絡を取りたい場合は、次のような方法があります。

研究室を訪ねる

専任教員（教授、准教授、講師、助教）にはそれぞれ研究室があります。学生からの相談や質問を受けるために「オフィスアワー」が設けられています。

オフィスアワーでは、授業内容に関する質問や、学修の進め方、履修登録のプランなどの相談のほか、レポート指導なども行っています。その他、卒業後の進路や休学、転部・転科、留学、大学院進学などの進路に関する相談、学生生活全般の相談など、幅広い相談に対応しています。

非常勤講師の教員は、研究室を持たないため、オフィスアワーはありません。連絡を取りたい場合は、ToyoNet-Gの「シラバス・教員プロフィール」に記載されている連絡先を参照してください。

オフィスアワーの確認方法

ToyoNet-Gの「シラバス・教員プロフィール」に記載されている「オフィスアワー」の時間帯、研究室を確認し、訪問してください。予約が必要な場合もありますので、事前に確認をしてから訪問してください。

メールを送る

ToyoNet-Gの「シラバス・教員プロフィール」に記載されているメールアドレスを確認し、メールをしてください。



メールで連絡をする際には、必ず学籍番号・氏名を明記し、授業科目名を書くなど、何について質問・相談するか、簡潔にまとめること。

学修にあたって 試験・レポート

◆試験について◆

- (1) 履修登録した科目の単位を修得するためには、**授業回数の3分の2以上出席し、所定の試験に合格しなければなりません。代返等により不正に出席回数の水増しを行うことは認められません。**
- (2) 試験には、授業内試験と学期末に行う試験があります。科目によっては、レポートまたは平常点によって評価する場合があります。

試験には次の種類があります。

授業内試験	平常の授業期間に、科目担当教員によって随時行います。この場合の日程等については授業時や掲示等で確認してください。
学期末試験	春学期試験（7月～8月）および秋学期試験（1月～2月）を、全学的に一定の試験期間を設けて行います。実施期間については、授業時間割表や学生生活ハンドブックの「ライフデザイン学部学年暦」で確認してください。
レポート	試験のうち、担当教員の判断により筆記試験に替えて課す課題。
卒業再試験	卒業単位充足者発表後、所定の要件を満たした卒業を希望する4年生を対象として行われる特別試験。

※授業ごとの成績評価方法については、シラバスの「成績評価の方法・基準」を確認してください。また授業中に担当教員から指示される場合があります。

平常・学期末試験受験上の注意

1. 履修登録確認表に記載されていない科目を受験しても無効です。
2. 学期末試験、授業内試験ともに通常授業実施時間帯で試験が行われます。
3. 試験会場は平常授業時と異なる場合があるので、ToyoNet-Gで確認してください。
4. 1科目で試験会場が2カ所以上になる場合、学籍番号で試験会場を指定するので、必ず指定された試験会場を受験してください。
5. 試験に際しては、すべて監督者の指示に従ってください。
6. 学期末試験では、学生証がないと受験できません。必ず学生証を携帯し、試験会場では机上の指示された場所に提示してください。（授業内試験でも求められる場合がありますので、学生は必ず携帯すること。）
7. 試験会場に持ち込みできるものは、筆記用具・時計機能だけの時計・持ち込みが許可されたもののみです。携帯電話、スマートフォン等の通信機能が付いた機器は机上に置けません。試験の妨げにならないよう電源を必ず切って、かばんにしまってください。なお、上記の機器、音楽プレーヤーを時計代わりに使用することはできません。
8. 筆記用具（ボールペン、鉛筆、消しゴム）を必ず持参してください。貸出は一切行いません。
9. 試験中の飲食は禁止します。
10. 答案用紙の、学部・学科・学年・学籍番号・氏名欄には必ず黒のペンまたはボールペンで記入してください（ただし、インクが消しゴム等で消せないものに限り）。
11. 学籍番号欄は学生証に記載されている学籍番号の10ケタすべてを記入してください。学籍番号、氏名のない答案用紙は無効です。
12. 学期末試験は試験開始後20分までに入室しないと受験資格を失います。また退室は開始後30分を経過し、監督者の指示があった後にのみ許可します。途中退室した場合、再入場は認めません。
13. 天災、病気、その他やむを得ない理由によって、試験を受験できなかった場合は速やかに証明書または診断書（コピー可）等を添えて担当教員に届け出て、具体的な指示を受けてください。
14. 不正行為を行った場合は、学則（第57条）に基づき処分されます。不正行為についての規程と処分内容はP.24を参照してください。授業内試験でも不正行為があった場合には、処分されます。担当教員の指示・説明をよく確認してください。
15. 交通機関の運行や天候の乱れ等に留意し、試験会場へは時間に余裕をもって入場してください。

学期末試験時間割

学期末試験の実施時間は下記の通りです。

学期末試験時間割

時限	時間	遅刻限度
第1時限	9:00~10:30	9:30
第2時限	10:40~12:10	11:10
第3時限	13:00~14:30	13:30
第4時限	14:40~16:10	15:10
第5時限	16:20~17:50	16:50

※試験時間の区切りは通常授業と同様に90分ですが、解答する時間は60分となります。授業時間開始後10分後に解答開始、授業時間終了の20分前に解答終了となります。

受験中の不正行為

対象試験

- (1) 学年暦に定める試験期間に行われる試験
- (2) 学年暦に定める授業期間内で、試験として実施する旨を学生に開示した、学年暦に定める試験に準ずる試験

不正行為（本学の規則に反する行為、または学生の本分に反する行為）を試験（学期末試験期間・授業期間）において行った場合は、学則第57条に則り処分されます。

1. 処分の種類

処分は譴責、停学、無期停学とする。

2. 処分とその対象となる不正行為

(1) 譴責の対象となる行為

- ① 持ち込みが認められているものの貸借。
- ② 他人の答案の覗き見、答案を故意に他人に見せまたはそれを見る行為。
- ③ 試験監督者もしくは監督補助者からの注意を無視した行為。
- ④ その他、前各号の一つに準ずる行為。

(2) 停学1ヵ月の対象となる行為

- ① 解答用紙を交換する行為。
- ② 許可されていないものの持ち込み。
- ③ 書き込みを許可されていない持ち込み許可教材、机上、手掌等へ書き込みをしての受験、または、これに類似する行為。
- ④ 試験監督者または監督補助者からの注意に対する暴言。
- ⑤ その他、前各号の一つに準ずる行為。

(3) 無期停学の対象となる行為

- ① 替玉受験。
- ② 在学中における再度の不正行為。
- ③ 試験監督者または監督補助者からの注意に対する暴力行為。
- ④ その他、極めて悪質な行為。

3. 処分に伴う措置

- (1) 処分の種別にかかわらず、不正行為のあった試験科目の単位は、当該年度（学期ごとに15週にわたる期間並びに15週に1週を加えた16週の前半及び8週にわたる期間）において認定しない。また、上記「2. (2)」および「2. (3)」の停学の対象となる行為については、学年暦に定める当該年度（学期ごとに15週にわたる期間並びに15週に1週を加えた16週の前半及び8週にわたる期間）の試験期間において実施される全ての試験科目の単位を認定しない。
- (2) 停学期間は当該学部で処分を決定した日（教授会開催日）の翌日から算定する。
- (3) 決定した処分内容については、不正行為者が所属する学部の学部長が、本人および保証人と面接の上、通達する。

- (4) 停学期間中は、不正行為者に対してその所属学部が教育的指導を行う。
- (5) 「譴責の対象となる行為①および②」、「停学1ヵ月の対象となる行為①」、「無期停学の対象となる行為①」の不正行為は、その当事者すべてが上記(1)～(4)の措置の対象となる。
4. 不服申立て
不正行為の指摘を受けた学生は、不服申立てをすることができる。
※授業内試験でも不正行為があった場合には、処分されます。担当教員の指示・説明を必ず確認してください。

卒業再試験

4年次8セメスタ以上の学生で卒業当該学期に卒業要件を満たしていない者について、以下の要領で「卒業再試験」を実施します。

(受験資格)

卒業再試験は4年次8セメスタ以上の学生で卒業を希望する者であり、卒業当該学期に卒業に必要な単位数で不足している科目数が3科目以内かつ6単位以内の者に対して所定の手続きを経て行なわれます。

(対象科目)

卒業再試験の対象となる科目は以下のすべてに該当する科目とします。

- (1) 卒業当該学期に履修登録を行っている科目
- (2) 卒業単位充足者発表時の評価で「D」の評価を得た科目
- (3) 担当教員が卒業再試験を実施する科目

(対象除外科目)

以下の科目は卒業再試験対象科目から除外されます。

- (1) 演習、実習、実験、実技、ゼミナール関係科目
- (2) 卒業研究、卒業論文、卒業制作
- (3) 教職科目のうち、教職に関する科目
- (4) 不正行為等により無効となった科目
- (5) 通常の評価において「E」「*（評価対象外）」と判定された科目
- (6) 科目の性質上、担当教員と学部長が協議して卒業再試験にふさわしくないと判断した科目。ただし、その科目にあっては学生の履修登録以前に卒業再試験を実施しないことを学生に対して明示するものとします。

(再試験手続)

再試験は、卒業当該学期で発表される卒業単位充足者発表時に、定められた期間内に面接を受けた上で所定の手続きを行うものとします。

- (1) 再試験手続を行わなかった場合は、自動的に受験する権利を失います。
- (2) 受験しようとする者は、卒業再試験対象科目であり、かつ卒業再試験を行う科目の中から、卒業に不足する単位数分の科目数のみ受験することができます。
- (3) 代理人による手続きは認められません。

(再試験受験料)

再試験受験料は以下の通りです。

1科目5,000円

(再試験の評価)

卒業再試験の成績評価は以下の通りです。

- (1) 成績評価基準は、それぞれの科目において定期試験で実施した基準と同等とします。
- (2) 再試験の結果、合格した者の成績評価は「C」評価とします。
- (3) 卒業再試験の結果、不合格が1科目でもあった場合は原級となり、全ての受験科目の成績評価は卒業再試験受験以前の「D」評価となる。

◆レポートについて◆

レポート提出方法、日時、提出先を授業時および掲示板で確認してください。



朝霞事務課教務担当窓口では、レポート郵送先・教員の連絡先の照会に応じることはできません。

レポートボックス設置場所

担当教員の指定するボックス番号、提出物の回収締切日時等を確認してください。

設置場所：大学院・研究棟1階

Column

～ラーニングサポートセンター（LSC）を活用しよう～

朝霞キャンパスLSCでは、次のような学修相談・各種講座等の支援を行っています。大学での学修をより良くするためにも、LSCを利用しましょう。

- (1) 学修上の諸問題に係る相談
- (2) レポート・論文の書き方相談、文献・資料の調べ方相談
- (3) 高校までの基礎学力向上に係る支援
- (4) 語学系資格取得に関する支援
- (5) PCの操作に係る支援
- (6) 留学希望者への事前学修および留学後の事後学修に係る支援
- (7) 留学生に対応した日本語ライティング支援、論文の書き方相談

～開室時間～

水～金 10：30～17：00 図書館棟1階学生サポートスクエア ECZ内
※開室日時は変更になることがあります。利用の際は、ホームページで確認してください。

学修にあたって 成績

◆単位の認定◆

- (1) 単位の認定は出席・試験またはレポートなどによって評価されます。
- (2) 履修登録した科目についてのみ成績評価されます。

◆他大学での単位の認定について◆

○入学前の既修得単位等の認定について（対象：学部新入生）

本学学則第43条に基づき、単位認定を希望する者は、下記のとおり、提出書類を下記受付期間内に朝霞事務課教務担当窓口へ提出してください。

*資格取得を目的としての認定については、認められない場合があります。

学則第43条の3

（入学前の既修得単位等の認定）

第43条の3 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第1項に規定する学修を本学における授業科目の履修とみなし、単位を認めることができる。

3 前2項により修得したものとみなし、又は認めることのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、合わせて60単位を超えないものとする。

[提出書類]

①単位認定申請書

*申請書用紙は朝霞事務課教務担当窓口にて配付します

②成績証明書

③単位修得年度のシラバスの写し

[受付期間]

入学した学期（第1 Semester）の履修登録期間内

◆成績の評価◆

成績の表示は次のとおりです。

【東洋大学成績評価基準】

合否	成績表示	点数	基準
合格	S	100～90	到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を収めている。
	A	89～80	到達目標を十分に達成している。
	B	79～70	到達目標を達成している。
	C	69～60	到達目標を最低限達成している。
不合格	D	59～40	到達目標を達成していない項目があるが、学修行動を改めることにより達成する可能性がある。
	E	39以下	到達目標の項目の全てまたはほとんどを達成していない。
	*	評価対象外	出席・試験・レポート提出等の評価要件を欠格。



授業科目ごとの成績評価方法は、シラバスに記載された「成績評価の方法・基準」を確認してください。



成績は個人情報であるため、電話での照会には応じません。質問がある場合は、教務担当窓口まで来てください。

※「評価対象外」とは、授業期間を通じ出席不良、または不受験・レポート未提出のため成績評価の判断ができないものを指します。

※上表のほかに、留学先大学での学修成果などを単位認定する場合、「T」を合格の評価として使用する場合があります。



履修登録した科目の単位を修得するためには、授業回数の3分の2以上出席し、所定の試験（レポート、平常試験等含む）に合格しなければなりません。

◆成績の通知◆

- (1) 学期毎に成績を通知します。成績発表の日程については『履修登録のしおり・授業時間割表』や学生生活ハンドブックの「ライフデザイン学部学年暦」、掲示等で確認してください。
- (2) 成績表は定められた期間内であればToyoNet-Gにて出力が可能です。
- (3) 年2回、保証人へ成績表を送付します（休学中も含む）。



保証人への送付を希望しない学生は、定められた期間に朝霞事務課教務担当窓口で手続きを行ってください。

◆GPA制度◆

単位や成績評価、単位の質自体を保証していくことを目的としてGPA（Grade Point Average）制度を導入しています。

GPAとは、授業科目ごとの成績に対して、4.3～0.0のグレード・ポイントを付与し、この1単位あたりの平均を算出したもので、学生の学習到達度をはかる指標として、国内外の大学で広く使われています。

GPAの算出方法

$$\text{GPA} = \frac{(\text{Sの修得単位数} \times 4.3) + (\text{Aの修得単位数} \times 4.0) + (\text{Bの修得単位数} \times 3.0) + (\text{Cの修得単位数} \times 2.0) + (\text{Dの修得単位数} \times 1.0) + (\text{Eの修得単位数} \times 0.0) + (*\text{の修得単位数} \times 0.0)}{\text{総履修登録単位数}}$$

※対象とする科目は、卒業要件の科目とし、卒業要件以外の資格科目・自由科目は対象となりません。

※対象とする評価は、「S, A, B, C, D, E, *」とし、認定の評価「T」は対象となりません。

※再履修で評価を受けた成績については、最新の成績が反映されます。

※GPAは計算結果の小数点第3位を四捨五入し、小数点第2までを表示します。

ライフデザイン学部では、平成29年度入学生からGPA2.0を上回ることを「卒業時の目安」として設定しています。

GPA2.0を下回ったとしても卒業は可能ですが、学生の学修の質保証の観点から、ライフデザイン学部では、全学生に対して、卒業時にGPA2.0を上回ることを推奨しています。

～「卒業の目安」の意義～

学位授与方針で求めている能力や識見にふさわしい学力を備えて卒業するためには、学生は単に決められた単位数を数字上揃えるだけの履修をするのではなく、自らの学修目的にあわせた履修と、積極的な勉学が求められます。履修する科目の体系性や順序を良く考えて厳選して履修し、より充実した学修成果を獲得できるよう自学自習に励むことが大切です。学生は、これらのことをよく考慮し、「卒業の目安」の意味をよく理解して学修に励んでください。

◆成績調査◆

(1) 成績発表後、次の①～③に該当する場合において、定められた期間に成績調査申請を行い、成績評価を確認することができます。

- ①履修登録をしたが、成績評価の記載がない科目
- ②履修登録をしていなかったが、成績評価が記載されている科目
- ③履修登録し、シラバスにある成績評価基準を満たしているが、成績評価が間違っていると思われる十分な理由があり、科目担当教員に成績評価に間違いがないか、確認したい科目

(2) 成績調査の申請方法については掲示板およびToyoNet-Gで確認してください。



成績調査は成績の再考を求めたり、個別の得点の開示を求めたりするものではありません。成績調査の趣旨に沿わない調査申請や自身の成績と無関係な申請内容と判断された場合は、申請は否決され担当教員には通知されません。十分に注意してください。

※成績と無関係な申請内容の例

- ・卒業に関すること。
- ・就職に関すること。
- ・他の履修者との比較。

◆◆単位僅少者に対する学修指導について◆◆

各セメスタもしくは学年の終了後、修得単位が僅少の学生に対しては、学修計画について見直すなどの学修指導（面談）を行います。学科・専攻または朝霞事務課からの連絡・指示に従って、学修指導を受けてください。



学修にあたって その他

◆◆学生アンケートについて◆◆

本学では、教育の改革・改善を目的として、各授業の改善を図るために学期ごとに行う授業評価アンケートや、各学年のカリキュラムや教育方法、学習支援の検証を行うための学生アンケートを実施しています。

◆◆学外での学習活動について◆◆

学外実習・フィールドワーク等は、必ず担当教員の指示のもと、行うようにしてください。また実習先等への配慮はもちろんのこと、本学学生として自覚をもった行動をするよう心がけてください。

◆ 4年間の主な流れ・スケジュール ◆

	1年次	2年次	3年次	4年次
4月	入学式 新入生オリエンテーション	進級手続		
	春学期履修登録・授業開始			
5月 6月				
	春学期末試験・補講			
	夏季休暇			
7月 8月 9月	春学期成績発表・成績調査			※第8セメスタ以降学生対象 卒業単位充足者発表 卒業再試験 卒業決定者発表式 卒業式
	秋学期履修登録・授業開始			
10月 11月 12月				
	大学祭			
	冬季休暇			
1月				
	秋学期末試験・補講			
	春季休暇			
2月				
	秋学期成績発表・成績調査			
3月				卒業単位充足者発表 卒業再試験 卒業決定者発表式 卒業式

※年度によって変更されることもあるので、当該年度の『学生生活ハンドブック』の「年度行事予定表」を参照すること。
 ※2018（平成30）年4月入学生は、1～3年次は朝霞キャンパス、4年次は赤羽台キャンパスで修学する予定です。

**学部長挨拶
教育研究上の目的
教育方針**

社会の変化を乗り越えるための能力と資源を



ライフデザイン学部 学部長
博士（医学） 齊藤 恭平

ご入学おめでとうございます。ようこそライフデザイン学部へ！学部の教職員を代表して皆さんの入学を心から歓迎いたします。

入学という希望に満ちているときに、このようなことを申し上げるのも酷ですが、皆さんは大変な時代を生き抜かなければいけない世代だということを実感していますでしょうか。

日本人は第二次世界大戦を経験し、戦後の混乱期や高度経済成長、オイルショックやリーマンショックなどの様々な時代を通過してきました。そしてこれからは世界のどの国も経験したことのない超少子高齢社会と人口減少社会を同時に経験しなければなりません。高齢者の介護問題はどんどん深刻化していきますし、年金や医療保険などの社会保障は大改革が必須となります。また、人口減少による地方都市や市町村のコミュニティは弱体化や機能低下が避けられません。これまでのような考え方の国土開発や行政サービスは立ち行かなくなることが予想されます。保健医療や福祉、保育、教育、まちづくり等においても、これまでの学問や理論、発想では太刀打ちできない時代の変化が待ち受けています。ライフデザイン学は、このように混んとする社会の変化に対応する発想や方法論を生み出すための役割を持って生まれた学問領域であるといえます。ですから皆さんは、これからの日本社会の変貌を予測し、自分にとってのライフ、そして家族、地域の理想的なライフをデザインするための知識と能力そして意欲と哲学を、この四年間の中で身に付けてほしいと切に願います。

一方で日本を取り巻く国際社会も大きな変化の波にさらされています。その波のキーワードは経済、金融、宗教、情報、紛争そしてエネルギーなどです。この大きな波に飲み込まれないよう、皆さんは国際的な感覚を持って国の外側にも関心を持ちながら生き抜かなければなりません。ところで、皆さんにとって運のよいことに東洋大学は文部科学省のスーパーグローバル大学に採択されていますので、これに関連して語学を学ぶ機会や海外研修など国際人としての感覚や教養を身に付けるチャンスが多く設定されています。また東洋大学独自のグローバルリーダー養成プログラムも設けられています。是非このようなチャンスを無駄にすることなく活用されることをお勧めします。

最後に、ストレスフルな社会への対応能力を身に付けてほしいと思います。これからの社会変化の波を乗り越え、それぞれが自己実現できる人生を勝ち得るための最大の武器はストレスへの対応能力です。そしてその資源の一つとして、皆さんがこれからつくる人間関係（社会的関係資本：social capital）があろうかと思っています。大学の4年間を通じて豊かな人間関係をつくり、人生を共に歩んでいく友を見つけること、そんな大切な意義も大学生活にはあると思います。

ライフデザイン学部での4年間が人生で最も充実した期間であることを期待します。



1 人材の養成に関する目的

- ① 人間の生活を総合的に捉え、幅広い人間価値の受容と個人や社会のニーズに的確に応えられる人材の養成
- ② 専門分野のみならず、多方面にわたる分野の関係性とその必要性を理解できる人材の養成
- ③ 専門的な職業観に基づく柔軟かつ的確な実践対応能力を発揮できる人材の養成
- ④ 新たなライフスタイルの創造を志向できる人材の養成
- ⑤ 国際的視点で判断し、表現し、コミュニケーションできる人材の養成

2 学生に修得させるべき能力等の教育目標

- ① 問題探求能力と課題の抽出及び提案能力
- ② 課題解決のための目標と解決までの作業プロセスを的確に企画し開示できる能力
- ③ 他者とのコミュニケーションの必要性を理解し実行できる能力
- ④ 参加者の規模にかかわらず、異なる思考をもつ多様な人々との対話を重視できる能力
- ⑤ 失敗を恐れず継続的改善を目指して自己を検証できる能力
- ⑥ 母国語以外の国際的言語によるコミュニケーション能力

3 その他の教育研究上の目的

学生、教職員が一体となり、共に物事を探求し、具体的に表現できる教育研究体制を確立すること

◆ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）◆

学部の教育課程に定められた科目を履修し、本規程に定める卒業要件を満たした、以下の能力を備えた学生に対して、卒業を認定し、学位を授与します。

- (1) 人権を尊重する倫理観を身につけ、社会貢献を行う高い意欲を有する人材。
- (2) 系統的な知識と実践力を備えた専門家となりうる人材。
- (3) 社会的支援が必要な人を含むすべての人びとの豊かな生活を支援できる人材。
- (4) 分析力、発想力、創造力、コミュニケーション力、そして実践力を磨き、社会で求められる指導力を身につけ、社会のさまざまな分野でイノベーションの起点となる人材。

◆カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）◆

「教育目標」、「ディプロマ・ポリシー」を踏まえて、専門的な知識及び技術をもって教育を行います。また、正課内および正課外授業によって、学士および社会人として身につけるべき能力を培います。

1. 教育課程編成の体系化

- (1) 学部共通の必修科目を設定して、学部の教育内容を明解にする。
- (2) 基礎的な学力と豊かな教養を身につけるための基盤教育科目を配置する。
- (3) 幅広い知識の修得を踏まえ、各学科・専攻における特色を生かした専門分野やコースを設定する。
- (4) 実社会への適応力を養うため、諸資格取得に対応した教育課程の編成および実践的な科目を配置する。
- (5) 実践的力量形成が求められる分野・領域については演習科目を、技術修得が必要な分野・領域については実習・実技科目を、適宜配置する。
- (6) キャリア形成を支援するため、社会人基礎科目を配置する。
- (7) グローバルに活躍できる人材を育成するために、留学支援科目と海外実習科目を配置する。

2. 教育方法、教育充実の取り組み

- (1) 学部・学科の専門領域の学修を教員と学生とが一体となって行ない、その成果を積極的に社会に還元する。
- (2) アクティブラーニング等の参加・問題解決型授業を展開して、学生の自立性や創造性を培う教育を実践する。
- (3) 学科・専攻の専門領域の学修とともに、他学科・専攻への理解を持ち、広い視野と高い見識を有することができる教育を行う。
- (4) 実習・実技を踏まえた、資格養成等の実践的な教育を行う。
- (5) 実社会への適応力を養うため、インターンシップ等の社会と直結した教育方法を積極的に取り入れる。

◆アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）◆

「人材の養成に関する目的」、「教育目標」を踏まえて、専門性を修得する意欲、資質など、求める人材像等本学部の学生受け入れの基本方針を明示します。

- (1) 現代人にとっての価値あるライフ（生命、生活、人生）を探求するために、生活・健康・環境に軸足を据えて理論と実践をバランスよく学び、人間の豊かな生活の創造を目指す学生。
- (2) 専門的であり、実践的な教育を求める学生。
- (3) 人びとの暮らしをより豊かにするための基本的な考え方や技術を学び、社会に貢献したいという目標を持った学生。

カリキュラムについて

生活支援学科生活支援学専攻	： P.41～P.61
生活支援学科子ども支援学専攻	： P.63～P.81
健康スポーツ学科	： P.83～P.100
人間環境デザイン学科	： P.101～P.117

※入学年度のカリキュラムのみ適用されます。

生活支援学科生活支援学専攻

生活支援学専攻長
是枝 喜代治

生活支援学専攻では、学生の皆さんがライフデザイン学という新しい学問体系の中で、多様な人々のライフステージで生じる生活上の諸課題に対し、当事者や家族、地域や行政などの各レベルにおける解決策を考え、行動できる力を培うことを目標としています。そのために、社会福祉の領域をはじめ、精神保健福祉、介護福祉、医療福祉、児童福祉など、社会的に弱い立場にいる方たちを支えるための総合型のカリキュラムが用意されています。また、福祉サービスを提供する企業等への就職を希望する学生の皆さんの学びを支える取り組みや、グローバルな人材を育成するための語学教育や海外研修プログラムなどが豊富に用意されています。同様に、生活支援学専攻では社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士の各資格を取得することができます。その他、皆さんの興味・関心に基づいて他学科（健康スポーツ学科・人間環境デザイン学科）の開講科目を選択して履修することも可能です。また、高等学校教諭1種免許状（福祉）、レクレーション・インストラクター、障がい者スポーツ指導員などの資格も合わせて取得することができます。この履修要覧は、皆さんが4年間でどのように学習や資格取得を進めていけばよいかを段階的に示したものです。4年間使用し続けるものなので、大切に保管して活用してください。

現代社会においては少子高齢化やグローバル化などの様々な社会現象によって、生活支援に関連する複雑な問題が生じています。また、その内容も多様化しています。日本に在住する外国籍の方たちへの対応や、経済的な格差などを起因とする生活困窮者の問題、さらに認知症高齢者の方たちの人数は年々増え続けており、地域における包括的なケアを進めていくことが、より強く求められています。障がい者福祉関連では、虐待防止や差別解消に関連する法整備が整ってきたにもかかわらず、虐待や差別の報道が後を絶ちません。家庭環境の問題などから、虐待やネグレクトを経験した子どもたちも増え続けており、社会的養護の問題を含め課題が山積している状況です。皆さんが生活する地域の中で、こうした方たちが安心して暮らせるように、それを支える人材として、是非、活躍していただけたらと思います。

生活支援学専攻では、資格取得のための実習やゼミナール活動を通して、学生の皆さんが相互に学び合う機会を設定しています。1年次のゼミナール活動では東京都北区や埼玉県朝霞市との連携のもと、街歩きや誕生会、地域での各種イベント（歳末感謝デー、宿泊学習のボランティア、認知症カフェなど）に参画し、地域の人々と触れ合いながら、地域福祉の実情について体験的に学んでいます。私たち教員は皆さんの学習がスムーズに進められるようにサポートしていきますが、大学生活は皆さん自身が目標を持って主体的に取り組む場でもあります。本専攻でのこれからの学びが、皆さんの将来の大きな糧となるよう、主体的に学びを進め、自身の成長を実感できる4年間にしてください。入学時の気持ちを忘れず、継続は力なり、努力は必ず実る、夢は叶うという志を持って、4年間の学生生活を有意義に過ごしてください。

◆生活支援学科生活支援学専攻の教育研究上の目的◆

1. 人材の養成に関する目的

生活支援学専攻では、社会福祉学を基礎とし、介護福祉、精神保健福祉、医療福祉などの関係分野に関する専門的知識や実践的技術を培い、高い見識をもって、相談やケアを必要とする人々の支援に携わる人材とともに、少子高齢化、グローバル化など、社会経済の構造変化が急速に進んでいる国内外の幅広い分野において活躍し、やがてはそれぞれの分野において指導的立場を担える人材を養成することを目指している。

2. 学生に修得させるべき能力等の教育目標

生活支援学専攻では、ライフデザイン学という新しい学問体系の中で、さまざまな人々のそれぞれのライフステージにおいて見出される生活支援に関する課題の解決に向け、課題を個人、家庭、行政など異なる水準において系統的、論理的に整理し、自ら考え、対処の方向を見出し、関係者と連携して、行動することができる能力を培うことを教育上の目標とする。

3. その他の教育研究上の目的

ライフデザイン学部の他の2学科の教育とも相俟って、自らの専門領域にとどまらず、現代社会の諸事象を深く理解し、信念と社会の一員としての自覚をもって行動できる人材を養成する。

◆生活支援学科生活支援学専攻3つのポリシー◆

1. ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

生活支援学専攻の教育目標に沿って設定された授業科目を履修し、卒業要件以上の単位を修得し、下記の能力を備えた学生に学位を授与します。

(1) 知識・理解

総合大学としての幅広い教養と生活支援に関する専門領域の知識を修得し、現代社会が直面する様々な問題を理解する知性を備えている。

(2) 思考・判断

様々な生活問題への鋭敏な感受性と深い洞察力を有し、課題解決に向けた実践力を身につけている。

(3) 関心・意欲

少子高齢化やグローバル化が急速に進む現代社会において、リーダーシップをとる自覚と展望を持ち、様々な課題の解決に積極的に取り組む意欲を有している。

(4) 態度

人権と個人の尊厳を守る倫理観と豊かな人間性に支えられた行動力を有している。

(5) 技能・表現

社会福祉の専門的知識と生活支援を捉える力を有し、国際的視野とコミュニケーション能力を備えている。

2. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

生活支援学専攻では、ディプロマ・ポリシーで示した教育目標の実現を目指して、以下の方針に基づき総合福祉教育カリキュラムをベースとした教育課程を編成・実施します。

- (1) 哲学・キャリア・国際化に対応した豊富な「基盤教育科目」と総合福祉教育を構成する「専門科目」のカテゴリーに分け、各年次で段階的に配置することで、幅広い教養と生活支援に関する専門領域の知識と実践力を修得する。
 - ①基盤教育科目は、哲学、生命、歴史、社会などを幅広く学べる共通教養科目と、国際化に対応できるコミュニケーション・スキルを高められる語学科目や留学支援科目があり、幅広い教養と国際的視野の修得を目指す。また、スポーツと健康や社会人基礎科目も配置する。
 - ②専門科目は、総合福祉教育カリキュラムによって構成され、社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士の国家資格の取得、医療福祉や教職へも対応する科目を配置する。学生の興味関心に応じた複数資格履修も可能とする。
- (2) 様々な生活問題への感受性と洞察力を養うため、4年間を通して演習科目（ゼミナール）を配置する。
- (3) 課題解決に向けた実践力を身につけるために、4年間積み上げていく実習科目を配置する。
- (4) グローバルな視野と現場における実践力を養うため、国内及び海外での多様なボランティア、フィールドワーク、インターンシップ科目などを設定し、それらの科目についても単位認定を行う。
- (5) より高度なアカデミックスキルの習得や就職を視野に入れた多様なキャリア設計を支援するため、専攻・学科を横断する副専攻の履修モデルを設定する。

3. アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

生活支援学専攻では、国内外の様々な分野で社会問題の解決にリーダーシップをもって貢献しうる知性と行動力を備える人材を育成するために、下記の能力を備えた人を歓迎します。

- (1) 知識・技能
大学での学びに必要な高等学校卒業相当の基礎学力を有し、積極的に他者と関わり対話を通して相互理解に努める態度と生活に困難を抱える人への眼差しを持っている。
- (2) 思考力・判断力・表現力
他者の考えを受け止め、自分の考えを的確に伝えることができるコミュニケーション能力と現代社会における様々な生活問題を多面的に考えようとする力がある。
- (3) 主体性・多様性・協同性
社会の動きに関心を持ち、そこにおける課題に向きあおうとする意欲がある。

1. 生活支援学科生活支援学専攻 教育課程表 (2017年度以降入学生用)

		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
	哲学・思想(2)	哲学(2)	井上円了と東洋大学A(2)	井上円了と東洋大学B(2)	人間と宗教(2)
		ジェンダー論(2)	世代論(2)	生命と倫理(2)	人権と生活(2)
	学問の基礎	美術一般(2)	音楽一般(2)	文化人類学(2)	文化論(2)
		社会学(2)	家族の社会学(2)	生死の社会学(2)	心理学(2)
		生活と栄養(2)	生活と家族(2)	危機管理と救急法(2)	
		文学(2)	文章読解(2)	レポート・論文のまとめ方(2)	
		経済学(2)	法学(2)	数学(2)	物理(2)
		統計学(2)	身体論(2)	口頭表現法(2)	プレゼンテーション技法(2)
国際人の形成(8)	英語必修(8)	英語コミュニケーションⅠA(1)	英語コミュニケーションⅠA(1)		
		英語コミュニケーションⅠB(1)	英語コミュニケーションⅠB(1)		
		基礎英語演習Ⅰ(1)	応用英語演習Ⅰ(1)		
		基礎英語演習Ⅱ(1)	応用英語演習Ⅱ(1)		
	選択	グローバルコミュニケーションⅠ(1)	グローバルコミュニケーションⅡ(1)	Practical English Ⅰ(1)	Practical English Ⅱ(1)
		English e-Learning Ⅰ(1)	English e-Learning Ⅱ(1)		
		フランス語Ⅰ(1)	フランス語Ⅱ(1)	中国語Ⅰ(1)	中国語Ⅱ(1)
	【外国学生】日本語(6)	日本語Ⅰ(1)	日本語Ⅱ(1)		
		日本事情Ⅰ(2)	日本事情Ⅱ(2)		
	選択	グローバル化と文化A(2)	グローバル化と文化B(2)	グローバル化と文化C(2)	
グローバル化と文化D(2)		グローバル化と文化E(2)			
国際キャリア概論(2)		留学のすすめ(2)			
海外研修Ⅰ(2)		海外研修Ⅱ(2)	海外実習Ⅰ(2)	海外実習Ⅱ(2)	
短期海外研修Ⅰ(1)		短期海外研修Ⅱ(1)	短期海外研修Ⅲ(1)	短期海外研修Ⅳ(1)	
短期海外実習Ⅰ(1)		短期海外実習Ⅱ(1)	短期海外実習Ⅲ(1)	短期海外実習Ⅳ(1)	
キャリア・市民形成	日本国憲法(2)	基礎会計学(2)	経営学(2)		
	地域研究法(2)	学校と地域(学校安全を含む)(2)	生活と環境(2)	生活と住居(2)	
	社会人基礎力入門講義(2)	キャリアデベロップメント論(2)	企業家論(2)	企業のしくみ(2)	
	公務員論(2)	社会貢献活動入門(2)	テクニカルライティング(2)	アカデミックライティング(2)	
	障害学概論(2)	障害学と生活のデザイン(2)	インターンシップ入門(2)		
	健康とスポーツ	スポーツ健康科学実技ⅠA(1)	スポーツ健康科学実技ⅠB(1)	スポーツ健康科学実技ⅡA(1)	スポーツ健康科学実技ⅡB(1)
	スポーツ健康科学実技ⅢA(1)	スポーツ健康科学実技ⅢB(1)	スポーツ健康科学講義A(2)	スポーツ健康科学講義B(2)	
総合・学際	全学総合ⅠA(2)	全学総合ⅠB(2)	全学総合ⅡA(2)	全学総合ⅡB(2)	
	総合Ⅰ(2)	総合Ⅱ(2)	総合Ⅲ(2)		
	総合ⅣA(2)	総合ⅣB(2)			
留学支援科目	英語特別教育科目	English for Academic Purposes A Listening/Speaking(2)	English for Academic Purposes B Reading/Writing(2)		
	日本語科目	Pre-Study Abroad College Study Skills(1)	Pre-Study Abroad Basic Academic Writing(1)		
		Pre-Study Abroad Academic Essay Writing(1)	Business English Communication(2)		
		(協定校並びにISEP加盟大学等からの留学生に対する日本語・日本文化科目)			

		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年		
学部共通科目 (4)	必修科目(4)	ライフデザイン学Ⅰ(2)	ライフデザイン学Ⅱ(2)				
	選択科目A			障害学専門演習(2)			
	選択科目B	他学科・専攻開放科目から選択					
	専攻科目(22)	必修科目(18)	生活支援学演習ⅠA(1) 生活支援学演習ⅠB(1) 社会福祉の基礎(2) 専門職論(2) 実習の基礎(2) 情報リテラシーⅠ(2)		生活支援学演習ⅢA(1) 生活支援学演習ⅢB(1)	生活支援学演習ⅣA(1) 生活支援学演習ⅣB(1) 卒業論文(4)	
				生活支援学演習ⅡA(1) 生活支援学演習ⅡB(1)		地域医療福祉専門実習A(2) 地域医療福祉専門実習B(2)	
			社会福祉学原論Ⅰ(2) 社会福祉学原論Ⅱ(2) 社会福祉援助技術論Ⅰ(2) 児童福祉論(2) 医学一般(2) 社会福祉発達史(2)	社会福祉援助技術論Ⅱ(2) 社会福祉援助技術論Ⅲ(2) 社会福祉援助技術演習Ⅰ(2) 社会福祉援助技術演習Ⅱ(2) 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ(1) 社会調査の基礎(2) 福祉レクリエーション(2)	社会福祉援助技術論Ⅳ(2) 社会福祉援助技術演習Ⅲ(2) 社会福祉援助技術演習Ⅳ(2) 社会福祉援助技術現場実習(4) 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ(1) 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ(1)	社会福祉援助技術演習Ⅴ(2)	
		選択科目(50)		社会保障論Ⅰ(2) 地域福祉論Ⅰ(2) 就労支援論(2) 高齢者福祉論Ⅰ(2) 低所得者福祉論(2) 障害者福祉論(2) 権利擁護論(2)		社会保障論Ⅱ(2) 地域福祉論Ⅱ(2) 更生保護論(2) 高齢者福祉論Ⅱ(2) 社会福祉運営論(2) 福祉サービス運営論(2)	
			精神保健Ⅰ(2) 精神保健Ⅱ(2) 精神保健福祉援助技術総論(2)	精神医学Ⅰ(2) 精神医学Ⅱ(2) 精神保健福祉論Ⅰ(2) 精神保健福祉論Ⅱ(2) 精神保健福祉援助技術各論Ⅰ(2) 精神保健福祉援助技術各論Ⅱ(2) 精神保健福祉援助技術演習Ⅰ(2) 精神保健福祉援助技術演習Ⅱ(2) 精神保健福祉援助技術実習指導Ⅰ(1)	精神保健福祉援助技術実習(4) 精神保健福祉援助技術実習指導Ⅱ(1) 精神保健福祉援助技術実習指導Ⅰ(1) 精神科リハビリテーション学Ⅰ(2) 精神科リハビリテーション学Ⅱ(2) 精神保健福祉論Ⅲ(2)		
				医療福祉総論(2)	医療ソーシャルワーク論(2) 医療福祉演習Ⅰ(2) 医療福祉演習Ⅱ(2)		
					生活支援学特別講義A(2) 生活支援学特別講義B(2)	生活支援学特別講義B(2)	
情報リテラシーⅡ(2)			国際児童福祉(2)	国際文化事情A(2) Introduction to Social Work(2)	国際文化事情B(2)		
介護福祉士コース科目			介護福祉援助概論Ⅰ(2) 介護福祉援助概論Ⅱ(2)	介護福祉援助概論Ⅲ(2)	介護福祉援助概論Ⅳ(2) 介護福祉援助概論Ⅴ(2)	介護福祉援助概論Ⅵ(2)	
	生活支援技術Ⅰ(1) 生活支援技術Ⅱ(1)	生活支援技術Ⅲ(1) 生活支援技術Ⅳ(1) 生活支援技術Ⅴ(1) 生活支援技術Ⅵ(1) 介護コミュニケーション技術Ⅰ(2) 介護コミュニケーション技術Ⅱ(2)	生活支援技術Ⅶ(1) 生活支援技術Ⅷ(1) 生活支援技術Ⅸ(1) 医療的ケアⅠ(2) 医療的ケアⅡ(2)	生活支援技術Ⅹ(1) 医療的ケアⅢ(2)			
	介護過程Ⅰ(1)	介護過程Ⅱ(1)	介護過程Ⅲ(1)	介護過程Ⅳ(1)			
	介護総合演習Ⅰ(1)	介護総合演習Ⅱ(1) 介護総合演習Ⅲ(1)	介護総合演習Ⅳ(1)				
	介護福祉実習Ⅰ(2)	介護福祉実習Ⅱ(3)	介護福祉実習Ⅲ(3)	介護福祉実習Ⅳ(2)			
	発達と老化の理解(2) こころとからだのしくみⅠ(2)	障害の理解(2) こころとからだのしくみⅡ(2)	認知症の理解Ⅰ(2) こころとからだのしくみⅢ(2)	認知症の理解Ⅱ(2)			
			実習指導の理論と方法(2)				

ライフデザイン学部 基盤教育科目

区分	必修/選択	科目ナンバリング	科目名	単位数	配当学年	備考	
基盤教育科目	哲学・思想	選択	PHT101	哲学	2	1~4	
		選択	PHT102	井上円了と東洋大学A	2	1~4	
		選択	PHT103	井上円了と東洋大学B	2	1~4	
		選択	PHT104	人間と宗教	2	1~4	
		選択	PHT105	生命と倫理	2	1~4	
		選択	PHT106	ジェンダー論	2	1~4	
		選択	PHT107	世代論	2	1~4	
		選択	PHT108	人権と生活	2	1~4	
	学問の基礎	選択	FAS101	美術一般	2	1~4	
		選択	FAS102	音楽一般	2	1~4	
		選択	FAS103	生活と栄養	2	1~4	
		選択	FAS104	生死の社会学	2	1~4	
		選択	FAS105	物理	2	1~4	
		選択	FAS106	数学	2	1~4	
		選択	FAS107	危機管理と救急法	2	1~4	
		選択	FAS108	文学	2	1~4	
		選択	FAS109	文章読解	2	1~4	
		選択	FAS110	口頭表現法	2	1~4	
		選択	FAS111	レポート・論文のまとめ方	2	1~4	
		選択	FAS112	プレゼンテーション技法	2	1~4	
		選択	FAS113	文化論	2	1~4	
		選択	FAS114	文化人類学	2	1~4	
国際人の形成	英語必修	必修	ENG101	基礎英語演習 I	1	1	
		必修	ENG102	基礎英語演習 II	1	1	
		必修	ENG103	英語コミュニケーション I A	1	1	
		必修	ENG104	英語コミュニケーション I B	1	1	
		必修	ENG201	応用英語演習 I	1	2	
		必修	ENG202	応用英語演習 II	1	2	
		必修	ENG203	英語コミュニケーション II A	1	2	
		必修	ENG204	英語コミュニケーション II B	1	2	
	選択科目	選択	ENG105	グローバルコミュニケーション I	1	1~4	
		選択	ENG106	グローバルコミュニケーション II	1	1~4	
選択		ENG107	Practical English I	1	1~4		
選択		ENG108	Practical English II	1	1~4		
外国語	選択	ENG109	English e-Learning I	1	1~4		
	選択	ENG110	English e-Learning II	1	1~4		
	選択	GER101	ドイツ語 I	1	1~4		
	選択	GER102	ドイツ語 II	1	1~4		
	選択	FRA101	フランス語 I	1	1~4		

区分	必修/選択	科目ナンバリング	科目名	単位数	配当学年	備考		
基礎教育科目	外国語	選択科目	選択	FRA102	フランス語Ⅱ	1	1～4	
		選択	CHI101	中国語Ⅰ	1	1～4		
		選択	CHI102	中国語Ⅱ	1	1～4		
		選択	KOR101	韓国語Ⅰ	1	1～4		
		選択	KOR102	韓国語Ⅱ	1	1～4		
	日本語	必修	JPN101	日本語Ⅰ	1	1～4	外国人留学生用	
		必修	JPN102	日本語Ⅱ	1	1～4	外国人留学生用	
		必修	JPN103	日本事情Ⅰ	2	1～4	外国人留学生用	
		必修	JPN104	日本事情Ⅱ	2	1～4	外国人留学生用	
	国際人の形成	選択科目	選択	IHR101	グローバルゼーションと文化A	2	1～4	
			選択	IHR102	グローバルゼーションと文化B	2	1～4	
			選択	IHR103	グローバルゼーションと文化C	2	1～4	
			選択	IHR104	グローバルゼーションと文化D	2	1～4	
			選択	IHR105	グローバルゼーションと文化E	2	1～4	
			選択	IHR106	国際キャリア概論	2	1～4	
			選択	IHR107	留学のすすめ	2	1～4	
			選択	IHR108	海外研修Ⅰ	2	1～4	
			選択	IHR109	海外研修Ⅱ	2	1～4	
			選択	IHR110	海外実習Ⅰ	2	1～4	
			選択	IHR111	海外実習Ⅱ	2	1～4	
			選択	IHR112	短期海外研修Ⅰ	1	1～4	
			選択	IHR113	短期海外研修Ⅱ	1	1～4	
			選択	IHR114	短期海外研修Ⅲ	1	1～4	
			選択	IHR115	短期海外研修Ⅳ	1	1～4	
			選択	IHR116	短期海外実習Ⅰ	1	1～4	
			選択	IHR117	短期海外実習Ⅱ	1	1～4	
			選択	IHR118	短期海外実習Ⅲ	1	1～4	
			選択	IHR119	短期海外実習Ⅳ	1	1～4	
	キャリア・市民形成	選択	ECD101	生活と環境	2	1～4		
		選択	ECD102	日本国憲法	2	1～4		
		選択	ECD103	経営学	2	1～4		
		選択	ECD104	基礎会計学	2	1～4		
		選択	ECD105	学校と地域（学校安全を含む）	2	1～4		
選択		ECD106	生活と住居	2	1～4			
選択		ECD107	地域研究法	2	1～4			
選択		ECD108	社会人基礎力入門講義	2	1～4			
選択		ECD109	企業家論	2	1～4			
選択		ECD110	公務員論	2	1～4			
選択		ECD111	キャリアデベロップメント論	2	1～4			
選択		ECD112	企業のしくみ	2	1～4			
選択		ECD113	社会貢献活動入門	2	1～4			
選択		ECD114	テクニカルライティング	2	1～4			
選択		ECD115	アカデミックライティング	2	1～4			
選択		ECD116	障害学概論	2	1～4			
選択		ECD117	障害学と生活のデザイン	2	1～4			
選択		ECD118	インターンシップ入門	2	1～4			

区分	必修／選択	科目ナンバリング	科目名	単位数	配当学年	備考		
キャリア・市民形成	健康とスポーツ	選択・選択必修	DMB101	スポーツ健康科学実技ⅠA	1	1～4	健康スポーツ学科の学生のみ2単位選択必修	
		選択・選択必修	DMB102	スポーツ健康科学実技ⅠB	1	1～4		
		選択・選択必修	DMB103	スポーツ健康科学実技ⅡA	1	1～4		
		選択・選択必修	DMB104	スポーツ健康科学実技ⅡB	1	1～4		
		選択・選択必修	DMB105	スポーツ健康科学実技ⅢA	1	1～4		
		選択・選択必修	DMB106	スポーツ健康科学実技ⅢB	1	1～4		
		選択	DMB107	スポーツ健康科学講義A	2	1～4		
		選択	DMB108	スポーツ健康科学講義B	2	1～4		
	総合・学際	選択	ITS101	総合Ⅰ	2	1～4		
		選択	ITS102	総合Ⅱ	2	1～4		
		選択	ITS103	総合Ⅲ	2	1～4		
		選択	ITS104	総合ⅣA	2	1～4		
		選択	ITS105	総合ⅣB	2	1～4		
		選択	ITS106	全学総合ⅠA	2	1～4		
選択		ITS107	全学総合ⅠB	2	1～4			
選択		ITS108	全学総合ⅡA	2	1～4			
選択		ITS109	全学総合ⅡB	2	1～4			
基礎教育科目	英語特別教育科目	選択	SUS101	English for Academic Purposes A Listening/Speaking	2	1～4		
		選択	SUS102	English for Academic Purposes B Reading/Writing	2	1～4		
		選択	SUS103	Pre-Study Abroad College Study Skills	1	1～4		
		選択	SUS104	Pre-Study Abroad Basic Academic Writing	1	1～4		
		選択	SUS105	Pre-Study Abroad Academic Essay Writing	1	1～4		
		選択	SUS106	Business English Communication	2	1～4		
	留学支援科目	日本語科目	選択	SUS107	Integrated Japanese Ⅰ	4	1～4	
			選択	SUS108	Integrated Japanese Ⅱ	4	1～4	
			選択	SUS109	Integrated Japanese Ⅲ	4	1～4	
			選択	SUS110	Integrated Japanese Ⅳ	4	1～4	
			選択	SUS111	Japanese Reading and Composition Ⅰ	1	1～4	
			選択	SUS112	Japanese Reading and Composition Ⅱ	1	1～4	
			選択	SUS113	Japanese Reading and Composition Ⅲ	1	1～4	
			選択	SUS114	Japanese Reading and Composition Ⅳ	1	1～4	
			選択	SUS115	Japanese Listening Comprehension Ⅰ	1	1～4	
			選択	SUS116	Japanese Listening Comprehension Ⅱ	1	1～4	
			選択	SUS117	Japanese Listening Comprehension Ⅲ	1	1～4	
			選択	SUS118	Japanese Listening Comprehension Ⅳ	1	1～4	
			選択	SUS119	Kanji Literacy Ⅰ	1	1～4	
			選択	SUS120	Kanji Literacy Ⅱ	1	1～4	
			選択	SUS121	Kanji Literacy Ⅲ	1	1～4	
			選択	SUS122	Kanji Literacy Ⅳ	1	1～4	
			選択	SUS123	Project Work Ⅰ	1	1～4	
			選択	SUS124	Project Work Ⅱ	1	1～4	
			選択	SUS125	Project Work Ⅲ	1	1～4	
			選択	SUS126	Project Work Ⅳ	1	1～4	
			選択	SUS127	Japanese Culture and Society A	2	1～4	
			選択	SUS128	Japanese Culture and Society B	2	1～4	
			選択	SUS129	Introduction to Japanology A	2	1～4	
			選択	SUS130	Introduction to Japanology B	2	1～4	

生活支援学科生活支援学専攻 専門科目

区分		必修/選択	科目ナンバリング	科目名	単位数	配当学年	備考
学部共通 科目	科目 必修	必修	TYS101	ライフデザイン学Ⅰ	2	1	
	科目 必修	必修	TYS201	ライフデザイン学Ⅱ	2	2	
	科目 選択	選択	SWS301	障害学専門演習	2	3	
専門科目	学科専門科目	必修科目	ISE101	情報リテラシーⅠ	2	1	
			SEM101	生活支援学演習ⅠA	1	1	
			SEM102	生活支援学演習ⅠB	1	1	
			SEM301	生活支援学演習ⅢA	1	3	
			SEM302	生活支援学演習ⅢB	1	3	
			SEM401	生活支援学演習ⅣA	1	4	
			SEM402	生活支援学演習ⅣB	1	4	
			SWS101	社会福祉の基礎	2	1	
			SWS102	専門職論	2	1	
			SWS103	実習の基礎	2	1	
	THE401	卒業論文	4	4			
	学科専門科目	選択科目	FLE101	国際文化事情A	2	1~4	
			FLE102	国際文化事情B	2	1~4	
			GIM101	医学一般	2	1	
			ISE102	情報リテラシーⅡ	2	1~4	
			PSS201	精神医学Ⅰ	2	2	
			PSS202	精神医学Ⅱ	2	2	
			PSS301	精神科リハビリテーション学Ⅰ	2	3	
			PSS302	精神科リハビリテーション学Ⅱ	2	3	
			SEM201	生活支援学演習ⅡA	1	2	
			SEM202	生活支援学演習ⅡB	1	2	
			SOC201	社会調査の基礎	2	2	
			SWS104	社会福祉学原論Ⅰ	2	1	
			SWS105	社会福祉学原論Ⅱ	2	1	
			SWS106	社会福祉援助技術論Ⅰ	2	1	
			SWS107	児童福祉論	2	1	
			SWS108	社会福祉発達史	2	1	
			SWS109	精神保健Ⅰ	2	1	
			SWS110	精神保健Ⅱ	2	1	
			SWS111	精神保健福祉援助技術総論	2	1	
			SWS112	国際児童福祉	2	1~4	
			SWS201	社会福祉援助技術論Ⅱ	2	2	
			SWS202	社会福祉援助技術演習Ⅰ	2	2	
SWS203			社会福祉援助技術演習Ⅱ	2	2		
SWS204	社会福祉援助技術論Ⅲ	2	2				
SWS205	高齢者福祉論Ⅱ	2	2~3				
SWS206	福祉レクリエーション	2	2				
SWS207	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ	1	2				
SWS208	精神保健福祉論Ⅰ	2	2				
SWS209	精神保健福祉論Ⅱ	2	2				
SWS210	精神保健福祉援助技術各論Ⅰ	2	2				
SWS211	精神保健福祉援助技術各論Ⅱ	2	2				
SWS212	精神保健福祉援助技術演習Ⅰ	2	2				

区分	必修/選択	科目ナンバ リング	科目名	単位数	配当 学年	備考		
専門科目	学科専門科目	選択科目	選択	SWS213	精神保健福祉援助技術演習Ⅱ	2	2	
			選択	SWS214	精神保健福祉援助技術実習指導Ⅰ	1	2	
			選択	SWS215	医療福祉総論	2	2	
			選択	SWS216	高齢者福祉論Ⅰ	2	2~3	
			選択	SWS217	障害者福祉論	2	2~3	
			選択	SWS218	社会福祉運営論	2	2~3	
			選択	SWS219	権利擁護論	2	2~3	
			選択	SWS220	低所得者福祉論	2	2~3	
			選択	SWS221	更生保護論	2	2~3	
			選択	SWS222	地域福祉論Ⅰ	2	2~3	
			選択	SWS223	地域福祉論Ⅱ	2	2~3	
			選択	SWS224	福祉サービス運営論	2	2~3	
			選択	SWS225	就労支援論	2	2~3	
			選択	SWS226	社会保障論Ⅰ	2	2~3	
			選択	SWS227	社会保障論Ⅱ	2	2~3	
			選択	SWS302	Introduction to Social Work	2	3~4	
			選択	SWS303	社会福祉援助技術論Ⅳ	2	3	
			選択	SWS304	社会福祉援助技術演習Ⅲ	2	3	
			選択	SWS305	社会福祉援助技術演習Ⅳ	2	3	
			選択	SWS306	社会福祉援助技術現場実習	4	3	
			選択	SWS307	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ	1	3	
			選択	SWS308	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅲ	1	3	
			選択	SWS309	精神保健福祉論Ⅲ	2	3	
			選択	SWS310	精神保健福祉援助技術実習	4	3	
			選択	SWS311	精神保健福祉援助技術実習指導Ⅱ	1	3	
			選択	SWS312	精神保健福祉援助技術実習指導Ⅲ	1	3	
			選択	SWS313	医療ソーシャルワーク論	2	3	
			選択	SWS314	医療福祉演習Ⅰ	2	3	
			選択	SWS315	医療福祉演習Ⅱ	2	3	
			選択	SWS316	生活支援学特別講義A	2	3~4	
			選択	SWS317	生活支援学特別講義B	2	3~4	
			選択	SWS401	地域医療福祉専門実習A	2	4	
			選択	SWS402	地域医療福祉専門実習B	2	4	
選択	SWS403	社会福祉援助技術演習Ⅴ	2	4				
介護福祉士コース科目	選択	PSS101	こころとからだのしくみⅠ	2	1~4			
	選択	PSS102	こころとからだのしくみⅡ	2	1~4			
	選択	PSS103	こころとからだのしくみⅢ	2	1~4			
	選択	SWS113	介護福祉援助概論Ⅰ	2	1			
	選択	SWS114	介護福祉援助概論Ⅱ	2	1			
	選択	SWS115	生活支援技術Ⅰ	1	1			
	選択	SWS116	生活支援技術Ⅱ	1	1			
	選択	SWS117	介護過程Ⅰ	1	1			
	選択	SWS118	介護総合演習Ⅰ	1	1			
	選択	SWS119	介護福祉実習Ⅰ	2	1			
	選択	SWS120	発達と老化の理解	2	1~4			
	選択	SWS121	障害の理解	2	1~4			
	選択	SWS122	認知症の理解Ⅰ	2	1~4			

区分	必修／選択	科目ナンバリング	科目名	単位数	配当学年	備考
介護福祉士コース科目	選択	SWS123	認知症の理解Ⅱ	2	1～4	
	選択	SWS228	介護福祉援助概論Ⅲ	2	2	
	選択	SWS229	生活支援技術Ⅲ	1	2	
	選択	SWS230	生活支援技術Ⅳ	1	2	
	選択	SWS231	生活支援技術Ⅴ	1	2	
	選択	SWS232	生活支援技術Ⅵ	1	2	
	選択	SWS233	介護コミュニケーション技術Ⅰ	2	2	
	選択	SWS234	介護コミュニケーション技術Ⅱ	2	2	
	選択	SWS235	介護過程Ⅱ	1	2	
	選択	SWS236	介護総合演習Ⅱ	1	2	
	選択	SWS237	介護総合演習Ⅲ	1	2	
	選択	SWS238	介護福祉実習Ⅱ	3	2	
	選択	SWS318	介護福祉援助概論Ⅳ	2	3	
	選択	SWS319	介護福祉援助概論Ⅴ	2	3	
	選択	SWS320	生活支援技術Ⅶ	1	3	
	選択	SWS321	生活支援技術Ⅷ	1	3	
	選択	SWS322	生活支援技術Ⅹ	1	3	
	選択	SWS323	介護過程Ⅲ	1	3	
	選択	SWS324	介護総合演習Ⅳ	1	3	
	選択	SWS325	介護福祉実習Ⅲ	3	3	
	選択	SWS326	医療的ケアⅠ	2	3	
	選択	SWS327	医療的ケアⅡ	2	3	
	選択	SWS328	実習指導の理論と方法	2	3～4	
	選択	SWS404	介護福祉援助概論Ⅵ	2	4	
	選択	SWS405	生活支援技術Ⅺ	1	4	
	選択	SWS406	介護過程Ⅳ	1	4	
	選択	SWS407	介護福祉実習Ⅳ	2	4	
	選択	SWS408	医療的ケアⅢ	2	4	

〈他学科・専攻開放科目〉

学科・専攻	科目ナンバリング	科目名	単位数	配当学年	備考
健康スポーツ学科	AHS101	エアロビクス基礎実習	1	1	
健康スポーツ学科	AHS102	生涯スポーツ論	2	1	
健康スポーツ学科	AHS107	レクリエーション論	2	1	
健康スポーツ学科	AHS108	国際健康スポーツ交流A	2	1	
健康スポーツ学科	AHS109	国際健康スポーツ交流B	2	1	
健康スポーツ学科	AHS110	エアロビクス実習	1	1~4	
健康スポーツ学科	AHS111	ヘルスプロモーション論	2	1	
健康スポーツ学科	AHS112	生活習慣と健康	2	1	
健康スポーツ学科	AHS201	健康栄養論	2	2	
健康スポーツ学科	AHS202	レクリエーション実習	1	2	
健康スポーツ学科	AHS203	スポーツ医学	2	2~4	
健康スポーツ学科	AHS204	運動処方（含運動負荷試験）	2	2~4	
健康スポーツ学科	AHS205	健康政策と行政	2	2~4	
健康スポーツ学科	AHS206	小児保健（含学校保健）	2	2~4	
健康スポーツ学科	AHS207	障がい者論	2	2~4	
健康スポーツ学科	AHS208	スポーツ応急処置演習	2	2~4	
健康スポーツ学科	AHS209	測定評価	2	2~4	
健康スポーツ学科	AHS210	エアロビクス指導法	1	2~4	
健康スポーツ学科	AHS211	アクアビクス指導法	1	2~4	
健康スポーツ学科	AHS212	運動傷害と予防	2	2~4	
健康スポーツ学科	CHS201	子ども健康スポーツ指導法	1	2~4	
健康スポーツ学科	CHS202	子ども学	2	2~4	
健康スポーツ学科	CIV201	健康スポーツインターンシップA	2	2~4	
健康スポーツ学科	DMB101	健康科学概論	2	1	
健康スポーツ学科	DMB104	発育・発達・加齢論	2	1	
健康スポーツ学科	DMB105	トレーニング概論	2	1~4	
健康スポーツ学科	DMB106	日本文化と武道	2	1~4	
健康スポーツ学科	DMB202	健康教育学	2	2~4	
健康スポーツ学科	DMB205	身体文化論	2	2~4	
健康スポーツ学科	DMB206	スポーツ情報分析論	2	2~4	
健康スポーツ学科	DMB207	老年学	2	2~4	
健康スポーツ学科	EPM101	免疫と薬理	2	1~4	
健康スポーツ学科	FLE103	外国語文献講読	2	1~4	
健康スポーツ学科	FLE201	スポーツとコミュニケーション	2	2~4	
健康スポーツ学科	GEA101	解剖学	2	1	
健康スポーツ学科	GEA102	人体組織学	2	1~4	
健康スポーツ学科	GEA202	機能解剖学	2	2~4	
健康スポーツ学科	GPH201	運動生理学	2	2	
健康スポーツ学科	GPH202	スポーツ生理学	2	2~4	
健康スポーツ学科	HPH101	公衆衛生学	2	1	
健康スポーツ学科	HPH202	運動疫学	2	2~4	
健康スポーツ学科	HPH301	労働衛生Ⅰ	2	3~4	
健康スポーツ学科	HPH302	労働衛生Ⅱ	2	3~4	
健康スポーツ学科	RSW201	リハビリテーション論	2	2~4	
健康スポーツ学科	SOL301	労働基準法	2	3~4	
健康スポーツ学科	SOL302	労働安全衛生法Ⅰ	2	3~4	
健康スポーツ学科	SOL303	労働安全衛生法Ⅱ	2	3~4	

学科・専攻	科目ナンバリング	科目名	単位数	配当学年	備考
健康スポーツ学科	SPS101	スポーツ社会学	2	1	
健康スポーツ学科	SPS201	コーチング概論	2	2~4	
健康スポーツ学科	SPS202	バイオメカニクス実習	1	2	
健康スポーツ学科	SPS203	トレーニング基礎実習	1	2~4	
健康スポーツ学科	SPS204	スポーツと栄養	2	2~4	
健康スポーツ学科	SPS205	スポーツ心理学	2	2~4	
健康スポーツ学科	SPS206	スポーツトレーニング指導法	2	2~4	
健康スポーツ学科	SPS207	スポーツ人類学	2	2~4	
健康スポーツ学科	SPS208	スポーツ史	2	2~4	
健康スポーツ学科	SPS209	健康文化論	2	2~4	
健康スポーツ学科	SPS210	地域スポーツクラブ論	2	2~4	
健康スポーツ学科	SPS211	スポーツ政策論	2	2~4	
健康スポーツ学科	SPS212	スポーツ文化論	2	2~4	
健康スポーツ学科	SPS213	子ども健康スポーツ論	2	2~4	
健康スポーツ学科	SPS214	高齢者健康スポーツ論	2	2~4	
健康スポーツ学科	SPS215	障がい者健康スポーツ論	2	2~4	
健康スポーツ学科	SPS216	高齢者健康スポーツ指導法	1	2~4	
健康スポーツ学科	SPS217	障がい者健康スポーツ指導法	1	2~4	
健康スポーツ学科	SPS218	スポーツビジネス論	2	2~4	
健康スポーツ学科	SPS219	トレーニングプログラミング論	2	2~4	
健康スポーツ学科	SPS220	スポーツマネジメント	2	2~4	
健康スポーツ学科	SPS221	アスレティックトレーニング論	2	2~4	
健康スポーツ学科	SPS222	バイオメカニクス	2	2~4	
健康スポーツ学科	SPS223	スポーツ経済論	2	2~4	
健康スポーツ学科	SPS224	スポーツメディア論	2	2~4	
健康スポーツ学科	SWS101	健康スポーツボランティア活動A	2	1~4	
人間環境デザイン学科	AHD101	建築歴史意匠A	2	1	
人間環境デザイン学科	AHD201	建築歴史意匠B	2	2	
人間環境デザイン学科	CLD202	道具の歴史	2	2	
人間環境デザイン学科	CLD204	こども環境論	2	2	
人間環境デザイン学科	CLD301	福祉住環境コーディネート論	2	3~4	
人間環境デザイン学科	CME201	マーケティング	2	2	
人間環境デザイン学科	DES103	プロダクトデザイン基礎	2	1	
人間環境デザイン学科	DES104	International Design Practices	2	1~4	
人間環境デザイン学科	DES201	産業とプロダクトデザイン	2	2	
人間環境デザイン学科	DES306	情報メディアデザイン	2	3~4	
人間環境デザイン学科	HII201	ヒューマンインターフェース	2	2	
人間環境デザイン学科	RSW101	人間工学	2	1	
人間環境デザイン学科	RSW304	リハビリテーション工学	2	3~4	
人間環境デザイン学科	RSW305	支援技術とデザイン	2	3~4	
人間環境デザイン学科	TPA301	安全工学	2	3~4	
人間環境デザイン学科	TPA309	医療福祉建築計画	2	3~4	

2. 卒業要件

4年以上（8セメスタ以上）在学し、下記の条件を満たした学生のみ卒業することができます。
下記の条件をすべて満たさないと、卒業することができません。

授業科目区分		卒業必要単位数	
基盤教育	哲学・思想	2単位以上	
	学問の基礎		
	国際人の形成	外国語 英語必修 8単位	
	キャリア・市民形成		
	総合・学際		
	計	18単位以上	
専門科目	学部共通科目	必修科目	4単位
		選択科目	
	学科専門科目	必修科目	18単位
		選択科目	50単位以上
		小計	68単位以上
	計	72単位以上	
合計	124単位以上		

単位数

- (1) 卒業要件となる科目で124単位以上を修得すること。
- (2) 基盤教育で、哲学・思想で必修2単位以上、国際人の形成の外国語の英語必修8単位を含み、基盤教育科目で18単位以上を修得すること。
- (3) 専門科目で、学部共通科目で必修科目4単位、学科専門科目で68単位以上（うち必修科目18単位、選択科目50単位以上）を含み、72単位以上を修得すること。

3. 基盤教育

- (1) 哲学・思想
2単位以上を修得しなければなりません。
- (2) 国際人の形成
1年次に「英語コミュニケーションⅠA」「英語コミュニケーションⅠB」「基礎英語演習Ⅰ」「基礎英語演習Ⅱ」を、2年次に「英語コミュニケーションⅡA」「英語コミュニケーションⅡB」「応用英語演習Ⅰ」「応用英語演習Ⅱ」を修得しなければなりません。あらかじめクラス分けがされていますので、指定されたクラスの授業を履修してください。

4. 学部共通科目

- (1) 必修科目
4単位すべてを修得しなければなりません。
- (2) 選択科目
単位数の指定はありません。他学科・専攻開講科目で履修できるのは、「他学科・専攻開放科目」のみです。各自の履修計画や興味に沿って履修してください。
ただし演習・実習科目については、授業の適切な運営のため、履修登録の際に人数調整をする場合があります。詳細は「履修登録のしおり・授業時間割表」を確認してください。

5. 学科専門科目

(1) 必修科目

- ①18単位すべてを修得しなければなりません。
- ②クラス分けのうえ事前登録される科目があります。履修登録確認表で指定されたクラスを確認してください。
- ③「情報リテラシーⅠ」はあらかじめクラス分けがされています。指定されたクラスの授業を履修してください。
- ④卒業論文は8セメスタ以降に履修できます。提出時期・方法については別途掲示します。

(2) 選択科目

- ①48単位以上を修得しなければなりません。
- ②科目の後ろにⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳと記載されている科目については、原則としてⅠを修得した後にⅡを、Ⅱを修得した後にⅢを、というように順を追って履修してください。やむを得ず途中からの履修をしなければならない場合には、必ず1回目の授業で担当教員に相談し、授業の履修が可能かどうかを確認してから履修登録してください。なお、科目の後ろにA・Bと記載されている科目については順を追って履修する必要はありません。
- ③「社会福祉援助技術現場実習」及び「精神保健福祉援助技術実習」は、それぞれ履修するための条件があります。P.123「諸資格について」を参照してください。
- ④介護福祉士コース科目は、介護福祉士コースに所属する学生のみ履修することができます。
- ⑤「生活支援学演習ⅡA」(春学期)・「生活支援学演習ⅡB」(秋学期)の履修について

この科目は、生活支援学専攻2年次の、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士のいずれの資格も希望していない学生を対象に開講しています。これらの学生については、国家資格取得を目指す学生に比べ、2年次における社会福祉分野の基礎的な学修機会が少なく、それを補うために履修する必要があります。必修科目という位置づけではありませんが、3年次に「生活支援学演習ⅢA」・「生活支援学演習ⅢB」を履修するにあたっての基礎的な教育をする授業となります。この科目を履修しない場合、3年次以降の学修に支障が生じることがありますので履修修得してください。

※社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の資格取得を希望していない学生は、履修登録の際、大学で一括して事前に履修登録します。当該学生の履修登録画面には、登録済みとなって表示されます。

なお、この科目の単位を修得していない学生については、3年次以降も演習担当教員から継続して履修を勧奨します。

(3) 介護福祉士コースの履修単位数上限

「介護福祉士コース」の学生は、1年次秋学期以降、履修登録の上限が1セメスタあたり28単位(通常の24単位に4単位を加算できる)となります。

(4) 介護福祉士コースの科目「実習指導の理論と方法」(2単位)は、介護福祉士の養成指定科目以外の科目です。隔年開講、集中講義、2020年度8月～9月の予定です。

(5) 学外実習スケジュール

P.60を確認してください。

6. 4年次 地域医療福祉専門実習A・Bについて

生活支援学専攻では、卒業後、地域における保健・医療・福祉の領域で、援助専門職として働く意志のある学生を対象にして、実践的な問題意識を深め、より高度な専門性を身につけるための専門実習科目として、「地域医療福祉専門実習A・B」を設けています。

本科目で想定している専門実習領域は次の通りです。

- ・生活支援領域
- ・医療福祉領域
- ・精神保健福祉領域
- ・介護福祉領域

以上の専門実習領域は、履修登録後、担当教員との相談を通じて、学生自身が自らの問題意識に応じて、主体的に選択するものです（但し、3年次までの先行履修要件があるものもあります）。

また、春学期開講の「地域医療福祉専門実習A」と秋学期開講の「地域医療福祉専門実習B」はそれぞれ独立した科目ですので、春学期開講のAのみ、もしくは秋学期開講のBのみ、さらにA・B両方を履修することもできます。また、春学期、秋学期と異なった領域で履修することも可能です（介護福祉領域を除く）。

- ・就職を希望している種別の施設で実習をしたい
- ・内定した法人や施設でインターンシップをしたい
- ・就職活動にあたって自分の適性や力量を確認したい
- ・卒業論文執筆に向けての問題意識を体験的に検証したい

といった学生は、積極的に履修してください。

(1) 実習料について

実習料は学生の自己負担となります。金額は各実習施設の定めによります。

また、実習にあたっては交通費等の実費負担が発生します。

※なお、実習費は、大学が徴収し、実習終了後に大学から各実習施設に振り込みます。大学の指示に従って納入してください。

(2) 実習施設の選択と契約について

実習施設は、学生自身の自己開拓が原則です。学生の申し出により大学が実習施設との契約を交わします。実習施設の選定には、適宜、担当教員と相談し決定します。

(3) 実習時期や日数の設定について

実習の時期や日数は、学生と各実習施設が相談の上、決定します。

【生活支援領域】

社会福祉施設をはじめとする市民の生活支援に関わる広範な機関・施設で働く、福祉専門職を目指す学生を想定した領域です。実習は、社会福祉法に定められている社会福祉施設の他、NPO法人など、幅広い生活支援事業を行っている機関・施設での実習も可能です。（但し実習施設の選択は、教員と相談の上、行ってください）

例えば、認知症に特化した支援を学びたい、虐待対応について学びたいなど、3年次の実習よりも一歩進んだ課題に取り組みたいという学生はぜひ履修してください。また、3年次に社会福祉士等の実習を行っていない学生でも、介護サービス企業の内定者などがインターンシップとして、履修することも可能です。

【医療福祉領域】

保健・医療分野のソーシャルワーカー（MSW=Medical Social Worker）を目指す学生のための専門領域です。生活支援学専攻では、地域医療・地域包括ケア現場からのより高度な医療福祉の専門性への要求に応えるべく、学外研修を含めた独自の高度専門職養成課程を運営しています。

医療福祉領域の機関・施設で実習を行うには、以下のすべての要件を満たしていることが必要です。

- ①生活支援学専攻の4年生であること
- ②社会福祉士もしくは精神保健福祉士の実習を終了していること
- ③将来、保健医療福祉の相談援助職になることを希望していること
- ④2年次に「医療福祉総論」の単位を修得していること
- ⑤3年次に「医療福祉演習Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること
- ⑥卒業までに「医療ソーシャルワーク論」の単位を修得すること

※但し④～⑥については、履修登録上の理由により、要件を満たしていない場合でも、担当教員の判断で履修を認める場合があります。

資格について：医療ソーシャルワーカー自体の資格はありません。医療ソーシャルワーカーは、社会福祉士、精神保健福祉士が就職のための資格要件となっています。但し、社会福祉士の養成課程だけでは、医療に関する内容がほとんどないため、医療機関での実習や就職活動にあたっては、本コースの受講は不可欠です。

【精神保健福祉領域】

精神障害者の保健福祉領域での福祉専門職を目指す学生のための専門実習領域です。

対象は、3年次に「社会福祉援助技術現場実習」「精神保健福祉援助技術実習」を終了し、卒業後の就職・進路希望がこの分野である学生です。

具体的には、精神保健福祉領域の医療機関や施設などにおいて4年次にさらなる実習を行い、専門的な知識や実践能力を身につけるもので、それに必要な事前・事後指導も行います。

また、実習先は原則自己開拓となります。この実習でどのようなことを学びたいのかよく考え、担当教員と綿密な事前相談をするようにしてください。

実習の形態、期間についても受講生の希望をもとに、実習機関との相談のうえ確定します。その際、自分の将来計画と併せて考えるようにしてください。

【介護福祉領域】

介護福祉士として、高齢者・障がい者の生活支援を高いレベルで行うことのできる専門職を目指す学生のための専門実習領域です。

実習は、介護保険法や障害者総合支援法に定められている事業所・施設のほか、地域で独自の取り組みを行っているNPO法人など、多様な機関での実習も可能です。ただし、実習先は、教員と相談のうえで選択・決定をしてください。

例えば、介護予防のための支援を学びたい、サービス提供責任者やサービス管理責任者の役割を学びたい、福祉用具や医療的ケアに関する知識を深めたい、地域のなかでの住民組織による介護サービスの実際を学びたいなど、3年次までの実習から一層掘り下げたテーマに取り組んでみたいという学生はぜひ履修をしてください。

なお、介護福祉領域の施設で実習を行うには、以下の2つをすべて満たしていることが必要です。

- ①介護福祉士コースに所属している4年生であること
- ②将来介護・福祉・医療分野の援助専門職として従事することを希望していること

7. その他の科目

教育職員免許状取得のための「教職に関する科目」「教科に関する科目」（P.182・183を参照）で、生活支援学専攻の教育課程表にない科目は、教職の専門科目となります。単位を修得しても卒業要件単位とすることはできませんが、1セメスタの履修登録の上限24単位外の科目として履修登録することができます。

8. 生活支援学科生活支援学専攻 学外実習スケジュール

各資格には、法令に定められた学外実習が必要となります。資格別の学外実習スケジュールは以下のとおりです。

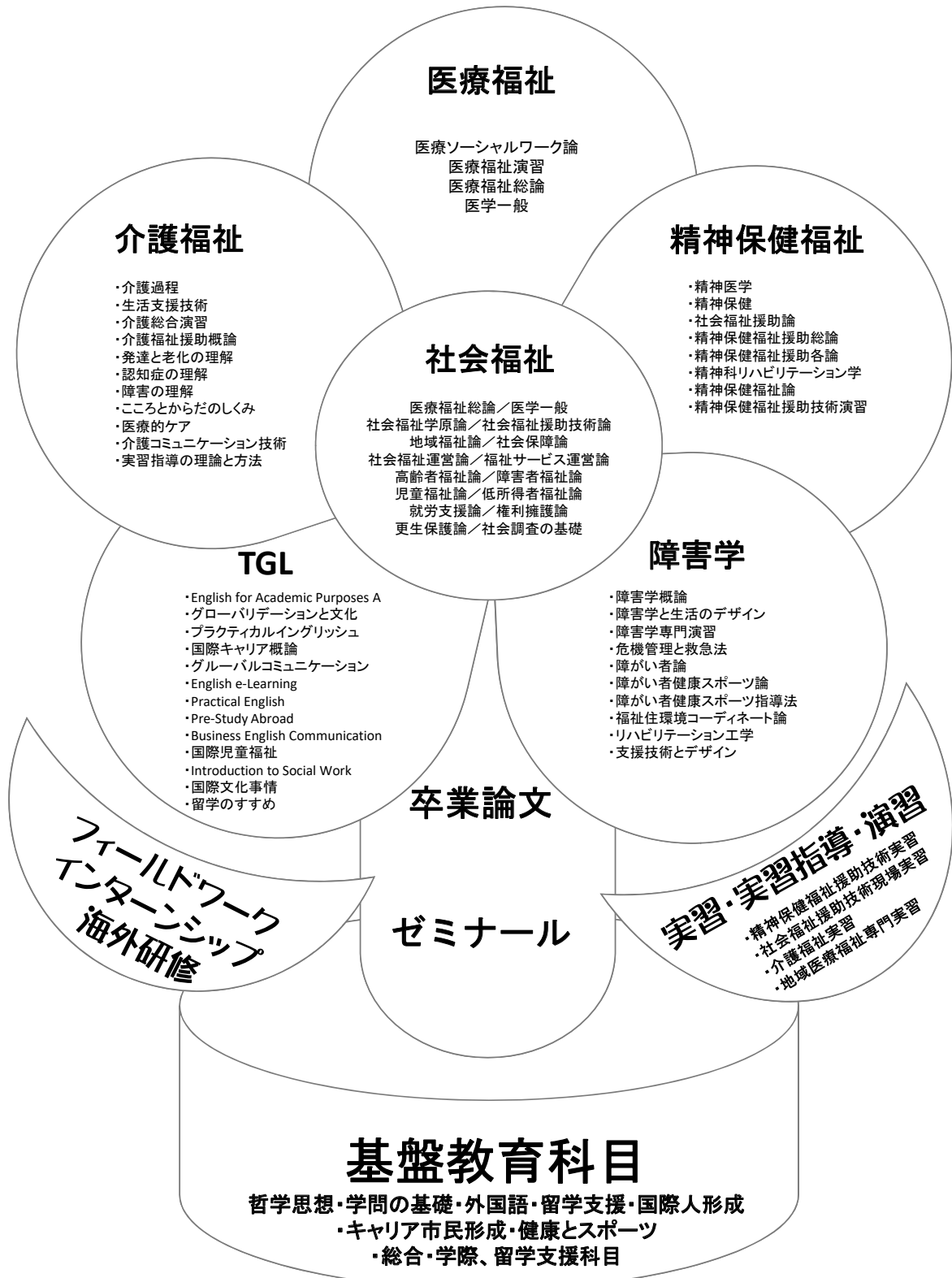
それぞれの実習には、必要な手続き、ガイダンス、参加条件等が定められていますので、履修要覧やガイダンス資料、掲示等をよく確認し、漏れのないようにしてください。なお、学外実習スケジュールは関連法令改正等の理由により変更となる場合があります。

		社会福祉士	精神保健福祉士	介護福祉士	高等学校教諭 (福祉)
1年次	春学期				
	秋学期			介護福祉実習Ⅰ 11月のうち計12日	
2年次	春学期				
	秋学期			介護福祉実習Ⅱ 11月連続18日間	
3年次	春学期	社会福祉 援助技術 現場実習 6～11月のうち 計24日間	精神保健福祉 援助技術実習 (※1) 6～11月のうち 計28日間	介護福祉実習Ⅲ 5月連続18日間	
	秋学期				
4年次	春学期	地域医療福祉専門実習A			教育実習Ⅱ 5～7月連続2週間
	秋学期	地域医療福祉専門実習B			

(※1) 社会福祉士と精神保健福祉士の両方の取得を希望する学生は、精神保健福祉援助技術実習を4年次に実施することになります。

◆生活支援学科生活支援学専攻のカリキュラム◆

生活支援学科生活支援学専攻のカリキュラムマップ



生活支援学科子ども支援学専攻

子ども支援学専攻長
嶋崎 博嗣

本専攻の社会的ミッションは、「子ども支援」のプロフェッショナルを育てることである。子どもの心を耕し、多様な好奇心を育て、意欲を育むことである。こうした育ちを「遊び」を通して、意図的・計画的に援助していく力を身につけていくことである。しかし、子どもの育ちは、子どもがしっかりと遊ぶことができるからだとの状態があって、はじめて実現される。今、子どもを巡る様々な問題がある。平成27年の厚生労働省の報告によると、7人に一人の割合で、相対的貧困に陥っている。また、児童虐待相談件数は10万件を超えている。その背景には、保護者側の問題が存在する。子どもが健やかに育つためには、子どもの暮らしに大きな影響を与える保護者をいかに支援し、子どもを育てやすい地域・社会をいかに実現する働きかけを行うことができるか、そうした力量も同時に求められるのである。そうしたことを4年間かけて学んでいく。

本専攻は、保育士資格・幼稚園教諭をはじめ、社会福祉士（国家試験受験資格）の資格取得が可能である。福祉に関する学びは、他の保育者養成校より厚みがある。そこが本専攻の特色でもある。さらに、人々の幸せな暮らしを追求するライフデザイン学部ならではの他学科開放科目も用意されている。保育・教育の「質」は、保育者（教師）の力量が大きく関連する。高い専門性と幅広い教養を身につける、いや、身につけようとする姿勢を大切にしてほしい。

さて、この履修要覧は、学びの全体像が示されている。自分の未来の姿を想像しながら、自らの学びのロードマップを定める必要がある。卒業要件はもとより、希望資格の取得方法（履修方法や必要取得単位数など）が明記されている。他人任せではなく、自分で確認し、「責任」をもって履修することが重要である。大学では、多様な学びの機会が用意されている。それをどのように探し、関わり、深めていくのかは、4年間の学びを大きく左右する。その際、どのように教員を利用するかによって、学びの奥行きは違ってくる。先に「責任」という言葉を強調した。自らの意思で本専攻を選択したのだと思う。「他者に歩かされている」「他人の道を間違いなく歩く」のは、意外に簡単だ。そこには自己責任がない。だから言い訳も出てくる。自分の責任で進んでいくと悩みも出てくる。それをクリアした時、喜びも大きくなる。

大学での時間が、自分を磨く時間になることを心より応援しています。

◆生活支援学科子ども支援学専攻の教育研究上の目的◆

1. 人材の養成に関する目的

子ども支援学専攻では、社会福祉等を基礎とする社会に対する広い視野を持って、子どもに関わる興味関心を深め、「保育」、「乳幼児教育」と「児童福祉」の充実と発展に貢献できる人材を養成することを目的とする。

専門職の資格としては、保育士資格、幼稚園教諭1種免許状を得ることができる。希望者は、社会福祉士国家試験受験資格も得ることができる。

2. 学生に修得させるべき能力等の教育目標

子ども支援学専攻では、社会福祉、児童福祉、保育、乳幼児教育などの分野に関する高い専門的知識を学び、子どもを支援するために必要な具体的な技術の修得と関連づけていくことのできる能力を養うことを目標とする。そして、さまざまな分野において課題に直面した際に、自らで考えてそれらの課題を解決していきける能力を培うことを教育の目標とする。

3. その他の教育研究上の目的

子ども支援学専攻で養成する人材は、その専門性から、子どものみならず、子育てをしている保護者を支援する力量も必要とされている。そのためには、さらに、社会的に広い知識と、人間への尊敬を基本とする深い思慮が必要であり、それらの育成も目的とする。

◆生活支援学科子ども支援学専攻3つのポリシー◆

1. ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

下記の能力を備えた学生に対して卒業を認定し、学位を授与します。

- (1) 子どもの福祉や教育に関わる専門的知識を身につけていること。
- (2) 子どもの成長発達や保育・教育の問題に対処できる幅広い視野を持ち、それらを明らかにする科学的探究心や問題解決能力を身につけていること。
- (3) 子どもの福祉や教育に関わるさまざまな実践の場で、人権を尊重し、倫理に基づき、人々の多様な育ちを支えていこうとする意志と意欲を持っていること。
- (4) 多様な価値観や文化を理解しようとする姿勢を持ち、多様な人々と協働しようとするグローバルマインドを持つこと。
- (5) 子どもの育ちや子育ての状況を理解し、人々が自らの幸福を追求できるよう、根拠に基づいて適切な援助を行うことができること。

2. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

- (1) 基礎的な学力と豊かな教養を身につけるための基盤教育科目を配置する。
- (2) さまざまな子どもや保護者を支援する力を備えるための専門科目を配置する。保育士・幼稚園教諭の資格取得に必要な専門科目を必修・選択として設定し、学びの系統性に配慮しながら順次履修できるよう配置する。
- (3) 諸資格取得のための学外実習は、実習毎に事前・事後指導を徹底し、専門科目との関連に配慮して教育課程を編成する。
- (4) 子ども支援学専攻に関連する今日的課題を主体的に見出し、問題解決能力の育成を図るために一年次から四年次のゼミナール配置を行う。
- (5) 保育士資格・幼稚園教諭1種免許取得のみならず、社会福祉士受験資格取得が可能なカリキュ

- ラムを編成し、高度なソーシャルワーク技能を併せ持つ人材育成をはかる。
- (6) グローバルに活躍できる人材を育成するために語学・文化教育にも力を入れ、海外研修に関する科目を設定する。

3. アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

以下のような点を入学者の条件として求めます。

- (1) 子どもの成長発達や保育・教育の問題に深い関心を持ち、それを学ぼうとする知的好奇心と強い意志があること
- (2) 入学後の修学に必要な基礎学力としての知識や実技能力を有していること。
- (3) 対人援助専門職者は援助の過程で他者との連携が求められる。よって、積極的に他者とかかわり、対話を成立させ、対話を通して相互理解に努めようとする態度を有していること。

生活支援学科子ども支援学専攻 教育課程表 (2017年度以降入学生用)

		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年		
	哲学・思想(2)	哲学(2) ジェンダー論(2)	井上円了と東洋大学A(2) 世代論(2)	井上円了と東洋大学B(2) 生命と倫理(2)	人間と宗教(2) 人権と生活(2)		
	学問の基礎	美術一般(2) 社会学(2) 生活と栄養(2) 文学(2) 経済学(2) 統計学(2)	音楽一般(2) 家族の社会学(2) 生活と家族(2) 文章読解(2) 法学(2) 身体論(2)	文化人類学(2) 生死の社会学(2) 危機管理と救急法(2) レポート・論文のまとめ方(2) 数学(2) 口頭表現法(2)	文化論(2) 心理学(2) 物理(2) プレゼンテーション技法(2)		
国際人の形成(8) 基礎教育科目(18)	外国語(8)	英語必修(8) 英語コミュニケーションI A(1) 英語コミュニケーションI B(1) 基礎英語演習I(1) 基礎英語演習II(1)	英語コミュニケーションII A(1)	英語コミュニケーションII B(1)			
			選択	グローバルコミュニケーションI(1)	グローバルコミュニケーションII(1)	Practical English I(1)	Practical English II(1)
				English e-Learning I(1)	English e-Learning II(1)		
				フランス語I(1) ドイツ語I(1)	フランス語II(1) ドイツ語II(1)	中国語I(1) 韓国語I(1)	中国語II(1) 韓国語II(1)
	【外国学生】日本語(6)	【外国人留学生入試入学者用】※【日本語6単位】を必修とする。					
		日本語I(1) 日本事情I(2)	日本語II(1) 日本事情II(2)				
	選択	グローバル化と文化A(2)	グローバル化と文化B(2)	グローバル化と文化C(2)			
		グローバル化と文化D(2)	グローバル化と文化E(2)				
		国際キャリア概論(2)	留学のすすめ(2)				
		海外研修I(2) 短期海外研修I(1) 短期海外実習I(1)	海外研修II(2) 短期海外研修II(1) 短期海外実習II(1)	海外実習I(2) 短期海外研修III(1) 短期海外実習III(1)	海外実習II(2) 短期海外研修IV(1) 短期海外実習IV(1)		
キャリア・市民形成	日本国憲法(2)	基礎会計学(2)	経営学(2)				
	地域研究法(2) 社会人基礎力入門講義(2) 公務員論(2) 障害学概論(2)	学校と地域(学校安全を含む)(2) キャリアデベロップメント論(2) 社会貢献活動入門(2) 障害学と生活のデザイン(2)	生活と環境(2) 企業家論(2) テクニカルライティング(2) インターンシップ入門(2)	生活と住居(2) 企業のしくみ(2) アカデミックライティング(2)			
健康とスポーツ	スポーツ健康科学実技IA(1)	スポーツ健康科学実技IB(1)	スポーツ健康科学実技IIA(1)	スポーツ健康科学実技IIB(1)			
	スポーツ健康科学実技IIIA(1)	スポーツ健康科学実技IIIB(1)	スポーツ健康科学講義A(2)	スポーツ健康科学講義B(2)			
総合・学際	全学総合IA(2)	全学総合IB(2)	全学総合IIA(2)	全学総合IIB(2)			
	総合I(2)	総合II(2)	総合III(2)				
	総合IVA(2)	総合IVB(2)					
留学支援科目	英語特別教育科目	English for Academic Purposes A Listening/Speaking(2)		English for Academic Purposes B Reading/Writing(2)			
		Pre-Study Abroad College Study Skills(1)		Pre-Study Abroad Basic Academic Writing(1)			
	日本語科目	Pre-Study Abroad Academic Essay Writing(1)		Business English Communication(2)			
		(協定校並びにISEP加盟大学等からの留学生に対する日本語・日本文化科目)					

		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	
学部共通科目 (4)	必修科目 (4)	ライフデザイン学Ⅰ(2)	ライフデザイン学Ⅱ(2)			
	選択科目A			障害学専門演習(2)		
	選択科目B	他学科・専攻開放科目から選択				
	必修科目 (13)	子ども支援学概論(2) 子ども支援学演習Ⅰ(1) 情報リテラシーⅠ(2)	子ども支援学演習ⅡA(1) 子ども支援学演習ⅡB(1)	子ども支援学演習ⅢA(1) 子ども支援学演習ⅢB(1) 多文化共生保育・教育(1) 子どもソーシャルワーク(1)	子ども支援学演習ⅣA(1) 子ども支援学演習ⅣB(1)	
	選択必修 (2)				卒業論文(4) 卒業制作(2) ※1科目選択必修	
	選択科目 (61)	選択科目 (46)	保育原理(2) 社会福祉学原論Ⅰ(2) 児童福祉論(2) 社会的養護(2) 子どもの食と栄養(実習含む)(2) 障害児保育Ⅰ(1)	保育実習ⅠA(施設)(2) 保育実習指導ⅠA(施設)(1) 子どもの保健Ⅰ(2) 社会福祉援助技術演習Ⅰ(2) 社会的養護内容(1) 障害児保育Ⅱ(1) 乳児保育Ⅰ(1)	保育実習ⅠB(保育所)(2) 保育実習指導ⅠB(保育所)(1) 子どもの保健Ⅱ(2)	保育実習Ⅱ(保育所)(2) 保育実習指導Ⅱ(保育所)(1) 保育実習Ⅲ(施設)(2) 保育実習指導Ⅲ(施設)(1) 子どもの保健Ⅲ(1) 乳児保育Ⅱ(1) 保育相談支援(1) 家庭支援論(2)
			教育制度論(2)	幼児教育論Ⅰ(2)	幼児教育論Ⅱ(2) 教育実習Ⅱ(事前事後の指導を含む)(5) 幼児教育方法(情報機器の活用を含む)(2) 保育指導法(2) 幼児理解と保育カウンセリング(2)	
			教職概論(2) 教育基礎論(2) 発達心理学(2) 保育内容総論(1) 保育表現技術(言語)(1) 保育表現技術Ⅰ(音楽)(1) 保育表現技術(造形)(1) 保育表現技術Ⅰ(体育)(1)	保育教育課程論(2) 教育心理学(1) 保育内容演習(ことば)(1) 保育内容演習(人間関係)(1) 保育内容演習(環境)(1) 保育内容演習(健康)(1) 保育内容演習(造形表現)(1) 保育表現技術Ⅱ(音楽)(1) 保育表現技術Ⅱ(体育)(1)	保育内容演習(音楽表現)(1)	保育・教職実践演習(2) 子ども支援学専門演習(1) 音楽あそびの実践(2) 体育あそびの実践(2)
			子育て支援実践(1) 国語表現法(2)	生活と総合学習(2) 子どもと文学(2)	多文化共生保育・教育実践(1) 子どもの権利と教育(2)	
		社会福祉の基礎(2) 専門職論(2) 社会福祉発達史(2) 社会福祉学原論Ⅱ(2) 社会福祉援助技術論Ⅰ(2) 医学一般(2)	社会福祉援助技術論Ⅱ(2) 社会福祉援助技術論Ⅲ(2) 社会福祉援助技術演習Ⅱ(2) 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ(1) 医療福祉総論(2) 福祉レクリエーション(2) 社会調査の基礎(2)	社会福祉援助技術演習Ⅲ(2) 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ(1) 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅲ(1) 社会福祉援助技術論Ⅳ(2) 社会福祉援助技術演習Ⅳ(2) 社会福祉援助技術現場実習(4)	社会福祉援助技術演習Ⅴ(2)	
		社会保障論Ⅰ(2) 地域福祉論Ⅰ(2) 就労支援論(2) 高齢者福祉論Ⅰ(2) 低所得者福祉論(2) 障害者福祉論(2) 権利擁護論(2)	社会保障論Ⅱ(2) 地域福祉論Ⅱ(2) 更生保護論(2) 高齢者福祉論Ⅱ(2) 社会福祉運営論(2) 福祉サービス運営論(2)			
情報リテラシーⅡ(2)		国際児童福祉(2)	国際文化事情A(2)	国際文化事情B(2)		

ライフデザイン学部 基盤教育科目

区分	必修/選択	科目ナンバリング	科目名	単位数	配当学年	備考	
基盤教育科目	哲学・思想	選択	PHT101	哲学	2	1~4	
		選択	PHT102	井上円了と東洋大学A	2	1~4	
		選択	PHT103	井上円了と東洋大学B	2	1~4	
		選択	PHT104	人間と宗教	2	1~4	
		選択	PHT105	生命と倫理	2	1~4	
		選択	PHT106	ジェンダー論	2	1~4	
		選択	PHT107	世代論	2	1~4	
		選択	PHT108	人権と生活	2	1~4	
	学問の基礎	選択	FAS101	美術一般	2	1~4	
		選択	FAS102	音楽一般	2	1~4	
		選択	FAS103	生活と栄養	2	1~4	
		選択	FAS104	生死の社会学	2	1~4	
		選択	FAS105	物理	2	1~4	
		選択	FAS106	数学	2	1~4	
		選択	FAS107	危機管理と救急法	2	1~4	
		選択	FAS108	文学	2	1~4	
		選択	FAS109	文章読解	2	1~4	
		選択	FAS110	口頭表現法	2	1~4	
		選択	FAS111	レポート・論文のまとめ方	2	1~4	
		選択	FAS112	プレゼンテーション技法	2	1~4	
		選択	FAS113	文化論	2	1~4	
		選択	FAS114	文化人類学	2	1~4	
国際人の形成	英語必修	必修	ENG101	基礎英語演習 I	1	1	
		必修	ENG102	基礎英語演習 II	1	1	
		必修	ENG103	英語コミュニケーション I A	1	1	
		必修	ENG104	英語コミュニケーション I B	1	1	
	外国語 選択科目	必修	ENG201	応用英語演習 I	1	2	
		必修	ENG202	応用英語演習 II	1	2	
		必修	ENG203	英語コミュニケーション II A	1	2	
		必修	ENG204	英語コミュニケーション II B	1	2	
		選択	ENG105	グローバルコミュニケーション I	1	1~4	
		選択	ENG106	グローバルコミュニケーション II	1	1~4	
外国語 選択科目	選択	ENG107	Practical English I	1	1~4		
	選択	ENG108	Practical English II	1	1~4		
	選択	ENG109	English e-Learning I	1	1~4		
	選択	ENG110	English e-Learning II	1	1~4		
	選択	GER101	ドイツ語 I	1	1~4		
選択	GER102	ドイツ語 II	1	1~4			
選択	FRA101	フランス語 I	1	1~4			

区分		必修／選択	科目ナンバリング	科目名	単位数	配当学年	備考	
基礎教育科目	外国語	選択	FRA102	フランス語Ⅱ	1	1～4		
		選択	CHI101	中国語Ⅰ	1	1～4		
		選択	CHI102	中国語Ⅱ	1	1～4		
		選択	KOR101	韓国語Ⅰ	1	1～4		
		選択	KOR102	韓国語Ⅱ	1	1～4		
	日本語	必修	JPN101	日本語Ⅰ	1	1～4	外国人留学生用	
		必修	JPN102	日本語Ⅱ	1	1～4	外国人留学生用	
		必修	JPN103	日本事情Ⅰ	2	1～4	外国人留学生用	
		必修	JPN104	日本事情Ⅱ	2	1～4	外国人留学生用	
	国際人の形成	選択科目	選択	IHR101	グローバルゼーションと文化A	2	1～4	
			選択	IHR102	グローバルゼーションと文化B	2	1～4	
			選択	IHR103	グローバルゼーションと文化C	2	1～4	
			選択	IHR104	グローバルゼーションと文化D	2	1～4	
			選択	IHR105	グローバルゼーションと文化E	2	1～4	
			選択	IHR106	国際キャリア概論	2	1～4	
			選択	IHR107	留学のすすめ	2	1～4	
			選択	IHR108	海外研修Ⅰ	2	1～4	
			選択	IHR109	海外研修Ⅱ	2	1～4	
			選択	IHR110	海外実習Ⅰ	2	1～4	
			選択	IHR111	海外実習Ⅱ	2	1～4	
			選択	IHR112	短期海外研修Ⅰ	1	1～4	
			選択	IHR113	短期海外研修Ⅱ	1	1～4	
			選択	IHR114	短期海外研修Ⅲ	1	1～4	
			選択	IHR115	短期海外研修Ⅳ	1	1～4	
			選択	IHR116	短期海外実習Ⅰ	1	1～4	
			選択	IHR117	短期海外実習Ⅱ	1	1～4	
			選択	IHR118	短期海外実習Ⅲ	1	1～4	
			選択	IHR119	短期海外実習Ⅳ	1	1～4	
	キャリア・市民形成	選択	ECD101	生活と環境	2	1～4		
			ECD102	日本国憲法	2	1～4		
			ECD103	経営学	2	1～4		
			ECD104	基礎会計学	2	1～4		
			ECD105	学校と地域（学校安全を含む）	2	1～4		
			ECD106	生活と住居	2	1～4		
			ECD107	地域研究法	2	1～4		
ECD108			社会人基礎力入門講義	2	1～4			
ECD109			企業家論	2	1～4			
ECD110			公務員論	2	1～4			
ECD111			キャリアデベロップメント論	2	1～4			
ECD112			企業のしくみ	2	1～4			
ECD113			社会貢献活動入門	2	1～4			
ECD114			テクニカルライティング	2	1～4			
ECD115			アカデミックライティング	2	1～4			
ECD116			障害学概論	2	1～4			
ECD117			障害学と生活のデザイン	2	1～4			
ECD118			インターンシップ入門	2	1～4			

区分		必修／選択	科目ナンバリング	科目名	単位数	配当学年	備考	
キャリア・市民形成	健康とスポーツ	選択・選択必修	DMB101	スポーツ健康科学実技ⅠA	1	1～4	健康スポーツ学科の学生のみ2単位選択必修	
		選択・選択必修	DMB102	スポーツ健康科学実技ⅠB	1	1～4		
		選択・選択必修	DMB103	スポーツ健康科学実技ⅡA	1	1～4		
		選択・選択必修	DMB104	スポーツ健康科学実技ⅡB	1	1～4		
		選択・選択必修	DMB105	スポーツ健康科学実技ⅢA	1	1～4		
		選択・選択必修	DMB106	スポーツ健康科学実技ⅢB	1	1～4		
		選択	DMB107	スポーツ健康科学講義A	2	1～4		
		選択	DMB108	スポーツ健康科学講義B	2	1～4		
	総合・学際	選択	ITS101	総合Ⅰ	2	1～4		
		選択	ITS102	総合Ⅱ	2	1～4		
		選択	ITS103	総合Ⅲ	2	1～4		
		選択	ITS104	総合ⅣA	2	1～4		
		選択	ITS105	総合ⅣB	2	1～4		
		選択	ITS106	全学総合ⅠA	2	1～4		
		選択	ITS107	全学総合ⅠB	2	1～4		
		選択	ITS108	全学総合ⅡA	2	1～4		
		選択	ITS109	全学総合ⅡB	2	1～4		
	基礎教育科目	英語特別教育科目	選択	SUS101	English for Academic Purposes A Listening/Speaking	2	1～4	
選択			SUS102	English for Academic Purposes B Reading/Writing	2	1～4		
選択			SUS103	Pre-Study Abroad College Study Skills	1	1～4		
選択			SUS104	Pre-Study Abroad Basic Academic Writing	1	1～4		
選択			SUS105	Pre-Study Abroad Academic Essay Writing	1	1～4		
選択			SUS106	Business English Communication	2	1～4		
留学支援科目		日本語科目	選択	SUS107	Integrated Japanese I	4	1～4	
			選択	SUS108	Integrated Japanese II	4	1～4	
			選択	SUS109	Integrated Japanese III	4	1～4	
			選択	SUS110	Integrated Japanese IV	4	1～4	
			選択	SUS111	Japanese Reading and Composition I	1	1～4	
			選択	SUS112	Japanese Reading and Composition II	1	1～4	
			選択	SUS113	Japanese Reading and Composition III	1	1～4	
			選択	SUS114	Japanese Reading and Composition IV	1	1～4	
			選択	SUS115	Japanese Listening Comprehension I	1	1～4	
			選択	SUS116	Japanese Listening Comprehension II	1	1～4	
			選択	SUS117	Japanese Listening Comprehension III	1	1～4	
			選択	SUS118	Japanese Listening Comprehension IV	1	1～4	
			選択	SUS119	Kanji Literacy I	1	1～4	
			選択	SUS120	Kanji Literacy II	1	1～4	
			選択	SUS121	Kanji Literacy III	1	1～4	
			選択	SUS122	Kanji Literacy IV	1	1～4	
			選択	SUS123	Project Work I	1	1～4	
			選択	SUS124	Project Work II	1	1～4	
			選択	SUS125	Project Work III	1	1～4	
			選択	SUS126	Project Work IV	1	1～4	
			選択	SUS127	Japanese Culture and Society A	2	1～4	
			選択	SUS128	Japanese Culture and Society B	2	1～4	
			選択	SUS129	Introduction to Japanology A	2	1～4	
			選択	SUS130	Introduction to Japanology B	2	1～4	

生活支援学科 子ども支援学専攻 専門科目

区分		必修/選択	科目ナンバリング	科目名	単位数	配当学年	備考
学部共通 科目	科目必修	必修	TYS101	ライフデザイン学Ⅰ	2	1	
	科目必修	必修	TYS201	ライフデザイン学Ⅱ	2	2	
	科目選択	選択	SWS301	障害学専門演習	2	3	
専門科目 学科専門科目	必修科目	必修	CHS101	子ども支援学概論	2	1	
		必修	CHS301	多文化共生保育・教育	1	3	
		必修	ISE101	情報リテラシーⅠ	2	1	
		必修	SEM101	子ども支援学演習Ⅰ	1	1	
		必修	SEM201	子ども支援学演習ⅡA	1	2	
		必修	SEM202	子ども支援学演習ⅡB	1	2	
		必修	SEM301	子ども支援学演習ⅢA	1	3	
		必修	SEM302	子ども支援学演習ⅢB	1	3	
		必修	SEM401	子ども支援学演習ⅣA	1	4	
		必修	SEM402	子ども支援学演習ⅣB	1	4	
	修科必修 科目	選択必修	THE401	卒業論文	4	4	1科目選択必修
		選択必修	THE402	卒業制作	2	4	
	選択科目	選択	CHS102	多文化共生保育・教育実践	1	1~4	
		選択	CHS103	保育原理	2	1	
		選択	CHS104	保育表現技術(造形)	1	1	
		選択	CHS105	保育表現技術Ⅰ(音楽)	1	1	
		選択	CHS106	保育表現技術Ⅰ(体育)	1	1	
		選択	CHS107	子どもの権利と教育	2	1~4	
		選択	CHS108	子育て支援実践	1	1~4	
		選択	CHS109	子どもと文学	2	1~4	
		選択	CHS110	子どもの食と栄養(実習含む)	2	1	
		選択	CHS111	保育表現技術(言語)	1	1	
		選択	CHS112	障害児保育Ⅰ	1	1	
		選択	CHS113	保育内容総論	1	1	
		選択	CHS201	子どもの保健Ⅰ	2	2	
		選択	CHS202	乳児保育Ⅰ	1	2	
		選択	CHS203	保育実習ⅠA(施設)	2	2	
		選択	CHS204	保育実習指導ⅠA(施設)	1	2	
		選択	CHS205	保育表現技術Ⅱ(音楽)	1	2	
		選択	CHS206	保育表現技術Ⅱ(体育)	1	2	
		選択	CHS207	保育内容演習(ことば)	1	2	
		選択	CHS208	保育内容演習(環境)	1	2	
選択		CHS209	保育内容演習(人間関係)	1	2		
選択		CHS210	障害児保育Ⅱ	1	2		
選択		CHS211	保育内容演習(健康)	1	2		
選択		CHS212	保育教育課程論	2	2		
選択		CHS213	保育内容演習(造形表現)	1	2		
選択		CHS302	子どもの保健Ⅱ	2	3		
選択	CHS303	保育実習ⅠB(保育所)	2	3			
選択	CHS304	保育実習指導ⅠB(保育所)	1	3			
選択	CHS305	幼児理解と保育カウンセリング	2	3			
選択	CHS306	保育指導法	2	3			

区分	必修/選択	科目ナンバリング	科目名	単位数	配当学年	備考	
専門科目	選択科目	選択	CHS307	保育内容演習（音楽表現）	1	3	
		選択	CHS308	保育音楽表現技術	2	3~4	
		選択	CHS401	家庭支援論	2	4	
		選択	CHS402	子どもの保健Ⅲ	1	4	
		選択	CHS403	乳児保育Ⅱ	1	4	
		選択	CHS404	保育相談支援	1	4	
		選択	CHS405	保育実習指導Ⅱ（保育所）	1	4	
		選択	CHS406	保育実習指導Ⅲ（施設）	1	4	
		選択	CHS407	保育実習Ⅱ（保育所）	2	4	
		選択	CHS408	保育実習Ⅲ（施設）	2	4	
		選択	EDP101	発達心理学	2	1	
		選択	EDP201	教育心理学	1	2	
		選択	EDU101	教職概論	2	1	
		選択	EDU102	教育基礎論	2	1	
		選択	EDU103	教育制度論	2	1	
		選択	EDU201	幼児教育論Ⅰ	2	2	
		選択	EDU301	幼児教育論Ⅱ	2	3	
		選択	ESS301	幼児教育方法（情報機器の活用を含む）	2	3	
		選択	ESS302	教育実習Ⅲ（事前・事後の指導を含む）	5	3	
		選択	ESS303	音楽あそびの実践	2	3~4	
		選択	ESS304	体育あそびの実践	2	3~4	
		選択	ESS305	造形あそびの実践	2	3~4	
		選択	ESS401	保育・教職実践演習	2	4	
		選択	FLE101	国際文化事情A	2	1~4	
		選択	FLE102	国際文化事情B	2	1~4	
		選択	GIM101	医学一般	2	1	
		選択	ISE102	情報リテラシーⅡ	2	1~4	
		選択	LIN101	国語表現法	2	1~4	
		選択	SEM403	子ども支援学専門演習	1	4	
		選択	SOC101	社会的養護	2	1	
		選択	SOC201	社会的養護内容	1	2	
		選択	SOC202	社会調査の基礎	2	2	
		選択	SWS101	社会福祉の基礎	2	1	
		選択	SWS102	児童福祉論	2	1	
		選択	SWS103	社会福祉学原論Ⅰ	2	1	
		選択	SWS104	社会福祉学原論Ⅱ	2	1	
		選択	SWS105	社会福祉援助技術論Ⅰ	2	1	
		選択	SWS106	社会福祉発達史	2	1	
		選択	SWS107	専門職論	2	1	
		選択	SWS108	生活と総合学習	2	1~4	
		選択	SWS109	国際児童福祉	2	1~4	
		選択	SWS201	社会福祉援助技術演習Ⅰ	2	2	
		選択	SWS202	社会福祉援助技術論Ⅱ	2	2	
		選択	SWS203	社会福祉援助技術論Ⅲ	2	2	
		選択	SWS204	社会福祉援助技術演習Ⅱ	2	2	
選択	SWS205	高齢者福祉論Ⅱ	2	2~3			
選択	SWS206	福祉レクリエーション	2	2			

区分		必修／選択	科目ナンバ リング	科目名	単位数	配当 学年	備考	
専門科目	学科専門科目	選択科目	選択	SWS207	医療福祉総論	2	2	
			選択	SWS208	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ	1	2	
			選択	SWS209	高齢者福祉論Ⅰ	2	2～3	
			選択	SWS210	障害者福祉論	2	2～3	
			選択	SWS211	社会福祉運営論	2	2～3	
			選択	SWS212	権利擁護論	2	2～3	
			選択	SWS213	低所得者福祉論	2	2～3	
			選択	SWS214	更生保護論	2	2～3	
			選択	SWS215	地域福祉論Ⅰ	2	2～3	
			選択	SWS216	地域福祉論Ⅱ	2	2～3	
			選択	SWS217	福祉サービス運営論	2	2～3	
			選択	SWS218	就労支援論	2	2～3	
			選択	SWS219	社会保障論Ⅰ	2	2～3	
			選択	SWS220	社会保障論Ⅱ	2	2～3	
			選択	SWS303	社会福祉援助技術論Ⅳ	2	3	
			選択	SWS304	社会福祉援助技術演習Ⅲ	2	3	
			選択	SWS305	社会福祉援助技術演習Ⅳ	2	3	
			選択	SWS306	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ	1	3	
			選択	SWS307	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅲ	1	3	
			選択	SWS308	社会福祉援助技術現場実習	4	3	
選択	SWS401	社会福祉援助技術演習Ⅴ	2	4				

〈他学科・専攻開放科目〉

学科・専攻	科目ナンバリング	科目名	単位数	配当学年	備考
生活支援学専攻	SWS302	Introduction to Social Work	2	3~4	
健康スポーツ学科	AHS101	エアロビクス基礎実習	1	1	
健康スポーツ学科	AHS102	生涯スポーツ論	2	1	
健康スポーツ学科	AHS107	レクリエーション論	2	1	
健康スポーツ学科	AHS108	国際健康スポーツ交流A	2	1	
健康スポーツ学科	AHS109	国際健康スポーツ交流B	2	1	
健康スポーツ学科	AHS110	エアロビクス実習	1	1~4	
健康スポーツ学科	AHS111	ヘルスプロモーション論	2	1	
健康スポーツ学科	AHS112	生活習慣と健康	2	1	
健康スポーツ学科	AHS201	健康栄養論	2	2	
健康スポーツ学科	AHS202	レクリエーション実習	1	2	
健康スポーツ学科	AHS203	スポーツ医学	2	2~4	
健康スポーツ学科	AHS204	運動処方（含運動負荷試験）	2	2~4	
健康スポーツ学科	AHS205	健康政策と行政	2	2~4	
健康スポーツ学科	AHS206	小児保健（含学校保健）	2	2~4	
健康スポーツ学科	AHS207	障がい者論	2	2~4	
健康スポーツ学科	AHS208	スポーツ応急処置演習	2	2~4	
健康スポーツ学科	AHS209	測定評価	2	2~4	
健康スポーツ学科	AHS210	エアロビクス指導法	1	2~4	
健康スポーツ学科	AHS211	アクアビクス指導法	1	2~4	
健康スポーツ学科	AHS212	運動傷害と予防	2	2~4	
健康スポーツ学科	CHS201	子ども健康スポーツ指導法	1	2~4	
健康スポーツ学科	CHS202	子ども学	2	2~4	
健康スポーツ学科	CIV201	健康スポーツインターンシップA	2	2~4	
健康スポーツ学科	DMB101	健康科学概論	2	1	
健康スポーツ学科	DMB104	発育・発達・加齢論	2	1	
健康スポーツ学科	DMB105	トレーニング概論	2	1~4	
健康スポーツ学科	DMB106	日本文化と武道	2	1~4	
健康スポーツ学科	DMB202	健康教育学	2	2~4	
健康スポーツ学科	DMB205	身体文化論	2	2~4	
健康スポーツ学科	DMB206	スポーツ情報分析論	2	2~4	
健康スポーツ学科	DMB207	老年学	2	2~4	
健康スポーツ学科	EPM101	免疫と薬理	2	1~4	
健康スポーツ学科	FLE103	外国語文献講読	2	1~4	
健康スポーツ学科	FLE201	スポーツとコミュニケーション	2	2~4	
健康スポーツ学科	GEA101	解剖学	2	1	
健康スポーツ学科	GEA102	人体組織学	2	1~4	
健康スポーツ学科	GEA202	機能解剖学	2	2~4	
健康スポーツ学科	GPH201	運動生理学	2	2	
健康スポーツ学科	GPH202	スポーツ生理学	2	2~4	
健康スポーツ学科	HPH101	公衆衛生学	2	1	
健康スポーツ学科	HPH202	運動疫学	2	2~4	
健康スポーツ学科	HPH301	労働衛生Ⅰ	2	3~4	
健康スポーツ学科	HPH302	労働衛生Ⅱ	2	3~4	
健康スポーツ学科	RSW201	リハビリテーション論	2	2~4	
健康スポーツ学科	SOL301	労働基準法	2	3~4	
健康スポーツ学科	SOL302	労働安全衛生法Ⅰ	2	3~4	

学科・専攻	科目ナンバリング	科目名	単位数	配当学年	備考
健康スポーツ学科	SOL303	労働安全衛生法Ⅱ	2	3～4	
健康スポーツ学科	SPS101	スポーツ社会学	2	1	
健康スポーツ学科	SPS201	コーチング概論	2	2～4	
健康スポーツ学科	SPS202	バイオメカニクス実習	1	2	
健康スポーツ学科	SPS203	トレーニング基礎実習	1	2～4	
健康スポーツ学科	SPS204	スポーツと栄養	2	2～4	
健康スポーツ学科	SPS205	スポーツ心理学	2	2～4	
健康スポーツ学科	SPS206	スポーツトレーニング指導法	2	2～4	
健康スポーツ学科	SPS207	スポーツ人類学	2	2～4	
健康スポーツ学科	SPS208	スポーツ史	2	2～4	
健康スポーツ学科	SPS209	健康文化論	2	2～4	
健康スポーツ学科	SPS210	地域スポーツクラブ論	2	2～4	
健康スポーツ学科	SPS211	スポーツ政策論	2	2～4	
健康スポーツ学科	SPS212	スポーツ文化論	2	2～4	
健康スポーツ学科	SPS213	子ども健康スポーツ論	2	2～4	
健康スポーツ学科	SPS214	高齢者健康スポーツ論	2	2～4	
健康スポーツ学科	SPS215	障がい者健康スポーツ論	2	2～4	
健康スポーツ学科	SPS216	高齢者健康スポーツ指導法	1	2～4	
健康スポーツ学科	SPS217	障がい者健康スポーツ指導法	1	2～4	
健康スポーツ学科	SPS218	スポーツビジネス論	2	2～4	
健康スポーツ学科	SPS219	トレーニングプログラミング論	2	2～4	
健康スポーツ学科	SPS220	スポーツマネジメント	2	2～4	
健康スポーツ学科	SPS221	アスレティックトレーニング論	2	2～4	
健康スポーツ学科	SPS222	バイオメカニクス	2	2～4	
健康スポーツ学科	SPS223	スポーツ経済論	2	2～4	
健康スポーツ学科	SPS224	スポーツメディア論	2	2～4	
健康スポーツ学科	SWS101	健康スポーツボランティア活動A	2	1～4	
人間環境デザイン学科	AHD101	建築歴史意匠A	2	1	
人間環境デザイン学科	AHD201	建築歴史意匠B	2	2	
人間環境デザイン学科	CLD202	道具の歴史	2	2	
人間環境デザイン学科	CLD204	こども環境論	2	2	
人間環境デザイン学科	CLD301	福祉住環境コーディネータ論	2	3～4	
人間環境デザイン学科	CME201	マーケティング	2	2	
人間環境デザイン学科	DES103	プロダクトデザイン基礎	2	1	
人間環境デザイン学科	DES104	International Design Practices	2	1～4	
人間環境デザイン学科	DES201	産業とプロダクトデザイン	2	2	
人間環境デザイン学科	DES306	情報メディアデザイン	2	3～4	
人間環境デザイン学科	HII201	ヒューマンインターフェース	2	2	
人間環境デザイン学科	RSW101	人間工学	2	1	
人間環境デザイン学科	RSW304	リハビリテーション工学	2	3～4	
人間環境デザイン学科	RSW305	支援技術とデザイン	2	3～4	
人間環境デザイン学科	TPA301	安全工学	2	3～4	
人間環境デザイン学科	TPA309	医療福祉建築計画	2	3～4	

2. 卒業要件

4年以上（8セメスタ以上）在学し、下記の条件を満たした学生のみ卒業することができます。
下記の条件をすべて満たさないと、卒業することができません。

授業科目区分		卒業必要単位数	
基盤教育	哲学・思想	2単位以上	
	学問の基礎		
	国際人の形成	外国語 英語必修	8単位
	キャリア・市民形成		
	総合・学際		
	計	18単位以上	
専門科目	学部共通科目	必修科目	4単位
		選択科目	
	学科専門科目	必修科目	13単位
		選択必修	2単位
		選択科目	46単位以上
		小計	61単位以上
	計	65単位以上	
合計	124単位以上		

単位数

- (1) 卒業要件となる科目で124単位以上を修得すること。
- (2) 基盤教育で、哲学・思想で必修2単位以上、国際人の形成の外国語の英語必修8単位を含み、基盤教育科目で18単位以上を修得すること。
- (3) 専門科目で、学部共通科目で必修科目4単位、学科専門科目で61単位以上（うち必修科目13単位、選択必修科目2単位、選択科目46単位以上）を含み、65単位以上を修得すること。

3. 基盤教育

- (1) 哲学・思想
2単位以上を修得しなければなりません。
- (2) 国際人の形成
1年次に「英語コミュニケーションⅠA」「英語コミュニケーションⅠB」「基礎英語演習Ⅰ」「基礎英語演習Ⅱ」を、2年次に「英語コミュニケーションⅡA」「英語コミュニケーションⅡB」「応用英語演習Ⅰ」「応用英語演習Ⅱ」を修得しなければなりません。あらかじめクラス分けがされていますので、指定されたクラスの授業を履修してください。

4. 学部共通科目

- (1) 必修科目
4単位すべてを修得しなければなりません。
- (2) 選択科目
単位数の指定はありません。他学科・専攻開講科目で履修できるのは、「他学科・専攻開放科目」のみです。各自の履修計画や興味に沿って履修してください。
ただし演習・実習科目については、授業の適切な運営のため、履修登録の際に人数調整をする場合があります。詳細は「履修登録のしおり・授業時間割表」を確認してください。

5. 学科専門科目

(1) 必修科目

- ①13単位すべてを修得しなければなりません。
- ②クラス分けのうえ事前登録される科目があります。履修登録確認表で指定されたクラスを確認してください。

(2) 選択必修科目

- ①卒業論文（4単位）もしくは卒業制作（2単位）のいずれかを修得しなければなりません。
- ②卒業論文・卒業制作は8セメスタ以降に履修できます。提出時期・方法については別途掲示します。

(3) 選択科目

- ①46単位以上を修得しなければなりません。
- ②科目の後ろにⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳと記載されている科目については、原則としてⅠを修得した後にⅡを、Ⅱを修得した後にⅢを、というように順を追って履修してください。やむを得ず途中からの履修をしなければならない場合には、必ず1回目の授業で担当教員に相談し、授業の履修が可能かどうかを確認してから履修登録してください。
- ③「社会福祉援助技術現場実習」及び「保育実習ⅠA（施設）」「保育実習ⅠB（保育所）」「保育実習Ⅱ（保育所）」「保育実習Ⅲ（施設）」はそれぞれ履修するための条件があります。P.127・138～140「諸資格について」を参照してください。

(4) セッション科目

以下の科目は、セッションの期間に実施される学外実習のため履修上限単位数（24単位）に加えて履修することができます。

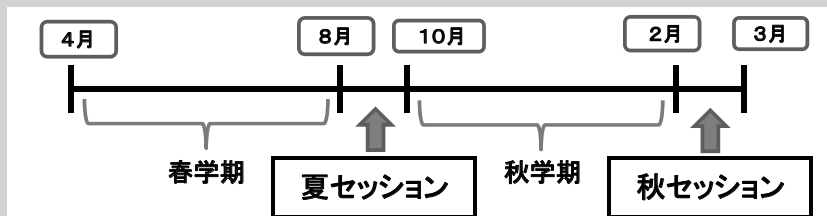
- ・「保育実習ⅠA（施設）」
- ・「保育実習ⅠB（保育所）」
- ・「保育実習Ⅱ（保育所）」
- ・「保育実習Ⅲ（施設）」

上記の科目は、履修登録期間に登録をする必要はありません。大学で一括して登録を行います。また、以下の科目については、セッション科目ではないので、必ず自身で履修登録を行ってください。

- ・「保育実習指導ⅠA（施設）」
- ・「保育実習指導ⅠB（保育所）」
- ・「保育実習指導Ⅱ（保育所）」
- ・「保育実習指導Ⅲ（施設）」

セッション科目とは

セッションとは、学期（セメスタ）と学期の間に設定されている期間のことを言います（学期についてはP.12参照）。



セッション科目とは、セッションの期間の開講される科目のことです。

セッション科目は、学期の科目として位置づけられていないことから、履修上限単位数（1学期24単位：P.19参照）の制限外の科目になります。

(5) 学外実習スケジュール

P.80を確認してください。

6. 生活支援学科子ども支援学専攻 学外実習スケジュール

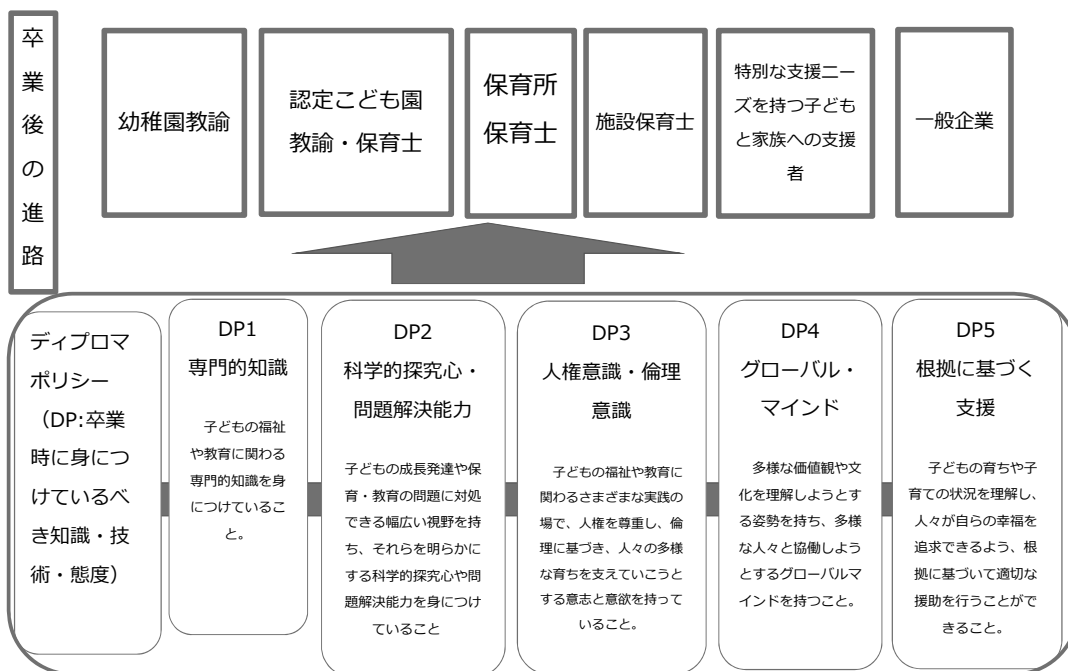
各資格には、法令に定められた学外実習が必要となります。資格別の学外実習スケジュールは以下のとおりです。

それぞれの実習には、必要な手続き、ガイダンス、参加条件等が定められていますので、履修要覧やガイダンス資料、掲示等をよく確認し、漏れのないようにしてください。なお、学外実習スケジュールは関連法令改正等の理由により変更となる場合があります。

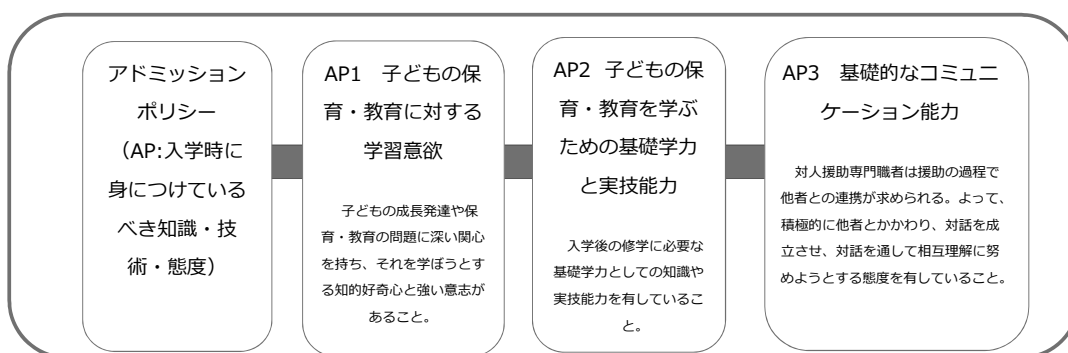
		社会福祉士	保育士	幼稚園教諭
1年次	春学期	幼児教育・保育施設見学 (幼稚園・保育所・児童養護施設など)		
	秋学期			
2年次	春学期			
	秋学期			
3年次	春学期	社会福祉援助技術現場実習 6～11月のうち (計24日間)	保育実習ⅠB (保育所) 8・9月 (12日間)	
	秋学期		教育実習Ⅲ 10～3月 (4週間)	
4年次	春学期		保育実習Ⅱ(保育所) 保育実習Ⅲ(施設) 8・9月 (12日間) ※保育実習Ⅱ(保育所)及 び保育実習Ⅲ(施設)は どちらかを選択	
	秋学期			

生活支援学科子ども支援学専攻のカリキュラム

生活支援学科子ども支援学専攻のカリキュラムマップ



修学年次	ゼミナール教育		実習教育				幼児教育に関する学び	保育に関する学び	子育て支援・子ども家庭福祉に関する学び	支援者としての基礎的学び (基礎教育)
	最終年次の総括	卒業論文・卒業制作	最終年次における実習の総括	保育実習Ⅱ (保育実所)	保育実習Ⅲ (施設)	幼児教育に関する学びの総合的なまとめ (保育・教職実践演習等)	保育に関する学びの総合的なまとめ (保育・教職実践演習等)	子育て支援・子ども家庭福祉に関する学びの総合的なまとめ (保育相談支援・子育て支援実践等)		
4年生	4年生ゼミ	4年生ゼミ	各分野における専門的な実習	教育実習 (保育実所Ⅰ)	社会福祉実習	各分野に関する学びの総合的なまとめ・実践力向上			哲学・思想学問の基礎 国際人の形成 キャリア・市民形成 総合・学際	
3年生	3年生ゼミ	3年生ゼミ	各分野に関する実践力の習得	保育実習Ⅰ (施設)	社会福祉実習	幼児教育に関する実践力の習得 (幼児教育論Ⅱ等)	保育に関する実践力の習得 (保育指導法等)	子育て支援・子ども家庭福祉に関する実践力の習得 (多文化共生保育教育実践)		
2年生	2年生ゼミ	2年生ゼミ	基礎的実習の習得	保育実習Ⅰ (施設)		幼児教育に関する内容・方法の理解 (幼児教育論Ⅰ等)	保育に関する内容・方法の理解 (保育教育課程論等)	子育て支援・子ども家庭福祉に関する内容・方法の理解 (社会福祉援助技術演習等)		
1年生	1年生ゼミ	1年生ゼミ	現場見学の基礎的実習の習得	見学実習 (1年生ゼミ)		幼児教育に関する本質・目的の理解 (教育基礎論等)	保育に関する本質・目的の理解 (保育内容総論等)	子育て支援・子ども家庭福祉に関する本質・目的の理解 (社会福祉学原論Ⅰ)		



健康スポーツ学科

健康スポーツ学科 学科長の挨拶

健康スポーツ学科長
神野 宏司



人は皆、人生を「健康」とともに生きています。「病気になるなでほしい」、「悪くならないでほしい」、「早く直ってほしい」と願い、今までも多くの方がみんなの健康のために力を注いできました。病気の予防、病気からの回復に対してスポーツ、さらに広くとらえた身体活動が大きな役割を果たしていることが分かってきました。人は、生きていく中で健康をどのように維持していくのか。健康スポーツ学科ではスポーツに注目し、人々の豊かな生涯生活を実現するために、健康を維持し増進させるための学問を学び、また研究したいと考えています。学生の皆さんには講義で学ぶだけではなく、ボランティア、インターンシップ、健康スポーツ倶楽部ASAKA、Keep Activeなど学内外で実践の機会に積極的に参加し、学んだ内容を自分の力にしてほしいと思っています。「経験したことがないから」と尻込みする気持ちが先に立つかも知れません。誰にでも「初めて」の時があるものです。勇気をもって初めの一步を踏み出して下さい。

スポーツにはさらに言語や障がいの有無など様々なバリアをも超えてお互いを理解し合える手段としての力も持っていると思います。グローバル社会となり、様々なルーツや文化をもつ人々が共に生活する社会が始まっています。仮に言葉が通じなくても同じルールのもとで行われるスポーツならば言葉の壁を越えてコミュニケーションをとり、理解し合える事でしょう。健康スポーツ学科で実施しているドイツでの研修に帯同した折、現地の大学生と身振り手振りでバスケットボールやフットサルを共にする学生の姿を見ることが出来ました。この様子にスポーツのもつもう一つの力を感じました。この力はまた、同じ地域に住む人同士を結ぶ事も可能にすることでしょう。健康スポーツ学科の卒業生に海外で日本式の運動会を学校から地域にまで広める活動をした人がいます。運動会を通じて地域の人同士の結びつきを高めるこのサポート活動は東洋大学が進める「グローバルリーダーの集うアジアのハブ大学を目指す」活動といえると思います。健康スポーツ学科の海外研修には現地の子どもに指導するプログラムも計画しています。また、朝霞市をはじめとした複数の地域で地元の人々と運動やスポーツを通じた交流の場を作る活動を進めていますので是非参加して下さい。

このような活動を具体的な形として示すために2017年度の入学生から今までの4コース制を「ヘルスプロモーション」「スポーツサイエンス」「グローバルスポーツ」「ユニバーサルスポーツ」「アスリートサポート」の5コース制に変更しました。スポーツの持つ力で子どもから成人、高齢者、障がいを持つ人まで幅広く人々の健康をサポート・指導できる人材の育成を目指したいと思います。

大学4年間は人生観が身につく期間ともいえます。そこに東洋大学の哲学的思考は大きな力となると思います。学生の皆さん、哲学的思考を踏まえた実践を通して、学んだ知識をより深い知恵として下さい。

◆健康スポーツ学科の教育研究上の目的◆

1. 人材の養成に関する目的

少子・高齢化社会および福祉社会といわれる今日にあっては、人々の健康や身体に関する教育に加え、福祉に関する幅広い教育を行うことをとおし、健康の維持・増進の支援ができる人材を育成することが必要である。このような認識に基づき、健康スポーツ学科では、現代人の生活の質（Quality of Life）の向上を目指し、身体活動やスポーツの機能的および社会・文化的側面に関する教育や研究の実践を理念として、それらの研究や教育をとおし、小児から高齢者、障がい者の健康の維持・増進の支援に寄与できる人材の養成をめざしている。

2. 学生に修得させるべき能力等の教育目標

学生に対し、以下に掲げる能力の育成を目標とする。

- (1) 理論と実践を有機的に連携させ健康スポーツに関わる知見を総合的かつ系統的に教授することにより、子どもから高齢者さらには障がい者の身体活動能力の確保や健康の維持増進を実現する能力やそれに関わる理論を修得することを目標とする。
- (2) さらに、健康に関わる幅広い理論的根拠に基づく実践的能力とともに、各種施設や地域社会において、健康づくりをマネージメント、プロモートする管理能力の修得を目指す。

3. その他の教育研究上の目的

ライフデザイン学部の他学科の教育や資格を横断的に組み合わせることにより、単なるスポーツ指導者を超えた、福祉や保育、まちづくりやデザイン的な考え方をもち、健康スポーツ人材の育成を目指す。

◆健康スポーツ学科3つのポリシー◆

1. ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

学科の教育課程に定められた科目を履修し、本学学則に定める卒業要件を満たした以下の能力を備えた学生に対して、卒業を認定し、学位を授与します。

- (1) 健康や身体活動、スポーツに関する正しい知識のうえに思考判断できる。
- (2) 健康づくりの専門家として指導力、実践力を有し社会貢献できる。
- (3) 全てのライフステージや生活状況にある人々を理解して健康づくりを支援する意欲がある。

2. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

健康スポーツ学科では身体活動やスポーツを通じた人々の健康づくりに貢献できる人材を育成するために以下のカリキュラムポリシーに従い教育内容を構成しています。

- (1) 身体活動やスポーツを通じた健康づくりの専門家として必要な科目を必修として設定する。
- (2) 指導力、実践力を養成するために講義と演習または実習を組み合わせ設定する。
- (3) 社会貢献の基盤づくりのため、ボランティア、フィールドワーク、インターンシップなどアクティブラーニング科目を設定する。
- (4) 全てのライフステージや生活状況にある人々の健康づくりを実践できるよう、コース制を取り入れ対象者別の幅の広い専門科目を設定する。
- (5) グローバルに活躍する発想を持つ人材を育成するため、海外研修に関する科目を設定する。

3. アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

健康スポーツ学科では健康づくりに貢献できる人材を育成するために以下のようなことを入学者の条件として求めます。

- (1) 身体活動やスポーツを通じた健康づくりを世の中に広めていく意欲をもっている。
- (2) 人に対する関心を持ちコミュニケーション能力をそなえている。
- (3) 全てのライフステージや生活状況にある人々に対する関心や理解をもっている。
- (4) 健康スポーツ学を学ぶための十分な基礎的学力を有する。

◆健康スポーツ学科のカリキュラム◆

健康スポーツ学科 教育課程表 (2017年度以降入学生用)

ライフデザイン学部規程 別表第3

		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	
	哲学・思想(2)	哲学(2) ジェンダー論(2)	井上円了と東洋大学A(2) 世代論(2)	井上円了と東洋大学B(2) 生命と倫理(2)	人間と宗教(2) 人権と生活(2)	
	学問の基礎	美術一般(2) 社会学(2) 生活と栄養(2) 文学(2) 経済学(2) 統計学(2)	音楽一般(2) 家族の社会学(2) 生活と家族(2) 文章読解(2) 法学(2) 身体論(2)	文化人類学(2) 生死の社会学(2) 危機管理と救急法(2) レポート・論文のまとめ方(2) 数学(2) 口頭表現法(2)	文化論(2) 心理学(2) 物理(2) プレゼンテーション技法(2)	
国際人の形成(8)	外国語(8)	英語コミュニケーションⅠA(1) 英語コミュニケーションⅠB(1) 基礎英語演習Ⅰ(1) 基礎英語演習Ⅱ(1)	英語コミュニケーションⅠA(1) 英語コミュニケーションⅠB(1) 応用英語演習Ⅰ(1) 応用英語演習Ⅱ(1)			
		選択	グローバルコミュニケーションⅠ(1) English e-Learning Ⅰ(1) フランス語Ⅰ(1) ドイツ語Ⅰ(1)	グローバルコミュニケーションⅡ(1) English e-Learning Ⅱ(1) フランス語Ⅱ(1) ドイツ語Ⅱ(1)	Practical English Ⅰ(1) 中国語Ⅰ(1) 韓国語Ⅰ(1)	Practical English Ⅱ(1) 中国語Ⅱ(1) 韓国語Ⅱ(1)
			【外国人留学生入試入学者用】※【日本語6単位】を必修とする。 日本語Ⅰ(1) 日本事情Ⅰ(2)	日本語Ⅱ(1) 日本事情Ⅱ(2)		
			選択	グローバリゼーションと文化A(2) グローバリゼーションと文化D(2) 国際キャリア概論(2) 海外研修Ⅰ(2) 短期海外研修Ⅰ(1) 短期海外実習Ⅰ(1)	グローバリゼーションと文化B(2) グローバリゼーションと文化E(2) 留学のすすめ(2) 海外研修Ⅱ(2) 短期海外研修Ⅱ(1) 短期海外実習Ⅱ(1)	グローバリゼーションと文化C(2) 海外実習Ⅰ(2) 短期海外研修Ⅲ(1) 短期海外実習Ⅲ(1)
	キャリア・市民形成(2)	日本国憲法(2) 地域研究法(2) 社会人基礎力入門講義(2) 公務員論(2) 障害学概論(2)	基礎会計学(2) 学校と地域(学校安全を含む)(2) キャリアデベロップメント論(2) 社会貢献活動入門(2) 障害学と生活のデザイン(2)	経営学(2) 生活と環境(2) 企業家論(2) テクニカルライティング(2) インターンシップ入門(2)	生活と住居(2) 企業のしくみ(2) アカデミックライティング(2)	
		スポーツ健康と(2)	選択必修(2) スポーツ健康科学実技ⅠA(1) スポーツ健康科学実技ⅢA(1)	スポーツ健康科学実技ⅠB(1) スポーツ健康科学実技ⅢB(1)	スポーツ健康科学実技ⅡA(1)	スポーツ健康科学実技ⅡB(1)
	選択		スポーツ健康科学講義A(2)	スポーツ健康科学講義B(2)		
	総合・学際	全学総合ⅠA(2) 総合Ⅰ(2) 総合ⅣA(2)	全学総合ⅠB(2) 総合Ⅱ(2) 総合ⅣB(2)	全学総合ⅡA(2) 総合Ⅲ(2)	全学総合ⅡB(2)	
		留学支援科目	英語特別教育科目 English for Academic Purposes A Listening/Speaking(2) Pre-Study Abroad College Study Skills(1) Pre-Study Abroad Academic Essay Writing(1)	英語特別教育科目 English for Academic Purposes B Reading/Writing(2) Pre-Study Abroad Basic Academic Writing(1) Business English Communication(2)		
			日本語科目 (協定校並びにISEP加盟大学等からの留学生に対する日本語・日本文化科目)			

		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	
学 部 通 用 科 目 (4)	必修科目(4)	ライフデザイン学Ⅰ(2)	ライフデザイン学Ⅱ(2)			
	選択科目A			障害学専門演習(2)		
	選択科目B	他学科・専攻開放科目から選択				
	必修科目 (32)	健康スポーツ学基礎演習Ⅰ(2)	健康スポーツ学基礎演習Ⅱ(2)	健康スポーツ学演習ⅠA(2) 健康スポーツ学演習ⅠB(2)	健康スポーツ学演習ⅡA(2) 健康スポーツ学演習ⅡB(2)	
		健康科学概論(2) 生涯スポーツ論(2) 解剖学(2) 生理学(2) 公衆衛生学(2) エアロピクス基礎実習(1) 情報リテラシーⅠ(2) 情報リテラシーⅡ(2)	レクリエーション実習(1) 運動生理学(2) 健康栄養論(2)			
	選択必修 科目A(2)		バイオメカニクス実習(1) 解剖学実習(1) 生理・生化学実習(1) 運動生理学実習(1) 公衆衛生学実習(1) フィールドワーク実習(1)			
	選択必修 科目B(1)	フィットネス実習(1) レクリエーションスポーツ実習(1)	ウインタースポーツ実習(1) アダプテッドスポーツ実習(1)	アウトドアスポーツ実習(1) エスニックスポーツ実習(1)		
	学 科 専 門 科 目 (7)	ヘルス プロモ ーション	ヘルスプロモーション論(2) 生活習慣と健康(2)	健康心理学(2) 健康社会学(2) 地域スポーツクラブ論(2)	健康文化論(2) 健康政策と行政(2) 小児保健(含学校保健)(2)	健康教育学(2) スポーツ政策論(2)
		スポーツ サイエンス	スポーツ社会学(2) 生化学(2)	スポーツ心理学(2) スポーツ生理学(2) バイオメカニクス(2)	スポーツ人類学(2) 機能解剖学(2) 運動処方(含運動負荷試験)(2)	スポーツ情報分析論(2)
		グロー バル スポ ーツ	国際健康スポーツ交流A(2) 国際健康スポーツ交流B(2) 国際文化事情A(2) 国際文化事情B(2)	スポーツ文化論(2) スポーツ経済論(2) スポーツとコミュニケーション(2)	スポーツ史(2) スポーツビジネス論(2)	身体文化論(2) スポーツメディア論(2)
		ユニ バー サル スポ ーツ	レクリエーション論(2) 発育・発達・加齢論(2)	老年学(2) 障がい者論(2) 子ども学(2)	高齢者健康スポーツ論(2) 障がい者健康スポーツ論(2) 子ども健康スポーツ論(2)	高齢者健康スポーツ指導法(1) 障がい者健康スポーツ指導法(1) 子ども健康スポーツ指導法(1)
		アス リ ー ト サ ポ ー ト	運動学(運動方法学を含む)(2)	アスレティックトレーニング論(2) コーチング概論(2) スポーツ医学(2)	トレーニング基礎実習(1) トレーニングプログラミング論(2) 運動傷害と予防(2)	スポーツトレーニング指導法(2) スポーツと栄養(2) スポーツ応急処置演習(2)
			医学一般(2) 健康スポーツボランティア活動A(2) 日本文化と武道(2)	人体組織学(2) 健康スポーツボランティア活動B(2)	免疫と薬理(2) トレーニング概論(2)	外国語文献講読(2) エアロピクス実習(1)
				運動疫学(2) エアロピクス指導法(1) 健康スポーツインターンシップA(2)	測定評価(2) アクアピクス指導法(1) 健康スポーツインターンシップB(2)	リハビリテーション論(2) スポーツマネジメント(2)
			労働衛生Ⅰ(2) 労働安全衛生法Ⅰ(2) 労働基準法(2)	労働衛生Ⅱ(2) 労働安全衛生法Ⅱ(2)		
				卒業論文(4) 健康産業施設等現場実習(1)		
専 門 科 目 (8)	教 職 科 目	養護概説(2) 看護学Ⅰ(2)	看護学Ⅱ(2) 看護学Ⅲ(2) スポーツ実習・指導法(水泳)(1) スポーツ実習・指導法(ダンス)(1) スポーツ実習・指導法(柔道)(1) スポーツ実習・指導法(剣道)(1) スポーツ実習・指導法(サッカー)(1) スポーツ実習・指導法(バレーボール)(1) スポーツ実習・指導法(バスケットボール)(1) スポーツ実習・指導法(テニス)(1) スポーツ実習・指導法(パドミントン)(1)	看護学実習(2) スポーツ実習・指導法(陸上)(1) スポーツ実習・指導法(器械運動)(1)		

ライフデザイン学部 基盤教育科目

区分	必修/選択	科目ナンバリング	科目名	単位数	配当学年	備考	
基盤教育科目	哲学・思想	選択	PHT101	哲学	2	1~4	
		選択	PHT102	井上円了と東洋大学A	2	1~4	
		選択	PHT103	井上円了と東洋大学B	2	1~4	
		選択	PHT104	人間と宗教	2	1~4	
		選択	PHT105	生命と倫理	2	1~4	
		選択	PHT106	ジェンダー論	2	1~4	
		選択	PHT107	世代論	2	1~4	
		選択	PHT108	人権と生活	2	1~4	
	学問の基礎	選択	FAS101	美術一般	2	1~4	
		選択	FAS102	音楽一般	2	1~4	
		選択	FAS103	生活と栄養	2	1~4	
		選択	FAS104	生死の社会学	2	1~4	
		選択	FAS105	物理	2	1~4	
		選択	FAS106	数学	2	1~4	
		選択	FAS107	危機管理と救急法	2	1~4	
		選択	FAS108	文学	2	1~4	
		選択	FAS109	文章読解	2	1~4	
		選択	FAS110	口頭表現法	2	1~4	
		選択	FAS111	レポート・論文のまとめ方	2	1~4	
		選択	FAS112	プレゼンテーション技法	2	1~4	
		選択	FAS113	文化論	2	1~4	
		選択	FAS114	文化人類学	2	1~4	
国際人の形成	英語必修	必修	ENG101	基礎英語演習 I	1	1	
		必修	ENG102	基礎英語演習 II	1	1	
		必修	ENG103	英語コミュニケーション I A	1	1	
		必修	ENG104	英語コミュニケーション I B	1	1	
		必修	ENG201	応用英語演習 I	1	2	
	選択科目	必修	ENG202	応用英語演習 II	1	2	
		必修	ENG203	英語コミュニケーション II A	1	2	
		必修	ENG204	英語コミュニケーション II B	1	2	
		選択	ENG105	グローバルコミュニケーション I	1	1~4	
		選択	ENG106	グローバルコミュニケーション II	1	1~4	
外国語	選択	ENG107	Practical English I	1	1~4		
	選択	ENG108	Practical English II	1	1~4		
	選択	ENG109	English e-Learning I	1	1~4		
	選択	ENG110	English e-Learning II	1	1~4		
	選択	GER101	ドイツ語 I	1	1~4		
	選択	GER102	ドイツ語 II	1	1~4		
	選択	FRA101	フランス語 I	1	1~4		

区分	必修／選択	科目ナンバリング	科目名	単位数	配当学年	備考		
基礎教育科目	外国語	選択科目	選択	FRA102	フランス語Ⅱ	1	1～4	
		選択	CHI101	中国語Ⅰ	1	1～4		
		選択	CHI102	中国語Ⅱ	1	1～4		
		選択	KOR101	韓国語Ⅰ	1	1～4		
		選択	KOR102	韓国語Ⅱ	1	1～4		
	日本語	必修	JPN101	日本語Ⅰ	1	1～4	外国人留学生用	
		必修	JPN102	日本語Ⅱ	1	1～4	外国人留学生用	
		必修	JPN103	日本事情Ⅰ	2	1～4	外国人留学生用	
		必修	JPN104	日本事情Ⅱ	2	1～4	外国人留学生用	
	国際人の形成	選択科目	選択	IHR101	グローバルゼーションと文化A	2	1～4	
		選択	IHR102	グローバルゼーションと文化B	2	1～4		
		選択	IHR103	グローバルゼーションと文化C	2	1～4		
		選択	IHR104	グローバルゼーションと文化D	2	1～4		
		選択	IHR105	グローバルゼーションと文化E	2	1～4		
		選択	IHR106	国際キャリア概論	2	1～4		
		選択	IHR107	留学のすすめ	2	1～4		
		選択	IHR108	海外研修Ⅰ	2	1～4		
		選択	IHR109	海外研修Ⅱ	2	1～4		
		選択	IHR110	海外実習Ⅰ	2	1～4		
		選択	IHR111	海外実習Ⅱ	2	1～4		
		選択	IHR112	短期海外研修Ⅰ	1	1～4		
		選択	IHR113	短期海外研修Ⅱ	1	1～4		
		選択	IHR114	短期海外研修Ⅲ	1	1～4		
		選択	IHR115	短期海外研修Ⅳ	1	1～4		
		選択	IHR116	短期海外実習Ⅰ	1	1～4		
		選択	IHR117	短期海外実習Ⅱ	1	1～4		
		選択	IHR118	短期海外実習Ⅲ	1	1～4		
		選択	IHR119	短期海外実習Ⅳ	1	1～4		
	キャリア・市民形成	選択	ECD101	生活と環境	2	1～4		
		選択	ECD102	日本国憲法	2	1～4		
		選択	ECD103	経営学	2	1～4		
		選択	ECD104	基礎会計学	2	1～4		
		選択	ECD105	学校と地域（学校安全を含む）	2	1～4		
選択		ECD106	生活と住居	2	1～4			
選択		ECD107	地域研究法	2	1～4			
選択		ECD108	社会人基礎力入門講義	2	1～4			
選択		ECD109	企業家論	2	1～4			
選択		ECD110	公務員論	2	1～4			
選択		ECD111	キャリアデベロップメント論	2	1～4			
選択		ECD112	企業のしくみ	2	1～4			
選択		ECD113	社会貢献活動入門	2	1～4			
選択		ECD114	テクニカルライティング	2	1～4			
選択		ECD115	アカデミックライティング	2	1～4			
選択		ECD116	障害学概論	2	1～4			
選択		ECD117	障害学と生活のデザイン	2	1～4			
選択		ECD118	インターンシップ入門	2	1～4			

区分		必修／選択	科目ナンバリング	科目名	単位数	配当学年	備考
健康とスポーツ	キャリア・市民形成	選択・選択必修	DMB101	スポーツ健康科学実技ⅠA	1	1～4	健康スポーツ学科の学生のみ2単位選択必修
		選択・選択必修	DMB102	スポーツ健康科学実技ⅠB	1	1～4	
		選択・選択必修	DMB103	スポーツ健康科学実技ⅡA	1	1～4	
		選択・選択必修	DMB104	スポーツ健康科学実技ⅡB	1	1～4	
		選択・選択必修	DMB105	スポーツ健康科学実技ⅢA	1	1～4	
		選択・選択必修	DMB106	スポーツ健康科学実技ⅢB	1	1～4	
		選択	DMB107	スポーツ健康科学講義A	2	1～4	
		選択	DMB108	スポーツ健康科学講義B	2	1～4	
	総合・学際	選択	ITS101	総合Ⅰ	2	1～4	
		選択	ITS102	総合Ⅱ	2	1～4	
		選択	ITS103	総合Ⅲ	2	1～4	
		選択	ITS104	総合ⅣA	2	1～4	
		選択	ITS105	総合ⅣB	2	1～4	
		選択	ITS106	全学総合ⅠA	2	1～4	
		選択	ITS107	全学総合ⅠB	2	1～4	
		選択	ITS108	全学総合ⅡA	2	1～4	
		選択	ITS109	全学総合ⅡB	2	1～4	
	英語特別教育科目	選択	SUS101	English for Academic Purposes A Listening/Speaking	2	1～4	
選択		SUS102	English for Academic Purposes B Reading/Writing	2	1～4		
選択		SUS103	Pre-Study Abroad College Study Skills	1	1～4		
選択		SUS104	Pre-Study Abroad Basic Academic Writing	1	1～4		
選択		SUS105	Pre-Study Abroad Academic Essay Writing	1	1～4		
選択		SUS106	Business English Communication	2	1～4		
日本語科目		選択	SUS107	Integrated Japanese I	4	1～4	
		選択	SUS108	Integrated Japanese II	4	1～4	
		選択	SUS109	Integrated Japanese III	4	1～4	
		選択	SUS110	Integrated Japanese IV	4	1～4	
		選択	SUS111	Japanese Reading and Composition I	1	1～4	
		選択	SUS112	Japanese Reading and Composition II	1	1～4	
		選択	SUS113	Japanese Reading and Composition III	1	1～4	
		選択	SUS114	Japanese Reading and Composition IV	1	1～4	
		選択	SUS115	Japanese Listening Comprehension I	1	1～4	
		選択	SUS116	Japanese Listening Comprehension II	1	1～4	
		選択	SUS117	Japanese Listening Comprehension III	1	1～4	
		選択	SUS118	Japanese Listening Comprehension IV	1	1～4	
		選択	SUS119	Kanji Literacy I	1	1～4	
		選択	SUS120	Kanji Literacy II	1	1～4	
		選択	SUS121	Kanji Literacy III	1	1～4	
		選択	SUS122	Kanji Literacy IV	1	1～4	
		選択	SUS123	Project Work I	1	1～4	
		選択	SUS124	Project Work II	1	1～4	
		選択	SUS125	Project Work III	1	1～4	
		選択	SUS126	Project Work IV	1	1～4	
		選択	SUS127	Japanese Culture and Society A	2	1～4	
		選択	SUS128	Japanese Culture and Society B	2	1～4	
		選択	SUS129	Introduction to Japanology A	2	1～4	
		選択	SUS130	Introduction to Japanology B	2	1～4	

基礎教育科目

留学支援科目

健康スポーツ学科 専門科目

区分		必修/選択	科目ナンバリング	科目名	単位数	配当学年	備考
学部共通 科目	科目 必修	必修	TYS101	ライフデザイン学Ⅰ	2	1	
	科目 必修	必修	TYS201	ライフデザイン学Ⅱ	2	2	
	科目 選択	選択	SWS301	障害学専門演習	2	3	
専門科目 学科専門科目	必修科目	必修	AHS101	エアロビクス基礎実習	1	1	
		必修	AHS102	生涯スポーツ論	2	1	
		必修	AHS201	健康栄養論	2	2	
		必修	AHS202	レクリエーション実習	1	2	
		必修	DMB101	健康科学概論	2	1	
		必修	GEA101	解剖学	2	1	
		必修	GPH101	生理学	2	1	
		必修	GPH201	運動生理学	2	2	
		必修	HPH101	公衆衛生学	2	1	
		必修	ISE101	情報リテラシーⅠ	2	1	
		必修	ISE102	情報リテラシーⅡ	2	1	
		必修	SEM101	健康スポーツ学基礎演習Ⅰ	2	1	
		必修	SEM201	健康スポーツ学基礎演習Ⅱ	2	2	
		必修	SEM301	健康スポーツ学演習ⅠA	2	3	
		必修	SEM302	健康スポーツ学演習ⅠB	2	3	
		必修	SEM401	健康スポーツ学演習ⅡA	2	4	
	必修	SEM402	健康スポーツ学演習ⅡB	2	4		
	選択必修科目A	選択必修	DMB204	フィールドワーク実習	1	2	
		選択必修	GEA201	解剖学実習	1	2	
		選択必修	GPH203	生理・生化学実習	1	2	
		選択必修	GPH204	運動生理学実習	1	2	
		選択必修	HPH201	公衆衛生学実習	1	2	
		選択必修	SPS202	バイオメカニクス実習	1	2	
	選択必修科目B	選択必修	AHS103	レクリエーションナルスポーツ実習	1	1~4	
		選択必修	AHS104	エスニックススポーツ実習	1	1~4	
		選択必修	AHS105	ウインタースポーツ実習	1	1~4	
		選択必修	AHS106	アダプテッドスポーツ実習	1	1~4	
		選択必修	DMB102	フィットネス実習	1	1~4	
	選択科目	選択	AHS107	レクリエーション論	2	1	
		選択	AHS108	国際健康スポーツ交流A	2	1	
		選択	AHS109	国際健康スポーツ交流B	2	1	
		選択	AHS110	エアロビクス実習	1	1~4	
		選択	AHS111	ヘルスプロモーション論	2	1	
選択		AHS112	生活習慣と健康	2	1		
選択		AHS203	スポーツ医学	2	2~4		
選択		AHS204	運動処方(含運動負荷試験)	2	2~4		
選択		AHS205	健康政策と行政	2	2~4		
選択		AHS206	小児保健(含学校保健)	2	2~4		
選択		AHS207	障がい者論	2	2~4		
選択		AHS208	スポーツ応急処置演習	2	2~4		
選択	AHS209	測定評価	2	2~4			
選択	AHS210	エアロビクス指導法	1	2~4			

区分	必修/選択	科目ナンバ リング	科目名	単位数	配当 学年	備考		
専門科目	学科専門科目	選択科目	選択	AHS211	アクアピクス指導法	1	2~4	
			選択	AHS212	運動傷害と予防	2	2~4	
			選択	CHS201	子ども健康スポーツ指導法	1	2~4	
			選択	CHS202	子ども学	2	2~4	
			選択	CIV201	健康スポーツインターンシップA	2	2~4	
			選択	CIV202	健康スポーツインターンシップB	2	2~4	
			選択	DMB104	発育・発達・加齢論	2	1	
			選択	DMB105	トレーニング概論	2	1~4	
			選択	DMB106	日本文化と武道	2	1~4	
			選択	DMB107	運動学(運動方法学を含む)	2	1	
			選択	DMB201	健康心理学	2	2~4	
			選択	DMB202	健康教育学	2	2~4	
			選択	DMB203	健康社会学	2	2~4	
			選択	DMB205	身体文化論	2	2~4	
			選択	DMB206	スポーツ情報分析論	2	2~4	
			選択	DMB207	老年学	2	2~4	
			選択	EPM101	免疫と薬理	2	1~4	
			選択	FLE101	国際文化事情A	2	1	
			選択	FLE102	国際文化事情B	2	1	
			選択	FLE103	外国語文献講読	2	1~4	
			選択	FLE201	スポーツとコミュニケーション	2	2~4	
			選択	GEA102	人体組織学	2	1~4	
			選択	GEA202	機能解剖学	2	2~4	
			選択	GIM101	医学一般	2	1~4	
			選択	GPH102	生化学	2	1	
			選択	GPH202	スポーツ生理学	2	2~4	
			選択	HPH202	運動疫学	2	2~4	
			選択	HPH301	労働衛生Ⅰ	2	3~4	
			選択	HPH302	労働衛生Ⅱ	2	3~4	
			選択	RSW201	リハビリテーション論	2	2~4	
			選択	SOL301	労働基準法	2	3~4	
			選択	SOL302	労働安全衛生法Ⅰ	2	3~4	
			選択	SOL303	労働安全衛生法Ⅱ	2	3~4	
			選択	SPS101	スポーツ社会学	2	1	
			選択	SPS201	コーチング概論	2	2~4	
			選択	SPS203	トレーニング基礎実習	1	2~4	
			選択	SPS204	スポーツと栄養	2	2~4	
			選択	SPS205	スポーツ心理学	2	2~4	
			選択	SPS206	スポーツトレーニング指導法	2	2~4	
			選択	SPS207	スポーツ人類学	2	2~4	
			選択	SPS208	スポーツ史	2	2~4	
			選択	SPS209	健康文化論	2	2~4	
選択	SPS210	地域スポーツクラブ論	2	2~4				
選択	SPS211	スポーツ政策論	2	2~4				
選択	SPS212	スポーツ文化論	2	2~4				
選択	SPS213	子ども健康スポーツ論	2	2~4				
選択	SPS214	高齢者健康スポーツ論	2	2~4				

区分		必修／選択	科目ナンバリング	科目名	単位数	配当学年	備考	
専門科目	学科専門科目	選択科目	選択	SPS215	障がい者健康スポーツ論	2	2～4	
			選択	SPS216	高齢者健康スポーツ指導法	1	2～4	
			選択	SPS217	障がい者健康スポーツ指導法	1	2～4	
			選択	SPS218	スポーツビジネス論	2	2～4	
			選択	SPS219	トレーニングプログラミング論	2	2～4	
			選択	SPS220	スポーツマネジメント	2	2～4	
			選択	SPS221	アスレティックトレーニング論	2	2～4	
			選択	SPS222	バイオメカニクス	2	2～4	
			選択	SPS223	スポーツ経済論	2	2～4	
			選択	SPS224	スポーツメディア論	2	2～4	
			選択	SPS401	健康産業施設等現場実習	1	4	
			選択	SWS101	健康スポーツボランティア活動A	2	1～4	
			選択	SWS102	健康スポーツボランティア活動B	2	1～4	
			選択	THE401	卒業論文	4	4	
教職科目			選択	EDU101	養護概説	2	1	卒業要件外
			選択	ESS201	スポーツ実習・指導法（水泳）	1	2	
			選択	ESS202	スポーツ実習・指導法（ダンス）	1	2	
			選択	ESS203	スポーツ実習・指導法（柔道）	1	2	
			選択	ESS204	スポーツ実習・指導法（剣道）	1	2	
			選択	ESS205	スポーツ実習・指導法（サッカー）	1	2	
			選択	ESS206	スポーツ実習・指導法（バレーボール）	1	2	
			選択	ESS207	スポーツ実習・指導法（バスケットボール）	1	2	
			選択	ESS208	スポーツ実習・指導法（テニス）	1	2	
			選択	ESS209	スポーツ実習・指導法（バドミントン）	1	2	
			選択	ESS301	スポーツ実習・指導法（陸上）	1	3	
			選択	ESS302	スポーツ実習・指導法（器械運動）	1	3	
			選択	FUN101	看護学Ⅰ	2	1	
			選択	FUN201	看護学Ⅱ	2	2	
			選択	FUN202	看護学Ⅲ	2	2	
			選択	FUN301	看護学実習	2	3	

〈他学科・専攻開放科目〉

学科・専攻	科目ナンバリング	科目名	単位数	配当学年	備考
生活支援学専攻	PSS201	精神医学Ⅰ	2	2	
生活支援学専攻	PSS202	精神医学Ⅱ	2	2	
生活支援学専攻	PSS301	精神科リハビリテーション学Ⅰ	2	3	
生活支援学専攻	PSS302	精神科リハビリテーション学Ⅱ	2	3	
生活支援学専攻	SOC201	社会調査の基礎	2	2	
生活支援学専攻	SWS101	社会福祉の基礎	2	1	
生活支援学専攻	SWS102	専門職論	2	1	
生活支援学専攻	SWS104	社会福祉学原論Ⅰ	2	1	
生活支援学専攻	SWS105	社会福祉学原論Ⅱ	2	1	
生活支援学専攻	SWS106	社会福祉援助技術論Ⅰ	2	1	
生活支援学専攻	SWS107	児童福祉論	2	1	
生活支援学専攻	SWS109	精神保健Ⅰ	2	1	
生活支援学専攻	SWS110	精神保健Ⅱ	2	1	
生活支援学専攻	SWS111	精神保健福祉援助技術総論	2	1	
生活支援学専攻	SWS201	社会福祉援助技術論Ⅱ	2	2	
生活支援学専攻	SWS202	社会福祉援助技術演習Ⅰ	2	2	
生活支援学専攻	SWS203	社会福祉援助技術演習Ⅱ	2	2	
生活支援学専攻	SWS204	社会福祉援助技術論Ⅲ	2	2	
生活支援学専攻	SWS205	高齢者福祉論Ⅱ	2	2~3	
生活支援学専攻	SWS207	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ	1	2	
生活支援学専攻	SWS208	精神保健福祉論Ⅰ	2	2	
生活支援学専攻	SWS209	精神保健福祉論Ⅱ	2	2	
生活支援学専攻	SWS210	精神保健福祉援助技術各論Ⅰ	2	2	
生活支援学専攻	SWS211	精神保健福祉援助技術各論Ⅱ	2	2	
生活支援学専攻	SWS212	精神保健福祉援助技術演習Ⅰ	2	2	
生活支援学専攻	SWS213	精神保健福祉援助技術演習Ⅱ	2	2	
生活支援学専攻	SWS214	精神保健福祉援助技術実習指導Ⅰ	1	2	
生活支援学専攻	SWS215	医療福祉総論	2	2	
生活支援学専攻	SWS216	高齢者福祉論Ⅰ	2	2~3	
生活支援学専攻	SWS217	障害者福祉論	2	2~3	
生活支援学専攻	SWS218	社会福祉運営論	2	2~3	
生活支援学専攻	SWS219	権利擁護論	2	2~3	
生活支援学専攻	SWS220	低所得者福祉論	2	2~3	
生活支援学専攻	SWS221	更生保護論	2	2~3	
生活支援学専攻	SWS222	地域福祉論Ⅰ	2	2~3	
生活支援学専攻	SWS223	地域福祉論Ⅱ	2	2~3	
生活支援学専攻	SWS224	福祉サービス運営論	2	2~3	
生活支援学専攻	SWS225	就労支援論	2	2~3	
生活支援学専攻	SWS226	社会保障論Ⅰ	2	2~3	
生活支援学専攻	SWS227	社会保障論Ⅱ	2	2~3	
生活支援学専攻	SWS302	Introduction to Social Work	2	3~4	
生活支援学専攻	SWS303	社会福祉援助技術論Ⅳ	2	3	
生活支援学専攻	SWS304	社会福祉援助技術演習Ⅲ	2	3	
生活支援学専攻	SWS305	社会福祉援助技術演習Ⅳ	2	3	
生活支援学専攻	SWS306	社会福祉援助技術現場実習	4	3	
生活支援学専攻	SWS307	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ	1	3	
生活支援学専攻	SWS308	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅲ	1	3	
生活支援学専攻	SWS309	精神保健福祉論Ⅲ	2	3	

学科・専攻	科目ナンバリング	科目名	単位数	配当学年	備考
生活支援学専攻	SWS310	精神保健福祉援助技術実習	4	3	
生活支援学専攻	SWS311	精神保健福祉援助技術実習指導Ⅱ	1	3	
生活支援学専攻	SWS312	精神保健福祉援助技術実習指導Ⅲ	1	3	
生活支援学専攻	SWS313	医療ソーシャルワーク論	2	3	
生活支援学専攻	SWS403	社会福祉援助技術演習V	2	4	
子ども支援学専攻	SWS109	国際児童福祉	2	1～4	
人間環境デザイン学科	AHD101	建築歴史意匠A	2	1	
人間環境デザイン学科	AHD201	建築歴史意匠B	2	2	
人間環境デザイン学科	CLD202	道具の歴史	2	2	
人間環境デザイン学科	CLD204	こども環境論	2	2	
人間環境デザイン学科	CLD301	福祉住環境コーディネート論	2	3～4	
人間環境デザイン学科	CME201	マーケティング	2	2	
人間環境デザイン学科	DES103	プロダクトデザイン基礎	2	1	
人間環境デザイン学科	DES104	International Design Practices	2	1～4	
人間環境デザイン学科	DES201	産業とプロダクトデザイン	2	2	
人間環境デザイン学科	DES306	情報メディアデザイン	2	3～4	
人間環境デザイン学科	HII201	ヒューマンインターフェース	2	2	
人間環境デザイン学科	RSW101	人間工学	2	1	
人間環境デザイン学科	RSW304	リハビリテーション工学	2	3～4	
人間環境デザイン学科	RSW305	支援技術とデザイン	2	3～4	
人間環境デザイン学科	TPA301	安全工学	2	3～4	
人間環境デザイン学科	TPA309	医療福祉建築計画	2	3～4	

2. 卒業要件

ライフデザイン学部規程 別表第4

4年以上（8セメスタ以上）在学し、下記の条件を満たした学生のみ卒業することができます。
下記の条件をすべて満たさないと、卒業することができません。

授業科目区分		卒業必要単位数	
基盤教育	哲学・思想	2単位以上	
	学問の基礎		
	国際人の形成	8単位	
	キャリア・市民形成	2単位以上	
	総合・学際		
	計	22単位以上	
専門科目	学部共通科目	4単位	
	学科専門科目	必修科目	32単位
		選択科目	2単位
		選択必修科目A	2単位
		選択必修科目B	1単位
		選択科目	30単位以上
	小計	77単位以上	
計	81単位以上		
合計	124単位以上		

単位数

- 卒業要件となる科目で124単位以上を修得すること。
- 基盤教育で、哲学・思想で必修2単位以上、国際人の形成の外国語の英語必修8単位、キャリア・市民形成の健康とスポーツで必修2単位以上を含み、22単位以上を修得すること。
- 専門科目で、学部共通科目で必修科目4単位、学科専門科目で77単位以上（うち必修科目32単位、選択必修科目Aのうちから2単位、選択必修科目Bのうちから1単位、選択科目30単位以上）を含み、81単位以上を修得すること。

3. 基盤教育

(1) 哲学・思想

2単位以上を修得しなければなりません。

(2) 国際人の形成

1年次に「英語コミュニケーションⅠA」「英語コミュニケーションⅠB」「基礎英語演習Ⅰ」「基礎英語演習Ⅱ」を、2年次に「英語コミュニケーションⅡA」「英語コミュニケーションⅡB」「応用英語演習Ⅰ」「応用英語演習Ⅱ」を修得しなければなりません。あらかじめクラス分けがされていますので、指定されたクラスの授業を履修してください。

(3) 健康とスポーツ

①「スポーツ健康科学実技Ⅰ～Ⅲ」の中から、2単位以上を修得しなければなりません。

②授業の適切な運営のため、履修登録の際に、人数調整をする場合があります。

またスポーツ健康科学実技は、できる限り、A・B各1単位以上を履修してください。

科目の後ろに記載されているⅠ・Ⅱ・Ⅲ及びA・Bの順を追って履修する必要はありません。

4. 学部共通科目

(1) 必修科目

4単位すべてを修得しなければなりません。

(2) 選択科目

単位数の指定はありません。他学科・専攻開講科目で履修できるのは、「他学科・専攻開放科目」のみです。各自の履修計画や興味に沿って履修してください。

ただし「社会福祉援助技術演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ」「社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「社会福祉援助技術現場実習」及び「精神保健福祉援助技術演習Ⅰ・Ⅱ」「精神保健福祉援助技術実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「精神保健福祉援助技術実習」については、社会福祉士及び精神保健福祉士の受験資格を得るためのガイダンスにすべて出席し、その後の登録・手続等をすべて不備なく行っていることが条件になります。

5. 学科専門科目

(1) 必修科目

①32単位すべてを修得しなければなりません。

②クラス分けのうえ事前登録される科目があります。履修登録確認表で指定されたクラスを確認してください。

③「エアロビクス基礎実習」「レクリエーション実習」「健康スポーツ学演習」のクラス分けについては、別途ガイダンスにて周知します。

(2) 選択必修科目

①選択必修科目A

2年次に「バイオメカニクス実習」「解剖学実習」「生理・生化学実習」「運動生理学実習」「公衆衛生学実習」「フィールドワーク実習」の6科目のうち、1科目を選択し、履修・修得しなければなりません。科目の選択方法は、別途ガイダンスにて周知します。

②選択必修科目B

1～3年次に「フィットネス実習」「ウインタースポーツ実習」「アウトドアスポーツ実習」「レクリエーションスポーツ実習」「アダプテッドスポーツ実習」「エスニックスポーツ実習」の6科目のうち、1科目を選択し、履修・修得しなければなりません。なお履修科目により、別途費用が発生します。

(3) 選択科目

①30単位以上を修得しなければなりません。

- ②「健康産業施設等現場実習」については、健康運動指導士の資格の取得を希望する学生を対象としていますので、それ以外の学生は履修を制限する場合があります。
- ③「卒業論文」は8セメスタ以降に履修できます。提出時期・方法については別途掲示します。

※演習・実習科目については、授業の適切な運営のため、履修登録の際に、人数調整をする場合があります。詳細は「履修登録のしおり」を確認してください。

※科目の後ろにⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳと記載されている科目については、原則としてⅠを修得した後にⅡを、Ⅱを修得した後にⅢを、というように順を追って履修してください。やむを得ず途中からの履修をしなければならない場合には、必ず1回目の授業で担当教員に相談し、授業の履修が可能かどうかを確認してから履修登録してください。なお、科目の後ろにA・Bと記載されている科目についてはこの限りではありません。

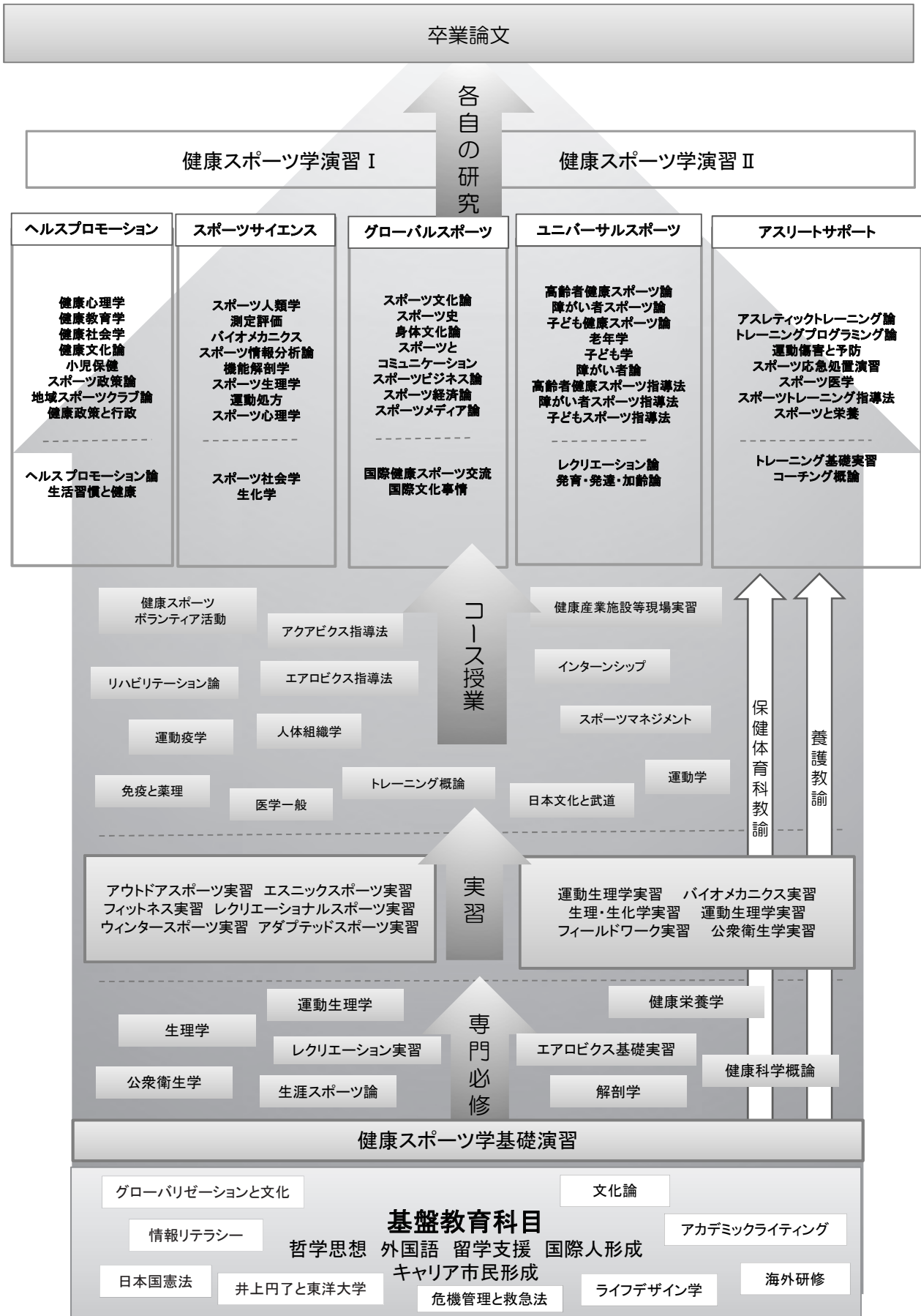
6. その他の科目

教育職員免許状取得のための科目について

以下の科目は、教職の専門科目となります。単位を修得しても卒業要件単位とすることはできませんが、1セメスタの履修登録の上限24単位外の科目として履修登録することができます。

- ①健康スポーツ学科教育課程表の「教職科目」区分にある科目
- ②教育職員免許状取得のための「教職に関する科目」「教科に関する科目」(P.184~193参照)で、健康スポーツ学科の教育課程表にない科目

◆健康スポーツ学科のカリキュラムマップ◆



人間環境デザイン学科



人間環境デザイン学科 学科長の挨拶



人間環境デザイン学科長
水村 容子

2018年の春にライフデザイン学部へ入学された皆さん、そして進級し新たな学年のスタートを切った皆さん、ご入学・進級おめでとうございます。これからの1年間を人間環境デザイン学科において、教員・友人とともに学び・切磋琢磨し、人間としてより一層の成長を遂げられることを期待しています。

The Difference between a successful person and others is not a lack of strength, not a lack of knowledge, but rather a lack of will.

私の好きな言葉に「成功者とそうでない者との違いは、力量や知識の不足ではなく、意思の欠如である」というものがあります。アメリカの著名なフットボールコーチ、ロンバルディの言葉です。この考え方は大学での学びに通じるものがあると私は考えます。大学とは自分自身の意思により選択し決意を持って学ぶ場所です。そのことによって、生涯を通じて皆さんの人生を豊かにする哲学、教養、専門知識を得ることのできる最高の場所です。ようやく大学へ入学した安心感、あるいは平穏な日常生活の中で、そのことを見失ってしまっている方も少なくないと思いますが、今一度、皆さんは意思と決意を持って、この場、人間環境デザイン学科での学びの場にいるということをお出ししてください。

超高齢化、少子化、人口減少や格差化など日本社会をとりまく情勢は日々厳しさを増しています。しかしながら、こうした厳しい情勢のもとで、我々教員が全員で創り上げようとしている、そして皆さんが学んでいる「人間環境デザイン学」には大きな発展性と可能性が広がっています。人を中心に据えて環境・空間・モノをデザインする。高齢者や子ども、障害のある人など特定のニーズがある人の利用を考えたデザインを実践する。そしてその延長線上に、誰もが利用できることを想定したユニバーサルデザインの実現を目指す。正に日本社会の危急の要請に応えうるデザイン教育を実践している学科が、人間環境デザイン学科なのです。

この履修要覧には、皆さんの大学4年間の学びをより一層充実させるための方向性が提示されたり、その実現方法が解説されています。要覧をしっかりと読み込んで、自身の人間性、さらには専門性の構築に生かしていただきたいと思います。

最後にもう1度繰り返します。皆さんは意思と決意を持って、人間環境デザイン学を学ぶことを選び、大学の場にいるのです。そのことをしっかり自覚して大学生活を有意義に過ごしてください。



◆人間環境デザイン学科の教育研究上の目的◆

1. 人材の養成に関する目的

ユニバーサルデザインの考え方を根底にした教育研究を行い、建築、まちづくりからプロダクトデザイン、生活支援機器デザインに至る知識、技術の修得を通じて「幅広い分野の知識を持ったデザイナー」「多様なデザインの企画及び運営に関わる人材」「デザイナーと使用者双方の支援者もしくは理解者」として、次代の社会的役割を担うことの出来る人材を育成する。

2. 学生に修得させるべき能力等の教育目標

講義と演習を通じた教育により、理論を理解した上で実践に反映できる力、さまざまな考え方をつなぐことができるコミュニケーション力を持つこと。

1～2年次では基礎力の養成のため、デザインに関する幅広い知識を修得するとともに、スケッチ・モックアップ・模型・CAD・CG等を通して、デザイン及びそのプレゼンテーション等に関する基本的な技術の修得を行う。

3～4年次はコース別カリキュラムに分かれて、それぞれの分野の専門知識・技術を修得する。

3. その他の教育研究上の目的

人間環境デザインに関わるあらゆる可能性の検討。

ユニバーサルデザインの考え方を背景として、地域・関連分野の諸施設・他大学等との共同研究を積極的に進めると共に、建築・まちづくり・生活支援機器・住宅改善・プロダクト・インタラクション等に関する教育研究を通しての社会貢献。

インターンシップを活用したより実践的実務的教育の実践。

◆人間環境デザイン学科3つのポリシー◆

私たち人間は、道具をつくり、住まいをつくり、道をつくり、町をつくってきた。私たちの周りには、そのような人間がつくったもので満たされており、それが私たちの暮らしを支えている。人間環境デザイン学科は、そのような、私たちを取り巻く人間自身がつくってきた環境を考え直し、デザインの視点で新たな提案を行うという目標を掲げている。

1. ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

人間環境デザイン学科では、身の回りの製品のデザインから、私たちの暮らしの基盤となるまちづくりまでの幅広い分野を対象に、当学科で得た知識や能力を生かして、私たちを取り巻く環境をより良いものに変えていくという意欲を持った、以下のような能力を備えた学生に対して卒業を認定し、学位を授ける。

- (1) 一人の人から社会全体までの広い視野を持ち、デザインの第一線で活躍できる人材。
- (2) デザインという世界の広がり可能性に対して深い理解と造詣を持ち、デザインと社会とを繋ぐ役割を担う人材。
- (3) 人の暮らしを尊重し、さらに豊かにしていく方策を、本学科で学んだ広い視野で考え、さまざまな領域で活躍できる人材。

2. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

1. 基礎と専門の連携

- (1) 4年間で半分に分け、1～2年はデザインに関する幅広い知識と基本的な技術を学ぶ。その

ために、建築やまちの分野とモノやコトの分野について、広範に学べる授業編成とする。

(2) 3～4年では、学生の希望を尊重しつつ、設定された三つのコースのいずれかに所属して、より専門的な知識と実践的な技術を学ぶ。

(3) 3年生秋から研究室配属を開始し、さらに高度なレベルの学びを深める。

2. 演習と講義の密接な関係

以上の枠組みの上で、

(1) 演習と講義を関連付けて、基礎からより高度な学習内容への円滑な移行を図る。

(2) 1・2年次は基礎を学ぶ。

演習においては「設計・製図」「人体・動作」「平面・立体表現」といった多角的な側面から基礎的な技術を身につけ、講義においては多様な視点からデザインに関する幅広い知識を身につける。

(3) 3・4年次は応用を学ぶ。

空間デザインコース(※1)、生活環境デザインコース(※2)、プロダクトデザインコース(※3)のそれぞれの分野で、より高度なデザイン表現を学ぶと共に、それらの背後にある理念や知識について学ぶ。

(※1) 空間デザインコース：私たちを取り巻く環境を建築やまちという視点で考えるコースである。建築意匠、建築計画、建築構法など建物のデザイン、さらには都市計画、まちづくり、バリアフリーなど、人々を取り巻くすべての生活空間にまで視野を広げて、豊かな暮らしの環境を考えていく。

(※2) 生活環境デザインコース：私たちを取り巻く環境をさまざまな人の暮らしという視点で考えるコースである。住居学、福祉住環境計画、子ども環境、障害のある方のための道具のデザインなど、利用者の参加による使い手の顔が見える人間中心設計や、ユニバーサルデザインによる、生活者の視点に立ったデザインを学ぶ。

(※3) プロダクトデザインコース：私たちを取り巻く環境を製品や情報という視点で考えるコースである。製品のデザイン、情報デザイン、インタラクションデザイン、メカトロニクスなど広い分野にわたって、「モノ」や「コト」のデザインから人々の暮らしを考えていく。

3. アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

人間環境デザイン学科は、人間を取り巻く環境をデザインという視点から考える学科である。

デザインに関わる分野は大変幅広く多様な人材がいろいろな形で参加している世界であり、一定の学力と意志があれば、誰でもデザインの世界の中で活動できる可能性がある。

デザインというものを狭くとらえるのではなく、人の暮らしを取り巻く環境のすべてに影響を及ぼす行為だと柔軟に理解した上で、

(1) 自分の可能性を信じ、探求する意欲を持つ学生、

(2) 自分のデザイン能力を磨こうという意欲のある学生、

(3) 問題を真正面から受け止め、柔軟な解決方法を発想することのできる学生、を受け入れたいと考えている。

人間環境デザイン学科 教育課程表 (2017年度以降入学生用)

		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
	哲学・思想(2)	哲学(2) ジェンダー論(2)	井上円了と東洋大学A(2) 世代論(2)	井上円了と東洋大学B(2) 生命と倫理(2)	人間と宗教(2) 人権と生活(2)
	学問の基礎	美術一般(2) 社会学(2) 生活と栄養(2) 文学(2) 経済学(2) 統計学(2)	音楽一般(2) 家族の社会学(2) 生活と家族(2) 文章読解(2) 法学(2) 身体論(2)	文化人類学(2) 生死の社会学(2) 危機管理と救急法(2) レポート・論文のまとめ方(2) 数学(2) 口頭表現法(2)	文化論(2) 心理学(2) 物理(2) プレゼンテーション技法(2)
国際人の形成(8) 基礎教育科目(18)	外国語(8) 英語必修(8)	英語コミュニケーションⅠA(1)	英語コミュニケーションⅠA(1)		
		英語コミュニケーションⅠB(1)	英語コミュニケーションⅠB(1)		
		基礎英語演習Ⅰ(1)	応用英語演習Ⅰ(1)		
		基礎英語演習Ⅱ(1)	応用英語演習Ⅱ(1)		
	選択	グローバルコミュニケーションⅠ(1)	グローバルコミュニケーションⅡ(1)	Practical English Ⅰ(1)	Practical English Ⅱ(1)
		English e-Learning Ⅰ(1)	English e-Learning Ⅱ(1)		
		フランス語Ⅰ(1)	フランス語Ⅱ(1)	中国語Ⅰ(1)	中国語Ⅱ(1)
		ドイツ語Ⅰ(1)	ドイツ語Ⅱ(1)	韓国語Ⅰ(1)	韓国語Ⅱ(1)
	【外国学生】日本語(6)	【外国人留学生入試入学者用】※【日本語6単位】を必修とする。			
		日本語Ⅰ(1) 日本事情Ⅰ(2)	日本語Ⅱ(1) 日本事情Ⅱ(2)		
選択	グローバル化と文化A(2)	グローバル化と文化B(2)	グローバル化と文化C(2)		
	グローバル化と文化D(2)	グローバル化と文化E(2)			
	国際キャリア概論(2)	留学のすすめ(2)			
	海外研修Ⅰ(2)	海外研修Ⅱ(2)	海外実習Ⅰ(2)	海外実習Ⅱ(2)	
	短期海外研修Ⅰ(1)	短期海外研修Ⅱ(1)	短期海外研修Ⅲ(1)	短期海外研修Ⅳ(1)	
	短期海外実習Ⅰ(1)	短期海外実習Ⅱ(1)	短期海外実習Ⅲ(1)	短期海外実習Ⅳ(1)	
キャリア・市民形成	日本国憲法(2)	基礎会計学(2)	経営学(2)		
	地域研究法(2)	学校と地域(学校安全を含む)(2)	生活と環境(2)	生活と住居(2)	
	社会人基礎力入門講義(2)	キャリアデベロップメント論(2)	企業家論(2)	企業のしくみ(2)	
	公務員論(2)	社会貢献活動入門(2)	テクニカルライティング(2)	アカデミックライティング(2)	
	障害学概論(2)	障害学と生活のデザイン(2)	インターンシップ入門(2)		
	健康とスポーツ	スポーツ健康科学実技ⅠA(1)	スポーツ健康科学実技ⅠB(1)	スポーツ健康科学実技ⅡA(1)	スポーツ健康科学実技ⅡB(1)
	スポーツ健康科学実技ⅢA(1)	スポーツ健康科学実技ⅢB(1)	スポーツ健康科学講義A(2)	スポーツ健康科学講義B(2)	
総合・学際	全学総合ⅠA(2)	全学総合ⅠB(2)	全学総合ⅡA(2)	全学総合ⅡB(2)	
	総合Ⅰ(2)	総合Ⅱ(2)	総合Ⅲ(2)		
	総合ⅣA(2)	総合ⅣB(2)			
留学支援科目	英語特別教育科目	English for Academic Purposes A Listening/Speaking(2)	English for Academic Purposes B Reading/Writing(2)		
	日本語科目	Pre-Study Abroad College Study Skills(1)	Pre-Study Abroad Basic Academic Writing(1)		
		Pre-Study Abroad Academic Essay Writing(1)	Business English Communication(2)		
		(協定校並びにISEP加盟大学等からの留学生に対する日本語・日本文化科目)			

		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	
学部共通科目 (4)	必修科目 (4)	ライフデザイン学Ⅰ(2)	ライフデザイン学Ⅱ(2)			
	選択科目 A			障害学専門演習(2)		
	選択科目 B	他学科・専攻開放科目から選択				
専攻科目 (29)	必修科目 (24)	人間環境デザイン基礎演習Ⅰ(2)	人間環境デザイン基礎演習Ⅲ(3)		卒業研究(2)	
		人間環境デザイン基礎演習Ⅱ(2)	人間環境デザイン総合演習(3)			
	人間環境デザイン学概論(2)	CAD演習Ⅱ(2)				
	ユニバーサルデザイン概論(2)					
	CAD演習Ⅰ(2)					
	情報リテラシーⅠ(2)					
	情報リテラシーⅡ(2)					
	コース別必修科目 (10)			空間デザインコース		
				空間デザイン演習ⅠA(3)	空間デザイン演習ⅡA(2)	
				空間デザイン演習ⅠB(3)	空間デザイン演習ⅡB(2)	
		生活環境デザインコース				
		生活環境デザイン演習ⅠA(3)	生活環境デザイン演習ⅡA(2)			
		生活環境デザイン演習ⅠB(3)	生活環境デザイン演習ⅡB(2)			
		プロダクトデザインコース				
		プロダクトデザイン演習ⅠA(3)	プロダクトデザイン演習ⅡA(2)			
		プロダクトデザイン演習ⅠB(3)	プロダクトデザイン演習ⅡB(2)			
学科専門科目 (77)	選択科目 (43)	人工工学(2)	マーケティング(2)	各コース共通		
		建築歴史意匠A(2)	住居計画(2)	認知科学(2)	デザイン特別講義(2)	
		プロダクトデザイン基礎(2)	建築・都市法規(2)	インターンシップA(2)	安全工学(2)	
		発達と障害(2)	建築歴史意匠B(2)	インターンシップB(2)	調査分析のデザイン(2)	
		生活支援デザイン概論(2)	生活空間計画(2)	インターンシップC(2)	情報メディアデザイン(2)	
		材料・素材一般(2)	コンピュータ・グラフィックス(2)	インターンシップD(2)	建築とまちのUD(2)	
		建築生産(2)	産業とプロダクトデザイン(2)	空間デザインコース系科目		
		色彩論(2)	生活支援機器デザイン概論(2)	建築空間構成論(2)	建築設計論(2)	
		都市・まちのデザイン(2)	構造力学(2)	設備計画(2)	材料力学(2)	
		製品と情報のUD(2)	道具の歴史(2)	構法計画(2)	木造住宅設計論(2)	
			デザイン工学基礎(2)	構法計画演習A(1)	都市計画論(2)	
			デザイン工学応用(2)	構法計画演習B(1)		
			ヒューマンインターフェース(2)	生活環境デザインコース系科目		
			インテリアデザイン(2)	生活支援機器デザイン各論(2)	リハビリテーション工学(2)	
			環境計画(2)	医療福祉建築計画(2)	福祉住環境コーディネート論(2)	
			デザイン思考法(2)	支援技術とデザイン(2)	ランドスケープデザイン(2)	
			こども環境論(2)	プロダクトデザインコース系科目		
			まちづくり(2)	情報デザインⅠ(2)	プロダクトデザインⅠ(2)	
		情報デザインⅡ(2)	プロダクトデザインⅡ(2)			
		グラフィックデザイン論(2)	メカトロニクス・デザイン(2)			
		表現演習(2)				
		International Design Practices(2)	国際文化事情A(2)	国際文化事情B(2)		
教職科目			職業指導Ⅰ(2)	職業指導Ⅱ(2)		

ライフデザイン学部 基盤教育科目

区分	必修/選択	科目ナンバリング	科目名	単位数	配当学年	備考	
基盤教育科目	哲学・思想	選択	PHT101	哲学	2	1~4	
		選択	PHT102	井上円了と東洋大学A	2	1~4	
		選択	PHT103	井上円了と東洋大学B	2	1~4	
		選択	PHT104	人間と宗教	2	1~4	
		選択	PHT105	生命と倫理	2	1~4	
		選択	PHT106	ジェンダー論	2	1~4	
		選択	PHT107	世代論	2	1~4	
		選択	PHT108	人権と生活	2	1~4	
	学問の基礎	選択	FAS101	美術一般	2	1~4	
		選択	FAS102	音楽一般	2	1~4	
		選択	FAS103	生活と栄養	2	1~4	
		選択	FAS104	生死の社会学	2	1~4	
		選択	FAS105	物理	2	1~4	
		選択	FAS106	数学	2	1~4	
		選択	FAS107	危機管理と救急法	2	1~4	
		選択	FAS108	文学	2	1~4	
		選択	FAS109	文章読解	2	1~4	
		選択	FAS110	口頭表現法	2	1~4	
		選択	FAS111	レポート・論文のまとめ方	2	1~4	
		選択	FAS112	プレゼンテーション技法	2	1~4	
		選択	FAS113	文化論	2	1~4	
		選択	FAS114	文化人類学	2	1~4	
国際人の形成	英語必修	必修	ENG101	基礎英語演習 I	1	1	
		必修	ENG102	基礎英語演習 II	1	1	
		必修	ENG103	英語コミュニケーション I A	1	1	
		必修	ENG104	英語コミュニケーション I B	1	1	
		必修	ENG201	応用英語演習 I	1	2	
	選択科目	必修	ENG202	応用英語演習 II	1	2	
		必修	ENG203	英語コミュニケーション II A	1	2	
		必修	ENG204	英語コミュニケーション II B	1	2	
		選択	ENG105	グローバルコミュニケーション I	1	1~4	
		選択	ENG106	グローバルコミュニケーション II	1	1~4	
外国語	選択	ENG107	Practical English I	1	1~4		
	選択	ENG108	Practical English II	1	1~4		
	選択	ENG109	English e-Learning I	1	1~4		
	選択	ENG110	English e-Learning II	1	1~4		
	選択	GER101	ドイツ語 I	1	1~4		
	選択	GER102	ドイツ語 II	1	1~4		
	選択	FRA101	フランス語 I	1	1~4		

区分		必修／選択	科目ナンバリング	科目名	単位数	配当学年	備考	
基盤教育科目	外国語	選択	FRA102	フランス語Ⅱ	1	1～4		
		選択	CHI101	中国語Ⅰ	1	1～4		
		選択	CHI102	中国語Ⅱ	1	1～4		
		選択	KOR101	韓国語Ⅰ	1	1～4		
		選択	KOR102	韓国語Ⅱ	1	1～4		
	日本語	必修	JPN101	日本語Ⅰ	1	1～4	外国人留学生用	
		必修	JPN102	日本語Ⅱ	1	1～4	外国人留学生用	
		必修	JPN103	日本事情Ⅰ	2	1～4	外国人留学生用	
		必修	JPN104	日本事情Ⅱ	2	1～4	外国人留学生用	
	国際人の形成	選択科目	選択	IHR101	グローバルゼーションと文化A	2	1～4	
			選択	IHR102	グローバルゼーションと文化B	2	1～4	
			選択	IHR103	グローバルゼーションと文化C	2	1～4	
			選択	IHR104	グローバルゼーションと文化D	2	1～4	
			選択	IHR105	グローバルゼーションと文化E	2	1～4	
			選択	IHR106	国際キャリア概論	2	1～4	
			選択	IHR107	留学のすすめ	2	1～4	
			選択	IHR108	海外研修Ⅰ	2	1～4	
			選択	IHR109	海外研修Ⅱ	2	1～4	
			選択	IHR110	海外実習Ⅰ	2	1～4	
			選択	IHR111	海外実習Ⅱ	2	1～4	
			選択	IHR112	短期海外研修Ⅰ	1	1～4	
			選択	IHR113	短期海外研修Ⅱ	1	1～4	
			選択	IHR114	短期海外研修Ⅲ	1	1～4	
			選択	IHR115	短期海外研修Ⅳ	1	1～4	
			選択	IHR116	短期海外実習Ⅰ	1	1～4	
			選択	IHR117	短期海外実習Ⅱ	1	1～4	
			選択	IHR118	短期海外実習Ⅲ	1	1～4	
			選択	IHR119	短期海外実習Ⅳ	1	1～4	
	キャリア・市民形成	選択	ECD101	生活と環境	2	1～4		
		選択	ECD102	日本国憲法	2	1～4		
		選択	ECD103	経営学	2	1～4		
		選択	ECD104	基礎会計学	2	1～4		
		選択	ECD105	学校と地域（学校安全を含む）	2	1～4		
		選択	ECD106	生活と住居	2	1～4		
		選択	ECD107	地域研究法	2	1～4		
選択		ECD108	社会人基礎力入門講義	2	1～4			
選択		ECD109	企業家論	2	1～4			
選択		ECD110	公務員論	2	1～4			
選択		ECD111	キャリアデベロップメント論	2	1～4			
選択		ECD112	企業のしくみ	2	1～4			
選択		ECD113	社会貢献活動入門	2	1～4			
選択		ECD114	テクニカルライティング	2	1～4			
選択		ECD115	アカデミックライティング	2	1～4			
選択		ECD116	障害学概論	2	1～4			
選択		ECD117	障害学と生活のデザイン	2	1～4			
選択		ECD118	インターンシップ入門	2	1～4			

区分		必修／選択	科目ナンバ リング	科目名	単位数	配当 学年	備考	
キャリア・市民形成	健康とスポーツ	選択・選択必修	DMB101	スポーツ健康科学実技ⅠA	1	1～4	健康スポーツ学科の学生のみ2単位選択必修	
		選択・選択必修	DMB102	スポーツ健康科学実技ⅠB	1	1～4		
		選択・選択必修	DMB103	スポーツ健康科学実技ⅡA	1	1～4		
		選択・選択必修	DMB104	スポーツ健康科学実技ⅡB	1	1～4		
		選択・選択必修	DMB105	スポーツ健康科学実技ⅢA	1	1～4		
		選択・選択必修	DMB106	スポーツ健康科学実技ⅢB	1	1～4		
		選択	DMB107	スポーツ健康科学講義A	2	1～4		
		選択	DMB108	スポーツ健康科学講義B	2	1～4		
総合・学際	選択	ITS101	総合Ⅰ	2	1～4			
	選択	ITS102	総合Ⅱ	2	1～4			
	選択	ITS103	総合Ⅲ	2	1～4			
	選択	ITS104	総合ⅣA	2	1～4			
	選択	ITS105	総合ⅣB	2	1～4			
	選択	ITS106	全学総合ⅠA	2	1～4			
	選択	ITS107	全学総合ⅠB	2	1～4			
	選択	ITS108	全学総合ⅡA	2	1～4			
	選択	ITS109	全学総合ⅡB	2	1～4			
基盤教育科目	英語特別教育科目	選択	SUS101	English for Academic Purposes A Listening/Speaking	2	1～4		
		選択	SUS102	English for Academic Purposes B Reading/Writing	2	1～4		
		選択	SUS103	Pre-Study Abroad College Study Skills	1	1～4		
		選択	SUS104	Pre-Study Abroad Basic Academic Writing	1	1～4		
		選択	SUS105	Pre-Study Abroad Academic Essay Writing	1	1～4		
		選択	SUS106	Business English Communication	2	1～4		
	留学支援科目	日本語科目	選択	SUS107	Integrated Japanese I	4	1～4	
			選択	SUS108	Integrated Japanese II	4	1～4	
			選択	SUS109	Integrated Japanese III	4	1～4	
			選択	SUS110	Integrated Japanese IV	4	1～4	
			選択	SUS111	Japanese Reading and Composition I	1	1～4	
			選択	SUS112	Japanese Reading and Composition II	1	1～4	
			選択	SUS113	Japanese Reading and Composition III	1	1～4	
			選択	SUS114	Japanese Reading and Composition IV	1	1～4	
			選択	SUS115	Japanese Listening Comprehension I	1	1～4	
			選択	SUS116	Japanese Listening Comprehension II	1	1～4	
			選択	SUS117	Japanese Listening Comprehension III	1	1～4	
			選択	SUS118	Japanese Listening Comprehension IV	1	1～4	
			選択	SUS119	Kanji Literacy I	1	1～4	
			選択	SUS120	Kanji Literacy II	1	1～4	
			選択	SUS121	Kanji Literacy III	1	1～4	
			選択	SUS122	Kanji Literacy IV	1	1～4	
			選択	SUS123	Project Work I	1	1～4	
			選択	SUS124	Project Work II	1	1～4	
			選択	SUS125	Project Work III	1	1～4	
			選択	SUS126	Project Work IV	1	1～4	
			選択	SUS127	Japanese Culture and Society A	2	1～4	
			選択	SUS128	Japanese Culture and Society B	2	1～4	
			選択	SUS129	Introduction to Japanology A	2	1～4	
			選択	SUS130	Introduction to Japanology B	2	1～4	

人間環境デザイン学科 専門科目

区分		必修/選択	科目ナンバリング	科目名	単位数	配当学年	備考
学部共通 科目	科目 必修	必修	TYS101	ライフデザイン学Ⅰ	2	1	
	科目 必修	必修	TYS201	ライフデザイン学Ⅱ	2	2	
	科目 選択	選択	SWS301	障害学専門演習	2	3	
専門科目 学科専門科目	必修科目	必修	ABE101	人間環境デザイン基礎演習Ⅰ	2	1	
		必修	ABE102	人間環境デザイン基礎演習Ⅱ	2	1	
		必修	ABE201	人間環境デザイン基礎演習Ⅲ	3	2	
		必修	ABE202	人間環境デザイン総合演習	3	2	
		必修	DEE101	CAD演習Ⅰ	2	1	
		必修	DEE201	CAD演習Ⅱ	2	2	
		必修	DES101	ユニバーサルデザイン概論	2	1	
		必修	ISE101	情報リテラシーⅠ	2	1	
		必修	ISE102	情報リテラシーⅡ	2	1	
		必修	THE401	卒業研究	2	4	
	コース別必修科目	必修	TYS102	人間環境デザイン学概論	2	1	
		必修	BSM301	空間デザイン演習ⅠA	3	3	空間デザインコースのみ必修 他コースでは選択
		必修	BSM302	空間デザイン演習ⅠB	3	3	
		必修	BSM401	空間デザイン演習ⅡA	2	4	
		必修	BSM402	空間デザイン演習ⅡB	2	4	
		必修	DES301	プロダクトデザイン演習ⅠA	3	3	プロダクトデザインコースのみ必修 他コースでは選択
		必修	DES302	プロダクトデザイン演習ⅠB	3	3	
		必修	DES401	プロダクトデザイン演習ⅡA	2	4	
		必修	DES402	プロダクトデザイン演習ⅡB	2	4	
		必修	RSW301	生活環境デザイン演習ⅠA	3	3	生活環境デザインコースのみ必修 他コースでは選択
		必修	RSW302	生活環境デザイン演習ⅠB	3	3	
		必修	RSW401	生活環境デザイン演習ⅡA	2	4	
	必修	RSW402	生活環境デザイン演習ⅡB	2	4		
	選択科目	選択	AEN301	設備計画	2	3~4	
		選択	AHD101	建築歴史意匠A	2	1	
		選択	AHD201	建築歴史意匠B	2	2	
		選択	BSM101	材料・素材一般	2	1	
		選択	BSM201	構造力学	2	2	
		選択	BSM303	材料力学	2	3~4	
		選択	CGS301	認知科学	2	3~4	
		選択	CIV301	インターンシップA	2	3~4	
		選択	CIV302	インターンシップB	2	3~4	
		選択	CIV303	インターンシップC	2	3~4	
選択		CIV304	インターンシップD	2	3~4		
選択		CLD101	色彩論	2	1		
選択		CLD201	住居計画	2	2		
選択		CLD202	道具の歴史	2	2		
選択		CLD203	インテリアデザイン	2	2		
選択		CLD204	こども環境論	2	2		
選択		CLD301	福祉住環境コーディネータ論	2	3~4		
選択		CME201	マーケティング	2	2		
選択		DEE202	デザイン工学基礎	2	2		
選択	DES102	製品と情報のUD	2	1			

区分	必修/選択	科目ナンバリング	科目名	単位数	配当学年	備考		
専門科目	学科専門科目	選択科目	選択	DES103	プロダクトデザイン基礎	2	1	
			選択	DES104	International Design Practices	2	1~4	
			選択	DES201	産業とプロダクトデザイン	2	2	
			選択	DES202	デザイン思考法	2	2	
			選択	DES303	ランドスケープデザイン	2	3~4	
			選択	DES304	デザイン特別講義	2	3~4	
			選択	DES305	建築とまちのUD	2	3~4	
			選択	DES306	情報メディアデザイン	2	3~4	
			選択	DES307	情報デザイン I	2	3~4	
			選択	DES308	情報デザイン II	2	3~4	
			選択	DES309	プロダクトデザイン I	2	3~4	
			選択	DES310	プロダクトデザイン II	2	3~4	
			選択	DES311	グラフィックデザイン論	2	3~4	
			選択	DES312	表現演習	2	3~4	
			選択	FLE101	国際文化事情A	2	1~4	
			選択	FLE102	国際文化事情B	2	1~4	
			選択	HII201	ヒューマンインターフェース	2	2	
			選択	HPC201	コンピュータ・グラフィックス	2	2	
			選択	INM301	メカトロニクス・デザイン	2	3~4	
			選択	RSW101	人間工学	2	1	
			選択	RSW102	発達と障害	2	1	
			選択	RSW103	生活支援デザイン概論	2	1	
			選択	RSW201	生活支援機器デザイン概論	2	2	
			選択	RSW303	生活支援機器デザイン各論	2	3~4	
			選択	RSW304	リハビリテーション工学	2	3~4	
			選択	RSW305	支援技術とデザイン	2	3~4	
			選択	SOF201	デザイン工学応用	2	2	
			選択	STS301	調査分析のデザイン	2	3~4	
			選択	TPA101	建築生産	2	1	
			選択	TPA102	都市・まちのデザイン	2	1	
			選択	TPA201	建築・都市法規	2	2	
			選択	TPA202	生活空間計画	2	2	
			選択	TPA203	環境計画	2	2	
			選択	TPA204	まちづくり	2	2	
			選択	TPA301	安全工学	2	3~4	
			選択	TPA302	建築空間構成論	2	3~4	
			選択	TPA303	建築設計論	2	3~4	
			選択	TPA304	構法計画	2	3~4	
			選択	TPA305	木造住宅設計論	2	3~4	
選択	TPA306	構法計画演習A	1	3~4				
選択	TPA307	構法計画演習B	1	3~4				
選択	TPA308	都市計画論	2	3~4				
選択	TPA309	医療福祉建築計画	2	3~4				
教職	選択	ESS301	職業指導 I	2	3~4	卒業要件外		
	選択	ESS302	職業指導 II	2	3~4	卒業要件外		

〈他学科・専攻開放科目〉

学科・専攻	科目ナンバリング	科目名	単位数	配当学年	備考
生活支援学専攻	SOC201	社会調査の基礎	2	2	
生活支援学専攻	SWS101	社会福祉の基礎	2	1	
生活支援学専攻	SWS106	社会福祉援助技術論Ⅰ	2	1	
生活支援学専攻	SWS107	児童福祉論	2	1	
生活支援学専攻	SWS201	社会福祉援助技術論Ⅱ	2	2	
生活支援学専攻	SWS216	高齢者福祉論Ⅰ	2	2～3	
生活支援学専攻	SWS217	障害者福祉論	2	2～3	
生活支援学専攻	SWS226	社会保障論Ⅰ	2	2～3	
生活支援学専攻	SWS227	社会保障論Ⅱ	2	2～3	
生活支援学専攻	SWS302	Introduction to Social Work	2	3～4	
子ども支援学専攻	SWS109	国際児童福祉	2	1～4	
健康スポーツ学科	AHS102	生涯スポーツ論	2	1	
健康スポーツ学科	AHS109	国際健康スポーツ交流B	2	1	
健康スポーツ学科	AHS112	生活習慣と健康	2	1	
健康スポーツ学科	AHS201	健康栄養論	2	2	
健康スポーツ学科	AHS207	障がい者論	2	2～4	
健康スポーツ学科	CHS202	子ども学	2	2～4	
健康スポーツ学科	DMB104	発育・発達・加齢論	2	1	
健康スポーツ学科	DMB106	日本文化と武道	2	1～4	
健康スポーツ学科	DMB206	スポーツ情報分析論	2	2～4	
健康スポーツ学科	DMB207	老年学	2	2～4	
健康スポーツ学科	FLE103	外国語文献講読	2	1～4	
健康スポーツ学科	GEA101	解剖学	2	1	
健康スポーツ学科	GEA102	人体組織学	2	1～4	
健康スポーツ学科	GPH201	運動生理学	2	2	
健康スポーツ学科	GPH202	スポーツ生理学	2	2～4	
健康スポーツ学科	RSW201	リハビリテーション論	2	2～4	
健康スポーツ学科	SPS101	スポーツ社会学	2	1	
健康スポーツ学科	SPS214	高齢者健康スポーツ論	2	2～4	
健康スポーツ学科	SPS215	障がい者健康スポーツ論	2	2～4	
健康スポーツ学科	SPS217	障がい者健康スポーツ指導法	1	2～4	
健康スポーツ学科	SPS218	スポーツビジネス論	2	2～4	
健康スポーツ学科	SPS222	バイオメカニクス	2	2～4	
健康スポーツ学科	SPS223	スポーツ経済論	2	2～4	
健康スポーツ学科	SPS224	スポーツメディア論	2	2～4	
健康スポーツ学科	GIM101	医学一般	2	1～4	

2. 卒業要件

ライフデザイン学部規程 別表第4

4年以上（8セメスタ以上）在学し、下記の条件を満たした学生のみ卒業することができます。
下記の条件をすべて満たさないと、卒業することができません。

授業科目区分		卒業必要単位数	
基盤教育	哲学・思想	2単位以上	
	学問の基礎		
	国際人の形成	外国語 英語必修 8単位	
	キャリア・市民形成		
	総合・学際		
	計	18単位以上	
専門科目	学部共通科目	必修科目	4単位
		選択科目	
	学科専門科目	必修科目	24単位
		コース別必修科目	10単位
		選択科目	43単位以上
		小計	77単位以上
	計	81単位以上	
合計	124単位以上		

単位数

- 卒業要件となる科目で124単位以上を修得すること。
- 基盤教育で、哲学・思想で必修2単位以上、国際人の形成の外国語の英語必修8単位を含み、18単位以上を修得すること。
- 専門科目で、学部共通科目で必修科目4単位、学科専門科目で77単位以上（うち必修科目24単位、コース別必修科目10単位、選択科目43単位以上）を含み、81単位以上を修得すること。

3. 基盤教育

- 哲学・思想
2単位以上を修得しなければなりません。
- 国際人の形成
1年次に「英語コミュニケーションⅠA」「英語コミュニケーションⅠB」「基礎英語演習Ⅰ」「基礎英語演習Ⅱ」を、2年次に「英語コミュニケーションⅡA」「英語コミュニケーションⅡB」「応用英語演習Ⅰ」「応用英語演習Ⅱ」を修得しなければなりません。あらかじめクラス分けがされていますので、指定されたクラスの授業を履修してください。

4. 学部共通科目

- 必修科目
4単位すべてを修得しなければなりません。
- 選択科目
単位数の指定はありません。他学科・専攻開講科目で履修できるのは、「他学科・専攻開放科目」のみです。各自の履修計画や興味に沿って履修してください。

5. 学科専門科目

- 必修科目
24単位すべてを修得しなければなりません。
- 選択必修科目・選択科目
 - 3・4年次に所属するコースの、コース別必修科目は10単位を修得しなければなりません。他コースの科目は、コース別必修科目を除き、「学科専門科目」の「選択科目」として履修することができます。
 - 選択科目は43単位以上を修得しなければなりません。
 - 4年次の必修科目・コース別必修科目は、以下の条件を満たしていないと、履修することができません。従って条件を満たせなかった段階で、卒業も延期になりますので注意してください。

〈4年次の選択必修・コース別必修科目の履修条件〉

ライフデザイン学部規程 別表第5

対象科目	時期	条件
・空間デザイン演習ⅡA ・生活環境デザイン演習ⅡA ・プロダクトデザイン演習ⅡA	3年6セメスタ 終了時まで	以下1)と2)の両方の条件を満たすこと。 1)「ライフデザイン学Ⅰ」「ライフデザイン学Ⅱ」「情報リテラシーⅠ」「情報リテラシーⅡ」「人間環境デザイン学概論」「ユニバーサルデザイン概論」「CAD演習Ⅰ」「CAD演習Ⅱ」「人間環境デザイン基礎演習Ⅰ」「人間環境デザイン基礎演習Ⅱ」「人間環境デザイン基礎演習Ⅲ」「人間環境デザイン総合演習」の12科目の単位をすべて修得していること。 2)卒業要件の科目を100単位以上修得していること。
・空間デザイン演習ⅡB	4年7セメスタ 終了時まで	「空間デザイン演習ⅡA」を修得していること。
・生活環境デザイン演習ⅡB		「生活環境デザイン演習ⅡA」を修得していること。
・プロダクトデザイン演習ⅡB		「プロダクトデザイン演習ⅡA」を修得していること。
・卒業研究		「空間デザイン演習ⅡA」「生活環境デザイン演習ⅡA」「プロダクトデザイン演習ⅡA」のいずれかを修得していること。

6. 3・4年次コース分けと各コースの特徴について

人間環境デザイン学科では、より高度な知識・技術の修得を目指した専門教育・職業人養成を行うために、3・4年次は「空間デザインコース」「生活環境デザインコース」「プロダクトデザインコース」の3つのコースに分かれて教育を行います。コース分けは本人希望を原則としますが、各コースの定数を超える場合は成績を加味してコース分けを行います。各コースの定数及びコース分けのガイダンスについては2年次の秋学期を予定しています。

各コースの内容は下記のとおりです。

空間デザインコース(※1)、生活環境デザインコース(※2)、プロダクトデザインコース(※3)のそれぞれの分野で、より高度なデザイン表現を学ぶと共に、それらの背後にある理念や知識について学ぶ。

(※1)空間デザインコース：私たちを取り巻く環境を建築やまちという視点で考えるコースである。建築意匠、建築計画、建築構法など建物のデザイン、さらには都市計画、まちづくり、バリアフリーなど、人々を取り巻くすべての生活空間にまで視野を広げて、豊かな暮らしの環境を考えていく。

(※2)生活環境デザインコース：私たちを取り巻く環境をさまざまな人の暮らしという視点で考えるコースである。住居学、福祉住環境計画、子ども環境、障害のある方のための道具のデザインなど、利用者の参加による使い手の顔が見える人間中心設計や、ユニバーサルデザインによる、生活者の視点に立ったデザインを学ぶ。

(※3)プロダクトデザインコース：私たちを取り巻く環境を製品や情報という視点で考えるコースである。製品のデザイン、情報デザイン、インタラクションデザイン、メカトロニクスなど広い分野にわたって、「モノ」や「コト」のデザインから人々の暮らしを考えていく。

7. その他の科目

教育職員免許状取得のための科目について

以下の科目は、教職の専門科目となります。単位を修得しても卒業単位とすることはできませんが、1セメスタの履修登録の上限24単位外の科目として履修登録することができます。

- ①人間環境デザイン学科教育課程表の「教職科目」区分にある科目（「職業指導Ⅰ」、「職業指導Ⅱ」）。
- ②教育職員免許状取得のための「教職に関する科目」「教科に関する科目」（P.194～197参照）で、人間環境デザイン学科の教育課程表にない科目。

◆人間環境デザイン学科のカリキュラム◆

人間環境デザイン学科のカリキュラムマップ

必修科目 学科の内容を総合的に学ぶ
 選択科目 コースの専門知識を学ぶ

学部共通科目		学科専門科目	
選択科目	必修科目	必修科目	
国際文化事情 A 国際文化事情 B International Design Practice	情報リテラシー 情報リテラシーII ライフデザイン学I	1 人間環境デザイン 基礎演習 I 基礎演習 II	人間環境デザイン学概論 ユニバーサルデザイン概論 製品と情報のUD 人間工学 材料・素材一般 色彩論 都市・まちのデザイン 建築生産 発達と障害 建築歴史意匠 A 生活支援デザイン概論 プロダクトデザイン基礎
	障害学概論 ライフデザイン学II	2 基礎演習 III (3) 総合演習 (3)	CAD 演習 I CAD 演習 II マーケティング デザイン思考法 道具の歴史 インテリアデザイン 生活空間計画 デザイン工学基礎 構造力学 建築歴史意匠 B まちづくり 環境計画 建築・都市法規 生活支援機器デザイン概論 こども環境論 住居計画 産業とプロダクトデザイン ヒューマンインターフェース デザイン工学応用 コンピュータ・グラフィックス
障がい者論 障害学と生活のデザイン 障害学専門演習	3 教職科目 職業指導 I 職業指導 II コース演習 I A (3) コース演習 I B (3)	コース演習 I A (3) コース演習 I B (3) 建築とまちのUD 空間デザイン 生活環境デザイン プロダクトデザイン 認知科学 安全工学 調査分析のデザイン デザイン特別講義 情報メディアデザイン グラフィックデザイン論 インターンシップ A, B, C, D	
	4 コース演習 II A コース演習 II B 卒業研究	考える力 建築空間構成論 建築設計論 都市計画論 創る力 構法計画 構法計画演習 A (1) 構法計画演習 B (1) 木造住宅設計論 設備計画 材料力学 生活支援機器デザイン各論 医療福祉建築計画 福祉住環境コーディネート論 リハビリテーション工学 支援技術とデザイン ランドスケープデザイン プロダクトデザイン I プロダクトデザイン II 情報デザイン I 情報デザイン II メカトロニクス・デザイン 表現演習	

注：科目名の後 (1)、(3) は単位数。数字の無い科目の単位数は (2) とする。

ライフデザイン学部共通

大学院開講科目の先行履修制度について

ライフデザイン学部では、大学院ライフデザイン学研究科との連携を強め、大学院への進学を希望する学生に対し、学部時から専門的な学修の継続を図ることを目的として、ライフデザイン学研究科が開講する修士・博士前期課程の授業科目を、学部在学中に履修できる「先行履修制度」を導入しています。

本制度利用の要件

以下の①～③全ての項目を満たす者としてします。

- ①ライフデザイン学部4学年に在学し、当該年度で卒業の見込みがあること。
- ②ライフデザイン学部卒業後、ライフデザイン学研究科修士・博士前期課程（生活支援学専攻・健康スポーツ学専攻・人間環境デザイン専攻）に進学の意思があること。
- ③先行履修を希望する時点の成績が、ライフデザイン学研究科修士・博士前期課程学内推薦の前年度の出願基準を満たしていること。

制度詳細

(1) 履修単位数の取扱い

先行履修する授業科目の単位数は、セメスタごとの履修上限単位数（24単位）には含まれません。

(2) 履修単位数の上限

先行履修できる授業科目の単位数は、最大で10単位です。

(3) 修得単位の取扱い

先行履修で修得した授業科目の単位は、ライフデザイン学部の卒業要件単位には算入されません。

(4) 履修可能な科目

対象となる授業科目は、当該年度にライフデザイン学研究科修士・博士前期課程で開講する科目のうち以下の科目で、かつ指導教員ならびに履修希望科目担当教員の許可を得た科目となります。

- ・生活支援学専攻および健康スポーツ学専攻・・・研究指導を除く科目
- ・人間環境デザイン専攻・・・特別演習および研究指導を除く科目

(5) 履修登録の方法

先行履修を希望する学生は、大学院の履修登録期間に、定められた手続きに則って履修登録を行ってください。

(6) 単位認定の上限

先行履修し、修得した授業科目の単位は、ライフデザイン学研究科修士・博士前期課程に進学後、申請することにより、当該の専攻会議およびライフデザイン学研究科委員会が教育上有益と認める場合に、10単位を超えない範囲で修了要件単位数の一部に算入することができます。

(7) 単位認定の方法

単位認定を希望する場合は、大学院進学後最初のセメスタにおける履修登録期間に、定められた手続きに則って申請を行ってください。ただし、カリキュラムの改廃等の理由により、修了要件単位とならないことがあります。

副專攻

副専攻「障害学コース」の履修について

1. 目的

副専攻「障害学コース」は、ライフデザイン学部の学生を対象とし、障害に関する理解を深め、障害のある人の視点を通して、障害の有無によらず誰もが暮らしやすい社会を作るための制度や環境作りについて学んでいきます。

なお、副専攻で定められた条件を満たし、所定の申請手続きをとることにより、卒業時に副専攻修了者として認定され、修了証を受けることができます。

2. 認定条件

下記の条件を満たした場合、副専攻の修了が認められます。

- ①副専攻コース登録を2年次以降にToyoNet-Gで行っていること。
- ②副専攻指定科目 必修【基盤科目（2科目）＋専門演習（1科目）】および選択必修科目【5科目以上】を修得していること。

3. 指定科目

	1年	2年	3年	4年
必修(6)	障害学概論(2)		障害学と生活のデザイン(2)	
			障害学専門演習(2)	
選択必修(10)	社会学(2) 危機管理と救急法(2)			
	社会福祉の基礎(2) 社会福祉援助技術論Ⅰ(2)	障害者福祉論(2)		
5科目以上を 取得すること			障がい者論(2) 障がい者健康スポーツ論(2) 障がい者健康スポーツ指導法(2)	
			福祉住環境コーディネート論A(2) リハビリテーション工学(2) 支援技術とデザイン(2)	

4. 履修方法・必修科目について

必修科目については、下表の通り「障害学概論」⇒「障害学と生活のデザイン」⇒「障害学専門演習」の順で履修推奨学年時に履修・修得をしてください。この順に履修できないときは科目担当教員へ相談してください。

また「障害学専門演習」は、「障害学概論」と「障害学と生活のデザイン」を修得し、「障害学コース」の副専攻登録を行っている者が履修できます。履修希望者は履修登録期間内に朝霞事務課教務担当窓口にて申請を行ってください。

対象科目	履修推奨学年
障害学概論	2年次
障害学と生活のデザイン	3年次
障害学専門演習	3年次

5. 副専攻必修科目

・「障害学概論」

副専攻「障害学コース」の基盤となる科目です。障害学（Disability Studies）とは、障害を分析の切り口として確立する学問、思想、知の運動です。社会にある事象を障害のある人の視点から見つめ直すことで、これまでとは全く異なる視点を提示していこうとするものです。

・「障害学と生活のデザイン」

障害学によって明らかにされた諸問題は、現実社会の中でどう解決されている／されるべきなのでしょう。さまざまな物的環境におけるデザインはどうあるべきなのでしょう。その一つの答えとして注目されるユニバーサルデザインにおいて、障害学をどう消化し、反映させるかについて学びます。

・「障害学専門演習」

講義と演習を組み合わせ、これまで学んだ知識を基礎に、現場見学などを実施し、知識を統合化することを目標とする科目です。グループワーク、討論などを通じて知識の統合化を図ります。この科目としての特徴を維持するため、履修者数に制限を加える事があります。（各学科専攻10名、計40名を想定）

諸資格について

◆ライフデザイン学部で取得できる資格◆

ライフデザイン学部では、下記の表に記載されている資格（または資格の受験資格）を取得することができます。資格の取得に関しては資格登録（※）、所定の手続、指定された科目の単位修得等、条件を満たすことが必須です。この履修要覧をよく確認してください。また、必要な科目の履修については、科目履修が可能な学年で早めに履修し、一度で単位を修得してください。再履修になると他の必須科目と時間割が重複する等、履修に支障が生じ、4年間で資格取得できない可能性があります。不明な点がある場合は、朝霞事務課教務担当窓口にご相談してください。

※資格取得希望者は、ToyoNet-Gにて資格登録が必須です。詳細は学期初めに配布される「履修登録のしおり・授業時間割表」で確認してください。

	生活支援学科 生活支援学専攻	生活支援学科 子ども支援学専攻	健康スポーツ 学科	人間環境デザイン 学科	ページ
社会福祉士	受験資格取得	受験資格取得	受験資格取得	—	P.126
精神保健福祉士	受験資格取得	—	受験資格取得	—	P.130
介護福祉士※1	受験資格取得	—	—	—	P.134
保育士	—	資格取得	—	—	P.138
GFI	受験資格取得	受験資格取得	受験資格取得	—	P.142
健康運動指導士	—	—	受験資格取得	—	P.144
健康運動実践指導者	受験資格取得	受験資格取得	受験資格取得	—	P.148
障がい者スポーツ指導員	資格取得	資格取得	資格取得	—	P.150
レクリエーション・ インストラクター	資格取得	資格取得	資格取得	—	P.152
第一種衛生管理者	—	—	資格取得	—	P.154
トレーニング指導者	—	—	受験資格取得	—	P.156
公認スポーツ指導者	—	—	資格取得	—	P.158
一級建築士	—	—	—	受験資格取得	P.160
二級建築士	—	—	—	受験資格取得	
木造建築士	—	—	—	受験資格取得	
社会福祉主事	任用資格取得	任用資格取得	任用資格取得	任用資格取得	P.163

※1 生活支援学科生活支援学専攻介護福祉士コース所属学生のみ取得可能（P.134～137参照）

◆ (1) 社会福祉士（生活支援学科・健康スポーツ学科） ◆

現在、わが国では、少子化と高齢化が急速に進んでいます。介護を必要とする高齢者や障害者のケア、生活に関わる相談、子育てに関わる相談、児童虐待などの人権問題に関わる相談などに対応できる人材の必要性が高まっています。このような社会的な要請に対応して、1987年に制定された「社会福祉士及び介護福祉士法」により、問題解決の必要性に応じて相談、助言、指導のできる専門職である社会福祉士が国家資格として定められました。

(1) 業務

社会福祉士は、身体上もしくは精神上の障害のある人や、環境上の理由により日常生活を営む上で支障のある人を対象に、社会福祉に関する専門的な知識と技術をもって相談に応じ、助言や指導、支援を行うことが法律（社会福祉士及び介護福祉士法）で定められています。

(2) 資格

社会福祉士の資格は、国家試験に合格し、所定の登録をすることによって得られます。国家試験を受験するためには、国家試験受験資格を取得しなければなりません。ライフデザイン学部では、(3)社会福祉士指定科目を修得し、かつ、卒業見込みとなった場合、受験資格を得ることができます。

—社会福祉士国家試験について—

社会福祉士国家試験は、毎年1回、2月上旬の日曜日に実施され、3月中旬に合格者発表が行われます。

試験科目は、社会福祉士国家試験の独自科目である「社会調査の基礎」、「相談援助の基盤と専門職」、「相談援助の理論と方法」、「福祉サービスの組織と経営」、「高齢者に対する支援と介護保険制度」、「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」、「就労支援サービス」、「更生保護制度」、および精神保健福祉士国家試験と共通科目である「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」、「人体の構造と機能及び疾病」、「心理学理論と心理的支援」、「社会理論と社会システム」、「現代社会と福祉」、「地域福祉の理論と方法」、「福祉行財政と福祉計画」、「社会保障」、「低所得者に対する支援と生活保護制度」、「保健医療サービス」、「権利擁護と成年後見制度」です。

(3) 社会福祉士指定科目

次頁表の本学開講科目すべてを修得済みまたは履修中でなければ、社会福祉士の受験資格は得られません。指定科目や実習参加条件は、入学年度ごとに異なります。

〈実習参加条件〉

3年次に社会福祉援助技術現場実習を履修するには、以下の条件を満たさなければなりません。

- 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ（2年次秋学期開講）を、2年次秋学期終了までに修得していること。
- 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ（2年次秋学期開講）の履修条件として、2年次春学期終了までに次頁の表の「実習参加条件科目」の必要科目5科目をすべて修得していること。

※社会福祉援助技術現場実習を4年次に履修することはできません。必ず3年次での履修となります。

指定科目	本学開講科目	実習参加条件科目 (2年次春学期まで 5科目)	配当学年	単位数
人体の構造と機能及び疾病 心理学理論と心理的支援 社会理論と社会システム	医学一般		1年	2
	心理学	※1科目選択	1～4年	2
	社会学		1～4年	2
現代社会と福祉	社会福祉学原論Ⅰ	必	1年	2
	社会福祉学原論Ⅱ		1年	2
社会調査の基礎	社会調査の基礎		2年	2
相談援助の基盤と専門職	社会福祉の基礎		1年	2
	専門職論	必	1年	2
相談援助の理論と方法	社会福祉援助技術論Ⅰ	必	1年	2
	社会福祉援助技術論Ⅱ	必	2年	2
	社会福祉援助技術論Ⅲ		2年	2
	社会福祉援助技術論Ⅳ		3年	2
地域福祉の理論と方法	地域福祉論Ⅰ		2・3年	2
	地域福祉論Ⅱ		2・3年	2
福祉行財政と福祉計画	社会福祉運営論		2・3年	2
福祉サービスの組織と経営	福祉サービス運営論		2・3年	2
社会保障	社会保障論Ⅰ		2・3年	2
	社会保障論Ⅱ		2・3年	2
高齢者に対する支援と介護保険制度	高齢者福祉論Ⅰ		2・3年	2
	高齢者福祉論Ⅱ		2・3年	2
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	障害者福祉論		2・3年	2
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	児童福祉論		1年	2
低所得者に対する支援と生活保護制度	低所得者福祉論		2・3年	2
保健医療サービス	医療福祉総論		2年	2
就労支援サービス	就労支援論		2・3年	2
権利擁護と成年後見制度 更生保護制度	権利擁護論	※1科目選択	2・3年	2
	更生保護論		2・3年	2
相談援助演習	社会福祉援助技術演習Ⅰ	必	2年	2
	社会福祉援助技術演習Ⅱ		2年	2
	社会福祉援助技術演習Ⅲ		3年	2
	社会福祉援助技術演習Ⅳ		3年	2
	社会福祉援助技術演習Ⅴ		4年	2
相談援助実習指導	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ	(2年次秋学期まで)	2年	1
	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ		3年	1
	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅲ		3年	1
相談援助実習	社会福祉援助技術現場実習		3年	4
本学における必要単位数合計				63

(4) 科目履修スケジュール

- ① 1年次10月初旬：社会福祉士受験資格取得希望登録票の提出

社会福祉士の資格取得を希望する者は、「社会福祉士受験資格取得希望登録票」を実習指導室に提出し、登録する必要があります。この登録により、「社会福祉援助技術演習Ⅰ・Ⅱ」のクラス分けを行います。また、登録を行わないと3年次「社会福祉援助技術現場実習」を履修できません。「社会福祉援助技術現場実習」は、社会福祉士国家試験の受験資格要件の1つで、社会福祉施設・機関において、180時間（24日）以上の現場実習を行います。

- ② 2年次：実習配属先の決定

※教育職員免許状を取得する場合、実習先は介護系施設に限定されます。

- ③ 3年次：社会福祉援助技術現場実習の実施

(5) 社会福祉士受験資格取得スケジュール

下記のスケジュールはあくまでも予定であり、日程が前後することがあります。詳細は掲示や授業時の指示に従ってください。

<1年次>

4月上旬

諸資格ガイダンス（概要説明）



9月下旬

第1回資格ガイダンス（希望登録について）



10月初旬

社会福祉士受験資格取得希望票提出（ToyoNet-ACEを通じて実習指導室へ）



※課題レポートの提出

レポート課題「社会福祉士の資格取得を目指す理由」

A4用紙を使用してください。文字数は2,000字以上とします（文字・行数等の書式は特に問いません）。提出期日及び場所等については第1回資格ガイダンス時及びToyoNet-ACEを通じて連絡します。本課題の提出は社会福祉士の資格取得のためにコース教員が定めた必須条件です。未提出の人、又は期日に間に合わない人は2年次以降の演習科目の履修を認めることはできません。取得を希望する人は必ず期日までに提出してください。

※登録者の選考について

登録希望が多数の場合は、選考が行われることがあります。

<2年次>

4月上旬

第2回資格ガイダンス（実習参加条件確認等）



9月下旬

社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ 履修可能者発表・辞退受付



10月初旬

施設見学会等学外実習指導プログラム実施



12月～1月頃

※社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰにおける個別面談

2月上旬に提出する「実習施設希望票」の作成に向けて、各クラス教員と学生とで個別面談を実施します。24日間という長期の実習になるため、健康上の不安や心配な点などを教員に相談し、実習指導（授業）での先輩方からのアドバイスを受けて、実習施設希望票を作成します。なお、実習施設の種類には限りがあるため、自分の希望と一致しない施設や機関に配属される場合もあります。



1月下旬

実習施設希望票提出



2月初旬

実習報告会参加

<3年次>

4月上旬

実習配属施設発表（3年次4月頃）



4月中旬

社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ開始



8月上旬

社会福祉援助技術現場実習（180時間）実施（8月～12月のうち24日間）



9月下旬

社会福祉援助技術現場実習指導Ⅲ開始



2月初旬

実習報告会実施

< 4年次 >

9月下旬	国家試験受験申込（9月下旬～10月上旬）
	⇕
2月上旬	社会福祉士国家試験受験
	⇕
3月中旬	社会福祉士国家試験合格者発表

※社会福祉士の資格取得を希望する場合、4年間で計63単位を修得することが必要で、3年次には180時間（24日間）の現場実習が課せられます。さらに、4年次の2月上旬に実施する国家試験に合格して初めて社会福祉士の資格を取得することができます。社会福祉士国家試験の合格率は全国平均で3割程度のため、在学中にかなり幅広い領域の勉強をすることが求められます。簡単に取得できる資格ではないため、将来の進路などを考えながら取得を希望するかどうか検討してください。

◆ 〈2〉 精神保健福祉士（生活支援学科生活支援学専攻・健康スポーツ学科） ◆

高ストレス社会といわれる現代において、こころの健康に関する関心が高まっています。特に、わが国では欧米諸国に比べ、精神疾患に罹患し、生活に困難を抱えた人々に対する社会復帰や社会参加の取り組みが立ち遅れた状況が続いてきました。こうした状況を改善するための関係法整備の一環として、1997年「精神保健福祉士法」の制定により従来精神科ソーシャルワーカー（Psychiatric Social Worker：PSW）という名称で知られてきた精神保健福祉領域のソーシャルワーカーの国家資格として精神保健福祉士が誕生しました。精神保健福祉士は、精神障害者が直面する生活問題や社会問題の解決に向けた援助や、社会参加に向けた支援活動を行う専門職として、多方面での活躍が期待されています。

（1）業務

精神保健福祉士の業務として、精神科医療機関や保健所、その他行政機関、障害福祉サービス事業所などで、社会復帰に関する相談、助言、指導、日常生活への適応訓練、その他の援助を行うことが、法律（精神保健福祉士法）で定められています。

（2）資格

精神保健福祉士の資格は、国家試験に合格し、所定の登録をすることによって得られます。国家試験を受験するためには、国家試験受験資格を取得しなければなりません。ライフデザイン学部では、次頁（4）精神保健福祉士指定科目を修得し、かつ、卒業見込みとなった場合に受験資格を得ることができます（定員40名。超過した場合は選抜を行う。選抜方法については、ガイダンスにて指示します）。

—精神保健福祉士国家試験について—

精神保健福祉士国家試験は、毎年1回、2月上旬の土曜日と日曜日に実施され、3月に合格者発表が行われます。

試験科目は、精神保健福祉士の独自科目である「精神疾患とその治療」、「精神保健の課題と支援」、「精神保健福祉相談援助の基盤」、「精神保健福祉の理論と相談援助の展開」、「精神保健福祉に関する制度とサービス」、「精神障害者の生活支援システム」、および社会福祉士国家試験と共通科目である「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」、「人体の構造と機能及び疾病」、「心理学理論と心理的支援」、「社会理論と社会システム」、「現代社会と福祉」、「地域福祉の理論と方法」、「福祉行財政と福祉計画」、「社会保障」、「低所得者に対する支援と生活保護制度」、「保健医療サービス」、「権利擁護と成年後見制度」です。

（3）科目履修スケジュール

① 1年次9月下旬～10月上旬：精神保健福祉士受験資格取得希望登録票の提出

精神保健福祉士の資格取得を希望する者は、「精神保健福祉士受験資格取得希望登録票」を実習指導室に提出し、登録する必要があります。登録を行わないと「精神保健福祉援助技術演習」「精神保健福祉援助技術実習指導」「精神保健福祉援助技術実習」を履修できません。「精神保健福祉援助技術実習」は、精神保健福祉士国家試験の受験資格要件の1つで、原則として3年次（社会福祉士の受験資格取得も希望する者は4年次）に、精神科医療機関、障害福祉サービス事業所などにおいて、28日間の現場実習を行います。

② 2年次：実習配属先の決定

③ 3年次：精神保健福祉援助技術実習の実施

(4) 精神保健福祉士指定科目

以下の本学開講科目すべてを修得済みまたは履修中でなければ、精神保健福祉士の受験資格は得られません。指定科目や実習参加条件は、入学年度ごとに異なります。

〈実習参加条件〉

3年次に精神保健福祉援助技術実習を履修するには、以下の条件を満たさなければなりません。

- 精神保健福祉援助技術実習（3年次春学期開講）の履修条件として、2年次秋学期終了までに下表「実習参加条件科目（ア）～（ウ）」の必要科目をすべて修得していること。

（ア）は12科目を必修、（イ）は3科目の中から1科目を選択必修、（ウ）は11科目の中から6科目を選択必修となります。

ライフデザイン学部規程 別表第8

指定科目	本学開講科目	実習参加条件科目 2年次秋学期まで			配当学年	単位数
		(ア)	(イ)	(ウ)		
		12科目	1科目	6科目		
人体の構造と機能及び疾病 心理学理論と心理的支援 社会理論と社会システム	医学一般		選必		1年	2
	心理学	1科目選択	選必		1～4年	2
	社会学		選必		1～4年	2
現代社会と福祉	社会福祉学原論Ⅰ	必			1年	2
	社会福祉学原論Ⅱ	必			1年	2
地域福祉の理論と方法	地域福祉論Ⅰ			選必	2・3年	2
	地域福祉論Ⅱ			選必	2・3年	2
社会保障	社会保障論Ⅰ			選必	2・3年	2
	社会保障論Ⅱ			選必	2・3年	2
低所得者に対する支援と生活保護制度	低所得者福祉論			選必	2・3年	2
福祉行財政と福祉計画	社会福祉運営論				2・3年	2
保健医療サービス	医療福祉総論			選必	2年	2
権利擁護と成年後見制度	権利擁護論				2・3年	2
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	障害者福祉論			選必	2・3年	2
精神疾患とその治療	精神医学Ⅰ	必			2年	2
	精神医学Ⅱ			選必	2年	2
精神保健の課題と支援	精神保健Ⅰ	必			1年	2
	精神保健Ⅱ	必			1年	2
精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）	社会福祉援助技術論Ⅰ	必			1年	2
精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	精神保健福祉援助技術総論	必			1年	2
精神保健福祉の理論と相談援助の展開	精神保健福祉援助技術各論Ⅰ	必			2年	2
	精神保健福祉援助技術各論Ⅱ			選必	2年	2
	精神科リハビリテーション学Ⅰ				3年	2
	精神科リハビリテーション学Ⅱ				3年	2
精神保健福祉に関する制度とサービス	精神保健福祉論Ⅰ	必			2年	2
	精神保健福祉論Ⅱ			選必	2年	2
精神障害者の生活支援システム	精神保健福祉論Ⅲ				3年	2
精神保健福祉援助演習（基礎）	社会福祉援助技術演習Ⅰ	必			2年	2
精神保健福祉援助演習（専門）	精神保健福祉援助技術演習Ⅰ	必			2年	2
	精神保健福祉援助技術演習Ⅱ			選必	2年	2
精神保健福祉援助実習指導	精神保健福祉援助技術実習指導Ⅰ				2年	1
	精神保健福祉援助技術実習指導Ⅱ				3年	1
	精神保健福祉援助技術実習指導Ⅲ				3年	1
精神保健福祉援助実習	精神保健福祉援助技術実習				3年	4
—	専門職論 ※1	必			1年	2
本学における必要単位数合計						65

※1 「専門職論」は、精神保健福祉士の指定科目外となりますが、実習参加条件のため修得が必要です。

(5) 精神保健福祉士受験資格取得スケジュール

下記のスケジュールはあくまでも予定であり、日程が前後することがあります。詳細は掲示や授業時の指示に従ってください。

<1年次>

4月上旬

諸資格ガイダンス（概要説明）



9月下旬

資格ガイダンス



10月上旬

精神保健福祉士受験資格取得希望票提出



※課題レポートの提出

レポート課題「精神保健福祉士の資格取得を目指す理由」

レポート課題「精神保健福祉士の資格取得を目指す理由」
A4用紙を使用してください。文字数は2,000字以上とします（行数等の書式は特に問いません）。提出期日及び場所等については第1回資格ガイダンス時及びToyoNet-ACEを通じて連絡します。本課題の提出は精神保健福祉士の資格取得のためにコース教員が定めた必須条件です。未提出の人、又は期日に間に合わない人は2年次以降の演習科目履修を認めることはできません。取得を希望する人は必ず期日までに提出してください。



10月中旬～

事前学習会（第1～4回）（10月～1月予定）



2月上旬

個人連絡票提出・締切



2月中旬

春休み施設見学（～3月）

<2年次>

4月中旬

第5回事前学習会



9月下旬

精神保健福祉援助技術実習指導Ⅰ履修※社福希望者は3年次に履修



1月下旬

実習先配属面接指導（予定）



3月上旬

実習の参加予定者発表

<3年次>

4月上旬

精神保健福祉援助技術実習指導Ⅱ履修



7月中旬

精神保健福祉援助技術現場実習実施（7月～11月）※社福希望者は4年次に実施



9月下旬

精神保健福祉援助技術実習指導Ⅲ履修

<4年次>

4月上旬

国家試験対策スタート



7月中旬

精神保健福祉援助技術実習実施（7月～11月予定）※社福希望者のみ
（社福希望者は3年次：実習指導Ⅰ、4年次：実習指導Ⅱ・実習指導Ⅲの履修が必要です。）



9月下旬

国家試験受験申込（9月下旬～10月上旬）



2月上旬

精神保健福祉士国家試験受験



3月

精神保健福祉士国家試験合格者発表

◆ (3) 介護福祉士（生活支援学科生活支援学専攻※介護福祉士コース所属学生のみ） ◆

介護福祉士は、名称独占の国家資格です。1987年5月「社会福祉士及び介護福祉士法」制定、1988年4月施行によって誕生しました。介護福祉士とは、「身体上又は精神上の障害があることにより日常生活を営むのに支障がある者につき、心身の状況に応じた介護（喀痰吸引その他のその者が日常生活を営むのに必要な行為であって医師の指示の下に行われるもの（厚生労働省令で定めるものに限る：以下略））を行い、並びにその者及びその介護者に対して介護に関する指導を行うことを業とする者」（社会福祉士及び介護福祉士法）をいいます。

(1) はじめに

本学では、「総合職としての介護福祉士（介護総合職）」の育成をめざしています。1対1の支援ができるだけでなく、利用者に適した福祉用具のアドバイスや住みやすい生活環境を整えることのできる総合的な能力を持つ介護福祉士が求められています。利用者のできることに着目し、できないことを支援しつつ、背景となる要因を読み解くことで、利用者に合わせて個別の介護を組み立てる「考える力と実践力」が必要になります。

本学の介護福祉士コースの特徴は、1年次から4年次まで毎年積み上げていく介護福祉実習です。小規模多機能・デイサービス・グループホーム・高齢者施設・障害者施設・訪問介護などの多様な実習施設で実習を行います。実習で担当する「受け持ち事例」を学内で検討し、個別の支援計画を作成し、実践する教育を重視しています。卒業5年後の活躍する人物像としては、①介護現場のリーダー、②介護関連企業での企画提案、③ケアマネジャー、④介護福祉学の教員や研究者をめざした大学院進学など、社会が必要としている介護福祉士です。

(2) 資格

ライフデザイン学部生活支援学科生活支援学専攻介護福祉士コースに所属し、指定された科目の単位を修得して、卒業した者は介護福祉士国家試験の受験資格を取得できます。なお、2021年度まで、卒業と同時に介護福祉士（暫定）として扱われますが、介護福祉士となるには、国家試験を受験して合格するか、もしくは卒業から5年間連続して現場に従事することが必要となります。

本コースでは、卒業時に国家試験を受験し、資格を取得することを支援しています。

(3) 所属

①介護福祉士コースについて（定員40名）

これまで介護福祉士は短期大学・専門学校などの2年課程で多く養成されてきました。しかし、本学では4年課程で介護福祉士を養成します。この背景には、今、自立支援や個人の権利の尊重など社会福祉の基礎的な理念をベースとした介護福祉支援を展開できる介護福祉士が必要とされているためです。また、介護福祉支援も高齢者や障害者の特別な疾患に合わせた専門性が要求される時代になりました。それらの要望に応えるために本学では4年課程で介護福祉士を養成しています。したがって、本学介護福祉士コースでは社会福祉の理念や技術を基礎にした介護総合職としての介護福祉士養成を目指しています。社会福祉実践現場で利用者の生活や権利を最後まで守るという強い意識を持ち続ける介護福祉士を養成したいと考えています。

②コース選択時の注意事項

介護福祉士コース履修学生はライフデザイン学部生活支援学科の卒業要件（124単位）を満たすだけでなく、介護福祉士養成課程の資格要件の科目も併せて履修が必要です。そのため、通常の卒業単位より30単位以上多くの科目を履修し、また学外実習も、介護実習だけでも450時間以上実施することになります。

介護福祉士コースに所属して介護福祉士の受験資格取得を目指す学生が、社会福祉士と精神保健福祉士の両方の受験資格の取得を希望することは、時間割編成上きわめて困難です。複数の資格取得を希望する場合、十分検討してください。

介護福祉士は福祉現場の最前線で直接利用者と関わります。人と接すること、人を援助することに情熱と使命が必要な仕事でもあります。将来、このような職場で働きたいという学生

がコースを選択することを望みます。

介護福祉士コース履修者の決定は毎年入学初年度に行われます。入学初年度以降はコースの履修が認められないので、十分に考慮してコースを選択してください。

③コース選抜方法

1年次に、下記の条件を満たしていることを前提として学内で選抜を行います。詳細は4月の入学時に行われる説明会にて確認してください。

1. 新入生ガイダンス時の介護福祉士コース説明会への参加
2. 介護福祉士相談会への参加
3. 介護福祉士コース希望登録票の提出
4. 面接による選考
5. コース選抜結果発表

選抜にあたっては、上記の内容及び学業の状況を総合的に評価し、専任教員による判定会議で行うものとします。

対象となるのは生活支援学科生活支援学専攻の1年生のみとし、その他の学生は選抜対象にはなりません。

④履修上の注意

「介護福祉士コース」の学生は、1年次秋学期以降、履修登録単位数の上限が1セメスタあたり28単位（通常の24単位に4単位を加算できる）となります。

また、介護福祉実習Ⅰ～Ⅳは、それぞれ別途履修するための条件があります。

介護福祉士コースの科目「実習指導の理論と方法」（2単位）は、介護福祉士の養成指定科目以外の科目です。隔年開講、集中講義、2020年度8月～9月の予定です。

⑤他の資格の取得について

介護福祉士コースに所属する場合、この資格取得のために必要となる単位数が大変多くなるため、他の資格取得等に支障が生じることがあります。

指定科目の重複が多く、関連性の高い社会福祉士の資格と併せて取得を目指すことは推奨しますが、精神保健福祉士の資格取得を併せて目指すことは実質的に難しく、避けることが望ましいでしょう。

(4) 介護福祉実習

介護福祉士国家試験の受験資格を取得するためには、1年次から4年次まで、社会福祉施設・事業所における450時間以上の実習が必要になります。科目の履修にあたっては、下記の履修条件を満たさなければなりません。

科目名	時期	日数	履修条件
介護福祉実習Ⅰ	1年次秋学期	12日間	なし
介護福祉実習Ⅱ	2年次秋学期	18日間	介護福祉実習Ⅰを修得していること
介護福祉実習Ⅲ	3年次春学期	18日間	介護福祉実習Ⅱを修得していること
介護福祉実習Ⅳ	4年次春学期	12日間	介護福祉実習Ⅲを修得していること

(5) 介護総合演習・介護過程

介護総合演習Ⅰ～Ⅳと介護過程Ⅰ～Ⅳは、それぞれの科目において、ひとつひとつの積み上げが必要となる内容となっています。そのため、科目の履修にあたっては、下記の履修条件を満たさなければなりません。

科目名	時期	履修条件
介護総合演習Ⅰ	1年次春学期	なし
介護総合演習Ⅱ	2年次春学期	介護総合演習Ⅰを修得していること
介護総合演習Ⅲ	2年次秋学期	介護総合演習Ⅱを修得していること
介護総合演習Ⅳ	3年次秋学期	介護総合演習Ⅲを修得していること

科目名	時期	履修条件
介護過程Ⅰ	1年次秋学期	なし
介護過程Ⅱ	2年次秋学期	介護過程Ⅰを修得していること
介護過程Ⅲ	3年次春学期	介護過程Ⅱを修得していること
介護過程Ⅳ	4年次春学期	介護過程Ⅲを修得していること

(6) 介護福祉士指定科目

ライフデザイン学部規程 別表第9

介護福祉士国家試験の受験資格を取得するためには、①②の条件をすべて満たさなければなりません。

①下記の科目15単位をすべて修得すること。

領域	科目名	教育内容	本学開講科目	配当学年	単位数	
人間と社会	人間の理解	人間の尊厳と自立	社会福祉学原論Ⅰ	1年	2	
		人間関係とコミュニケーション	生活支援学演習ⅠB	1年	1	
	社会の理解	社会の理解	社会福祉の基礎	社会福祉学原論Ⅱ	1年	2
			社会学	社会学	1～4年	2
		人間と社会に関する選択科目	心理学	心理学	1～4年	2
			社会保障論Ⅰ	社会保障論Ⅰ	2・3年	2
			社会保障論Ⅱ	社会保障論Ⅱ	2・3年	2
			本学における必要単位数合計			

②下記の科目をすべて修得すること。

領域	教育内容	本学開講科目	配当学年	単位数
介護	介護の基本	介護福祉援助概論Ⅰ	1年	2
		介護福祉援助概論Ⅱ	1年	2
		介護福祉援助概論Ⅲ	2年	2
		介護福祉援助概論Ⅳ	3年	2
		介護福祉援助概論Ⅴ	3年	2
		介護福祉援助概論Ⅵ	4年	2
	コミュニケーション技術	介護コミュニケーション技術Ⅰ	2年	2
		介護コミュニケーション技術Ⅱ	2年	2
	生活支援技術	生活支援技術Ⅰ	1年	1
		生活支援技術Ⅱ	1年	1
		生活支援技術Ⅲ	2年	1
		生活支援技術Ⅳ	2年	1
		生活支援技術Ⅴ	2年	1
		生活支援技術Ⅵ	2年	1
		生活支援技術Ⅶ	3年	1
		生活支援技術Ⅷ	3年	1
		生活支援技術Ⅸ	4年	1
		生活支援技術Ⅹ	3年	1
	介護過程	実習の基礎	1年	2
		介護過程Ⅰ	1年	1
		介護過程Ⅱ	2年	1
		介護過程Ⅲ	3年	1
		介護過程Ⅳ	4年	1
	介護総合演習	介護総合演習Ⅰ	1年	1
		介護総合演習Ⅱ	2年	1
		介護総合演習Ⅲ	2年	1
		介護総合演習Ⅳ	3年	1
介護実習	介護福祉実習Ⅰ	1年	2	
	介護福祉実習Ⅱ	2年	3	
	介護福祉実習Ⅲ	3年	3	
	介護福祉実習Ⅳ	4年	2	
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解	高齢者福祉論Ⅰ	2・3年	2
		発達と老化の理解	1～4年	2
	認知症の理解	認知症の理解Ⅰ	1～4年	2
		認知症の理解Ⅱ	1～4年	2
	障害の理解	障害者福祉論	2・3年	2
		障害の理解	1～4年	2
	こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみⅠ	1～4年	2
		こころとからだのしくみⅡ	1～4年	2
		こころとからだのしくみⅢ	1～4年	2
		医学一般	1年	2
医療的ケア	医療的ケア	医療的ケアⅠ	3年	2
		医療的ケアⅡ	3年	2
		医療的ケアⅢ	4年	2
本学における必要単位数合計				72

(6) 介護福祉士受験資格取得スケジュール

下記のスケジュールはあくまでも予定であり、日程が前後することがあります。詳細は掲示や授業時の指示に従ってください。

< 1 年次 >

4月上旬	介護福祉士コース説明会
	↓
4月中旬	介護福祉士コース選抜（相談会・コース希望登録票提出・面接）
	↓
	介護総合演習Ⅰ：介護福祉実習Ⅰ実習事前指導
	↓
9月下旬	介護過程Ⅰ：介護福祉実習Ⅰの実習前・実習中・事後指導
	↓
10～11月	介護福祉実習Ⅰ：10月中に2日間+11月中に10日間（合計12日間）
	↓
12月	実習報告会

< 2 年次 >

4月上旬	介護総合演習Ⅱ：介護福祉実習Ⅱの実習事前指導
	↓
9月下旬	介護過程Ⅱ：介護福祉実習Ⅱの実習前・実習中・事後指導 介護総合演習Ⅲ：介護福祉実習Ⅲの実習事前指導
	↓
11～12月	介護福祉実習Ⅱ：18日間
	↓
12月	実習報告会

< 3 年次 >

4月上旬	介護過程Ⅲ：介護福祉実習Ⅲの実習前・実習中・事後指導
	↓
5～6月	介護福祉実習Ⅲ：18日間
	↓
9月下旬	介護総合演習Ⅳ：介護福祉実習Ⅳの実習事前指導
	↓
12月	実習報告会
	↓
2月第3水曜日	卒業時共通試験

< 4 年次 >

4月下旬	介護過程Ⅳ：介護福祉実習Ⅳの実習前・実習中・事後指導
	↓
5～6月	介護福祉実習Ⅳ：12日間
	↓
9月下旬(予定)	介護福祉士国家試験受験申し込み
	↓
12月	実習報告会
	↓
1月(予定)	介護福祉士国家試験受験
	↓
3月(予定)	介護福祉士国家試験合格者発表

◆ 〈4〉 保育士（生活支援学科子ども支援学専攻） ◆

保育士は、児童福祉施設において児童の保育に従事するものとされてきました。

しかし、少子化や核家族化の進行、女性の社会進出の本格化、就業形態の多様化、地域の子育て機能の低下など、近年の児童を取りまく家庭や地域の環境は、著しく変化しています。これに伴い、専門性が高く、かつ、多様なサービスに対応することのできる資質の高い保育士が求められるようになりました。

地域の子育て支援の中核を担う専門職としての保育士の重要性を踏まえて、2001年、保育士資格は法定化され、保育士でない者が保育士の名称を使用することはできなくなりました。また、守秘義務や信用失墜行為の禁止などの規定が盛り込まれました。保育士が働く児童福祉施設は、0歳から18歳までの児童を扱い、その種類も多岐にわたります。

保育士資格を取得するためには、厚生労働大臣の指定する保育士養成施設で指定の単位を修得し卒業すること、あるいは保育士試験に合格することが必要です。生活支援学科子ども支援学専攻は、保育士養成施設として、厚生労働省から指定されています。保育士資格を取得した後に、登録することによってはじめて保育士の名称を用いて働くことができます。

(1) 業務

保育士は、専門的知識及び技術をもって、児童の保育及びその保護者に対する保育に関する指導を行う専門職として法律（児童福祉法）で定められています。保育士の業務は、子どもの「保育」と、「児童の保護者に対する指導」すなわち「保育指導」の2つということになります。保育指導は、保育所をはじめとする児童福祉施設内の子どもの保護者だけでなく、保育所に通っていない地域社会の子どもの保護者への指導等も含まれます。

(2) 資格

ライフデザイン学部生活支援学科子ども支援学専攻に所属し、児童福祉法施行規則により指定された必修科目、選択必修科目、一般教養科目の単位を修得して卒業した者は、保育士資格を取得できます。

なお、保育士となるには、次に掲げるそれぞれの資格要件を有する者が、都道府県の備える保育士登録簿に氏名、生年月日その他厚生労働省令で定める事項の登録をしなければなりません。

登録の申請は、申請書に戸籍抄本、住民票、申請手数料4,200円（2017年度参考）を添えて、都道府県知事に申請します。登録が完了すると、卒業後に保育士証が交付されます。

(3) 保育士指定科目

保育士資格を取得するためには、下記の①②③の条件をすべて満たさなければなりません。

①必修科目

下記別表第1の科目55単位をすべて修得すること。

(別表第1)

ライフデザイン学部規程 別表第10

省令		本学開講科目	配当学年	単位数
系列	教科目			
保育の本質・目的に関する目的に関する科目	保育原理	保育原理	1年	2
	教育原理	教育基礎論	1年	2
	児童家庭福祉	児童福祉論	1年	2
	社会福祉	社会福祉学原論Ⅰ	1年	2
	相談援助	社会福祉援助技術演習Ⅰ	2年	2
	社会的養護	社会的養護	1年	2
	保育者論	教職概論	1年	2
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学Ⅰ	発達心理学	1年	2
	保育の心理学Ⅱ	教育心理学	2年	1
	子どもの保健Ⅰ	子どもの保健Ⅰ	2年	2
		子どもの保健Ⅱ	3年	2
	子どもの保健Ⅱ	子どもの保健Ⅲ	4年	1
	子どもの食と栄養	子どもの食と栄養（実習含む）	1年	2
	家庭支援論	家庭支援論	4年	2

保育の内容・方法に関する科目	保育課程論	保育教育課程論	2年	2	
	保育内容総論	保育内容総論	1年	1	
	保育内容演習	保育内容演習（ことば）		2年	1
		保育内容演習（環境）		2年	1
		保育内容演習（健康）		2年	1
		保育内容演習（人間関係）		2年	1
		保育内容演習（音楽表現）		3年	1
		保育内容演習（造形表現）		2年	1
	乳児保育	乳児保育Ⅰ		2年	1
		乳児保育Ⅱ		4年	1
	障害児保育	障害児保育Ⅰ		1年	1
		障害児保育Ⅱ		2年	1
	社会的養護内容	社会的養護内容		2年	1
保育相談支援	保育相談支援		4年	1	
保育の表現技術	保育の表現技術	保育表現技術（造形）	1年	1	
		保育表現技術（言語）	1年	1	
		保育表現技術Ⅰ（音楽）	1年	1	
		保育表現技術Ⅱ（音楽）	2年	1	
		保育表現技術Ⅰ（体育）	1年	1	
		保育表現技術Ⅱ（体育）	2年	1	
保育実習	保育実習Ⅰ	保育実習ⅠA（施設）	2年	2	
		保育実習ⅠB（保育所）	3年	2	
	保育実習指導Ⅰ	保育実習指導ⅠA（施設）	2年	1	
		保育実習指導ⅠB（保育所）	3年	1	
総合演習	保育実践演習	保育・教職実践演習	4年	2	
本学における必要単位数合計				55	

②選択科目

下記別表第2から、「保育実習」3単位を含み、9単位を修得すること。

なお、「保育実習」は、選択必修A「保育実習Ⅱおよび保育実習指導Ⅱ」または選択必修B「保育実習Ⅲおよび保育実習指導Ⅲ」のいずれか選択必修。

(別表第2)

ライフデザイン学部規程 別表第10

省令		本学開講科目	配当学年	単位数	備考
系列	教科目				
保育の本質・目的に関する科目		教育制度論	1年	2	
		子どもソーシャルワーク	3年	1	
		子どもの権利と教育	1～4年	2	
保育の対象の理解に関する科目		幼児理解と保育カウンセリング	3年	2	
		多文化共生保育・教育	3年	1	
保育の内容・方法に関する科目		保育指導法	3年	2	
		多文化共生保育・教育実践	1～4年	1	
		子育て支援実践	1～4年	1	
		子ども支援学専門演習	4年	1	
保育の表現技術		音楽あそびの実践	3～4年	2	
		体育あそびの実践	3～4年	2	
		造形あそびの実践	3～4年	2	
		保育音楽表現技術	3～4年	2	
保育実習	保育実習Ⅱ	保育実習Ⅱ（保育所）	4年	2	Ⅱ、Ⅲいずれかを選択必修
	保育実習指導Ⅱ	保育実習指導Ⅱ（保育所）	4年	1	
	保育実習Ⅲ	保育実習Ⅲ（施設）	4年	2	
	保育実習指導Ⅲ	保育実習指導Ⅲ（施設）	4年	1	
本学における必要単位数合計				9	

③一般教養的科目

別表第1、別表第2の他に、下記別表第3に従って単位を修得すること。

(別表第3)

ライフデザイン学部規程 別表第10

省令		本学開講科目	配当学年	単位数	備考
系列	教科目				
教養科目	外国語、体育以外の科目	文学	1~4年	2	6単位選択必修
		文章読解	1~4年	2	
		国語表現法	1~4年	2	
		口頭表現法	1~4年	2	
		レポート・論文のまとめ方	1~4年	2	
		音楽一般	1~4年	2	
		美術一般	1~4年	2	
		哲学	1~4年	2	
		世代論	1~4年	2	
		心理学	1~4年	2	
		日本国憲法	1~4年	2	
		社会学	1~4年	2	
		学校と地域(学校安全を含む)	1~4年	2	
		外国語	基礎英語演習Ⅰ	1年	
	基礎英語演習Ⅱ		1年	1	
	応用英語演習Ⅰ		2年	1	
	応用英語演習Ⅱ		2年	1	
	体育に関する実技	スポーツ健康科学実技ⅠA	1~4年	1	1単位選択必修
		スポーツ健康科学実技ⅠB	1~4年	1	
		スポーツ健康科学実技ⅡA	1~4年	1	
		スポーツ健康科学実技ⅡB	1~4年	1	
		スポーツ健康科学実技ⅢA	1~4年	1	
		スポーツ健康科学実技ⅢB	1~4年	1	
	体育に関する講義	危機管理と救急法	1~4年	2	2単位選択必修
		健康教育学	2~4年	2	
		生涯スポーツ論	1年	2	
	本学における必要単位数合計				11

※1「健康教育学」・「生涯スポーツ論」は健康スポーツ学科の他学科開放科目となります。

(4) 保育実習

保育実習は、児童福祉法施行規則により指定された必修科目、選択必修科目の中に含まれています。

修得した教科全体の知識、技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟することが目的です。

保育士国家資格取得のためには、2年次に12日間(保育実習(施設))、3年次に12日間(保育実習(保育所))、4年次に12日間(保育実習(保育所)と保育実習(施設)のどちらか選択)の実習が必要になります。科目の履修にあたっては、下記の条件(法改正のため入学年度により異なります)を満たさなければなりません。なお、学外実習スケジュールは関連法令改正等の理由により変更となる場合があります。

科目名	実習先	時期	日数	履修条件	
保育実習ⅠA(施設)	児童福祉施設等	2年次春季休暇	12日間	保育原理・社会的養護・保育内容総論の単位を修得済みであること。	
保育実習ⅠB(保育所)	保育所	3年次夏季休暇	12日間		
選択 (どちらかを選択)	保育実習Ⅱ(保育所)	保育所	4年次夏季休暇	12日間	保育実習ⅠA(施設)・保育実習ⅠB(保育所)・保育実習指導ⅠA(施設)・保育実習指導ⅠB(保育所)の単位を修得済みであること。
	保育実習Ⅲ(施設)	児童福祉施設等、または児童厚生施設又は児童発達支援センターその他社会福祉関係諸法令の規定に基づき設置されている施設であって保育実習を行う施設として適当と認められるもの(保育所は除く。)	4年次夏季休暇	12日間	

(5) 保育士資格取得スケジュール

下記のスケジュールはあくまでも予定のため前後する場合があります。詳細は授業時や掲示等の指示に従ってください。

< 1年次 >

4月

1年次 資格ガイダンス／個人票提出

< 2年次 >

4月

2年次 資格ガイダンス



2月

保育実習ⅠA（施設）12日間（2月～3月予定）

< 3年次 >

4月上旬

3年次 資格ガイダンス



5月

保育実習Ⅱ（保育所）・保育実習Ⅲ（施設）選択アンケート



9月下旬

保育実習ⅠB（保育所）12日間（8月～9月予定）

< 4年次 >

4月上旬

4年次 資格ガイダンス



8月中旬

保育実習Ⅱ（保育所）又は保育実習Ⅲ（施設）12日間（8月～9月予定）



11月上旬

保育士一括登録説明会／一括登録手続き

< 卒業後 >

保育士証の受取（6月初旬～6月下旬予定）

※登録事務処理センターより発送されます。

◆ 〈5〉 GFI (グループエクササイズフィットネスインストラクター) (生活支援学科・健康スポーツ学科) ◆

(1) 資格の内容

公益社団法人日本フィットネス協会（JAF）は、フィットネス（健康・体力づくり）を目的に集団で行う運動を「グループエクササイズ」と捉え、現在の健康レベルを維持または向上させることを目的として、集団を対象に指導を行う者を「グループエクササイズフィットネスインストラクター（GFI）」と位置づけました。

本学では、GFIのうち、エアロビックダンスエクササイズ指導者資格であるADBI（中級レベル）とADI（上級レベル）の取得が可能です。各資格の特徴は以下の通りです。

●ADBI（中級レベル）

健康体力づくりのための運動指導に必要な専門知識を備え、エアロビックダンスエクササイズの基本動作の見本が正しく示せる実演能力と、グループに対して適切なタイミングで動きの指示ができる能力を有する者に対して認定する。

●ADI（上級レベル）

健康体力づくりのための運動指導に必要な専門知識を備え、運動強度の適切な調節とスムーズな動きのつなぎを考慮したエアロビックダンスエクササイズのプログラミングができ、安全性と効果、動機付けにつながる高いグループ指導能力を有する者に対して認定する。

(2) 指定科目一覧

下記の科目19単位すべて修得しなければなりません。

GFIガイドライン	本学開講科目	配当学年	単位数
フィットネス概論	トレーニング概論	1～4年	2
運動器の基礎解剖学	解剖学	1年	2
運動生理学	運動生理学	2年	2
体力学	測定評価	2～4年	2
トレーニング科学	アスレティックトレーニング論	2～4年	2
運動処方	運動処方（含運動負荷試験）	2～4年	2
運動と栄養・体重管理	スポーツと栄養	2～4年	2
心と運動	トレーニング概論	1～4年	—
運動と安全管理、事故・障害の予防	運動傷害と予防	2～4年	2
グループエクササイズ指導理論	エアロビクス基礎実習	1年	1
エアロビックダンスエクササイズ指導理論	エアロビクス指導法	2～4年	1
AD（エアロビックダンスエクササイズ）	エアロビクス実習	1～4年	1
本学における必要単位数合計			19

(3) 資格の取得方法

公益社団法人日本フィットネス協会（JAF）の評価担当者により行われる実技試験（3年次または4年次）に合格し、かつ(2)に示した本学開講科目をすべて履修することにより、筆記試験の受験資格が得られます（受験料は、初回実技試験受験時に17,000円(税込)）。実技・筆記試験合格者にはGFIの登録資格が与えられます（登録料13,000円(税込)）。ADI（上級レベル）合格者は、日本フィットネス協会正会員に入会しなければいけません（入会金及び初年度の年会費は無料(2年目以降は年会費15,000円)）。

なお、ADI（上級レベル）の実技試験を受験するためには、3・4年次の春学期または秋学期に開催される養成講座を受講することが必須となります。詳細は、資格ガイダンス時に確認して下さい。

(4) テキスト購入

GFIの受験を目指す学生は、以下のテキストを購入してください（任意）。

テキストは一般書店での取り扱いがないため、大学での予約販売期間を設けて一括購入します。

全学年の学生が購入できますので、当該資格取得希望者は検討してみてください。詳細は掲示板およびToyoNet-Gにて掲示します。

(参考)

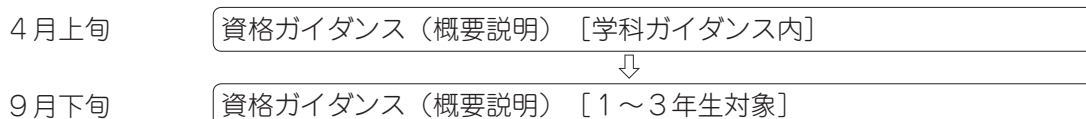
テキスト名	価格(税込み)
フィットネス基礎理論	3,024円
グループエクササイズ指導理論	756円
エアロビックダンエクササイズ指導理論	1,620円

(5) GFI 資格取得スケジュール

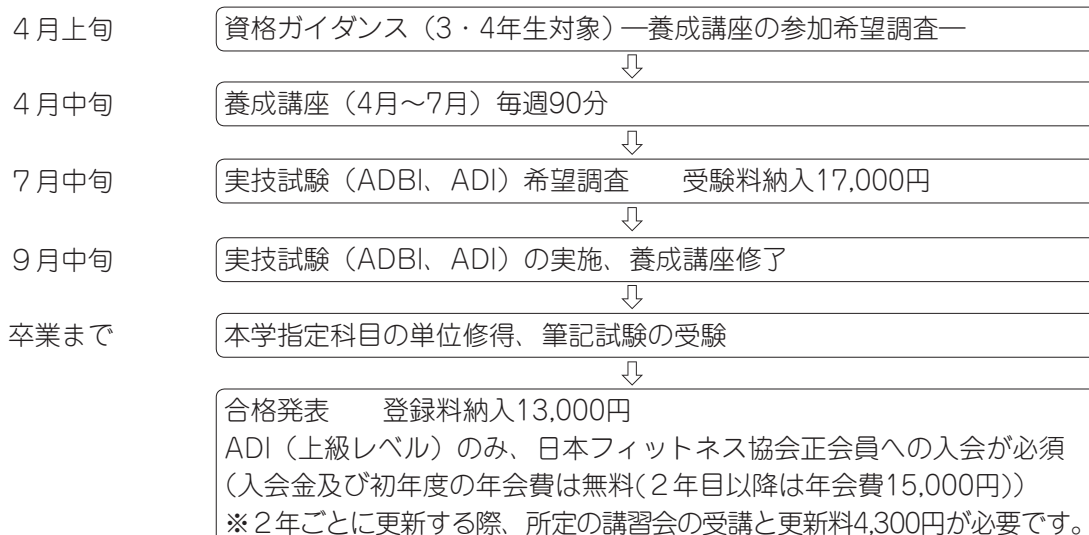
下記のスケジュールは、資格取得スケジュールの参考となります。

ガイダンス・諸手続きについては、随時中央掲示板およびToyoNet-Gで掲示します。

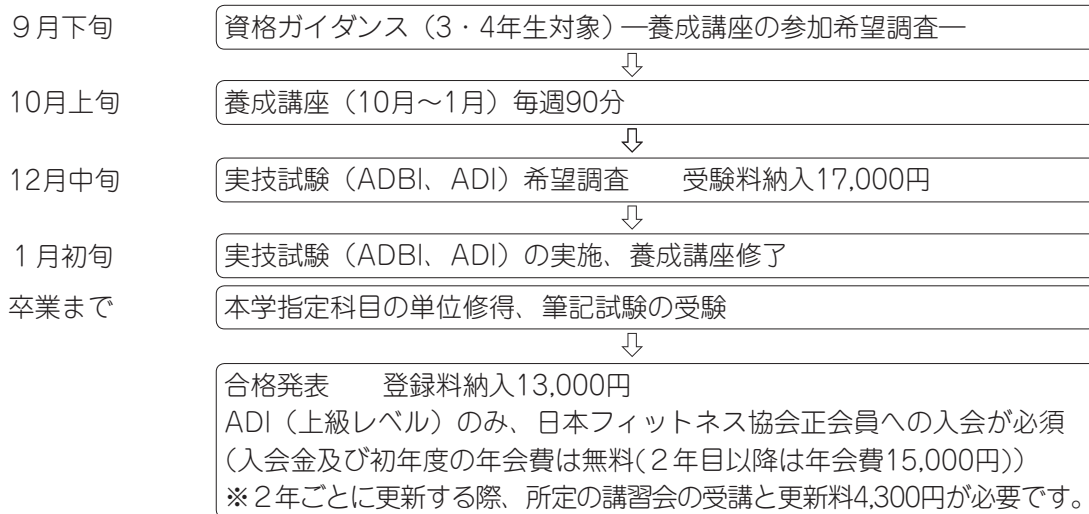
<1～3年次>



<3・4年次 春学期>



<3・4年次 秋学期>



3・4年次の春学期と秋学期については、同一サイクルのスケジュールとなります。
 筆記試験受験資格の取得の機会、年に2回あります。

◆ (6) 健康運動指導士（健康スポーツ学科） ◆

(1) 資格の内容

健康運動指導士の役割は、あらゆる人々への安全で効果的な運動プログラムの作成と指導であり、指導中心の健康運動実践指導者と連携した健康づくりのための運動支援です。今日では、メタボリックシンドロームの予防、生活習慣病ハイリスク者への運動指導、少子高齢社会を踏まえた介護予防の運動指導の専門家として必要性が増しており、メディカルスタッフと連携した健康運動指導士への期待が高まっています。

現在、健康運動指導士の約6割は、フィットネスクラブ、医療機関、老人福祉施設、健康増進施設等に就業し、健康づくり関連の業務に従事しています。

(2) 指定科目一覧

下記の本学開講科目をすべて修得しなければなりません。
入学年度により本学における必要単位数が異なります。

科目名	本学開講科目	配当学年	単位数
1. 健康づくり施策概論	健康科学概論	1年	2
2. 健康管理概論	医学一般	1～4年	2
	スポーツ医学	2～4年	2
3. 生活習慣病（成人病）	医学一般	1～4年	—
	スポーツ医学	2～4年	—
4. 運動生理学	運動生理学	2年	2
	スポーツ生理学	2～4年	2
5. 機能解剖とバイオメカニクス （運動・動作の力源）	解剖学	1年	2
	バイオメカニクス	2～4年	2
6. 健康づくり運動の理論	トレーニング概論	1～4年	2
	アスレティックトレーニング論	2～4年	2
	発育・発達・加齢論	1年	2
7. 運動障害と予防	スポーツ医学	2～4年	—
8. 体力測定と評価	測定評価	2～4年	2
9. 健康づくり運動の実際	トレーニング基礎実習	2～4年	1
	エアロピクス基礎実習	1年	1
	エアロピクス指導法	2～4年	1
	アクアピクス指導法	2～4年	1
	高齢者健康スポーツ指導法	2～4年	1
	健康産業施設等現場実習	4年	1
10. 救急処置	スポーツ医学	2～4年	—
11. 運動プログラムの管理	トレーニング概論	1～4年	—
	運動処方（含運動負荷試験）	2～4年	2
12. 運動負荷試験	運動処方（含運動負荷試験）	2～4年	—
13. 運動行動変容の理論と実際	コーチング概論	2～4年	2
14. 運動と心の健康増進	コーチング概論	2～4年	—
15. 栄養摂取と運動	スポーツと栄養	2～4年	2
本学における必要単位数合計			34

(3) 資格の取得方法

(2)に示した本学開講科目をすべて修得し、かつ卒業見込みがある場合、「健康運動指導士認定試験」の受験資格を得られます。認定試験に合格し、公益財団法人健康・体力づくり事業財団に登録を行うことにより「健康運動指導士」の資格が取得できます。

(4) 関連科目の紹介 ～履修推奨科目～

健康運動指導士の受験資格を目指す学生に対し、下記の関連科目の履修を推奨しています。

関連科目の修得の有無は受験資格の取得の可否に影響はありませんが、受験資格取得を目指す学生は積極的に履修するよう心がけてください。

No	科目名	配当学年	単位数
1	運動傷害と予防	2～4年	2
2	スポーツトレーニング指導法	2～4年	2
3	危機管理と救急法	1～4年	2

(5) 健康産業施設等現場実習

スポーツクラブや自治体所有の運動施設など、運動指導の現場（健康産業施設等）において7日間の実習を行う必要があります。実習では、運動プログラムの作成と指導について学ぶとともに健康 産業施設等における業務全般を体験します。

(6) テキスト購入

健康運動指導士の受験を目指す学生は、以下のテキストを購入してください（任意）。

テキストは一般書店での取扱いがないため、大学で予約販売期間を設けて一括購入します。

全学年の学生が購入できますので、当該資格取得希望者は検討してみてください。詳細は掲示板およびToyoNet-Gにて掲示します。

(参考) テキスト名 : 健康運動指導士養成講習会（養成校）テキスト

テキスト販売：毎年5月頃（予定）

テキスト代 : 1セット16,500円（2017年度参考）

※テキストの内容は年度によって改訂されることがあります。

(7) 健康運動指導士 資格取得スケジュール

下記のスケジュールは、資格取得スケジュールの参考となります。

ガイダンス・諸手続きについては、随時中央掲示板およびToyoNet-Gで掲示します。

< 1年次～3年次 >

4月上旬 資格ガイダンス（概要説明） [学科ガイダンス内]



5月中旬 テキスト購入（筆記試験用）

< 4年次 >

6月初旬 希望調査（受験）ガイダンス ※「健康産業施設等現場実習」履修希望者必須



9月下旬 「健康産業施設等現場実習」履修登録 ※履修登録期間



10月上旬 健康産業施設等現場実習ガイダンス



10月下旬 現場実習料納入 32,400円



12月下旬 現場実習期間

受験申込ガイダンス



1月 認定試験受験申込手続き 受験料納入 15,428円



2月下旬 卒業・資格単位充足者発表確認



3月下旬 認定試験（学外） ※4月中旬合格発表



< 卒業後 >

4月中旬 合格発表 登録料納入 24,686円（5年間有効）

※5年後に更新する際に、所定の講習会の受講と更新料21,600円が必要です。

※受験料等は、2017年4月1日現在の料金です。

◆ 〈7〉 健康運動実践指導者（生活支援学科・健康スポーツ学科） ◆

(1) 資格の内容

健康運動実践指導者は、健康づくりのための運動指導者に与えられる資格の一つです。医学的基礎知識、運動生理学の知識、健康づくりのための運動指導の知識・技能等を持ち、健康づくりを目的として作成された運動プログラムに基づき、ジョギング、エアロビックダンス、水泳および水中運動等のエアロビック・エクササイズ、ストレッチング、筋力、筋持久力トレーニング等の補強運動の実践指導を行うことが出来ると認められた者に与えられます。

この健康運動実践指導者として登録している人達の主な職場は健康増進センター・保健所・保健センター、病院・老人福祉施設・介護保健施設、アスレチッククラブ・フィットネスクラブなどとなります。この資格を有することにより、健康づくりを目指した運動実践のスペシャリストとして認められ、地方自治体、企業での健康づくりの専門家、福祉施設、病院、アスレチッククラブ等での健康づくりの専門家として就職することが考えられます。

(2) 指定科目一覧

下記の本学開講科目を受験年度の春学期までにすべて修得しなければなりません。

科目名	本学開講科目	配当学年	単位数
1. 健康づくり施策概論	健康科学概論	1年	2
	医学一般	1～4年	2
2. 運動生理学	運動生理学	2年	2
3. 機能的解剖とバイオメカニクス	解剖学	1年	2
	トレーニング概論	1～4年	2
4. 栄養摂取と運動	スポーツと栄養	2～4年	2
5-1. 体力測定と評価（講義）	測定評価	2～4年	2
5-2. 体力測定と評価（実習）	測定評価	2～4年	—
6. 健康づくりと運動プログラム	運動処方（含運動負荷試験）	2～4年	2
7. 運動指導の心理学的基礎	コーチング概論	2～4年	2
8-1. 健康づくり運動の実際 ウォームアップとクールダウン	トレーニング基礎実習	2～4年	1
8-2. 健康づくり運動の実際 ストレッチング	トレーニング基礎実習	2～4年	—
8-3. 健康づくり運動の実際 ウォーキングとジョギング	エアロピクス指導法	2～4年	1
8-4. 健康づくり運動の実際 エアロビックダンス	エアロピクス基礎実習	1年	1
8-5. 健康づくり運動の実際 水泳・水中運動	アクアピクス指導法	2～4年	1
8-6. 健康づくり運動の実際 レジスタンスエクササイズ	トレーニング基礎実習	2～4年	—
9-1. 運動障害と予防・救急処置	スポーツ医学	2～4年	2
9-2. 運動障害と予防・救急処置	スポーツ医学	2～4年	—
本学における必要単位数合計			24

(3) 資格の取得方法

(2) に示した単位をすべて修得することにより「健康運動実践指導者認定試験」の受験資格が得られます。在学中に全ての単位を修得しなければ、養成校において受験資格を得たと認められません。認定試験に合格し、公益財団法人日本健康・体力づくり事業財団に登録を行うことで「健康運動実践指導者」の資格を取得できます。なお、認定試験は3年生以上で必要科目を修得していれば受験することができます。

(4) テキスト購入

健康運動実践指導者の受験を目指す学生は、以下のテキストの購入してください（任意）。

テキストは一般書店での取扱いがないため、大学で予約販売期間を設けて一括購入します。

全学年の学生が購入できますので、当該資格取得希望者は検討してみてください。詳細は掲示板およびToyoNet-Gにて掲示します。

（参考）テキスト名：健康運動実践指導者用テキスト

テキスト販売：毎年5月頃（予定）

テキスト代：1冊 4,900円（2017年度参考）

※テキストの内容は年度によって改訂されることがあります。

(5) 健康運動実践指導者 資格取得スケジュール

下記のスケジュールは、資格取得スケジュールの参考となります。

詳細は、随時中央掲示板およびToyoNet-Gで掲示します。

< 1～3年次 >

4月上旬

資格ガイダンス（概要説明）[学科ガイダンス内]



9月下旬

資格ガイダンス 1～3年対象

< 3・4年次 >

4月下旬

認定試験受験ガイダンス1（受験希望調査）

5月中旬

テキスト購入



7月中旬

認定試験受験ガイダンス2（受験申込）



9月中旬

認定試験対策講習会実施（学内）



9月下旬

認定試験受験料納入



11月下旬

認定試験 実技試験（学外）



1月下旬

認定試験 筆記試験（学外）

◆ (8) 障がい者スポーツ指導員（生活支援学科・健康スポーツ学科） ◆

(1) 資格の内容

この資格は、障がい者のスポーツ振興と競技力向上に当たる指導者の資質と指導力の向上を図り、指導活動の促進と指導体制を確立するために、1985年に「財団法人日本障害者スポーツ協会」により制定されました。障がい者スポーツ指導員の種類には、スポーツ指導員（初級・中級・上級）とスポーツコーチが設けられていますが、ライフデザイン学部では初級障がい者スポーツ指導員の資格を取得することができます。初級障がい者スポーツ指導員の役割は、「高度なスポーツ技術の指導よりも、障がい者の障害内容に基づいた健康や安全管理を重視し、スポーツの喜びや楽しさを理解させることを重点とする」とされています。

障がい者または障がい児の生活習慣病予防、さらには生きがいやQOL（Quality of Life：人生の質）を考えたときレクリエーションやスポーツ活動は彼らにとって非常に重要な活動となります。しかしながら、障がい児・者のための施設などは医療や介護の専門家が中心となって構成されていることが多く、スポーツの指導員が不足しているのが現状です。今後、我が国が真の福祉国家を目指して行く際、広く求められる資格の一つであると考えられています。

(2) 指定科目一覧

下記の科目7単位すべて修得しなければなりません。

指定科目	本学開講科目	配当学年	単位数
障がいの理解とスポーツ ボランティア論	障がい者健康スポーツ論	2～4年	2
障がい者スポーツの意義と理念			
全国障がい者スポーツ大会の概要			
障がい者スポーツ指導者制度について			
安全管理	スポーツ医学	2～4年	2
障がい者福祉施策と障がい者スポーツ	障害者福祉論	2・3年	2
障がいに応じたスポーツの工夫・実施	障がい者健康スポーツ指導法	2～4年	1
障がい者との交流	別途指導	—	
本学における必要単位数合計			7

(3) 資格の取得方法

初級スポーツ指導員の資格取得のためには（2）に示した7単位を修得することが必要となります。申請には所定の資格取得申請書の提出および認定・申請手数料9,300円（2017年度参考）が必要です。詳細は、資格ガイダンス時に確認してください。

(4) 障がい者との交流

障がい者との交流とは、スポーツ活動現場に出かけ障がい者とのふれあいを体験することを目的としており、授業時間外に2時間以上行います。

具体的な内容や方法、注意事項等は「障がい者スポーツ指導員」関連科目の授業にて指示します。

(5) 障がい者スポーツ指導員 資格取得スケジュール

下記のスケジュールは、資格取得スケジュールの参考となります。
詳細は、随時中央掲示板およびToyoNet-Gで掲示します。

< 1 年次 >

4月上旬

資格ガイダンス（概要説明）[学科ガイダンス内]

< 4 年次 >

9月下旬

資格登録手続ガイダンス ※希望者参加必須



1月中旬

申請書提出・申請料納入



2月下旬

卒業単位充足者発表（資格取得条件充足の確認）



3月下旬

卒業式 資格証授与（申込者のみ）

◆ (9) レクリエーション・インストラクター（生活支援学科・健康スポーツ学科） ◆

(1) 資格の内容

レクリエーション・インストラクターの資格は、公益財団法人日本レクリエーション協会公認指導者資格制度として1983年にスタートしました。この資格は、(財)日本レクリエーション協会が「課程認定校制度」のなかで公認指導者養成カリキュラムの単位を修得することにより与えられます。レクリエーション・インストラクターは、対象者に合わせた多様なレクリエーション活動を支援する人材として、幼児教育施設、各種スポーツ施設、福祉や医療機関等の様々な領域に有効な資格です。

レクリエーション・インストラクターの資格を取得することにより、自身が生活を楽しむと同時に卒業後の進路において幅広い分野で「レクリエーションの心」、「多くの人との交流」が役に立ちます。

(2) 指定科目一覧

下記の表に従って、6単位を修得しなければなりません。

また、6単位に加えて、単位対象外の現場実習（事業参加）が必須になります。

	必要科目	本学開講科目	配当学年	単位数	備考
理論科目	レクリエーション理論	レクリエーション論	1年	2	必修
実技科目	レクリエーション実技	レクリエーション実習	2年	1	左の科目から2単位 選択必修
		福祉レクリエーション	2年	2	
実習科目	現場実習 (学外実習)	健康スポーツボランティア活動A	1～4年	2	左の科目から2単位 選択必修
		健康スポーツインターンシップA	2～4年	2	
		健康産業施設等現場実習	4年	1	
		社会福祉援助技術現場実習	3年	4	
		精神保健福祉援助技術実習	3年	4	
		介護福祉実習Ⅰ	1年	2	
		保育実習ⅠA（施設）	2年	2	
		保育実習ⅠB（保育所）	3年	2	
		教育実習Ⅰ（事前・事後指導を含む）	4年	5	
		教育実習Ⅱ（事前・事後指導を含む）	4年	3	
		教育実習Ⅲ（事前・事後指導を含む）	3年	5	
	養護実習（事前・事後指導を含む）	4年	5		
	現場実習 (事業参加)	各都道府県レクリエーション協会主催事業及び本学指定事業の2回の参加（うち1回は協会主催事業必須）	-	-	参加記録カードを持参し実習に参加すること (※(3)資格の取得方法参照)
本学における必要単位数合計				6	

(3) 資格の取得方法

レクリエーション・インストラクターの資格取得のためには(2)に示した6単位の修得および現場実習（事業参加）への参加が必要となります。

申請には所定の資格取得申請書、「現場実習」事業参加記録カードの提出および認定・申請手数料16,450円（2017年度参考）が必要です。詳細は、資格ガイダンス時に確認してください。

(4) 現場実習（事業参加）

現場実習は、「理論」と「実技」の学習を踏まえて、実際にそれらがどのように実践されているのかということを経験的に学習するために行われます。また、「事業参加」は、学外の行事やイベントに参加し、より実践力を身につけることを目的としたものです。

「事業参加」の具体的な内容や方法、注意事項等は「レクリエーション論」または「レクリエーション実習」「福祉レクリエーション」の授業にて指示します。

事業参加の際には、「現場実習」事業参加記録カードを持参し、主催者より認印をもらう必要

があります。参加前に朝霞事務課教務担当窓口で受取りを行ってください。

(5) レクリエーション・インストラクター 資格取得スケジュール

下記のスケジュールは、資格取得スケジュールの参考となります。
詳細は、随時中央掲示板およびToyoNet-Gで掲示します。

< 1～3年次 >

4月下旬

資格ガイダンス（概要説明） [学科ガイダンス内]

< 4年次 >

9月下旬

資格登録手続ガイダンス ※希望者参加必須



1月上旬

申請書・「現場実習」事業参加記録カード提出・申請料納入



2月下旬

卒業単位充足者発表（資格取得条件充足の確認）



3月下旬

卒業式 資格証授与（申込者のみ）

◆ 〈10〉 第一種衛生管理者（健康スポーツ学科） ◆

(1) 資格の内容

衛生管理者制度は、医師だけで事業場の衛生管理を行うことは困難であり、保健指導員を行うことができる専門職が必要であるとの考え方から、1947年の労働基準法の制定によって創設されたものです。衛生管理者は、常時50人以上200人以下の労働者を使用する事業場では1人以上、同様に200人を超え500人以下の労働者を抱える事業場では2人以上の有資格者を置かなければならないと義務づけられています。

第一種衛生管理者の主な職務は、職場における労働衛生の管理、職場における作業環境の管理（有害物質の管理や換気、照明等の日常点検等）、作業管理（労働者の疲労やストレスの把握等）、健康管理（職場における健康診断や健康づくり活動への協力）、労働衛生教育などで、「労働条件、労働環境の衛生的改善と疾病の予防処置等を担当し、事業場の衛生全般の管理をする者」と位置づけられています。第一種衛生管理者は厚生労働省認定の国家資格であり、免許状取得に際しては、在住する都道府県の労働局から授与されます。

(2) 指定科目一覧

下記の表に従って、32単位すべてを修得しなければなりません。

分野	本学開講科目	配当学年	単位数
労働衛生	労働衛生Ⅰ	3・4年	2
	労働衛生Ⅱ	3・4年	2
	公衆衛生学	1年	2
	運動疫学	2～4年	2
	健康科学概論	1年	2
	健康政策と行政	2～4年	2
	スポーツ医学	2～4年	2
労働生理	運動生理学	2年	2
	スポーツ生理学	2～4年	2
	解剖学	1年	2
	人体組織学	1～4年	2
	生理学	1年	2
	生化学	1年	2
関係法令	労働基準法	3・4年	2
	労働安全衛生法Ⅰ	3・4年	2
	労働安全衛生法Ⅱ	3・4年	2
本学における必要単位数合計			32

(3) 資格の取得方法

本学ライフデザイン学部健康スポーツ学科を卒業することと、当該資格取得のための科目のすべてを履修し、その単位修得をすることが必要となります。その上で、所定の手続きを経て、卒業後在住する都道府県の労働局にて申請、授与されます。

(4) 第一種衛生管理者 資格取得スケジュール

下記のスケジュールは、資格取得スケジュールの参考となります。
詳細は、随時中央掲示板およびToyoNet-Gで掲示します。

< 1～3年次 >

4月上旬

資格ガイダンス（概要説明）[学科ガイダンス内]

< 4年次 >

9月下旬

資格登録手順ガイダンス ※希望者参加必須



2月下旬

卒業単位充足者発表（資格取得条件充足の確認）
「単位修得証明証（第一種衛生管理者用）」の申込（300円）



3月下旬

卒業式 単位修得証明書授与（申込者のみ）



卒業後、各自で住民票のある都道府県の労働局に申請してください。

◆ <11> トレーニング指導者（健康スポーツ学科） ◆

(1) 資格の内容

特定非営利活動法人日本トレーニング指導者協会（通称JATI）の認定により、対象や目的に応じて、科学的根拠に基づく適切な運動プログラムの作成と指導ができることを証明する資格です。トレーニング指導者はその基礎資格として位置づけられ、スポーツ選手や一般人を対象とした指導の専門知識を習得したと認められた者に授与されます。資格取得者は競技スポーツ分野・健康増進分野・教育分野などでの活躍が期待され、卒業後に3年以上の実務経験を積むことで上級試験が受験可能となります。

(2) 指定科目一覧

下記の科目37単位をすべて修得しなければなりません。

	科目名	本学開講科目	配当学年	単位数	備考
一般科目	体力学総論	スポーツ生理学	2～4年	2	
	機能解剖（1）上肢	解剖学	1年	2	
	機能解剖（2）脊柱と胸郭				
	機能解剖（3）骨盤と下肢				
	バイオメカニクス（1）基礎理論	バイオメカニクス	2～4年	2	
	バイオメカニクス（2）スポーツ及びトレーニング動作のバイオメカニクス				
	運動生理学（1）呼吸循環器系・エネルギー代謝と運動	運動生理学	2年	2	
	運動生理学（2）骨格筋系・神経系・内分泌系と運動				
	運動と栄養（1）基礎理論	スポーツと栄養	2～4年	2	
	運動と栄養（2）スポーツ選手の競技力向上と栄養				
	運動と栄養（3）一般人の健康増進と栄養				
	運動と心理（1）基礎理論	スポーツ心理学	2～4年	2	
	運動と心理（2）スポーツ選手の競技力向上への活用				
	運動と心理（3）一般人の健康増進への活用				
	運動と医学（1）救急処置法	危機管理と救急法	1～4年	2	2科目 必修
		スポーツ応急処置演習	2～4年	2	
	運動と医学（2）スポーツ選手の整形外科的傷害と予防	スポーツ医学	2～4年	2	2科目 必修
		運動傷害と予防	2～4年	2	
運動と医学（3）生活習慣病とその予防	医学一般	1～4年	2		
運動指導の科学	コーチング概論	2～4年	2		
トレーニング指導者の役割	トレーニング概論	1～4年	2	2科目 必修	
	アスレティックトレーニング論	2～4年	2		
トレーニング計画の立案（総論）	アスレティックトレーニング論 トレーニングプログラミング論	2～4年	2	2科目 必修	
筋力トレーニングのプログラム作成					
パワー向上トレーニングの理論とプログラム作成					
有酸素性及び無酸素性持久力向上トレーニングの理論とプログラム作成					
スピード向上トレーニングの理論とプログラム作成					
ウォームアップとクールダウン・柔軟性向上トレーニングの理論とプログラム作成					
特別な対象のためのトレーニングとプログラム					
傷害の受傷から復帰までのトレーニングとプログラム					
筋力トレーニングの実際	トレーニング基礎実習 スポーツトレーニング指導法	2～4年	1	2科目 必修	
パワー向上トレーニングの実際					
有酸素性及び無酸素性持久力向上トレーニングの実際					
スピード向上トレーニングの実際					
ウォームアップとクールダウン・柔軟性向上トレーニングの実際					
トレーニング効果の測定と評価の実際	測定評価	2～4年	2	2科目 必修	
	トレーニングプログラミング論	2～4年	—		
測定データの活用とフィードバックの実際	測定評価	2～4年	—	2科目 必修	
	アスレティックトレーニング論	2～4年	—		
トレーニングの運営	アスレティックトレーニング論	2～4年	—		
運動指導のための情報収集と活用	トレーニング基礎実習	2～4年	—	2科目 必修	
	アスレティックトレーニング論	2～4年	—		
本学における必要単位数合計				37	

(3) 資格の取得方法

必要単位をすべて修得し、特定非営利活動法人日本トレーニング指導者協会が実施する認定試験に合格することで資格が得られます。筆記試験は一般科目90分＋専門科目90分のマークシート方式で、受験料は30,000円（税別）です。実技試験はありません。

(4) 資格取得スケジュール

下記のスケジュールは、資格取得スケジュールの参考となります。
詳細は、随時中央掲示板およびToyoNet-Gで掲示します。

< 1～3年次 >

4月下旬

資格ガイダンス（概要説明）[学科ガイダンス内]

< 4年次 >

9月下旬

認定試験受験ガイダンス



1月下旬

認定試験受験



2月下旬

単位充足者発表（資格取得条件充足の確認）



3月下旬

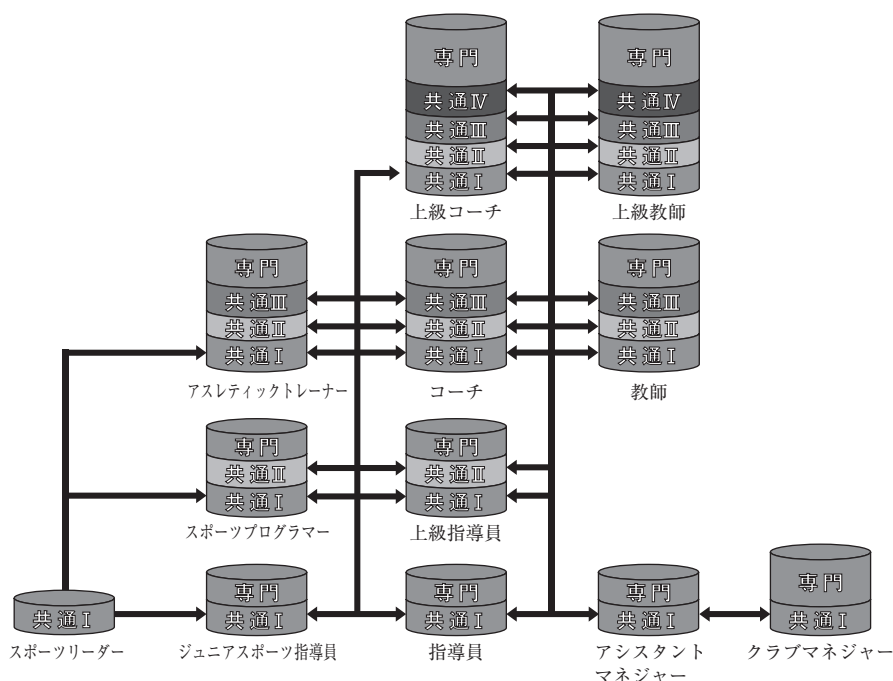
卒業式 認定証授与

◆ 〈12〉 公認スポーツ指導者（健康スポーツ学科） ◆

(1) 資格の内容

公益財団法人日本体育協会が認定している「公認スポーツ指導者制度」では、指導対象者の違いや環境によって各種の資格が存在します。

具体的には、地域におけるスポーツ指導の資格として「スポーツリーダー」、地域スポーツクラブや学校、商業施設等で競技別の専門的な指導資格として「指導員（上級指導員）—コーチ（上級コーチ）—教師（上級教師）」、地域スポーツクラブや公共施設、民間の商業施設等で身体づくりの実技指導資格として「ジュニアスポーツ指導員—スポーツプログラマー」、スポーツ医学の知識をもとに健康管理や競技能力向上の援助等の資格として「アスレティックトレーナー」、総合型地域スポーツクラブなどでマネジメントを担当する資格として「アシスタントマネージャー・クラブマネージャー」などがあります。



(2) 資格の取得について

上記の各資格については共通して学ぶべき内容としての「共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」と各資格特性に応じた「専門講習」に分けられています。各資格取得方法については、通常、日本体育協会主催の共通科目、専門講習を受講しなければなりません。本学では、「共通科目Ⅰ・Ⅱ」の受講が免除されるため、健康スポーツ学科の学生は4年次に修了証明書の発行手続きを行うことで、卒業と同時に「スポーツリーダー」の資格を取得できます。

なお、スポーツリーダー以外の資格取得を希望する学生は、上記の表のとおり各資格に必要な講習を受講し、検定試験を受け合格し、登録することによって資格認定されます。

(3) 公認スポーツ指導者 資格取得スケジュール

下記のスケジュールは、資格取得スケジュールの参考となります。
 詳細は、随時、中央掲示板およびToyoNet-Gで掲示します。

< 1年次 >

4月上旬

資格ガイダンス（概要説明） [学科ガイダンス内]

< 4年次 >

9月下旬

資格登録手続ガイダンス ※希望者参加必須



1月下旬

修了証明書発行料6,480円（2017年度参考）支払



3月下旬

卒業式 資格証授与（申込者のみ）

◆ 〈13〉 建築士（一級・二級・木造）（人間環境デザイン学科） ◆

(1) 資格

一級建築士および二級・木造建築士の資格は、以下の指定科目の単位を修得し、卒業した者が、受験資格を得られます。

①一級建築士

一級建築士は、国土交通大臣管轄の国家資格で、建築物の設計・工事監理をはじめ、建築物の調査鑑定、建築の申請、建築工事の指導監査、法に基づく手続きの代行など、その業務は建築全般に関する広範囲にわたります。一級建築士は建築用途、規模に関わらず設計や工事監理を行うことができます。

②二級建築士

二級建築士は、国土交通大臣管轄の国家資格で、延べ面積500平方メートル以下の建築物の設計、工事監理などの業務を行う建築技術者として認められます。住宅メーカーや建築関連企業などに所属して、住宅や街づくりに関するアイデアを提案・実行することもできます。

③木造建築士

木造建築士は、各都道府県知事が認定する国家資格で、1～2階建てで延べ面積300平方メートル以下の木造建築物の設計・工事監理を行うことができます。

(2) 分野ごとの必要単位数および建築実務経験年数

指定科目	一級建築士			二級・木造建築士		
	60単位	50単位	40単位	40単位	30単位	20単位
建築設計製図	7単位			5単位		
建築計画	7単位			7単位		
建築環境工学	2単位					
建築設備	2単位					
構造力学	4単位					
建築一般構造	3単位			6単位		
建築材料	2単位					
建築生産	2単位					
建築法規	1単位			1単位		
(a)指定科目の最低必要単位数	30単位			20単位		
(b)「(a)指定科目の最低必要単位数」を超えた単位数	適宜			適宜		
(a)+(b)=本学における必要単位数	60単位	50単位	40単位	40単位	30単位	20単位
建築実務の経験年数 ※	2年	3年	4年	0年	1年	2年

※修得単位数によって、受験資格取得に必要な建築実務経験年数が異なります。

(3) 指定科目一覧

下記の表に従って、必要単位を修得してください。

指定科目の分類	本学開講科目	配当学年	単位数
建築設計製図	人間環境デザイン基礎演習Ⅲ	2年	3
	人間環境デザイン総合演習	2年	3
	CAD演習Ⅱ	2年	2
	空間デザイン演習ⅠA	3年	3
	空間デザイン演習ⅠB	3年	3
	空間デザイン演習ⅡA	4年	2
	CAD演習Ⅰ	1年	2
	建築計画	建築歴史意匠A	1年
建築歴史意匠B		2年	2
住居計画		2年	2
生活空間計画		2年	2
建築設計論		3・4年	2
都市計画論		3・4年	2
建築空間構成論		3・4年	2
医療福祉建築計画		3・4年	2
建築環境工学	環境計画	2年	2
建築設備	設備計画	3・4年	2
構造力学	構造力学	2年	2
	材料力学	3・4年	2
建築一般構造	構法計画	3・4年	2
	構法計画演習A	3・4年	1
	構法計画演習B	3・4年	1
	木造住宅設計論	3・4年	2
建築材料	材料・素材一般	1年	2
建築生産	建築生産	1年	2
建築法規	建築・都市法規	2年	2
その他	人間環境デザイン基礎演習Ⅰ	1年	2
	人間環境デザイン基礎演習Ⅱ	1年	2
	ユニバーサルデザイン概論	1年	2
	都市・まちのデザイン	1年	2
	空間デザイン演習ⅡB	4年	2
	ランドスケープデザイン	3・4年	2
	まちづくり	2年	2
	福祉住環境コーディネート論	3・4年	2
	建築とまちのUD	3・4年	2
	生活環境デザイン演習ⅠB	3年	3
本学における必要単位数合計			※

※修得単位数によって、受験資格取得に必要な建築実務経験年数が異なります。
 詳細は(2)の「分野ごとの必要単位数および建築実務経験年数」を参照してください。

◆ 〈14〉 人間環境デザイン学科で推奨する資格 ◆

人間環境デザイン学科では財団法人建築技術教育普及センターによるインテリアプランナー、社団法人インテリア産業協会によるインテリアコーディネーター、東京商工会議所が認定している福祉住環境コーディネーター、カラーコーディネーター、その他、関連する各種団体が認定しているさまざまな資格取得を推奨しています。

これら資格制度は、毎年少しずつその実施要領が変わっていきますので、受験時における各種試験実施団体・機関の広報に十分注意してください。

1. インテリアプランナー

インテリアプランナーは、財団法人建築技術教育普及センター主催による認定資格で、インテリアの企画・設計から工事監理まで、インテリアデザイン全般に関する業務をトータルに実践する専門家を認定する資格です。受験資格は、卒業後インテリアに関する一定の実務経験を有する者とされています。

2. インテリアコーディネーター

インテリアコーディネーターは、社団法人インテリア産業協会主催による認定資格で、住宅をより美しく暮らしやすい生活の場とするため、家具や住宅設備などのインテリアを選択し、空間のコーディネートを行う専門家です。受験資格は、年齢・性別・学歴・職業・経験を問いませんので、本学在学中より受験可能な資格です。また、夏期休暇中に学内で有料の対策講座を実施しています。

3. 福祉住環境コーディネーター

福祉住環境コーディネーターは、東京商工会議所が主催している検定試験で、住宅のバリアフリー化、福祉用具、介護用品、家具などの商品開発や販売などに関わる技術をもつ資格です。目的は、高齢者や障害者が安心して自立した生活を送れる住環境の整備充実と改善ですが、あらゆる環境に関する知識が問われるので、幅広い知識が必要となります。資格は1～3級まであり、3級は福祉と住環境および関連分野の基礎知識、2級は各専門職と連携して具体的な解決策を提案できる能力が必要とされています。1級は、新築や住宅改修の具体的なプランニングができ、安全で快適なまちづくりへの参画など、広い範囲で活動できる能力が問われます。受験資格は特にありませんが、1級は受験時に2級の資格を取得していることが条件です。

4. カラーコーディネーター

カラーコーディネーターは、東京商工会議所が主催している色彩関連の検定試験で、1～3級があり、3級と2級の検定試験では色彩の物理学や生理学、心理学、測色学といった総合的な知識を問われ、1級は色彩学の応用知識、ファッション色彩、商品色彩、環境色彩の中から一つを選択することになっています。受験資格は特にありません。

5. 福祉情報技術コーディネーター

福祉情報技術コーディネーターは、障害者や高齢者のためのパソコン環境整備と技術指導ができる指導者の能力を認定する試験で、財団法人日本情報学習振興協会が主催しています。資格は1級・2級・3級の3ランクに分かれています。受験資格は18才以上とされています。

6. 宅地建物取引士

宅地建物取引士（宅建）とは、不動産取引において重要事項の説明等を行う国家資格です。1事務所5人に1人の割合で設置が義務付けられている、不動産業界で必須の資格です。近年、不動産の証券化にも見られるように企業を取りまく社会環境が変化していくなか、金融関係や建設関係はもちろんのこと、他業種でも不動産に関する専門知識を要するセクションが多く、企業内での宅建の需要が高まっています。そのため、幅広い業種の就職活動に有利だけでなく、就職してからも広域にわたり有効に活用できる資格です。

◆ 〈15〉 社会福祉主事（全学科） ◆

（1）資格の内容

社会福祉主事は、福祉事務所の相談業務を担当する職員の資格ですが、下記の「社会福祉主事の資格に関する指定科目」のうちから「3科目以上を修得」した者に任用資格が認められています。しかし、地方公務員として採用されなければ、この資格を生かすことはできません。なお、この資格を基礎とし、実務経験を経れば、児童福祉司等に任用されます。また最近では、民間福祉施設の職員採用条件として、社会福祉主事任用資格が求められることが多くなっています。

（2）資格の取得方法

大学において、社会福祉主事に関する科目を修めて卒業することで得られます。

（3）修得すべき科目

ライフデザイン学部規程 別表第11

下記の社会福祉主事の資格に関する指定科目のうちから3科目以上を修得する必要があります。

本学開講科目のうち、いずれか1科目修得することで、当該指定科目1科目を修得したとみなされます。ただし、] がついている科目はすべてを履修、修得することで1科目としてみなされます。

指定科目	本学開講科目	単位数	履修方法
社会福祉概論	社会福祉学原論Ⅰ	2	2科目とも修得すること
	社会福祉学原論Ⅱ	2	
社会福祉援助技術論	社会福祉援助技術論Ⅰ	2	2科目とも修得すること
	社会福祉援助技術論Ⅱ	2	
社会保障論	社会保障論Ⅰ	2	2科目とも修得すること
	社会保障論Ⅱ	2	
児童福祉論	児童福祉論	2	
保育理論	保育原理	2	
身体障害者福祉論	障害者福祉論	2	
精神障害者保健福祉論	精神保健福祉論Ⅰ	2	2科目とも修得すること
	精神保健福祉論Ⅱ	2	
老人福祉論	高齢者福祉論Ⅰ	2	2科目とも修得すること
	高齢者福祉論Ⅱ	2	
地域福祉論	地域福祉論Ⅰ	2	2科目とも修得すること
	地域福祉論Ⅱ	2	
法学	法学	2	
経済学	経済学	2	
心理学	心理学	2	
社会学	社会学	2	
公衆衛生学	公衆衛生学	2	
医学一般	医学一般	2	
リハビリテーション論	リハビリテーション論	2	
看護学	看護学Ⅰ	2	
	看護学Ⅱ	2	
	看護学Ⅲ	2	
介護概論	介護福祉援助概論Ⅰ	2	2科目とも修得すること
	介護福祉援助概論Ⅱ	2	
栄養学	生活と栄養	2	

教職課程

◆ライフデザイン学部で取得できる教育職員免許状◆

ライフデザイン学部では、下記の表に記載されている教育職員免許状を取得することができます。教育職員免許状の取得に関しては、資格登録（※）、所定の手続、指定された科目の単位修得等、条件を満たすことが必須です。手続きに1つでも不備があったり、教育職員免許状取得に必要な科目が1科目でも不足していると、免許状は授与されません。また、必要な科目は、科目履修が可能な学年で早めに履修してください。一度で単位を修得しないと再履修が難しくなり、4年間で免許状を取得できない可能性があります。不明な点がある場合は、朝霞事務課教務担当窓口にご相談ください。
※免許状取得希望者は、ToyoNet-Gにて資格登録が必須です。詳細は学期初めに配布される「履修登録のしおり・授業時間割表」で確認してください。

	生活支援学科 生活支援学専攻	生活支援学科 子ども支援学専攻	健康スポーツ 学科	人間環境デザイン 学科	備考	ページ	
1. 教育職員免許状						P.168	
2. 介護等体験について						P.173	
3. 教育実習について						P.174	
4. 教育職員免許状取得までの流れ						P.176	
5. 教育職員免許状の必要科目（全免許共通）						P.178	
①「免許法施行規則第66条の6に定める科目」（全免許共通）						P.179	
②「教職に関する科目」・③「教科に関する科目」・④「教科又は教職に関する科目」	幼稚園教諭 1種免許状	—	○	—	—	P.180	
	高等学校教諭 1種免許状（福祉）	○	—	—	※1	P.182	
	中学校教諭 1種免許状（保健）	—	—	○	—	※2	P.184
	高等学校教諭 1種免許状（保健）	—	—	○	—		P.186
	中学校教諭 1種免許状（保健体育）	—	—	○	—	※2	P.188
	高等学校教諭 1種免許状（保健体育）	—	—	○	—		P.190
	養護教諭1種	—	—	○	—		P.192
	高等学校教諭 1種免許状（工業）	—	—	—	○		P.194
	高等学校教諭 1種免許状（工芸）	—	—	—	○		P.196

※1 社会福祉士受験資格取得希望者のみ取得可能です。

※2 中学校教諭免許を取得するには、介護等体験への参加が必須（P.173参照）です。

◆教育職員免許状◆

～教職課程を学ぶにあたって～

東洋大学教職課程運営委員長

本学の学祖井上円了は哲学館の創設にあたり「諸学の基礎は哲学にあり」の理念の下、「先入観や偏見にとらわれず、物事の本質に迫る仕方、論理的・体系的に深く考える人間」「社会の課題に自主的・主体的に取り組む、よき人間関係を築いていける人間」の育成をめざしました。そして特に「教育家と宗教家」の養成に力を入れました。このように本学は創設以来、教員養成を重視し、この分野の伝統と実績を有する大学であり、多くの卒業生が教員として全国の学校で活躍しています。

これから教職課程を履修し、教員免許状を取得して教員になろうと志す学生はまずこのことをしっかりと自覚してください。

言うまでもなく、教員になるためには教員免許状の取得が必要です。免許状の取得に関する諸事項は教育職員免許法に定められており、本学もこれに基づいて教職課程教育を実施しています。教職課程に属する科目の多くは、各学科の卒業に必要な科目とは別に履修し単位を修得しなければなりません。従って、教職課程を履修する学生は、他の学生よりも多くの科目を履修しなければならず、学修に費やす時間もそれだけ多くなります。1年次からの計画的な履修と学修が求められます。その詳細については、教職課程ガイダンスに参加して説明を聞くとともに、この「履修要覧」を熟読してください。教員になるためには、担当する教科に関する知識を豊富に持つことが必要となることは言うまでもありません。しかしそれだけでは教員として十分とは言えません。教員は成長・発達の上にある児童・生徒を指導し、ともに学ぶ存在です。教員の言動は、時として、子どもの将来を大きく左右することもあります。その意味で教員というのは恐ろしい職業です。しかし同時に、教員は子どもの成長を直接目にし、それを助け、ともに喜び合えるやりがいのある職業でもあります。

ある教育学者が次のようなことを問うています。「あなた（教員）は何の権利があって他人の子どもを教育するなどという大それたことができるのか」。この問いに答えることは簡単ではありません。しかし「他人の子ども」を教育するという「大それた事」を職業とすることを、子どもから、保護者から、そして社会から、許されるだけの準備を大学生活のなかでしておくことが、教員をめざす学生の最低限の義務です。

教員をめざす学生には、大学の授業で学ぶことはもちろん、サークル活動、ボランティア活動、趣味、アルバイトなど、さまざまな経験をしながら、自分自身を成長させることを期待します。豊かな人間性を持った信頼に足る教員をめざしてください。

(1) 教育職員免許状について

大学卒業後、教員になるためには教育職員免許状を取得しなければなりません。

本学部の各学科において取得できる教育職員免許状は次のとおりです。

学科専攻 免許の種類	生活支援学科 生活支援学専攻	生活支援学科 子ども支援学専攻	健康スポーツ学科	人間環境デザイン 学科
幼稚園教諭1種		○		
中学校教諭1種			○(保健・保健体育)	
高等学校教諭1種	○(福祉)		○(保健・保健体育)	○(工業・工芸)
養護教諭1種			○	

①幼稚園教諭1種免許状

幼稚園とは学校教育法に「幼児を保育し、適当な環境を与えて、その心身の発達を助長すること」を目的と定められている教育機関です。幼稚園教諭は、幼児との信頼関係を十分に築き、幼児と共によりよい教育環境を創造するように努めなければなりません。家族との連携を図りながら、幼稚園生活を通して生きる力の基礎を育成するように努め、健康、人間関係、言葉、表現、環境の5つの領域に関わる活動を通して、幼児の保育をつかさどるのが幼稚園教諭の仕事となります。また近年では、子どもの保護者や地域の子育ての支援にも従事します。

②高等学校教諭1種免許状（福祉）

日本における福祉ニーズの高まりと人間性豊かな教育の必要性から、2003年度実施の高等学校学習指導要領において、専門教科「福祉」が創設されました。福祉科の目標は、「社会福祉に関する基礎的・基本的な知識と技術を総合的、体験的に習得させ、社会福祉の理念と意義を理解させるとともに、社会福祉に関する諸課題を主体的に解決し、社会福祉の増進に寄与する創造的な能力と実践的な態度を育てる。」こととされており、高等学校教諭1種免許状（福祉）はこれに伴って設けられた新しい免許です。

③中学校教諭1種免許状（保健）、高等学校教諭1種免許状（保健）

保健教育は、「個人生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる」ことを目的としています。実際の中学・高等学校での学習は「保健体育」として保健体育の教諭が担当しているのが一般的です。しかし、健康問題解決のための保健学習や健康指導の面からの教育が今後さらに必要とされる中で、「保健」教育が重要視されなければならないことは明らかです。「保健」の教科教員は保健学習および健康指導における健康教育の専門家として中学校・高等学校で中心的役割を担うこととなります。

④中学校教諭1種免許状（保健体育）、高等学校教諭1種免許状（保健体育）

保健体育の教育は「心と身体を一体として捉え、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる」ことが目的とされています。保健体育の教員はすべての生徒に対して、「身体運動を親しむ資質や能力を育て、健康の保持増進をはかり、明るく豊かな生活を営む態度を育てる」ことが、その職務の中心です。

⑤養護教諭1種免許状

養護教諭とは、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校に勤務し、児童・生徒の健康管理を行ういわゆる「保健室」の先生です。養護教諭は「性に関する教育」、「虐待」、「薬物乱用防止」、「感染症」などに対する取り組みを含む幅広い健康相談活動を通して、児童・生徒に「生涯を通じて心身共に健康で生きる力」を育てるための指導や教育を行います。また法改正で保健科の教科教育も担当できるようになり、学校保健活動の中心となる教員です。

⑥高等学校教諭1種免許状（工業）

「工業」という教科は、「工業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、現代社会における工業の意義や役割を理解させるとともに、環境に配慮しつつ、工業技術の諸問題を主体的、合理的に解決し、社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる」ことを目的とされています。工業高校で教員となるために必要となります。

⑦高等学校教諭1種免許状（工芸）

「工芸」という教科は芸術分野に属し、生徒の個性を活かした創造的な活動を行い、生涯にわたって芸術を愛好する心情を育てるために設置されています。具体的には小学校・中学校から連続と続く図画工作・美術の授業の延長線上において、作品を制作することで自己表現をする素晴らしさや、作品を鑑賞することで長い人類の歴史の中ではぐくまれてきた美意識や伝統・文化について指導します。

(2) 教育職員免許状の取得条件について

教育職員免許状を取得するためには、基礎資格として「学士の学位を有すること」（卒業に必要な単位を修得すること）が要求されます。したがって、教育職員免許状取得のための単位は修得できたものの卒業ができなかったということにならないよう、4年間の履修計画を立ててください。本学では「教育職員免許法」に基づいて、教育職員免許状取得に必要な単位が修得できるよう科目を開設しています。

- 近年、教員採用試験等で中学校教諭・高等学校教諭両方の教育職員免許状を取得（見込）していることが採用試験受験の条件、または有利になる傾向があります。したがって、できる限り中学校教諭・高等学校教諭両方の教育職員免許状を取得することが望ましいと考えられます。
- 教育職員免許状を取得するのに必要な科目は、4年間で履修かつ修得できるよう配置されているため、4年間の履修計画を入念に立て、1年次から必要な科目を履修し単位修得してください。
- 2年次ないし3年次から新たに教育職員免許状取得を希望する、または教科を追加する場合は、4年次終了（卒業）までに教育職員免許状を取得することが難しいことを理解してください。

(3) 教職課程登録料について

本学では、通学課程の学部学生及び大学院生が教職課程の履修を希望する場合、教職課程登録料が必要となります。1年次秋学期、所定の期日までに指定された方法で納入してください（P.176・177参照）。なお、登録料の区分、徴収対象、徴収額および有効期間は以下のとおりです。

	区分	徴収対象	徴収額	有効期間
教職課程登録料	在籍生登録料	東洋大学教職課程の履修を希望する通学課程の学部生及び大学院生	30,000円	<ul style="list-style-type: none"> ・学部生は、納入時から卒業年度の3月31日（秋学期卒業生を含む。ただし、春学期卒業生は9月30日）まで。 ・大学院生は、納入時から修了年度の3月31日（秋学期修了生を含む。ただし、春学期修了生は9月30日）まで。
	卒業生等登録料	東洋大学の卒業生及び大学院修了生（ただし、退学者及び除籍者を含む。）で、教職支援室の利用等（教職に関するセミナー等への参加を含む。）を希望する者	5,000円 （ただし、秋学期からの場合は当該年度のみ2,500円とする。）	納入年度の3月31日まで。

※ライフデザイン学部生活支援学科子ども支援学専攻の学生は、教職課程登録料を納入する必要はありません。

※再入学した学生は、在籍時に教職課程登録料を納入している場合は、再度の納入は必要ありません。

※登録料納入後、教職課程を辞退した場合、一度納入された登録料は一切返金できません。

【教職課程登録料納入と教職科目履修の関係について】

教職課程登録料を納入しない場合、以下のような履修制限が生じます。

- ① 2年次以降配当の「**教職に関する科目**」を履修することができません。
 ※ただし、所属学科の**学科教育課程に設置されている科目**は、履修することができます。
- ② ライフデザイン学部生活支援学科子ども支援学専攻を除く各学科専攻所属の学生は、**介護等体験及び教育実習に参加することができません。**

(4) 教職パスポート

教職課程を履修する学生は4年間の継続的、系統的な学びの流れを目に見える形にした『教職パスポート』を大切に保管・活用することが求められます。1年次秋学期に教職課程登録料納入者に配付する『教職パスポート』は4年間にわたる教職課程の学びを記録し、課題を遂行するために活用するためのものです。紛失や破損の無いように、4年間自己管理を徹底してください。教職関連の各種行事や授業等で記録・活用することになります。この管理と活用が「教職実践演習」履修の条件の一つとなります。なお、2年次終了時点で「教職パスポート」の中間点検を行い、必要に応じて指導・助言を行います。教職への適性が疑われる場合には進路の変更を促すこともあります。そのためしっかりとした自覚をもって学修に取り組んでください。

※教職パスポートを紛失した場合、再発行はできませんので、各自責任を持って管理してください。

(5) 教育実習に関する手続き・掲示について

教育実習に参加する学生は、学内掲示板・ToyoNet-Gに掲示される要領に従い、不備のないよう手続きをしなければなりません。詳細は「教育職員免許状取得までの流れ」(P.176・177参照)を確認してください。

(6) 教職実践演習について

教育職員免許状取得のためには4年次秋学期の必修科目として「教職実践演習」の履修が必要とされています。この科目は、全学年を通じた教職に関する「学びの軌跡の集大成」と言えるものであり、学生が身に付けた資質・能力が有機的に統合され、教員として最低限必要な資質・能力が形成されたかを確認することを目的としています。しかし、この確認は4年次秋学期になってはじめて行うのではなく、1年次から継続的に自らの教職への意志や適性を問いつづけることで成り立っています。従って、教員をめざす学生は1年次から意識的・意欲的に教職課程の学びを継続し、学修の成果と課題を記録しておくことが求められています。本学では「教職パスポート」を用意してその一助としています。なお、**教職実践演習は教育実習を修得済または履修中であることが履修の条件**となります。

(7) 教育職員免許状一括申請

所定の単位を修得し、所定の手続きを行った学生には、卒業と同時に教育職員免許状が授与されます。本来免許状は各人が大学を卒業後に、その居住する都道府県の教育委員会へ申請をして授与されるものです。しかし卒業と同時に教職に就く学生の便宜を図るため、大学ごとに取りまとめ一括して免許状の申請手続きをすることになっています。4年次に、一括申請手続きについてガイダンスを行いますので、必ず参加してください。

(8) 教員免許状更新制について

教員免許状取得後10年ごとに更新講習を受け修了認定されることにより、有効期間が更新される教員免許更新制が平成21年に施行されましたが、文部科学省では、教員の資質向上のための教員免許制度の抜本的な見直し(教員養成課程の充実や専門免許状制度の導入の検討を含む)に着手し、その過程において現行制度の効果等を検証することとなりました。新たな教員免許制度の内容及び移行方針を具体化する中で、現在の教員免許更新制の在り方について結論を得ることが示されています。日頃から教育関連のニュースによく目を通しておくとともに、教職課程の履修に際しては、自分自身の教職に対する意思を再確認してください。

(9) 休学および留学等で長期間大学へ通学することができない場合について

在学中に休学および留学等で長期間大学へ通学することができない場合は、教育実習・介護等体験等の実施時期や教育職員免許状の取得時期が通常の学生より1～2年遅くなることがあるので、必ず事前に朝霞事務課教務担当窓口まで相談に来てください。

(10) 教職に関する就職支援について

教職支援室において以下の様な支援を行います。

- ・採用試験対策講座
 - ・模擬試験関連情報提供・模擬面接
 - ・専門スタッフによる教育職員希望者への就職指導
- ※各講座の開催・申請時期等については掲示等を確認してください。
 ※開室時間は中央掲示板で確認してください。

(11) 教員採用試験について

教育職員免許状を取得した者が教員になるためには、まずは教員採用試験に合格する必要があります。

出願期間・受験条件・試験日程・試験方法は教育委員会・学校によって異なるので、教員採用試験の実施要綱の取り寄せと応募は各自で行ってください。実施要綱が大学に届いた場合は、中央掲示板にて随時周知します。

教員採用試験（第1次・第2次）に合格した場合は必ず朝霞事務課教務担当窓口へ届け出てください。

①公立学校の教員採用

公立学校の教員になるためには、まずは各都道府県または市の教育委員会が実施する採用試験に合格し、採用候補者の名簿に登録される必要があります。名簿の中からその年度の欠員状況、教員組織の状況などを考慮して選定され、採用が決定します。

②私立学校の教員採用

各都道府県の私学協会等が実施する「私立学校教員適性検査」を基に採用を行う場合と公募制による採用があります。「私立学校教員適性検査」は採用試験ではなく、適性検査を受けた受験者の氏名と評価等が記載された名簿を基にして、教員の採用を行っていくものです。ただし、検査を実施する都道府県にある私立学校全てが「私立学校教員適性検査」の結果を基に教員募集を行っているとは限りません。

(12) 科目等履修生制度について

将来、教員を目指す学生で、学部卒業までに教育職員免許状を取得するために必要な単位を修得できなかった場合や、すでに教育職員免許状を取得していて、卒業後、新たに別教科の教育職員免許状を取得したい場合は、科目等履修生として必要な単位を修得し教育職員免許状を取得することができます。

希望者は、必ず当該年度の各募集要項を確認のうえ出願してください。なお、本学で取得可能な教育職員免許状に必要な科目がすべて科目等履修生に開講しているとは限らないので注意してください。

科目等履修生に関するスケジュール（詳細は当該年度の募集要項で確認してください）

- 2月上旬～中旬 科目等履修生募集要項配布・ダウンロード開始
- 2月上旬～ 履修科目の相談（朝霞事務課教務担当窓口）
- 3月上旬～中旬 出願（朝霞事務課教務担当窓口）
- 3月下旬 試験・合格発表
- 4月上旬 就学手続

※募集要項は、インターネットでも閲覧・出力できます（「東洋大学 科目等履修生」でキーワード検索してください）。出願にあたっての履修科目については、事前に朝霞事務課教務担当窓口へ相談してください。

※介護等体験のみの履修はできません。

(13) 教職課程を履修する学生への連絡・伝達について

教職に関する事項（各種説明会・手続き・発表・呼び出し等）はすべて中央掲示板またはToyoNet-Gにてお知らせします。登校時には必ず掲示を確認してください。

◆介護等体験について◆

中学校の免許希望者（中学校教諭1種免許状（保健）・（保健体育））は、教職に必要な科目の修得、卒業要件の充足の他に、介護等体験を行い、受入先からの体験を行った証明が必要となります。介護等体験とは、3年次に特別支援学校で2日間、社会福祉施設で5日間の計7日間にわたり、高齢者や障がい者に対する介護、介助、交流等を体験するものです。この体験を行うには、大学を通して申し込みをしなければなりません。概要は以下の通りです。

(1) 参加条件

以下の条件を1つでも満たさない場合は、介護等体験に参加することができません。

- ①介護等体験に積極的に参加する意欲があること。
- ②すべての介護等体験説明会に出席し、手続きをすべて行うこと。
- ③実施年度の4月に大学の定期健康診断を受診し異常なしと診断され、心身ともに健康であること。
- ④麻疹（はしか）および風疹の抗体検査の結果で十分な免疫があると認められた者もしくは必要な予防接種を受けていることが確認できた者。
- ⑤介護等体験料を所定の期日までに納入していること。
- ⑥指定された体験日程で介護等体験に参加できること。
- ⑦妊娠中もしくは出産して1年以内でないこと。（母体保護のため）
- ⑧その他、必要な手続きのすべてを完了していること。

(2) 体験日程

受入先の都合を考慮したうえ埼玉県教育委員会および埼玉県社会福祉協議会が希望者一人ひとりの日程と受入先を調整・決定します。個人的な事情や要望（サークル、アルバイト、海外留学、就職活動等）による日程・受入先の指定や変更（また、このことに関する個人交渉）・辞退は一切できません。参加を希望する者はこの点を了承し、自分の都合を調整したうえで体験に臨んでください。

- ①日程：授業期間だけではなく夏季・冬季休暇期間・土・日・祝祭日を含む日程で行います。
- ②体験先：いずれも埼玉県に所在する学校・施設で行います。体験希望者が多いため、現住所に近い場所で行えるとは限りません。

(3) 体験先

<特別支援学校>

視覚障がい者、聴覚障がい者、知的障がい者、肢体不自由者又は病弱者（身体虚弱者を含む。）に対して、小中学校等に準ずる教育を行うとともに、障がいによる学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授けることを目的とする学校。在籍する児童生徒等に対する教育を行うほか、障がいにより教育上特別の支援を必要とする小中学校等の児童生徒等の教育に関し、必要な助言又は援助を行います。

<社会福祉施設>

- ・高齢者にかかわる施設
- ・児童福祉・障がい児にかかわる施設
- ・障がい者（身体、知的、精神障がい者）にかかわる施設
- ・生活保護にかかわる施設

(4) 体験内容

- ・学校、施設の利用者の介護・介助（入浴・排泄等含む）
 - ・学校、施設の利用者との交流（話し相手）、学習活動の指導・援助
 - ・学校、施設が実施する行事（学園祭・バザー・遠足、サークル活動等）の補助
 - ・学校、施設の掃除、洗濯等の作業
- 特別支援学校事例…授業参観・作業学習補助・学校行事補助等（プール実習・マラソン大会等）
社会福祉施設事例…車椅子補助・点字の勉強・送迎バスへの添乗・サークル活動の補助等

◆教育実習について◆

教育実習は、大学で学んだ教育理論や技術をもとに、教育実習校（幼稚園・小学校・中学校・高等学校）での実習を通じて、教育の意味や学校教育の全領域について学習するものです。「教育実習Ⅰ（事前・事後指導を含む）」（中学校教諭1種対象者）、「教育実習Ⅱ（事前・事後指導を含む）」（高等学校教諭1種対象者）、「養護実習」（養護教諭1種対象者）のいずれかを4年次に履修、「教育実習Ⅲ（事前・事後指導を含む）」（幼稚園教諭1種対象者）を3年次に履修します。4月から事前指導が行われ、ほとんどの学生が、6月頃から実際に学校現場に赴き、幼稚園教諭免許状取得の場合は4週間、中学校教諭・養護教諭の免許状取得の場合は3週間（学校によって4週間の場合もある）、高等学校教諭の免許状取得の場合は2週間の教育実習を行います。教育実習終了後、教育実習事後指導として、学生の実習体験発表、実習感想文の提出、アンケート調査などによって、教育実習の成果を振り返り、教員として必要な資質能力が培えたかどうかを確認します。教育実習は勤務という形態で行われるため、本学では教育実習期間中、教育実習に専念することなどの内容を含む誓約書に署名・捺印の上、提出した学生のみ教育実習への参加を認めています。実習期間中に就職活動をするような時間的・精神的余裕は全くありません。教職という仕事の重要性を認識し、実習期間中は就職活動などは中止し、実習に専念してください。

(1)「教育実習（事前・事後指導を含む）」の履修条件

以下の①②の条件をすべて満たさなければ、教育実習（事前・事後指導を含む）を履修することはできません。

①中学校教諭、養護教諭、高等学校教諭：3年次終了の時点（教育実習に参加する前年度）で卒業に必要な単位数を100単位以上修得していること。

幼稚園教諭：3年春学期終了の時点（教育実習に参加する前学期）で卒業に必要な単位数を100単位以上修得していること。

②3年次終了の時点（教育実習に参加する前年度）で、以下の条件を全て満たしていること。

a. 1～3年次に配当された「教職に関する科目」および「教科に関する科目」の必修科目のうち●のついた科目をすべて修得していること。

※幼稚園教育実習の場合は、対象外です。

b. 「保健体育（中学校教諭および高等学校教諭）」の免許状希望者については、「教科に関する科目」のA・B・Cで示された科目群ごとに指定されている選択必修科目の条件を満たしていること。※該当する学生は、科目の詳細（P.189・191参照）を必ず確認してください。

(2) 教育実習参加条件

以下の①～⑧の条件をすべて満たさなければ、教育実習に参加することはできません。

①教壇に立って授業を行うに必要な学力を有すること。

②教育実習指導教員の指導のもとに、教育実習生としてふさわしい行動のとれる人物であること。

③大学を含む関係諸機関との手続きを不備なく行っていること。

④大学の行う定期健康診断を受診し、異常の指摘があれば対処されていること。

※大学で実施される健康診断を受診できない場合、医療機関で受診し、その結果を実習開始以前に大学に提出しなければなりません。

⑤麻疹（はしか）、風疹に関する感染予防条件（1）または（2）を満たす。

（1）麻疹（はしか）および風疹の予防接種を2回以上実施していることが記録で確認される者

（2）予防接種歴が2回以上確認できない感染症に対しては抗体検査の結果で十分な免疫があると認められた者。

※医学的理由等で予防接種が出来ない者はその理由を申し出ること。

⑥妊娠中もしくは出産して1年以内でないこと（母体保護のため）。

⑦教育実習料を納入していること。

⑧大学指定の誓約書に署名・捺印の上提出したもの。

※学業成績・学修態度等から総合的にみて、教育職員として適格性を欠くと本学において判定された場合、実習参加を認めないこともあります。これらの判定のために、教育実習の実施に先

立って、担当教員と面接等を行う場合もあります。「教育実習Ⅰ・Ⅱ」については、履修する学生自身で実習校（出身校など）を開拓することになります。実習校の内諾を得ることができなかった者、教育実習に関する所定の手続きをしていない者及び、教育実習費を納入していない者は、教育実習への参加を認めません。

◆教育職員免許状取得までの流れ◆

下記のスケジュールはあくまでも予定であり、時期が前後することがあります。日程は必ず学内掲示板を確認してください。また、在学中に休学や留学等で長期間大学へ通学することができない場合は実習時期や教育職員免許状取得時期が異なりますので、事前に朝霞事務課教務担当窓口にご相談してください。

【免許種別凡例】

幼…幼稚園教諭1種免許状 中…中学校教諭1種免許状 高…高等学校教諭1種免許状
養…養護教諭1種免許状

※ガイダンスおよび説明会への遅刻・欠席、また必要な手続きを行わなかった場合、教職課程の継続ができなくなります。学内掲示板、ToyoNet-Gのお知らせ、履修要覧を自己責任のもと確認し、不備の無いよう手続きを行ってください。

また、教育実習の内諾後の辞退・介護等体験の申込後の辞退や一度納入した教職課程登録料、介護等体験実習料、教育実習料の返金は一切できません。

学年	時期	内容	特記事項	免許種別
1年	4月	抗体検査受診	受診必須	幼・中・高・養
		教職課程ガイダンス ・教職課程とは ・教職課程希望者登録	参加必須	中・高・養
	秋学期	教職課程登録ガイダンス ・教職課程登録料・教職パスポートの配付について →以後、追加・変更・辞退の際は必ず届け出ること。	参加必須	中・高・養
	秋学期成績発表後	教職課程登録料納入・教職パスポート受領(P.170参照)	締切厳守	中・高・養
2年	4月	スポーツ実習・指導法希望科目調査 →「保健体育」希望者のみ	参加必須	中・高 (保健体育)
	12月	介護等体験第1回説明会 ・体験概要・申し込み前の注意事項 ・今後の手続きの説明・参加希望者登録	参加必須	中
	1月	教職パスポート中間点検説明会	参加必須	中・高・養
	2月上旬	教職パスポート中間点検 提出	締切厳守	中・高・養
3年	4月初旬	定期健康診断受診	受診必須	幼・中・高・養
		教育(養護)実習事務手続き説明会 ・次年度教育(養護)実習内諾について	参加必須	中・高・養
		介護等体験第2回説明会 ・介護等体験上の注意・申込受付・体験料納入	参加必須 締切厳守	中
	4月中旬	介護等体験一括申込 (大学→社会福祉協議会、埼玉県教育委員会)		中
	4月中旬	教育(養護)実習内諾予定校の登録 教育(養護)実習登録票の提出	締切厳守	中・高・養
	4月以降	教育(養護)実習校への内諾依頼 (各自出身校等へ次年度実習の依頼に行くこと)		中・高・養
	5月下旬	介護等体験事前学習会	参加必須	中

学年	時 期	内 容	特記事項	免許種別
3年	6月上旬	介護等体験第3回説明会 ・体験受入先決定・受入連絡票の配付 ・体験日時および必要事項（細菌検査の有無、体験の準備等）の確認	参加必須	中
	6月以降	介護等体験開始	参加必須	中
		介護等体験日誌提出 →体験終了後2週間以内	締切厳守	中
		介護等体験証明書受取（施設→学生） ※教育職員免許状一括申請（4年次11月）まで各自大切に保管しておくこと		中
		教育実習受入内諾書の確認（地方校）		中・高・養
	秋学期	教育実習Ⅲ 開始	参加必須	幼
		教育実習日誌の提出	締切厳守	
	9月中旬	教育実習希望調書の提出（東京都公立学校教育実習希望者のみ）	締切厳守	中・高・養
	11月～12月	看護学実習（養護のみ）	参加必須	養
	12月	教育実習校の発表（東京都公立学校）		中・高・養
1月下旬	次年度教育実習事前説明会 ・誓約書について・春休みの過ごし方について	参加必須	中・高・養	
3月初旬	成績発表・教育実習参加条件充足者発表		中・高・養	
4年	4月初旬	定期健康診断の受診	受診必須	幼・中・高・養
		教育（養護）実習直前説明会 ・実習直前の心構え・実習上の注意事項 ・実習校持参書類の配布 ・誓約書の提出	参加必須	中・高
	4月中旬	教育実習料納入（自動証明書発行機）	締切厳守	中・高・養
		教育実習受入承諾書の確認 ・打合せ日・実習期間・教科等最終確認		中・高・養
		訪問指導校の掲示		中・高
	4月～12月頃	教育実習Ⅰ・Ⅱ、養護実習開始	参加必須	中・高・養
		教育（養護）実習日誌の提出 →実習終了後1ヶ月以内	締切厳守	中・高・養
	11月下旬	教育職員免許状一括申請説明会 ・申請免許状の申込み ・介護等体験証明書の提出（中学校のみ） ・申請料の納入（自動証明書発行機）	参加必須 締切厳守	幼・中・高・養
	2月	単位充足者発表・資格取得者発表		幼・中・高・養
	卒業式当日	教育職員免許状授与（交付） ※印鑑（スタンプ印不可）を持参すること	参加必須	幼・中・高・養

◆教育職員免許状の必要科目（全免許共通）◆

それぞれの免許・区分ごとに、下表に従って、単位を修得しなければなりません。

基礎資格と免許法における最低修得単位数

ライフデザイン学部規程 別表第6

免許状の種類	基礎資格	免許法における最低修得単位数			
		免許法施行規則第66条の6に定める科目	教職に関する科目	教科（養護）に関する科目	教科（養護）又は教職に関する科目
幼稚園教諭 1種免許状	学士の学位を有すること	8	35	6	10
中学校教諭 1種免許状		8	31	20	8
高等学校教諭 1種免許状		8	23	20	16
養護教諭 1種免許状		8	21	28	7

※上記の「免許法における最低修得単位数」と、「本学における最低修得単位数」は異なります。

※本学の学生は、「本学における最低修得単位数」を修得しなければなりません。次頁以降の「教職に関する科目」「教科（養護）に関する科目」一覧表で確認してください。

※「教職に関する科目」及び「教科（養護）に関する科目」の余剰分（免許法における最低修得単位数を超えて修得した科目の単位数）は「教科（養護）又は教職に関する科目」として換算することができます。

「教職に関する科目」および「教科（養護）に関する科目」一覧表の注意事項

「○」「●」のついている科目は、免許取得のための必修科目です。

○：免許取得のための必修科目

●：3年次終了（教育実習に参加する前年度）までに修得する必修科目（P.174参照）

高等学校教諭1種免許状（工業）免許を希望する際の注意事項

教育職員免許法附則第11項により、「教科に関する科目」の余剰分（免許法における最低修得単位数を超えて修得した科目の単位数）は、「教職に関する科目」として換算することができます。極端な場合、「教職に関する科目」を全く履修することなしに、「教科に関する科目」の単位を59単位と、「免許法施行規則第66条の6に定める科目」の単位を修得するだけで免許状を取得することができますが、「教職に関する科目」の単位を修得しておくことが望まれます。

なお、「教職に関する科目」の免許法における最低修得単位数（23単位）以上に修得した単位数を「教科に関する科目」の必要単位数として換算することはできませんので、注意してください。

①「免許法施行規則第66条の6に定める科目」(全免許共通)

ライフデザイン学部規程 別表第6

区分	最低修得 単位数	左記に対応する本学開講科目			
		授業科目	配当学年	単位数	備考
日本国憲法	2	○日本国憲法	1～4年	2	
体育	2	スポーツ健康科学実技ⅠA	1～4年	1	これら8科目より2単位選択必修。ただし、スポーツ健康科学実技ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、ⅢA、ⅢBから必ず1単位以上を修得すること
		スポーツ健康科学実技ⅠB	1～4年	1	
		スポーツ健康科学実技ⅡA	1～4年	1	
		スポーツ健康科学実技ⅡB	1～4年	1	
		スポーツ健康科学実技ⅢA	1～4年	1	
		スポーツ健康科学実技ⅢB	1～4年	1	
		健康教育学	2～4年	2	
		生涯スポーツ論	1年	2	
外国語コミュニケーション	2	基礎英語演習Ⅰ	1年	1	
		基礎英語演習Ⅱ	1年	1	
		応用英語演習Ⅰ	2年	1	
		応用英語演習Ⅱ	2年	1	
情報機器の操作	2	情報リテラシーⅠ	1年	2	
		情報リテラシーⅡ	1年	2	
免許法における最低修得単位数	8	本学における最低修得単位数合計		8	

○は免許取得のための必修科目

—幼稚園教諭 1 種免許状 (子ども支援学専攻の学生のみ)—

②「教職に関する科目」

〈幼稚園教諭 1 種免許状〉

ライフデザイン学部規程 別表第 6

免許法施行規則に規定する 科目区分及び最低修得単位数		左記に対応する本学開講科目		
		授業科目	配当学年	単位数
教職の意義等に関する 科目	2	○教職概論	1年	2
教育の基礎理論に関する 科目	6	○教育基礎論	1年	2
		○教育制度論	1年	2
		○教育心理学	2年	1
		○発達心理学	1年	2
教育課程及び指導法に 関する科目	18	○保育内容総論	1年	1
		○幼児教育論Ⅰ	2年	2
		○幼児教育論Ⅱ	3年	2
		○保育内容演習(ことば)	2年	1
		○保育内容演習(音楽表現)	3年	1
		○保育内容演習(造形表現)	2年	1
		○保育内容演習(環境)	2年	1
		○保育内容演習(健康)	2年	1
		○保育内容演習(人間関係)	2年	1
		○保育指導法	3年	2
		○保育教育課程論	2年	2
		○幼児教育方法(情報機器の活用を含む)	3年	2
		○障害児保育Ⅰ	1年	1
○障害児保育Ⅱ	2年	1		
生徒指導、教育相談及 び進路指導等に関する 科目	2	○幼児理解と保育カウンセリング	3年	2
教育実習	5	○教育実習Ⅲ(事前・事後指導を含む)	3年	5
教職実践演習	2	○保育・教職実践演習	4年	2
免許法における 最低修得単位数	35	本学における最低修得単位数合計		36

○は免許取得のための必修科目

③「教科に関する科目」

〈幼稚園教諭1種免許状〉

ライフデザイン学部規程 別表第6

免許法施行規則に規定する 科目区分及び最低修得単位数		左記に対応する本学開講科目		
		授業科目	配当学年	単位数
国語	6	子どもと文学	1～4年	2
		国語表現法	1～4年	2
		○保育表現技術（言語）	1年	1
算数		—	—	—
生活		生活と総合学習	1～4年	2
音楽		○保育表現技術Ⅰ（音楽）	1年	1
		○保育表現技術Ⅱ（音楽）	2年	1
		保育音楽表現技術	3～4年	2
		音楽あそびの実践	3～4年	2
図画工作		○保育表現技術（造形）	1年	1
	造形あそびの実践	3～4年	2	
体育	○保育表現技術Ⅰ（体育）	1年	1	
	○保育表現技術Ⅱ（体育）	2年	1	
	子どもの保健Ⅰ	2年	2	
	体育あそびの実践	3～4年	2	
免許法における 最低修得単位数	6	本学における最低修得単位数合計		6

○は免許取得のための必修科目

④「教科又は教職に関する科目」

ライフデザイン学部規程 別表第6

免許法における 最低修得単位数	本学開講科目	配当学年	単位数
②+③+④の 合計51単位	子どもの権利と教育	1～4年	2
	子育て支援実践	1～4年	1
	多文化共生保育・教育	3年	1
	多文化共生保育・教育実践	1～4年	1
	②「教職に関する科目」及び③「教科に関する科目」の、本学における最低修得単位数を超えて修得した科目の単位数を、④「教科または教職に関する科目」の単位数として換算できます。 ②③④の合計51単位を修得すること。	—	—

一高等学校教諭 1 種免許状（福祉）

（生活支援学専攻の学生で社会福祉士受験資格取得を目指す学生のみ）

高校 1 種（福祉）の免許状取得を希望する学生は、社会福祉士の受験資格取得を目指すことが条件となります。また、免許状取得のために、社会福祉士受験資格取得に関する履修や実習に際して制限が加わります。各自の将来や進路を考え、教職課程を履修してください。

②「教職に関する科目」

〈高等学校教諭 1 種免許状（福祉）〉

ライフデザイン学部規程 別表第 6

免許法施行規則に規定する 科目区分及び最低修得単位数		左記に対応する本学開講科目		
		授業科目	配当学年	単位数
教職の意義等に関する科目	2	●教職概論	1 年	2
教育の基礎理論に関する科目	6	●教育基礎論	1 年	2
		●教育制度論	1 年	2
		●教育心理学	1 年	2
教育課程及び指導法に関する科目	6	●教育課程総論	1 年	2
		●福祉科指導法Ⅰ	3 年	2
		●福祉科指導法Ⅱ	3 年	2
		●特別活動の理論と方法	3 年	2
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	4	●生徒指導論 (進路指導論を含む)	2 年	2
		●教育相談	2 年	2
教育実習	3	○教育実習Ⅱ (事前・事後指導を含む)	4 年	3
教職実践演習	2	○教職実践演習(中・高)	4 年	2
免許法における最低修得単位数	23	本学における最低修得単位数合計		27

●は 3 年次終了（教育実習に参加する前年度）までに修得する必修科目

○は免許取得のための必修科目

③「教科に関する科目」

(高等学校教諭1種免許状(福祉))

ライフデザイン学部規程 別表第6

免許法施行規則に規定する科目区分及び最低修得単位数	左記に対応する本学開講科目		
	授業科目	配当学年	単位数
社会福祉学(職業指導を含む。)	●社会福祉の基礎	1年	2
	●社会福祉学原論Ⅰ	1年	2
	●社会福祉学原論Ⅱ	1年	2
	社会福祉発達史	1年	2
	社会保障論Ⅰ	2・3年	2
	社会保障論Ⅱ	2・3年	2
	地域福祉論Ⅰ	2・3年	2
	地域福祉論Ⅱ	2・3年	2
高齢者福祉、児童福祉及び障害者福祉	●高齢者福祉論Ⅰ	2・3年	2
	●児童福祉論	1年	2
	●障害者福祉論	2・3年	2
社会福祉援助技術	●社会福祉援助技術論Ⅰ	1年	2
	●社会福祉援助技術論Ⅱ	2年	2
	社会福祉援助技術論Ⅲ	2年	2
	社会福祉援助技術論Ⅳ	3年	2
	社会福祉援助技術演習Ⅰ	2年	2
	社会福祉援助技術演習Ⅱ	2年	2
	社会福祉援助技術演習Ⅲ	3年	2
	社会福祉援助技術演習Ⅳ	3年	2
社会福祉援助技術演習Ⅴ	4年	2	
介護理論及び介護技術	●高齢者福祉論Ⅱ	2～3年	2
社会福祉総合実習(社会福祉援助実習及び社会福祉施設等における介護実習を含む。)	●社会福祉援助技術現場実習※	3年	4
	介護福祉実習Ⅰ	1年	2
	介護福祉実習Ⅱ	2年	3
	介護福祉実習Ⅲ	3年	3
	介護福祉実習Ⅳ	4年	2
人体構造及び日常生活行動に関する理解	○こころとからだのしくみⅠ	1～4年	2
	○こころとからだのしくみⅡ	1～4年	2
	○こころとからだのしくみⅢ	1～4年	2
加齢及び障害に関する理解	○発達と老化の理解	1～4年	2
	○障害の理解	1～4年	2
	○認知症の理解Ⅰ	1～4年	2
	○認知症の理解Ⅱ	1～4年	2
免許法における最低修得単位数	20	本学における最低修得単位数合計	36

●は3年次終了(教育実習に参加する前年度)までに修得する必修科目

○は免許取得のための必修科目

※「社会福祉援助技術現場実習」において、「老人福祉法に規定する施設、身体障害者福祉法に規定する施設、知的障害者福祉法に規定する施設」のいずれかで実習を行う必要があります。施設種別の希望調査の際に、必ず上記のいずれかの施設で希望し、教職希望者である旨を明記してください。

④「教科又は教職に関する科目」

ライフデザイン学部規程 別表第6

本学における最低修得単位数	本学開講科目	配当学年	単位数
②+③+④の合計67単位	人権と生活	1～4年	2
	道徳教育論	3年	2
	上記科目の他に、②「教職に関する科目」及び③「教科に関する科目」の、本学における最低修得単位数を超えて修得した科目の単位数を、④「教科又は教職に関する科目」の単位数として換算できます。②③④の合計67単位を修得すること。	—	—

—中学校教諭 1 種免許状（保健）（健康スポーツ学科の学生のみ）—

②「教職に関する科目」

〈中学校教諭 1 種免許状（保健）〉

ライフデザイン学部規程 別表第 6

免許法施行規則に規定する 科目区分及び最低修得単位数		左記に対応する本学開講科目		
		授業科目	配当学年	単位数
教職の意義等に関する科目	2	●教職概論	1年	2
教育の基礎理論に関する科目	6	●教育基礎論	1年	2
		●教育制度論	1年	2
		●教育心理学	1年	2
		●教育課程総論	1年	2
教育課程及び指導法に関する科目	12	●保健科教育論Ⅰ	2年	2
		●保健科教育論Ⅱ	2年	2
		●保健科指導法Ⅰ	3年	2
		●保健科指導法Ⅱ	3年	2
		●道徳教育論	3年	2
		●特別活動の理論と方法	3年	2
		●教育方法論 (情報機器及び教材の活用を含む)	3年	2
生徒指導、教育相談及び進路指導等 に関する科目	4	●生徒指導論 (進路指導論を含む)	2年	2
		●教育相談	2年	2
教育実習	5	○教育実習Ⅰ (事前・事後指導を含む)	4年	5
教職実践演習	2	○教職実践演習(中・高)	4年	2
免許法における最低修得単位数	31	本学における最低修得単位数合計		35

●は3年次終了（教育実習に参加する前年度）までに修得する必修科目

○は免許取得のための必修科目

③「教科に関する科目」

〈中学校教諭1種免許状（保健）〉

ライフデザイン学部規程 別表第6

免許法施行規則に規定する 科目区分及び最低修得単位数		左記に対応する本学開講科目		
		授業科目	配当学年	単位数
生理学及び栄養学	1	●生理学	1年	2
		●生化学	1年	2
		生理・生化学実習	2年	1
		○運動生理学	2年	2
		○スポーツ生理学	2～4年	2
		運動生理学実習	2年	1
		測定評価	2～4年	2
		スポーツと栄養	2～4年	2
衛生学及び公衆衛生学	1	●生活と栄養	1～3年	2
		●公衆衛生学	1年	2
		運動疫学	2～4年	2
学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）	1	公衆衛生学実習	2年	1
		●小児保健（含学校保健）	2～3年	2
		●精神保健Ⅰ	1年	2
		精神保健Ⅱ	1年	2
		発育・発達・加齢論	1年	2
免許法における最低修得単位数	20	●危機管理と救急法	1～3年	2
		本学における最低修得単位数合計		20

●は3年次終了（教育実習に参加する前年度）までに修得する必修科目

○は免許取得のための必修科目

④「教科又は教職に関する科目」

ライフデザイン学部規程 別表第6

本学における 最低修得単位数	本学開講科目	配当学年	単位数
②+③+④ の合計59単位	人権と生活	1～4年	2
	教職インターンシップA	3年	2
	教職インターンシップB	3年	2
	上記科目の他に、②「教職に関する科目」及び③「教科に関する科目」の、本学における最低修得単位数を超えて修得した科目の単位数を、④「教科または教職に関する科目」の単位数として換算できます。 ②③④の合計59単位を修得すること。	—	—

—高等学校教諭 1 種免許状（保健）（健康スポーツ学科の学生のみ）—

②「教職に関する科目」

〈高等学校教諭 1 種免許状（保健）〉

ライフデザイン学部規程 別表第 6

免許法施行規則に規定する 科目区分及び最低修得単位数	左記に対応する本学開講科目			
	授業科目	配当学年	単位数	備考
教職の意義等に関する 科目	2 ●教職概論	1年	2	
教育の基礎理論に関する 科目	6 ●教育基礎論	1年	2	
	●教育制度論	1年	2	
	●教育心理学	1年	2	
教育課程及び指導法に 関する科目	6 ●教育課程総論	1年	2	
	保健科教育論Ⅰ	2年	2	
	保健科教育論Ⅱ	2年	2	
	●保健科指導法Ⅰ	3年	2	
	●保健科指導法Ⅱ	3年	2	
	●特別活動の理論と方法	3年	2	
生徒指導、教育相談及 び進路指導等に関する 科目	4 ●生徒指導論 (進路指導論を含む)	2年	2	
	●教育相談	2年	2	
教育実習	3 教育実習Ⅰ (事前・事後指導を含む)	4年	5	1科目選択必修
	教育実習Ⅱ (事前・事後指導を含む)	4年	3	
教職実践演習	2 ○教職実践演習(中・高)	4年	2	
免許法における最低修 得単位数	23	本学における最低修得単位数合計		27

●は3年次終了（教育実習に参加する前年度）までに修得する必修科目

○は免許取得のための必修科目

③「教科に関する科目」

〈高等学校教諭1種免許状（保健）〉

ライフデザイン学部規程 別表第6

免許法施行規則に規定する 科目区分及び最低修得単位数	左記に対応する本学開講科目		
	授業科目	配当学年	単位数
「生理学、栄養学、微生物学、解剖学」	●生理学	1年	2
	●生化学	1年	2
	生理・生化学実習	2年	1
	○運動生理学	2年	2
	○スポーツ生理学	2～4年	2
	運動生理学実習	2年	1
	スポーツと栄養	2～4年	2
	測定評価	2～4年	2
	●生活と栄養	1～3年	2
	●解剖学	1年	2
	●人体組織学	1～3年	2
	解剖学実習	2年	1
	機能解剖学	2～4年	2
衛生学及び公衆衛生学	●公衆衛生学	1年	2
	運動疫学	2～4年	2
	公衆衛生学実習	2年	1
学校保健（小児保健、精神保健、 学校安全及び救急処置を含む。）	●小児保健（含学校保健）	2～3年	2
	●精神保健Ⅰ	1年	2
	精神保健Ⅱ	1年	2
	発育・発達・加齢論	1年	2
●危機管理と救急法	1～3年	2	
免許法における最低修得単位数	20	本学における最低修得単位数合計	22

●は3年次終了（教育実習に参加する前年度）までに修得する必修科目

○は免許取得のための必修科目

④「教科又は教職に関する科目」

ライフデザイン学部規程 別表第6

本学における 最低修得単位数	本学開講科目	配当学年	単位数
②+③+④ の合計59単位	人権と生活	1～4年	2
	教職インターンシップA	3年	2
	教職インターンシップB	3年	2
	道徳教育論	3年	2
	上記科目の他に、②「教職に関する科目」及び③「教科に関する科目」の、本学における最低修得単位数を超えて修得した科目の単位数を、④「教科または教職に関する科目」の単位数として換算できます。 ②③④の合計59単位を修得すること。	—	—

—中学校教諭1種免許状（保健体育）（健康スポーツ学科の学生のみ）—

②「教職に関する科目」

〈中学校教諭1種免許状（保健体育）〉

ライフデザイン学部規程 別表第6

免許法施行規則に規定する科目区分及び最低修得単位数	左記に対応する本学開講科目		
	授業科目	配当学年	単位数
教職の意義等に関する科目	2 ●教職概論	1年	2
教育の基礎理論に関する科目	●教育基礎論	1年	2
	●教育制度論	1年	2
	●教育心理学	1年	2
教育課程及び指導法に関する科目	●教育課程総論	1年	2
	●保健体育科教育法Ⅰ	2年	2
	●保健体育科教育法Ⅱ	2年	2
	●保健体育科指導法Ⅰ	3年	2
	●保健体育科指導法Ⅱ	3年	2
	●道徳教育論	3年	2
	●特別活動の理論と方法	3年	2
	●教育方法論 (情報機器及び教材の活用を含む)	3年	2
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	●生徒指導論 (進路指導論を含む)	2年	2
	●教育相談	2年	2
教育実習	5 ○教育実習Ⅰ (事前・事後指導を含む)	4年	5
教職実践演習	2 ○教職実践演習(中・高)	4年	2
免許法における最低修得単位数	31	本学における最低修得単位数合計	35

●は3年次終了（教育実習に参加する前年度）までに修得する必修科目

○は免許取得のための必修科目

③「教科に関する科目」

(中学校教諭1種免許状(保健体育))

ライフデザイン学部規程 別表第6

免許法施行規則に規定する科目区分及び最低修得単位数	左記に対応する本学開講科目			
	本学開講科目名	配当学年	単位数	備考
体育実技	●スポーツ実習・指導法(水泳)	2年	1	2科目選択必修(A) 1科目選択必修(B) 1科目選択必修(C)
	●スポーツ実習・指導法(陸上)	3年	1	
	●スポーツ実習・指導法(器械運動)	3年	1	
	●スポーツ実習・指導法(サッカー)	2年	1	
	●スポーツ実習・指導法(バレーボール)	2年	1	
	●スポーツ実習・指導法(テニス)	2年	1	
	●スポーツ実習・指導法(バドミントン)	2年	1	
	●スポーツ実習・指導法(バスケットボール)	2年	1	
	●スポーツ実習・指導法(剣道)	2年	1	
	●スポーツ実習・指導法(柔道)	2年	1	
	●スポーツ実習・指導法(ダンス)	2年	1	
	●エアロビクス指導法	2~3年	1	
	●エアロビクス実習	1~3年	1	
	アクアビクス指導法	2~4年	1	
レクリエーション実習	2年	1		
「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」及び運動学(運動方法学を含む。)	●スポーツ心理学	2~3年	2	1
	●運動学(運動方法学を含む)	1年	2	
生理学(運動生理学を含む。)	●生理学	1年	2	1
	●生化学	1年	2	
	生理・生化学実習	2年	1	
	○運動生理学	2年	2	
	○スポーツ生理学	2~4年	2	
	運動生理学実習	2年	1	
	測定評価	2~4年	2	
	スポーツと栄養	2~4年	2	
	●生活と栄養	1~3年	2	
	●公衆衛生学	1年	2	
衛生学及び公衆衛生学	運動疫学	2~4年	2	1
	公衆衛生学実習	2年	1	
	●小児保健(含学校保健)	2~3年	2	
学校保健(小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。)	●精神保健Ⅰ	1年	2	1
	精神保健Ⅱ	1年	2	
	発育・発達・加齢論	1年	2	
	●危機管理と救急法	1~3年	2	
	免許法における最低修得単位数	20	本学における最低修得単位数	

- ※ ●は3年次終了(教育実習に参加する前年度)までに修得する必修科目
- ※ ●の科目のうちA・B・Cは、3年次終了(教育実習に参加する前年度)までに修得する選択必修科目
- ※ ○は免許取得のための必修科目
- ※ 「スポーツ実習・指導法」の各科目は、保健体育免許状取得希望者のみを対象とした科目です。履修できるのは、教員免許状取得希望者のみとなります。また、卒業単位に含めることはできません。
- ※ 「スポーツ実習・指導法」各科目のうちAおよびBの科目は、2年次春学期のガイダンスにてクラス分けを行います。

④「教科又は教職に関する科目」

ライフデザイン学部規程 別表第6

本学における最低修得単位数	本学開講科目	配当学年	単位数
②+③+④ の合計66単位	人権と生活	1~4年	2
	教職インターンシップA	3年	2
	教職インターンシップB	3年	2
	上記科目の他に、②「教職に関する科目」及び③「教科に関する科目」の、本学における最低修得単位数を超えて修得した科目の単位数を、④「教科又は教職に関する科目」の単位数として換算できます。 ②③④の合計66単位を修得すること。	—	—

—高等学校教諭1種免許状（保健体育）（健康スポーツ学科の学生のみ）—

②「教職に関する科目」

〈高等学校教諭1種免許状（保健体育）〉

ライフデザイン学部規程 別表第6

免許法施行規則に規定する 科目区分及び最低修得単位数	左記に対応する本学開講科目			
	授業科目	配当学年	単位数	備考
教職の意義等に関する 科目	2 ●教職概論	1年	2	
教育の基礎理論に関する 科目	●教育基礎論	1年	2	
	●教育制度論	1年	2	
	●教育心理学	1年	2	
教育課程及び指導法に 関する科目	●教育課程総論	1年	2	
	保健体育科教育法Ⅰ	2年	2	
	保健体育科教育法Ⅱ	2年	2	
	●保健体育科指導法Ⅰ	3年	2	
	●保健体育科指導法Ⅱ	3年	2	
	●特別活動の理論と方法	3年	2	
生徒指導、教育相談及 び進路指導等に関する 科目	●生徒指導論 (進路指導論を含む)	2年	2	
	●教育相談	2年	2	
教育実習	教育実習Ⅰ (事前・事後指導を含む)	4年	5	1科目選択必修
	教育実習Ⅱ (事前・事後指導を含む)	4年	3	
教職実践演習	○教職実践演習(中・高)	4年	2	
免許法における最低修 得単位数	23	本学における最低修得単位数合計		27

●は3年次終了（教育実習に参加する前年度）までに修得する必修科目

○は免許取得のための必修科目

③ 「教科に関する科目」

〈高等学校教諭1種免許状（保健体育）〉

ライフデザイン学部規程 別表第6

免許法施行規則に規定する科目区分及び最低修得単位数	左記に対応する本学開講科目			
	本学開講科目名	配当学年	単位数	備考
体育実技	●スポーツ実習・指導法（水泳）	2年	1	2科目選択必修（A）
	●スポーツ実習・指導法（陸上）	3年	1	
	●スポーツ実習・指導法（器械運動）	3年	1	
	●スポーツ実習・指導法（サッカー）	2年	1	
	●スポーツ実習・指導法（バレーボール）	2年	1	
	●スポーツ実習・指導法（テニス）	2年	1	
	●スポーツ実習・指導法（バドミントン）	2年	1	
	●スポーツ実習・指導法（バスケットボール）	2年	1	1科目選択必修（B）
	●スポーツ実習・指導法（剣道）	2年	1	
	●スポーツ実習・指導法（柔道）	2年	1	1科目選択必修（C）
	●スポーツ実習・指導法（ダンス）	2年	1	
	●エアロビクス指導法	2～3年	1	
	●エアロビクス実習	1～3年	1	
	アクアビクス指導法	2～4年	1	
レクリエーション実習	2年	1		
「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」及び運動学（運動方法学を含む。）	●スポーツ心理学	2～3年	2	
	●運動学（運動方法学を含む）	1年	2	
生理学（運動生理学を含む。）	●生理学	1年	2	
	●生化学	1年	2	
	生理・生化学実習	2年	1	
	○運動生理学	2年	2	
	○スポーツ生理学	2～4年	2	
	運動生理学実習	2年	1	
	測定評価	2～4年	2	
	スポーツと栄養	2～4年	2	
	●生活と栄養	1～3年	2	
	●解剖学	1年	2	
	●人体組織学	1～3年	2	
解剖学実習	2年	1		
機能解剖学	2～4年	2		
衛生学及び公衆衛生学	●公衆衛生学	1年	2	
	運動疫学	2～4年	2	
	公衆衛生学実習	2年	1	
学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）	●小児保健（含学校保健）	2～3年	2	
	●精神保健Ⅰ	1年	2	
	精神保健Ⅱ	1年	2	
	発育・発達・加齢論	1年	2	
	●危機管理と救急法	1～3年	2	
免許法における最低修得単位数	20	本学における最低修得単位数	33	

- ※ ●は3年次終了（教育実習に参加する前年度）までに修得する必修科目
- ※ ●の科目のうちA・B・Cは、3年次終了（教育実習に参加する前年度）までに修得する選択必修科目
- ※ ○は免許取得のための必修科目
- ※ 「スポーツ実習・指導法」の各科目は、保健体育免許状取得希望者のみを対象とした科目です。履修できるのは、教員免許状取得希望者のみとなります。また、卒業単位に含めることはできません。
- ※ 「スポーツ実習・指導法」各科目のうちAおよびBの科目は、2年次春学期のガイダンスにてクラス分けを行います。

④ 「教科又は教職に関する科目」

ライフデザイン学部規程 別表第6

本学における最低修得単位数	本学開講科目	配当学年	単位数
② + ③ + ④ の合計66単位	人権と生活	1～4年	2
	教職インターンシップA	3年	2
	教職インターンシップB	3年	2
	道徳教育論	3年	2
	上記科目の他に、②「教職に関する科目」及び③「教科に関する科目」の、本学における最低修得単位数を超えて修得した科目の単位数を、④「教科又は教職に関する科目」の単位数として換算できます。 ②③④の合計66単位を修得すること。	—	—

— 養護教諭 1 種免許状 (健康スポーツ学科の学生のみ) —

② 「教職に関する科目」

〈養護教諭 1 種免許状〉

ライフデザイン学部規程 別表第 6

免許法施行規則に規定する 科目区分及び最低修得単位数	左記に対応する本学開講科目		
	授業科目	配当学年	単位数
教職の意義等に関する 科目	2 ●教職概論	1年	2
教育の基礎理論に関する 科目	●教育基礎論	1年	2
	●教育制度論	1年	2
	●教育心理学	1年	2
教育課程に関する科目	●養護教育論	2年	2
	●道徳教育論	3年	2
	●特別活動の理論と方法	3年	2
	●教育方法論 (情報機器及び教材の活用を含む)	3年	2
生徒指導及び教育相談 に関する科目	●生徒指導論	2年	2
	●教育相談	2年	2
養護実習	○養護実習 (事前・事後指導を含む)	4年	5
	●養護実習基礎演習	3年	2
教職実践演習	2 ○教職実践演習 (養護教諭)	4年	2
免許法における最低修得 単位数	21	本学における最低修得単位数合計 29	

●は3年次終了(教育実習に参加する前年度)までに修得する必修科目

○は免許取得のための必修科目

③ 「養護に関する科目」

〈養護教諭1種免許状〉

ライフデザイン学部規程 別表第6

免許法施行規則に規定する 科目区分及び単位数	左記に対応する本学開講科目		
	授業科目	配当学年	単位数
衛生学及び公衆衛生学 (予防医学を含む。)	●公衆衛生学	1年	2
	●運動疫学	2～4年	2
	●公衆衛生学実習	2年	1
学校保健	●医学一般	1～3年	2
	●小児保健(含学校保健) 発育・発達・加齢論	2～3年 1年	2 2
養護概説	●養護概説 ※	1年	2
健康相談活動の理論及び方法	●健康科学概論	1年	2
	●ヘルスプロモーション論	1年	2
栄養学(食品学を含む。)	●スポーツと栄養	2～4年	2
	●生活と栄養	1～3年	2
解剖学及び生理学	●解剖学	1年	2
	●人体組織学	1～3年	2
	●解剖学実習	2年	1
	●生理学	1年	2
	●生化学	1年	2
	●生理・生化学実習	2年	1
	○運動生理学	2年	2
	○スポーツ生理学	2～4年	2
	○運動生理学実習	2年	1
「微生物学、免疫学、薬理概論」	●機能解剖学	2～4年	2
	●免疫と薬理	1～3年	2
精神保健	●精神保健Ⅰ	1年	2
	●精神保健Ⅱ	1年	2
看護学(臨床実習及び救急処置 を含む。)	●看護学Ⅰ ※	1年	2
	●看護学Ⅱ ※	2年	2
	●看護学Ⅲ ※	2年	2
	●看護学実習 ※	3年	2
	●危機管理と救急法	1～3年	2
免許法における最低修得単位数	28	本学における最低修得単位数合計 38	

●は3年次終了(教育実習に参加する前年度)までに修得する必修科目

○は免許取得のための必修科目

* 「養護概説」「看護学Ⅰ」「看護学Ⅱ」「看護学Ⅲ」「看護学実習」は養護教諭免許状取得希望者のみを対象とした科目です。履修できるのは、養護教諭免許状取得希望者のみとなります。また、卒業単位に含めることはできません。

「看護学実習」を履修するためには、「看護学Ⅰ」「看護学Ⅱ」「看護学Ⅲ」を事前に修得している必要があります。

④ 「養護又は教職に関する科目」

ライフデザイン学部規程 別表第6

本学における 最低修得単位数	本学開講科目	配当学年	単位数
②+③+④ の合計67単位	人権と生活	1～4年	2
	教職インターンシップA	3年	2
	教職インターンシップB	3年	2
	上記科目の他に、②「教職に関する科目」及び③「養護に関する科目」の、本学における最低修得単位数を超えて修得した科目の単位数を、④「養護または教職に関する科目」の単位数として換算できます。 ②③④の合計67単位を修得すること。	—	—

—高等学校教諭1種免許状（工業）（人間環境デザイン学科の学生のみ）—

②「教職に関する科目」

〈高等学校教諭1種免許状（工業）〉

ライフデザイン学部規程 別表第6

免許法施行規則に規定する 科目区分及び最低修得単位数		左記に対応する本学開講科目		
		授業科目	配当学年	単位数
教職の意義等に関する科目	2	教職概論	1年	2
教育の基礎理論に関する科目	6	教育基礎論	1年	2
		教育制度論	1年	2
		教育心理学	1年	2
		教育課程総論	1年	2
教育課程及び指導法に関する科目	6	工業科指導法Ⅰ	3年	2
		工業科指導法Ⅱ	3年	2
		特別活動の理論と方法	3年	2
		教育方法論 (情報機器及び教材の活用を含む)	3年	2
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	4	生徒指導論 (進路指導論を含む)	2年	2
		教育相談	2年	2
教育実習	3	教育実習Ⅱ (事前・事後指導を含む)	4年	3
教職実践演習	2	教職実践演習(中・高)	4年	2
免許法における最低修得単位数	23	本学における最低修得単位数 ※		—

※ 教育職員免許法附則第11項により、「教科に関する科目」の余剰分（免許法における最低修得単位数を超えて修得した科目の単位数）は、「教職に関する科目」として換算することができます。
 極端な場合、「教職に関する科目」を全く履修することなしに、「教科に関する科目」のうち、○のついた科目を含む科目の単位数を59単位と、「免許法施行規則第66条の6に定める科目」の単位数を修得するだけで免許状を取得することができますが、教師として教壇に立つには、「教職に関する科目」の単位数を修得しておくことが望まれます。
 なお、「教職に関する科目」の免許法における最低修得単位数（23単位）以上に修得した単位数を「教科に関する科目」の必要単位数として換算することはできませんので、注意してください。

③ 「教科に関する科目」

〈高等学校教諭1種免許状（工業）〉

ライフデザイン学部規程 別表第6

免許法施行規則に規定する科目区分及び最低修得単位数	左記に対応する本学開講科目		
	授業科目	配当学年	単位数
工業の関係科目	人間環境デザイン基礎演習Ⅰ	1年	2
	人間環境デザイン基礎演習Ⅲ	2年	3
	○人間工学	1年	2
	都市・まちのデザイン	1年	2
	建築生産	1年	2
	材料・素材一般	1年	2
	住居計画	2年	2
	建築・都市法規	2年	2
	生活空間計画	2年	2
	コンピュータ・グラフィックス	2年	2
	環境計画	2年	2
	ヒューマンインターフェース	2年	2
	○安全工学	3・4年	2
	空間デザイン演習ⅠA	3年	3
	空間デザイン演習ⅠB	3年	3
	空間デザイン演習ⅡA	4年	2
	空間デザイン演習ⅡB	4年	2
	構造力学	2年	2
	建築空間構成論	3・4年	2
	構法計画	3・4年	2
	構法計画演習A	3・4年	1
	ランドスケープデザイン	3・4年	2
	設備計画	3・4年	2
	材料力学	3・4年	2
	生活環境デザイン演習ⅠA	3年	3
	生活環境デザイン演習ⅠB	3年	3
	生活環境デザイン演習ⅡA	4年	2
	生活環境デザイン演習ⅡB	4年	2
	リハビリテーション工学	3・4年	2
	生活支援機器デザイン概論	2年	2
生活支援機器デザイン各論	3・4年	2	
職業指導	○職業指導Ⅰ ※	3・4年	2
	○職業指導Ⅱ ※	3・4年	2
免許法における最低修得単位数	20	本学における最低修得単位数合計 20	

○は免許取得のための必修科目

※ 「職業指導Ⅰ」「職業指導Ⅱ」は工業免許状取得希望者のみを対象とした科目です。卒業単位に含めることはできません。

④ 「教科又は教職に関する科目」

ライフデザイン学部規程 別表第6

本学における最低修得単位数	本学開講科目	配当学年	単位数
②+③+④ の合計59単位	人権と生活	1～4年	2
	道徳教育論	3年	2
	上記科目の他に、②「教職に関する科目」及び③「教科に関する科目」の、本学における最低修得単位数を超えて修得した科目の単位数を、④「教科又は教職に関する科目」の単位数として換算できます。 ②③④の合計59単位を修得すること。	—	—

—高等学校教諭1種免許状（工芸）（人間環境デザイン学科の学生のみ）—

②「教職に関する科目」

〈高等学校教諭1種免許状（工芸）〉

ライフデザイン学部規程 別表第6

免許法施行規則に規定する 科目区分及び最低修得単位数		左記に対応する本学開講科目		
		授業科目	配当学年	単位数
教職の意義等に関する科目	2	●教職概論	1年	2
教育の基礎理論に関する科目	6	●教育基礎論	1年	2
		●教育制度論	1年	2
		●教育心理学	1年	2
		●教育課程総論	1年	2
教育課程及び指導法に関する科目	6	●工芸科指導法Ⅰ	3年	2
		●工芸科指導法Ⅱ	3年	2
		●特別活動の理論と方法	3年	2
		●教育方法論 (情報機器及び教材の活用を含む)	3年	2
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	4	●生徒指導論 (進路指導論を含む)	2年	2
		●教育相談	2年	2
教育実習	3	○教育実習Ⅱ (事前・事後指導を含む)	4年	3
教職実践演習	2	○教職実践演習(中・高)	4年	2
免許法における最低修得単位数	23	本学における最低修得単位数合計		27

●は3年次終了（教育実習に参加する前年度）までに修得する必修科目

○は免許取得のための必修科目

③「教科に関する科目」

〈高等学校教諭1種免許状（工芸）〉

ライフデザイン学部規程 別表第6

免許法施行規則に規定する 科目区分及び最低修得単位数		左記に対応する本学開講科目		
		授業科目	配当学年	単位数
図法及び製図	1	○人間環境デザイン基礎演習Ⅱ	1年	2
		CAD 演習Ⅰ	1年	2
		CAD 演習Ⅱ	2年	2
デザイン	1	○人間環境デザイン総合演習	2年	3
		製品と情報のUD	1年	2
		建築歴史意匠A	1年	2
		建築歴史意匠B	2年	2
		建築設計論	3・4年	2
		情報デザインⅠ	3・4年	2
		情報デザインⅡ	3・4年	2
情報メディアデザイン	3・4年	2		
工芸制作（プロダクト制作を含む。）	1	●プロダクトデザイン基礎	1年	2
		産業とプロダクトデザイン	2年	2
		プロダクトデザインⅠ	3・4年	2
		プロダクトデザインⅡ	3・4年	2
		プロダクトデザイン演習ⅠA	3年	3
		プロダクトデザイン演習ⅠB	3年	3
		プロダクトデザイン演習ⅡA	4年	2
		プロダクトデザイン演習ⅡB	4年	2
工芸理論、デザイン理論及び美術史（鑑賞並びに日本の伝統工芸及びアジアの工芸を含む。）	1	人間環境デザイン学概論	1年	2
		ユニバーサルデザイン概論	1年	2
		●美術一般	1～4年	2
		道具の歴史	2年	2
免許法における最低修得単位数	20	本学における最低修得単位数合計		20

●は3年次終了（教育実習に参加する前年度）までに修得する必修科目

○は免許取得のための必修科目

④「教科又は教職に関する科目」

ライフデザイン学部規程 別表第6

本学における 最低修得単位数	本学開講科目	配当学年	単位数
②+③+④ の合計59単位	人権と生活	1～4年	2
	道徳教育論	3年	2
	上記科目の他に、②「教職に関する科目」及び③「教科に関する科目」の、本学における最低修得単位数を超えて修得した科目の単位数を、④「教科または教職に関する科目」の単位数として換算できます。 ②③④の合計59単位を修得すること。	—	—

**国際交流・国際教育
プログラム**



国際交流プログラム

Toyo Global Leader(TGL)プログラム

TGLプログラムは、東洋大学生が国内外で活躍できるグローバル人材となるために、「異文化環境における英語運用表現能力」、「文化的な価値創造能力」、「異文化環境における課題解決能力」の3要素を強化することを目的としています。これらの目的に沿って、「Gold」「Silver」「Bronze」のランクごとに認定要件を定め、各要件を満たした学生をToyo Global Leaderとして認定します。

◆認定要件◆

下記のとおり、ランクごとに認定要件が設定されています。

認定要件	TGL Gold	TGL Silver	TGL Bronze
(1) 英語能力 (TOEIC [®] L&R)	730点	590点	—
(2) 外国語による授業科目の修得	40単位	20単位	10単位
(3) 英語での卒業論文等執筆	必須	—	—
(4) 海外留学・インターンシップ	必須	どちらかを必須	—
(5) 海外アクティビティ	必須		—
(6) 東洋グローバルリーダーキャンプ	必須 (運営)	必須 (参加)	必須 (参加)
(7) Toyo Global (TG) ポイント	30ポイント	20ポイント	10ポイント

◆認定要件について◆

(1) 英語能力

英語資格試験のスコアにより認定します。TOEIC[®]L&R (公開テストおよびIPテスト)のほか、TOEFL iBT[®]、TOEFL ITP[®]、IELTS[™]のスコアをTOEIC[®]L&Rスコアに換算します。なお、スコアは在学中に受験したものに限りません。

(2) 外国語による授業科目の修得

開講言語が外国語の授業科目および基盤教育の語学科目の修得単位数を加算していきます。また、海外留学や海外インターンシップ等により認定された科目の単位数も加算できます。

(3) 英語での卒業論文等執筆

執筆言語を問わず卒業論文等(指導教員が認めるもの)を執筆した場合、所定のフォーマットで英文要旨を提出することで認定します。

(4) 海外留学・インターンシップ

海外での活動が連続で3週間(現地入国から出国までが21日間)以上の留学やインターンシップを対象とします。大学で開催しているプログラムのほか、学外機関が主催するプログラムも活動内容等により対象となります。なお、単位認定の有無は問いません。

(5) 海外アクティビティ

上記(4)に該当しない、海外での活動が連続で1週間(現地入国から出国までが7日間)以上の留学、研修、インターンシップ、ボランティア等の活動を対象とします。大学で開催しているプログラムのほか、学外機関が主催するプログラムも活動内容等により対象となります。なお、単位認定の有無は問いません。

(6) 東洋グローバルリーダーキャンプ

本学で実施する「東洋グローバルリーダーキャンプ」への参加(または運営チームとしての参加)により認められます。

(7) Toyo Global (TG) ポイント

国内外の国際交流活動（海外留学、インターンシップ、ボランティア、国際シンポジウム等）および課外語学講座等への参加がポイントの対象となります。ポイントは各活動期間に応じて付与します。

◆TGLプログラムの仕組み◆

一度の取り組みで複数の認定要件に当てはまる場合があります。

<例>

東洋グローバルリーダーキャンプに参加した。

認定要件	結果
(6) 東洋グローバルリーダーキャンプ	⇒ 認定（参加）
(7) Toyo Global (TG) ポイント	⇒ 2ポイント付与

<例>

交換留学で1年間海外渡航（TOEFL ITP[®] 550点を保有）。

留学先で英語による専門科目5科目を修得、東洋大学で5科目×2単位=10単位が認定された。また、留学中1週間のボランティア活動に従事し、「短期海外実習Ⅰ」（1単位）が認定された。

認定要件	結果
(1) 英語能力	⇒ 認定（TOEIC [®] L&R730点に換算）
(2) 外国語による授業科目の修得	⇒ 11単位加算
(4) 海外留学・インターンシップ	⇒ 要件クリア
(5) 海外アクティビティ	⇒ 要件クリア
(7) Toyo Global (TG) ポイント	⇒ 35ポイント付与

プログラムの詳細はToyoNet-ACE「TOYO GLOBAL DIAMONDS（国際交流情報）」コース内、「東洋グローバルリーダープログラム」を確認してください。

https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_1324577



【TGLプログラム問い合わせ先】

国際部〔国際教育センター〕（白山キャンパス 8号館1階）

E-mail: ml-tgl@toyo.jp、Tel：03-3945-7827



◆海外留学・派遣プログラムの概要◆

本学には、休学することなく参加できる海外留学・研修プログラムを豊富に用意しています。プログラムの概要は以下のとおりです。

プログラム名	①交換留学	②認定留学	③協定校 語学留学	④短期語学 セミナー	⑤海外インターンシップ ・ボランティア	⑥海外ユースボランティア ・ワシントンセンター	⑦Diversity Voyage	⑧日本語 パートナーズ
留学形態	学部留学* ¹		語学留学* ²		—	—	—	—
期間	1学期 または1年* ³		3または 6ヶ月	4～6週間	2～6週間	約5ヶ月	約10日間	6～11ヶ月
出発時期	第I期：2～3月 第II期：8～9月	留学先大学により 異なる	春学期：2～3月 秋学期：8～9月	夏季および 春季休暇中		9～10月	夏季および 春季休暇中	5～9月
語学条件	あり		なし		あり		なし	
単位	単位認定申請可* ⁴				履修登録対象* ⁵	単位認定申請可* ⁴	履修登録対象* ⁵	—
東洋大学留学 奨学金(給付型)	あり			なし				
東洋大学海外留学 促進奨学金(給付型)	グローバルリーダー型	アクティブ型		チャレンジ型	アクティブ型		なし	

プログラムの内容等は変更になる場合があります。

*1 学部留学

現地で正規課程の科目を履修及び修得することを目的とする留学

*2 語学留学

海外の大学附属の語学学校で語学を集中的に学ぶ留学

*3 1年

留学先機関によって学期制度や学期の日程が異なるため、トータルで1年間の留学期間を指す言葉として使用しています。

*4 単位認定申請可

留学先大学等で修得した単位に関し、本学開講科目の単位として認定を申請できます。

*5 履修登録対象

該当する本学の開講科目を履修登録できます。

◆各種留学・研修プログラムの種類◆

①交換留学

本学が学生交換協定を締結している協定校あるいは海外学生交換コンソーシアム（ISEP・UMAP等）に加盟する大学へ、1学期間または1年間留学するプログラムです。東洋大学を休学することなく留学できます。原則、留学先大学の授業料は免除となり、留学期間に応じて奨学金が支給されます。留学先の大学では正規課程の科目を履修及び修得することを目的とします。

②認定留学

本学協定校の他、学位授与権のある大学へ1学期間または1年間留学するプログラムです。国や地域は問いません。東洋大学を休学することなく留学できます。原則、留学先の授業料は自己負担となりますが、認定留学として承認されると留学期間に応じて奨学金が支給されます。留学先の大学では正規課程の科目を履修及び修得することを目的とします。

大学への出願・入学手続きは原則各自で行うため、留学に先立って自ら十分な情報を収集し、綿密な計画を立てることが重要です。

③協定校語学留学

本学の海外協定校附属の語学学校へ、3ヶ月または6ヶ月間留学するプログラムです。語学力の向上を目的とし、語学を学びながら様々なアクティビティやホームステイ等を通じた異文化体験をします。原則、留学先の授業料は自己負担となりますが、条件を満たした場合、奨学金が支給されます。また、東洋大学を休学することなく留学できます。

④短期語学セミナー

夏季および春季休暇を利用した短期語学研修プログラムです。語学研修、アクティビティ、ホームステイ等を通じた語学力の向上と異文化理解を目的としています。

⑤海外インターンシップ・ボランティア

グローバル企業で働くために必要となる英語力・異文化理解力・社会人マナーなどの社会人基礎力を育成し、世界に羽ばたく学生を育てることを目的としたプログラムです。夏季および春季休暇を利用し、2～6週間研修を行います。語学力の向上に加え、各国の経済状況や文化風習の違いを“働く”という社会生活を通じて体験し、今後の学生生活とキャリア形成に生かすことができます。

⑥国連ユースボランティア・ワシントンセンター（TWC）

- ・国際ユースボランティア（UNYV）

国連ボランティア計画（UNV）のコーディネートの下、開発途上国の国連事務所や政府機関でユースボランティアとして、約5ヶ月間働く長期インターンシップです。現地国連スタッフと共に広報活動やフィールドワーク等の業務に携わりながら、高度なキャリア意識やリーダーシップを養うプログラムです。

- ・ワシントンセンター（TWC）

アメリカの首都であるワシントンDC周辺の公的機関、NPO、企業などで15週間の就労体験と夜間に行われる授業を通じ国際的感覚を身につけ、将来のグローバルリーダーを育てるプログラムです。

⑦Diversity Voyage

一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト（GiFT）が行う、夏季および春季休暇を利用した短期間の海外研修です。海外で現地学生等と外国語でコミュニケーションを取りながら共創・協働することで、語学力のみならず「多様性適応力」を育みます。

⑧日本語パートナーズ

約半年～1年間、アジアの中学・高校などの日本語教師や生徒のパートナーとして、授業のアシスタントや日本文化の紹介を行うプログラムです。

- 各プログラムの詳細は大学HPを確認してください。
国際交流「海外留学を希望する方へ」
<http://www.toyo.ac.jp/site/ies>



海外留学・研修プログラム向け給付型奨学金

東洋大学では、多くの学生が海外留学・研修プログラムに参加できるよう、充実した奨学金を用意しています（プログラムや語学スコアに応じ7万～150万を給付）。

- －東洋大学留学奨学金
- －東洋大学海外留学促進奨学金

その他、民間団体などによる奨学金もあります。
各奨学金の要件や金額は変更になる可能性があります。
詳細や最新情報は国際教育センターHPで確認してください。
<http://www.toyo.ac.jp/site/ies/10022.html>



各留学・派遣プログラムの詳細については、「国際教育センター」のHP及び留学を希望する年度の国際交流プログラムパンフレットを参照してください。

○単位認定について

派遣留学生は、留学先大学で修得した単位に関し、本学開講科目の単位として認定を申請できます。単位の認定は、留学先における履修科目の内容および時間数が本学開講の対応科目と合致することが条件です。そのためには留学前に指導教員、学部教員、および朝霞事務課教務担当者と留学中の学習計画について十分に話し合いをしておくことが重要です。単位認定は、教授会の審議を経て決定されます。

○認定の基準

1. 留学先大学で授与された単位数にかかわらず、留学先大学で履修した科目の実際の授業時間数を考慮して行います。
2. 原則として、授業内容が本学開講科目と同様である必要があります。

○認定の事前相談

単位認定の対象科目については、留学出願前に朝霞事務課教務担当窓口で確認を行って下さい。



！朝霞事務課教務担当窓口での事前相談について！

交換留学、認定留学および協定校語学留学に出願する学生は、留学終了（帰国）後に最短で卒業および諸資格取得を可能にするため、不明な点がある場合は必ず留学出願前に朝霞事務課教務担当窓口で相談してください。また、帰国後の履修手続きについて注意すべき点（継続履修および学年進行に関わる科目、帰国後の授業科目の履修・成績（卒業要件、資格取得要件等））がありますので、留学決定後にも必ずすみやかに朝霞事務課教務担当窓口で相談してください。

- ・海外留学・研修プログラムについての問い合わせ先
国際部〔国際教育センター〕（白山キャンパス8号館1階）
E-mail : mlryugaku@toyo.jp TEL : 03-3945-8593

国際交流プログラム

ライフデザイン学部生の留学と単位認定について

ライフデザイン学部では留学前に、朝霞事務課教務担当および所属学科・専攻教員（ゼミ教員含む）との面談が必須となります。

●朝霞事務課教務担当窓口での事前相談について

交換留学および認定留学をすることを希望する学生は、留学決定前に最短で卒業および諸資格取得が可能であるかの打ち合わせを行う必要があるため履修・手続き上注意すべき点（継続履修及び学年進行に関わる科目、帰国後の授業・成績等）について、**必ず留学出願前に朝霞事務課教務担当窓口**に相談してください。

1. 交換留学／認定留学／協定校語学留学

単位の認定（交換留学・認定留学・協定校語学留学共通）

ライフデザイン学部では、以下のとおり単位認定を行います。学科・専攻ごとに異なりますので各自よく確認の上、留学先での履修科目を決めてください。

○認定について

留学先で修得した単位に関し、本学開講科目の単位として認定を申請できます。単位の認定は、所属学科の教育課程表に照らし、科目の履修内容・条件等が適合した場合は、卒業単位に認定されます。

そのためには、留学前に指導教員等（ゼミ教員含む）と勉強計画について十分話し合いをしておくことが重要です。ただし、交換・認定留学に伴い卒業時期が遅れる場合や、諸資格取得が困難になる場合もあります。

○認定手順

- 1) 留学前に朝霞事務課教務担当および所属学科指導教員（ゼミ教員含む）との面談を行う。
- 2) 留学中に、指導教員へEメール等で学修状況を伝える。
- 3) 留学後、国際教育センターより留学先大学発行の「成績証明書」を受領する。
- 4) 国際教育センターより配付される「単位認定願」に留学先で履修した科目・成績を記入し、「成績証明書」・テキスト・シラバス等とともに朝霞事務課教務担当窓口へ提出し、単位認定を申請する。**申請は留学終了後、1ヶ月以内に行う。**
- 5) 指導教員・朝霞事務課で単位認定作業を行い、教育課程委員会および教授会にて承認を経た後、成績発表時に通知される。
 - 第1期：2月教授会承認後、3月成績発表時通知
 - 第2期：8月教授会承認後、9月成績発表時通知

○単位認定にあたり必要な書類

- 1) 単位認定願等の本学書式
- 2) 留学先での成績証明書
- 3) 評価基準が解るもの（成績証明書に記載があればそれで代用可）
- 4) 修得した科目のシラバス
- 5) 授業で使用した教科書・ノート等

○認定基準

- 1) 留学先における修得科目の授業内容及び時間数が本学開講科目の対象科目に相当すること。
- 2) 留学先大学の授与した単位数及び授業時間数を考慮して行うこと。
- 3) 所属学科・専攻の教育課程表にある科目の単位として1年間48単位（半期24単位）以内で認定すること。

- 4) 所属学科・専攻の認定条件（下記参照）に従い単位認定を行うこと。
- 5) 留学先大学の合格基準に達した科目のみ申請すること。

○認定方法

1) 個別単位認定

個別単位認定は、留学先における修得科目の授業内容及び時間数が本学開講科目の対象科目に相当すると認められた場合、所属学科・専攻の教育課程表にある科目として個別に単位認定を行う。

単位認定対象科目の評価は「T」として認定し、成績表等に表示する。

2) 一括単位認定

一括単位認定は、個別に単位認定が出来ない場合、一括認定として単位認定を行う。単位は、専門科目の選択科目として認定がされ、成績表・成績証明書の表記も「一括認定○○単位」とする。※生活支援学科では一括単位認定は行わない。

○認定条件

下記の科目については、学科・専攻ごと認定条件が異なるため注意してください。

- 1) 別表1の科目について、個別に認定するためには指導教員と出発前の打ち合わせや留学中の勉学状況を伝えること（メール等）が必要となります。また、留学先での勉学状況等により認定できない場合もあります。

別表1

学科・専攻	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
生活支援学科 生活支援学専攻	生活支援学演習ⅠA 生活支援学演習ⅠB		生活支援学演習ⅢA 生活支援学演習ⅢB	生活支援学演習ⅣA 生活支援学演習ⅣB
生活支援学科 子ども支援学専攻	子ども支援学演習ⅠA 子ども支援学演習ⅠB	子ども支援学演習ⅡA 子ども支援学演習ⅡB	子ども支援学演習ⅢA 子ども支援学演習ⅢB	子ども支援学演習ⅣA 子ども支援学演習ⅣB
健康スポーツ学科	健康スポーツ学基礎演習Ⅰ	健康スポーツ学基礎演習Ⅱ	健康スポーツ学演習ⅠA 健康スポーツ学演習ⅠB	健康スポーツ学演習ⅡA 健康スポーツ学演習ⅡB
人間環境デザイン学科			空間デザイン演習ⅠA 空間デザイン演習ⅠB 生活環境デザイン演習ⅠA 生活環境デザイン演習ⅠB プロダクトデザイン演習ⅠA プロダクトデザイン演習ⅠB	空間デザイン演習ⅡA 空間デザイン演習ⅡB 生活環境デザイン演習ⅡA 生活環境デザイン演習ⅡB プロダクトデザイン演習ⅡA プロダクトデザイン演習ⅡB

2) 諸資格・教職に関する科目の認定について

原則として、諸資格取得に関する科目及び、教育職員免許状取得科目の「教職に関する科目」、「教科に関する科目」、「免許法施行規則第66条の6に定める科目」については認定できません。

3) 卒業論文・卒業研究の認定について

- ・生活支援学科生活支援学専攻：認定対象外
- ・生活支援学科子ども支援学専攻：個別認定
- ・健康スポーツ学科：認定対象外
- ・人間環境デザイン学科：個別認定

○その他 履修する際の注意点

必ず事前に教育課程表（履修要覧）を確認してから、留学先大学での履修科目を決めることが必要です。

卒業に支障が出ることをないように、自分の成績表をよく確認の上、交換留学先での履修科目を決めてください。例えば、専門の選択必修科目での修得単位が少ない場合は、本学選択必修科目の類似科目を見つけて履修する等です。

2. 短期語学セミナー／海外インターンシップ・ボランティア／国連ユースボランティア・ワシントンセンター／Diversity Voyage／日本語パートナーズ

上記のプログラムに参加した学生は、所定の手続きにより単位認定を受けられる可能性があります。

※認定科目、認定単位数は参加したプログラムにより異なります。

○単位の認定

留学先の成績により審査を行い、教授会にて承認の上、単位認定されます。

・ 学籍・履修・単位認定についての問い合わせ先
朝霞事務課教務担当窓口（研究管理棟1階）



国際教育プログラム

英語特別教育科目 LEAPプログラム

LEAP (Learning English for Academic Purposes) プログラムは将来海外留学を目指す学生や、英語力を高めたいと希望する学生を対象とした学術英語プログラムです。英語力のみならず、大学レベルの授業を英語で受けるのに対応できるだけの学習スキルの習得も目指します。LEAPの授業は英語で行われるため、内容を理解し、課題などをこなしていくために基礎的な英語力が必要となります。修得した単位は卒業単位として認められます。

LEAPはEAP AとEAP Bの2つの科目に分かれています。各学期いずれかの科目を開講します。

A科目 (週1日2コマ連続、2単位)・・・ListeningとSpeakingに特化した科目

B科目 (週1日2コマ連続、2単位)・・・ReadingとWritingに特化した科目

TOEFL ITP[®] 500点程度以上を取得している場合は、白山キャンパスに通学できる事を条件にPSAを受講することができます。PSAは次の3科目(それぞれ週1回・1単位)から成ります。

Basic Academic Writing (BAW)・・・英語で論文を書くための基礎を学習

Academic Essay Writing (AEW)・・・BAW修了生対象で、より高度な論文作成スキルを学習

College Study Skills (CSS)・・・留学してからの受講スキルを学習

<申込・お問合せ>

プログラムの詳細はToyoNet-ACE「TOYO GLOBAL DIAMONDS (国際交流情報)」コース内、「語学学習 LEAP・ランゲージセンター・課外講座」を確認してください(春学期履修の案内は前年11月頃、秋学期履修の案内は5～6月頃配信予定)。

https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_1324577

LEAPプログラムについての問い合わせ先

LEAPオフィス (白山キャンパス8号館2階)

Email : mleapoffice@toyo.jp TEL : 03-3945-7341





ランゲージセンターでは、海外留学や英語力向上を目指す学生のサポートを行っています。全キャンパスにて英会話講座、各種テスト対策講座や英語によるライティング指導を実施していますので、ぜひ活用してください。

◆各種プログラム◆

<キャンパス内留学> Toyo Achieve English英語講座

フィリピン人講師による会話を中心とした5キャンパスで学べる英語講座です。授業の空き時間を有効に使って毎日学べる少人数制のグループレッスンと、自分のレベルや希望に合った授業を受講できるマンツーマンレッスンを開講しています。また、キャンパスによってTOEIC講座や夏休み・春休み中の集中講座を開講するなど、年間を通じてプログラムを提供しています。

課外英語資格試験対策講座

春学期、夏休み及び秋学期に、TOEFL[®]・IELTS[™]・TOEIC[®]のスコア向上を目的とした課外英語資格試験対策講座を実施しています。

ランゲージセンターライティング指導講座

①コンファレンスライティング (Conference Writing)

2週間に一度、決められたスケジュールで受講する1回30分、1学期6回のライティング個別指導プログラムです。カリキュラムに則り英語論文を書くための基礎的な知識とライティングスキルを段階的に学びます。

②スペシャルアカデミックライティング (Special Academic Writing)

2週間に一度、決められたスケジュールで受講する1回30分、全6回のライティング個別指導プログラムです。1学期完結型で、各種英文ライティングの基礎を学びます。

③ライティングテスト対策 (Prep for Writing Tests)

2週間に一度、決められたスケジュールで受講する1回30分、全6回のライティング個別指導プログラムです。IELTS[™]やTOEFL iBT[®]などの英語資格試験のライティングパートに特化してスコアアップを目指します。

④ライティング相談 (Writing Consulting)

主に英文ライティングに関するアドバイスを30分間個別で受けることができるプログラムです。海外プログラムへの申込書、英文履歴書、英語での卒業論文・要旨作成等に利用可能です。

⑤特別講座 (Special Programs)

交換留学、海外インターンシップなど特定のプログラムの準備対策講座を開講しています。プログラム詳細については開講時にお知らせします。

講座内容・募集の詳細についてはToyoNet-ACE「TOYO GLOBAL DIAMONDS (国際交流情報)」コース内、「語学学習 LEAP・ランゲージセンター・課外講座」を確認してください。

https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_1324577

ランゲージセンター 課外英語講座についての問い合わせ先
国際部〔ランゲージセンター〕(白山キャンパス 8号館 1階)
Email: ml_ic_global@toyo.jp Tel: 03-3945-8172



**東洋大学と
東京外国語大学の
単位互換制度について**

東洋大学と東京外国語大学の単位互換制度について

東洋大学では語学科目を中心とした多様な学習機会を拡充すること目的として、2018年度より、東京外国語大学との間において単位互換協定を締結しました。これに伴い、東京外国語大学の授業の一部を履修することが可能になりました。

ここでは、東京外国語大学の科目を履修するにあたっての条件、履修方法などを規定しています。詳細は、東京外国語大学の履修要覧・シラバスを参照するとともに、所属学部教務担当課までお問合せください。

●● 関連HP <https://gakumu-web1.tufs.ac.jp/portal/Public/Syllabus/SearchMain.aspx> ●●

◆履修申請要領等◆

対象学生

学部2年次以上（ただし、原則、卒業予定の学期の履修はできません）。

履修可能単位数

学期の履修単位数の制限内かつ、本学以外の大学等で取得可能な単位数上限は60単位（入学前の単位認定も含む）。

学籍の取扱い

東京外国語大学では「特別聴講学生」として在籍することになります。

開講キャンパス

東京外国語大学府中キャンパス（所在地：〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1）

履修可能科目

所属学部教務担当課で確認してください。ただし、都合によって履修可能科目が変更になることがあります。また、本学と東京外国語大学双方の曜日時限が重複する科目や移動時間も含めて授業開始時刻に間に合わない科目を履修することはできません。

履修手続

- ① 「特別聴講学生願書」を所属学部教務担当課窓口で受け取り、所定の期間内に所属学部教務担当課窓口へ提出してください。
- ② 提出された「特別聴講学生願書」をもとに、東京外国語大学が受講の可否を決定します。
- ③ 第1回目の講義に出席し、東京外国語大学の授業担当教員へ東洋大学の学生である旨と聴講申請手続き中である旨、申し出てください。
- ④ 受講の正式な可否については、ToyoNet-Gにてお知らせを配信しますので、確認のうえ、受講可の学生は東京外国語大学で所定の手続を行ってください。

試験

東京外国語大学の制度によります。追・再試験は原則行いません。

単位認定

東京外国語大学からの成績到着後、当該科目の単位の認定を希望する場合は、所属学部教務担当課窓口まで、「単位認定申請書」を提出してください。教授会での審議後、申請が認められる場合は「T」評価として認定します。



東京外国語大学入構時には本学の「学生証」を必ず携帯し、東洋大学の学生であることを示すこと。その他、東京外国語大学の学則に従い、規律ある行動をとること。

各種手続

学生生活を過ごすうえで重要な各種手続について説明します。

誤った判断をして、自らの学修活動に支障をきたすことがないように、不明な点があれば朝霞事務課教務担当窓口へ問い合わせるようにしてください。
履修要覧を熟読し、学生生活を実りあるものにしましょう。

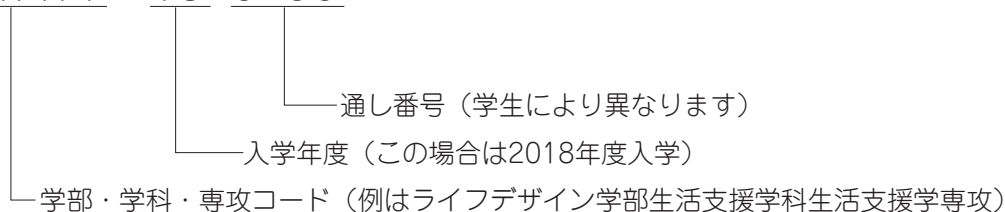
各種手続 学籍情報

◆学籍番号◆

入学手続を完了した学生には、10桁の学籍番号が付与されます。この番号は学生証等に記載され、転部・転科等の特別な理由がない限り卒業まで変わることはありません。

試験の答案用紙の提出、各種届出、各種証明書の申請等で必要となるので、正確に記憶しておいてください。

例) 1A11 18 0250



学部・学科・専攻コード

1A11	ライフデザイン学部	生活支援学科	生活支援学専攻
1A12	ライフデザイン学部	生活支援学科	子ども支援学専攻
1A20	ライフデザイン学部	健康スポーツ学科	
1A30	ライフデザイン学部	人間環境デザイン学科	

◆学生証◆

本学の就学手続が完了した学生に学生証を交付します。学生証は本学学生としての身分を証明するものですので、常に携帯してください。また学長印、学生本人の写真、学生証裏面シールの貼付が無いものは無効となります。学生証は他人に貸与、または譲渡することはできません。

Point

～学生証の携帯義務～

学生証は本学学生としての身分を証明するものであるため、常に携帯し、次の場合これを提示しなければなりません。

- 1) 本学教職員の請求がある場合
- 2) 学期末試験を受験する場合
- 3) 各種証明書や学生旅客運賃割引証明書（学割）等の交付を受ける場合
- 4) 通学定期乗車券や学生割引乗車券を購入する際と、それを利用して乗車船した際に係員の請求があった場合、等

学生証がないと各種証明書の発行が受けられません。また、図書館の利用、学期末試験の受験、通学定期券の購入等ができませんので、紛失・汚損・破損のないよう十分注意してください。

<有効期限と更新手続>

学生証の有効期限は4月1日から次年度の4月15日までの約1年間です。入学時に交付を受けた学生証は卒業するまで使用します。毎年4月初旬の進級手続期間内に、学生証の裏面シールを貼りかえ、学生証の有効期限の更新を受けなければなりません。

※進級手続の日時等は、ToyoNet-Gでお知らせします。

<返還>

卒業または退学・除籍等の理由で、本学に籍が無くなった場合は、学生証を本学に返還しなければなりません。

<再発行>

学生証を紛失もしくは破損・著しく汚損した場合は、直ちに本学へ届け出し、以下の手続に従って学生証の再発行をしなければなりません。

●手続の流れ●

①朝霞事務課学生生活担当窓口で遺失物届出の確認



②証明書発行機で学生証再発行届を出力



③朝霞事務課教務担当窓口で再発行届に確認印を受領



④朝霞事務課教務担当窓口を上記③の再発行届を提出



⑤1週間後、朝霞事務課教務担当窓口で学生証を受領



- ・学生証の再発行には1週間かかります。
- ・再発行手数料として2,000円がかかります。
- ・申込キャンセルによる手数料の返金はできません。

<証明書発行機で使用する暗証番号>

第三者に不正使用されないために、4桁の数字の暗証番号が登録されています。入学手続時に届け出た暗証番号は、証明書発行機で証明書を発行する際に必要です。メモなどを取り、必ず覚えておいてください。

◆学籍◆

入学の手続を完了し、学生証の交付を受けた学生は、本学の在籍者としての身分を与えられることとなります。

①二重学籍の禁止

本学に在籍しているにもかかわらず、他大学および本学の他学部・他学科に在籍（在学）することはできません。

②修業年限

本学に学生として最低4年間（8セメスタ）在学し、所定の単位を修得しなければ卒業はできません。

③在学年限

卒業に必要な単位を修得するために連続して在学できる年数（在学年数）は、最長8年間（16セメスタ）となります。ただし、休学期間の年数（学期）は在学年数に算入しません。

④セメスタ制

ライフデザイン学部では1年を2学期に分けたセメスタ制を採用しています。このため、学期ごとに休学等の学籍異動が可能です。

⑤変更届について

入学手続時に届け出た内容に変更が生じた場合、朝霞事務課教務担当窓口で所定の用紙に変更箇所を記入し、届け出なければなりません。特に学籍簿は学生の身分を本学が証明する基礎となる重要な書類であり、永久保存され、厳重に保管されます。変更が生じた場合はすみやかに届け出てください。

主な変更事項は以下の通りです。

◆学籍情報の変更◆

本学の入学手続時に届け出した情報に変更が発生した場合は、朝霞事務課教務担当窓口にて速やかに届け出てください。なお、変更内容によっては、「ToyoNet-G」の「学生メニュー」>「個人情報管理」>「学生情報申請」を利用しても変更が可能です。

変更内容	変更方法		注意事項 (添付書類など)
	教務担当窓口	ToyoNet-G	
本人氏名変更 (改姓・改名)	○	×	戸籍抄本
本人住所、連絡先変更	○	日本国籍学生…○ 外国籍学生…住所変更は×	外国籍学生は住民票の提出が必要です。
最寄駅変更	○	○	
保証人変更	○	×	新しい保証人の署名・捺印
保証人住所、連絡先、勤務先変更	○	○	
緊急時連絡人変更	○	×	
緊急時連絡人住所、連絡先変更	○	○	
本籍地変更	○	×	住民票（本籍の記載があるもの）、または戸籍抄本
在留資格・在留期間等変更 (外国籍学生対象)	○	×	住民票（国籍・在留資格・在留期間の記載があるもの） ※在留期間終了前に提出

◆修業年限・在学年限・休学期間◆

<修業年限>

卒業するために最低限在学しなければならない期間を指します。その期間は4年間です。

<在学年限>

大学に在学できる期間のことを指します。その期間は8年間です。8年を超えての在学はできません。ただし、休学期間は在学年限に含まれません。

<休学期間>

休学期間は通算して8学期（4年間）を超えることができません。

通常の在学年限	1年目		2年目		3年目		4年目		5年目		6年目		7年目		8年目	
	第1セメスタ	第2セメスタ	第3セメスタ	第4セメスタ	第5セメスタ	第6セメスタ	第7セメスタ	第8セメスタ	第9セメスタ	第10セメスタ	第11セメスタ	第12セメスタ	第13セメスタ	第14セメスタ	第15セメスタ	第16セメスタ

1年間休学した場合	1年目		2年目		1年休学	3年目		4年目		5年目		6年目		7年目		8年目	
	第1セメスタ	第2セメスタ	第3セメスタ	第4セメスタ		第5セメスタ	第6セメスタ	第7セメスタ	第8セメスタ	第9セメスタ	第10セメスタ	第11セメスタ	第12セメスタ	第13セメスタ	第14セメスタ	第15セメスタ	第16セメスタ

各種手続

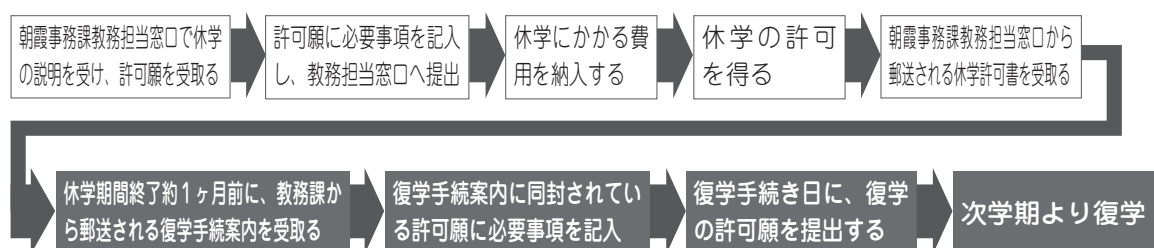
休学および復学

◆◆休学について◆◆

病気・家庭の事情・留学等の理由で3ヶ月以上本学に修学できない場合は、大学の許可を得て休学することができます。

休学希望者は、朝霞事務課教務担当窓口で休学の説明を受け、許可願用紙に必要事項を記入し、朝霞事務課教務担当窓口へ提出してください。なお、病気・怪我の場合には、医師の診断書も併せて提出が必要となります。

◆◆休学および復学手続の流れ◆◆



手続きについては、学生本人が行ってください。やむを得ず本人が手続きできない場合は、事前に朝霞事務課へ相談してください。

◆◆休学の期間と許可願の提出期限◆◆

休学希望者は、定められた期限までに許可願を朝霞事務課教務担当窓口へ提出しなければなりません。

	休学期間	提出期限
春学期	4月1日～9月30日	春学期納付金納入期限まで
秋学期	10月1日～3月31日	秋学期納付金納入期限まで

原則として連続する2セメスタを超えて休学することはできません。ただし特別な事情がある場合は大学の許可を得て休学することができます。休学の期間は通算して、8セメスタを超えることはできません。



次セメスタの休学希望者は学期末試験期間前までに朝霞事務課教務担当窓口へ相談してください。2セメスタ連続休学を希望する場合でも、セメスタごとに手続が必要で

◆各学期の休学にかかる費用◆

許可願提出後、各学期の納付金納入期限末日までに以下の納付金を納入することで、休学許可願申請が完了します。

学費		その他の費用	
各学期の一般施設設備資金 の1/2	+	雨水会費	学生課外活動 育成会費

※秋学期休学の場合、「その他の費用」については春学期に徴収済のため、納入する必要はありません。

納付金の詳細一覧がp.231にありますので、確認してください。



学期によって異なる部分があります。休学するためにかかる費用については朝霞事務課教務担当窓口にも必ず相談してください。

Notice

～学期途中の休学について～

春学期途中に休学する場合、春学期最終日の3ヶ月前の6月末日まで、秋学期途中に休学する場合、秋学期最終日3ヶ月前の12月末日まで受付をします。ただし、学期途中での休学の場合、納付金の返還はできませんので注意してください。

履修登録

休学期間中の履修登録はすべて無効となります。

◆休学（復学）許可願の書き方◆

春学期	休学 復学	●●年4月1日
秋学期	休学 復学	●●年10月1日

春学期	休学	●●年9月30日
秋学期	休学	●●年3月31日

復学の場合は復学を○で囲んでください。

学生本人が自筆すること

印鑑は別々の物を使用すること
シャチハタ印鑑は不可

保証人本人が自筆すること

休学の場合：
ゼミ担当、もしくは学年担当等の専任教員へ、本欄への所見記入を依頼して下さい

休学理由を詳しく記入すること

事務局長印	学部教授会	学務部記入
学務課認	承・否	学務部長印

◆許可書の発送について◆

大学から許可されると保証人宛に、外国人留学生は本人宛に休学許可書が郵送されます。



許可願は、原則朝霞事務課教務担当窓口で説明を受けた後、用紙を受取ってください。直接朝霞事務課教務担当窓口に来ることが困難な場合は、ToyoNet-Gからダウンロードすることもできます。

◆復学◆

休学期間を満了し、在学することを復学といいます。春学期休学の場合は10月1日付、秋学期休学の場合は次年度4月1日付で復学しなければなりません。

◆復学手続きの流れ◆

①復学手続

復学の対象者（当該学期休学者）には、朝霞事務課教務担当窓口から復学に必要な書類および納付金振込用紙を休学学期末に保証人宛（留学生は本人宛）に郵送します。

復学する場合、指定の期間内に許可願用紙に必要事項を記入し、保証人連署の上、学生証を添えて朝霞事務課教務担当窓口へ提出してください。

②復学者の履修方法

復学した学生は、復学する学年以下に配当されている科目について履修することができます。なお、詳細な履修方法については、復学手続終了後、朝霞事務課教務担当窓口にご相談して下さい。

各種手続 退学

事情により本学での修学継続が困難な場合には、大学の許可を得て退学することができます。

①退学手続

退学を希望する場合は、保証人と十分相談の上で、朝霞事務課教務担当窓口で退学に関する説明を受け、許可願用紙に必要事項を記入し、保証人連署の上、学生証を添えて朝霞事務課教務担当窓口へ提出してください。なお、病気等の場合には医師の診断書等が必要となります。

また、これらの手続は学生本人が行ってください。ただし、やむを得ず本人が手続できない場合には、事前に朝霞事務課教務担当窓口にご相談してください。

退学が大学で許可された場合、本学から退学許可書を郵送します。

②退学者の再入学

退学者は、大学の許可を得て再入学することができます。

春学期再入学を希望する場合は1月末、秋学期再入学を希望する場合は7月末までに朝霞事務課教務担当窓口で再入学に関する説明を受け、許可願用紙に必要事項を記入し、保証人連署の上、朝霞事務課教務担当窓口へ提出してください。

大学で再入学が許可された場合は、該当学期開始の1日付で再入学することができます。

再入学者は退学時まで在学していた期間を含め8年間で卒業しなければなりません。

③再入学者の履修方法

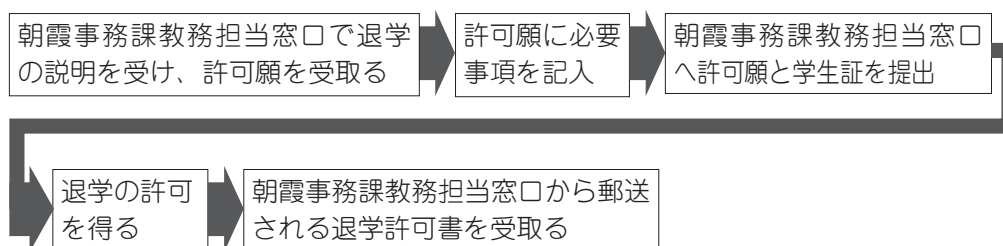
再入学する学年は、退学時の学年となりますが、単位の修得状況によって学年を繰り下げる場合もあります。また、学科教育課程表は入学年度のものを用いますが、単位の修得状況やカリキュラムの変更によっては、再入学する学年の学科教育課程表を適用する場合があります。再入学者の履修方法については、再入学の手続き時に朝霞事務課教務担当窓口で説明します。不明な点は朝霞事務課教務担当窓口へ問い合わせてください。

④懲戒による退学

本学の規則に反し、または学生の本分に反する行為があった学生は、大学の議を経て懲戒による退学となる場合があります。

この場合は、すみやかに学生証を本学に返還しなければなりません。

◆退学手続の流れ◆



手続については、学生本人が行ってください。やむを得ず本人が手続できない場合は、事前に朝霞事務課教務担当窓口へ相談してください。



許可願は、原則朝霞事務課教務担当窓口で説明を受けた後、用紙を受取ってください。直接朝霞事務課教務担当窓口に来ることが困難な場合は、ToyoNet-Gからダウンロードすることもできます。

◆退学許可願の書き方◆

東洋大学長 殿 以下の事由には 年 月 日をもって (休学 (年 月 日まで) 復学・退学・再入学) いたしました。 原級 (不足単位数 単位) (※該当する事項をすべて記入) 許可くださいますようお願いいたします。		許 可 願 (提出日) 年 月 日																																					
【事 由】 【※日外へ留学等の場合】 行先(地域・国名・滞在都市名などを記入してください) (注意) 1. 学年は西暦で記入すること。 2. 学生証を添付すること。 3. 事由が病気・怪我の場合は医師の診断書を添付すること。 4. 休学期間が終了し復学する場合は、後日郵送の手続き案内に従い、指定された期間中に復学願を提出し手続きすること。 5. 原級の場合は卒業に必要な単位数を記入すること。		<table border="1"> <tr> <td>学籍番号</td> <td>学 部</td> <td>第 部</td> <td>学 科</td> <td>年 番</td> </tr> <tr> <td>住 所</td> <td colspan="4">TEL ()</td> </tr> <tr> <td>氏 名</td> <td colspan="4">年 月 日生(満 歳)</td> </tr> <tr> <td>住 所</td> <td colspan="4">TEL ()</td> </tr> <tr> <td>氏 名</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td colspan="5">※大学所見欄には記載者名、日付を明記すること。</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td>事務局受付</td> <td>学部教授会</td> <td>学籍係記入</td> </tr> <tr> <td>学籍確認</td> <td>承 ・ 否</td> <td>学籍係承認</td> </tr> </table>		学籍番号	学 部	第 部	学 科	年 番	住 所	TEL ()				氏 名	年 月 日生(満 歳)				住 所	TEL ()				氏 名					※大学所見欄には記載者名、日付を明記すること。					事務局受付	学部教授会	学籍係記入	学籍確認	承 ・ 否	学籍係承認
学籍番号	学 部	第 部	学 科	年 番																																			
住 所	TEL ()																																						
氏 名	年 月 日生(満 歳)																																						
住 所	TEL ()																																						
氏 名																																							
※大学所見欄には記載者名、日付を明記すること。																																							
事務局受付	学部教授会	学籍係記入																																					
学籍確認	承 ・ 否	学籍係承認																																					

学期末日で退学する場合
春学期：●●年9月30日
秋学期：●●年3月31日

退学を○で囲んでください。

学生本人が自筆すること

印鑑は別々の物を使用すること
 シャチハタ印鑑は不可

保証人本人が自筆すること

ゼミ担当、もしくは学年担当等の専任教員へ、本欄への所見記入を依頼して下さい

退学理由を詳しく記入すること

※学生証を必ず添付すること

◆納付金の取り扱い◆

①春学期途中で退学する場合

- ・春学期の途中で退学する場合は、第1期(春学期)分の納付金は払い戻しません。
- ・全額一括納入した場合は、第2期(秋学期)分の納付金は払い戻します。

②秋学期途中で退学する場合

- ・秋学期の途中で退学する場合は、第2期(秋学期)分の納付金は払い戻しません。
- 新学期の納付金納入期限末日までに退学を願い出た場合、退学日を前学期の末日付として扱うため、当該学年・学期の納付金を納入する必要はありません。

◆許可書の発送について◆

大学から許可されると保証人宛に、外国人留学生は本人宛に退学許可書が郵送されます。

懲戒による退学

本学の規則に反し、または学生の本分に反する行為があった学生は、大学の議を経て懲戒による退学となる場合があります。

この場合は、すみやかに学生証を本学に返還しなければなりません。



各種手続 除籍

除籍とは、本学の学則およびその施行のために定められた規則に基づく権利の一切を失うことです。次に該当する場合は、除籍の対象となります。

- ①指定された期間内に納付金を納入しなかった学生
- ②在学年限を超えた学生
- ③休学期間を超えた学生
- ④新入生で指定された期間内に履修登録をしなかった学生
- ⑤その他本学において修学の意味がないと認められる学生

◆◆ 除籍日 ◆◆

在校生の除籍日は9月30日または3月31日となり、新入生で指定された期間内に履修登録をしなかった学生の除籍日は4月30日となります。

◆◆ 除籍となった場合 ◆◆

除籍となった場合、速やかに学生証を返却しなければなりません。なお、除籍通知書は保証人宛に郵送します。



各種手続 再入学

本学を退学した者、または除籍となった者が、再入学を希望する場合、大学の許可を得て再入学することができます。

再入学を希望する者は、下記の日程までに朝霞事務課教務担当窓口で再入学の説明を受け、許可願用紙に必要事項を記入し、保証人連署・捺印の上、窓口へ提出してください。

	許可願提出期限	再入学日
春学期（4月）から再入学を希望する者	1月末まで	翌年度 4月1日付
秋学期（10月）から再入学を希望する者	7月末まで	当該年度 10月1日付

下記の条件により退学・除籍した者は再入学を希望することはできません。



退学者：在学年限を超えて退学した者
懲戒により退学となった者

除籍者：在学年限を超えて除籍となった者
休学期間を超えて除籍となった者

再入学者は退学時まで在学していた期間を含め、8年間で卒業しなければなりません。

Notice

再入学する学年およびセメスタは、本学での最終学籍状況によって異なります。単位の修得状況によっては学年を繰り下げることがあります。また、学科教育課程表は入学年度のものを適用しますが、学科教育課程表が大きく変わっている場合には、再入学する学年の学科教育課程表を適用することがあります。履修方法は、再入学手続時に朝霞事務課教務担当窓口で説明をします。不明な点は、朝霞事務課教務担当窓口へ問い合わせてください。

各種手続**その他の学籍異動****◆ 転部・転科 ◆**

本学内で他の学部・学科への転部・転科を希望する学生に対し選考を実施します。

第1部に所属する学生の場合は、第1部の他学部・他学科、および第2部の学部・学科への転部・転科となります。

第2部に所属する学生の場合は、第2部の他学部・他学科、および第1部の学部・学科への転部・転科となります。

希望者は11月下旬に配布予定の試験実施要領をもとに手続を行い、1月に実施予定の試験を受験してください。また、合格発表は翌年の3月下旬に行う予定です。

試験実施要領と手続案内は例年10月頃学内に掲示いたします。

詳細については朝霞事務課教務担当窓口へ問い合わせてください。学部・学科によっては転部・転科試験を実施しない場合があります。

◆ 進級 ◆

学期初めの進級手続期間内に、当該年度の納付金を納入のうえ、進級手続を行い、学生証の有効期限更新を受けなければなりません。

休学者が復学した場合等の特別な事情がない限り、原則として上級の学年に進級します。

◆ 4年原級 ◆

本学に学生として最低4年間(8セメスタ)在学し、所定の単位を修得しなければ卒業はできません。

4年次終了までに所定の単位を修得できず、卒業できないことを「4年原級」といいます。

卒業に必要な単位を修得するために連続して在学できる年数(在学年数)は、最長で8年間(16セメスタ)です。

◆編入学◆

本学または他大学を卒業後に編入学を希望する者に対して、編入学試験を実施しています。試験要項は、9月頃入試情報サイトに掲載予定です。

編入学する学年は、原則として3年次となります。また、学科教育課程表も編入学する学年のものを適用します。既修単位の取り扱いについては試験要項を確認してください。履修方法については、編入学の手続時に朝霞事務課教務担当窓口で説明をします。不明な点は、朝霞事務課教務担当窓口へ問い合わせてください。



本学を卒業した者は卒業した学部・学科への編入学はできません。

◆転入学◆

他の大学の学生が、その大学の許可を得て本学に転入学を願い出る場合、本学の実施する転入学試験を受験していただきます。試験要項は、9月頃入試情報サイトに掲載予定です。

転入学する学年は、原則として2年次または3年次となります。また、学科教育課程表も転入学する学年のものを適用します。既修単位の取り扱いについては試験要項を確認してください。履修方法については、転入学の手続時に朝霞事務課教務担当窓口で説明をします。不明な点は、朝霞事務課教務担当窓口へ問い合わせてください。

◆科目等履修生◆

卒業後、特定の授業科目（例えば、教職科目等）について履修を希望する場合は、科目等履修生として授業科目の履修を許可される場合があります。

ただし、本学に在籍中は、科目等履修生として授業科目を履修することはできません。また科目等履修生としてでは取得できない資格もあります。

なお、希望者は1月下旬に配布予定の募集要項をもとに手続きをとり、3月中旬（春学期履修生）・8月下旬（秋学期履修生）実施予定の試験を受験してください。

また、合格発表は3月下旬（春学期履修生）・9月中旬（秋学期履修生）に行う予定です。詳細については、朝霞事務課教務担当窓口にて確認してください。

各種手続 各種証明書

朝霞事務課では、以下の証明書を発行しています。証明書には、「証明書発行機」で発行するものと、「窓口」で発行するものがあります。

(1) 証明書発行機で発行される証明書

以下の証明書は証明書発行機での発行となります。

発行には学生証とパスワード（P.217参照）が必要になります。

(2018年度現在)

種類	手数料 (円)	発行可能学年	備考
在学証明書	100	1～4年生	朝霞・白山・川越・板倉・赤羽台いずれのキャンパスの発行機でも発行可能
成績証明書	100	1～4年生	
健康診断証明書(本学書式)※1	100	1～4年生	
卒業見込証明書※2	100	4年生	
学割(年間10枚まで)	無料	1～4年生	
情報システム利用通知書※3	無料	1～4年生	

※1 健康診断証明書(本学書式)は毎年4月に本学が実施する定期健康診断を受診した学生のみ、その当該年度の発行が可能となります。毎年必ず受診してください。なお、本学書式以外での発行を希望する場合は「その他の証明書」(金額300円)扱いとなりますので、朝霞事務課学生生活担当窓口へ申請してください。

※2 卒業見込証明書は4年7セメスタ以上で、卒業要件を満たす見込のある学生のみ発行可能です。

※3 学生の個人情報にアクセスするための情報が記載されていますので厳重に管理してください。

(2) 窓口で発行される証明書

以下の証明書の発行を申請する場合は、証明書発行機にて「証明書発行願」を購入し、朝霞事務課教務担当窓口へ提出してください。なお、発行までに1週間かかります。

(2018年度現在)

種類	手数料 (円)	発行可能学年	備考
学生証(再発行)	2,000	1～4年生	詳細はP.218を参照
教育職員免許状取得見込証明書	100	4年生	
指定保育士養成施設卒業見込証明書	100	4年生	
介護福祉士養成施設卒業見込証明書	100	4年生	
単位修得証明書	300	1～4年生	
注1) 人物証明書	200	4年生	
英文成績証明書	1,000	1～4年生	
英文在学証明書	500	1～4年生	
英文卒業見込証明書	500	4年生	
その他の証明書	300	1～4年生	

※証明書申請後3ヶ月を経過しても受け取りのない場合は、無効として処分します。

注1) 人物証明書は、演習・卒業論文担当教員との面接を行った後、後日朝霞事務課教務担当窓口にて発行となります。発行手続きは以下のとおり行ってください。

1. 発行希望日の2週間前に朝霞事務課教務担当窓口に来室。

2. 演習・卒業論文担当教員と面接(面接内容を元に担当教員が人物証明書を作成)。

※面接時に教員へ発行予定日を確認し、発行予定日以降に朝霞事務課教務担当窓口に来室。

3. 朝霞事務課教務担当窓口にて証明書手数料の入金および証明書の受取り。

◆登録料・実習料・受験料◆

ライフデザイン学部では、履修科目等により下記の登録料・実習料・受験料が必要になります。納入時期や納入金額は入学年度により異なりますので、注意してください。納入の方法については別途指示します。

(2018年度現在)

種類	金額 (円)	備考
教職課程登録料	30,000	子ども支援学専攻は除く
教育実習料	3・4週間実習	15,000
	2週間実習	10,000
介護等体験実習料	8,000	
看護学実習料	2,000	
健康産業施設等現場実習料	32,400	
社会福祉援助技術現場実習料	40,000	
精神保健福祉援助技術実習料	46,000	
生活支援学専門実習料	各実習施設の 規定による	
医療福祉専門実習料		
精神保健福祉専門実習料		
介護福祉専門実習料		
保育実習料 (2年次)	15,000	
保育実習料 (3年次)	15,000	
保育実習料 (4年次)	15,000	
介護福祉実習料 (1年次)	30,000	
介護福祉実習料 (2年次)	45,000	
介護福祉実習料 (3年次)	45,000	
介護福祉実習料 (4年次)	30,000	
卒業再試験 (1科目)	5,000	卒業再試験受験対象者 (4年8セメスタ以上)
転部転科試験受験料	10,000	

※ライフデザイン学部の学生は、全員が「公益財団法人 日本国際教育支援協会」の「学研災付帯賠償責任保険」に加入しています。

各種手続 納付金

定められた期間に納付金を納入しなければ、本学の学生として、在籍することはできません。納入期間がありますので、期日までに納入をすることを忘れないようにしてください。

◆納付金額◆

「学費」と「その他の費用」を合わせて「納付金」と称します。2年次以降は、入学金を除く納付金の納入が毎年度必要になります。納付金の内訳は以下のとおりです。

(1) ライフデザイン学部納付金内訳

(単位：円)

入学年度		2018		
学部		ライフデザイン学部		
学科		生活支援学科・健康スポーツ学科	人間環境デザイン学科	
納付金	学費	入学金	250,000	250,000
		授業料	830,000	880,000
		一般施設設備資金	200,000	260,000
		実験実習料	—	70,000
	その他の費用	雨水会費	5,000	5,000
		学生課外活動育成会費	5,000	5,000
合計		1,290,000	1,470,000	

※その他の費用については、各団体からの依頼に基づき、本学が代理徴収しています。

◆納入期間◆

納付金は、4月期（春学期納入期間）に1年間分を全額一括納入することが原則です。ただし、授業料・一般施設設備資金・実験実習料については次の二期に分けて納入することができます。

第1期（春学期）納入期間 4月1日～4月25日
第2期（秋学期）納入期間 10月1日～10月15日



各年度の曜日の関係により、納入期間が短縮される場合があります。

◆学籍異動における納付金の取扱◆

【休学】

修学の意思がありながら学期始めに休学する場合は、納付金の納入期間内に休学許可願を朝霞事務課教務担当窓口へ提出してください。

＜第1期（春学期）の納入期限までに休学を願い出た場合＞

- ・休学日を4月1日付として扱い、納付金のうち、第1期（春学期）分の授業料・実験実習料は徴収しません。ただし、一般施設設備資金の半額とその他の費用は納入しなければなりません。
- ・全額一括納入した場合は、第1期（春学期）分の授業料・実験実習料・一般施設設備資金の半額および第2期（秋学期）分の納付金を払い戻しいたします。

＜春学期中に休学する場合＞

- ・春学期の途中で休学する場合、第1期（春学期）の納付金は払い戻しをいたしません。
- ・全額一括納入した場合は、第2期（秋学期）分の納付金を払い戻しいたします。

＜第2期（秋学期）の納入期限までに休学を願い出た場合＞

- ・休学日を10月1日付として扱い、納付金のうち第2期（秋学期）分の授業料・実験実習料は徴収しません。ただし、一般施設設備資金の半額は納入しなければなりません。
- ・第2期（秋学期）分の納付金を納入した場合は、第2期（秋学期）分の授業料・実験実習料・一般施設設備資金の半額を払い戻します。

＜秋学期中に休学する場合＞

秋学期の途中で休学する場合、第2期（秋学期）の納付金は払い戻しをいたしません。

＜2セメスタ連続して休学する場合＞

連続休学する場合、次学期分の授業料・実験実習料・一般施設設備資金の半額を除く納付金は納入しなければなりません。

【復学】

- ・休学者が復学する場合の納付金は、入学年度の額が適用されます。
- ・第2期（秋学期）に復学する場合は、復学時に1セメスタ（半期）分の納付金を納入することになります。
- ・1セメスタ（半期）休学する場合、全額一括納入・分割納入の選択が可能な納入期は、第1期（春学期）とします。

【除籍】

所定の納期までに納付金を納入しない学生は、学則第38条1項により、除籍とします。

【退学】

修学の意味がない場合は、納入期間内に退学許可願を朝霞事務課教務担当窓口に提出してください。

＜新学期の納入期限の末日までに退学を願い出た場合＞

退学日を前学期の末日付として扱い、当該年度・学期の納付金を納入する必要はありません。

＜春学期中に退学する場合＞

- ・春学期の途中で退学する場合は、第1期（春学期）分の納付金は払い戻しをいたしません。
- ・全額一括納入した場合は、第2期（秋学期）分の納付金は払い戻しいたします。

＜秋学期中に退学する場合＞

秋学期の途中で退学する場合は、第2期（秋学期）分の納付金は払い戻しをいたしません。

【再入学】

再入学する場合の納付金は、再入学する学年次生の納付金を適用します。ただし、入学金は、再入学する年度の新入生の半額となります。

【原級】

4年次生で原級する場合の納付金は、当該年度正規4年次生の納付金を適用します。

【転部・転科】

納付金は転部・転科先の学年の納付金を適用します。ただし、入学金は、転部・転科先との不足分を納入することになります。

【編入学】

編入学する場合の納付金は、編入学する年度の新入生の納付金を適用します。ただし、本学出身者が編入学する場合、入学金は、編入学する年度の新入生の額の半額となります。

【転入学】

転入学する場合の納付金は、転入学する年度の新入生の納付金を適用します。

◆振込用紙の送付◆

- ・振込用紙の送付先は、保証人宛（留学生は本人宛）となります。
- ・入学手続時（1年次）に分割納入した場合、2回目の納入に使用する振込用紙は9月末に郵送します。
- ・2年次以降は毎年3月末（全納用と分納1回目用）と9月末（分納2回目用）に振込用紙を郵送します。
- ・振込用紙送付先は保証人宛て（留学生は本人宛て）となります。振込用紙送付先を変更する場合は、朝霞事務課総務担当窓口にて手続してください。



振込用紙送付先の住所に変更があった場合は、所定の手続きにより、住所変更の手続きを行ってください。

◆納入方法◆

- ・本学所定の振込用紙を使用し、国内の金融機関から振り込んでください。大学窓口での受付および海外からの送金はできません。
- ・振込用紙を紛失した場合は、至急、朝霞事務課総務担当窓口まで連絡してください。
- ・納付金に関する証明書の発行が必要な方は、朝霞事務課総務担当窓口にて申請してください。
- ・納入された納付金は、超過納入が明らかな場合または学籍異動に伴い徴収の対象とならない場合を除き返還いたしません。
- ・振込用紙の送付先住所に変更があった場合は、ToyoNet-Gで変更手続をしてください。手続を行わないと振込用紙が届かない場合があります。

◆納入期間内に納入ができない場合◆

やむを得ない事情で納入期限までに納付金を納入できない場合は、**必ず納入期間内に朝霞事務課教務担当窓口**に相談してください。



- ・納付金に関する証明書の発行が必要な方は、朝霞事務課総務担当窓口にて申請してください。発行には1週間程度かかりますので、時間に余裕を持って手続してください。なお、発行手数料は無料です。
- ・納入された納付金は、超過納入が明らかな場合または学籍異動により徴収の対象とならない場合を除き返還いたしません。

○納付金についての問い合わせ先

朝霞事務課（学費担当）

TEL：048-468-6321

○住所変更についての問い合わせ先

朝霞事務課（教務担当）

TEL：048-468-6314

学則（学籍に関する事項の抜粋）

別表および最新の学則はホームページを確認してください。

第3章 修学等

第1節 修業年限

（在学年限）

第20条 卒業に必要な単位を修得するために在学できる年数（以下「在学年数」という。）は、通算して8年を限度とする。この場合において、休学年数は在学年数に算入しない。

2 再入学又は編入学をした者の在学年数は、前項の在学年数から再入学又は編入学までの通常の在学の年数を控除した年数とする。

第4章 入学、退学、休学、除籍等

第1節 入学、留学等

（入学の時期）

第24条 入学期は、学期の初日から30日以内とする。

（入学資格）

第25条 学部第1年次に入学できる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- （1）高等学校を卒業した者
- （2）通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）
- （3）外国において学校教育における12年の課程を修了した者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- （4）文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- （5）文部科学大臣が指定した者
- （6）大学入学資格検定（平成17年1月31日規程廃止）に合格した者
- （7）高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者
- （8）その他本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18歳に達したものの

（入学の志願及び選考）

第26条 入学志願者は、所定の書式による入学願書を提出し、別表第1に定める入学検定料を納入し、かつ、選考試験を受けなければならない。

（入学の手続）

第27条 入学を許可された者は、入学金を納入し、所定の書式により誓約書を提出しなければならない。

（保証人）

第28条 保証人は、父、母又はその他の成人者で独立の生計を営む者でなければならない。

2 保証人は、学生の在学中の一切の事項について責任を負う。

3 学生は、保証人を変更し、又はその氏名若しくは居住地に変更があったときは、速やかに変更届を提出しなければならない。

（学生証）

第29条 入学手続を終えた者には、学生証を交付する。

（編入学）

第30条 学長は、次の各号のいずれかに該当する者が本学に編入学を希望するときは、選考のうえ、編入学を許可することができる。

- （1）短期大学を卒業した者
- （2）大学を卒業した者
- （3）高等専門学校を卒業した者
- （4）専修学校の専門課程（文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者

2 編入学に関する規程は、別に定める。

（転入学）

第31条 学長は、他の大学の学生が、その大学の許可を得て本学に転入学を願い出たときは、選考のうえ、転入学を認めることができる。

2 転入学に関する規程は、別に定める。

（転部・転科）

第32条 学長は、学生が学部の他の部へ、又は他の学部及び学科又は専攻へ転部及び転科を願い出たときは、選考のうえ、これを許可することができる。

2 転部・転科に関する規程は、別に定める。

(留学)

第33条 学長は、学生が外国の大学で学修することを願い出たときは、教授会の意見を聴いて留学を許可することができる。

2 前項の許可を得て留学した期間は、在学年数に算入する。

(二重学籍の禁止)

第34条 学生は、他の学部学科又は他の大学と併せて在学することはできない。ただし、本学と本学の協定大学の間で実施されるダブル・ディグリー・プログラム及びジョイント・ディグリー・プログラムへの参加者には適用しない。

第2節 休学、退学、転学及び除籍

(休学)

第35条 引続き3カ月以上修学できない学生が休学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

2 休学は、連続する2学期限りとする。ただし、特別の事情がある場合は、学長は教授会の意見を聴いて、2学期を超える期間の休学を許可することができる。

3 休学の期間は、通算して8学期を超えることはできない。

4 願いにより休学した者が、休学の期間が満了した場合又は休学期間中に休学の理由が消滅した場合において、復学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

(退学)

第36条 学生が理由を明確にして退学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

2 願いにより退学した者が、再入学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

(転学)

第37条 学生が転学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

(除籍)

第38条 次に掲げる各号のいずれかに該当する者は、所定の手続を経て、除籍する。

(1) 授業料その他の学費を所定の期日までに納入しない者

(2) 第20条に規定する在学年数を超えた者

(3) 第35条第2項に規定する休学期間を超えた者

(4) 新生で指定された期限までに履修登録を行わないこと、その他本学において修学の意味がないと認められる者

(5) 外国人留学生で出入国管理及び難民認定法に定める「留学」の在留資格の入国査証の発給が拒否された者

2 学生は、除籍されることにより、学生の身分を失う。

3 第1項の規定(第2号及び第3号に掲げる者を除く。)により除籍された者が、再入学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

第8章 賞罰及び奨学

(懲戒)

第57条 学長は、本学の学則その他の規程に反し、又は学生の本分に反する行為があった学生に対し、教授会の意見を聴いて、行為の軽重と教育上の必要とを考慮して、譴責、停学又は退学の処分をすることができる。

2 退学処分は、次の各号のいずれかに該当する者以外には、これを行うことはできない。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者

(2) 学業を怠り、成業の見込みがないと認められる者

(3) 正当な理由なくして出席常でない者

(4) 本学の秩序を乱し、その他学生の本分に反した者

東洋大学ライフデザイン学部規程

(趣旨)

第1条 この規程は、東洋大学学則（以下「学則」という。）に基づき、ライフデザイン学部の教育研究に関し必要な事項を定める。

(教育研究上の目的)

第2条 ライフデザイン学部は、学則第4条の2に基づき、学部及び各学科又は専攻の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を、別表第1のとおり定める。

(卒業の認定及び学位授与、教育課程の編成及び実施並びに入学者の受入れに関する方針)

第3条 ライフデザイン学部は、学則第4条の3に基づき、学部及び各学科又は専攻の卒業の認定及び学位授与に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針並びに入学者の受入れに関する方針を、別表第2のとおり定める。

(教育課程)

第4条 ライフデザイン学部は、学則第39条第1項第1号から第5号に基づき、各学科又は専攻の教育課程における科目区分、授業科目の名称、単位数、配当及び履修方法を、別表第3のとおり定める。

(卒業に必要な単位等)

第5条 ライフデザイン学部は、学則第52条に基づき、各学科又は専攻の卒業に必要な単位等を、別表第4のとおり定める。

2 人間環境デザイン学科は、4年次の卒業関係科目の履修するための条件を、別表第5のとおり定める。

(履修上限単位数)

第6条 ライフデザイン学部は、学則第42条第3項に基づき、卒業の要件として学生が修得すべき単位数について、1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を、24単位とする。

2 前項に関わらず、生活支援学科生活支援学専攻介護福祉士コース所属学生は、学位授与に関する方針に照らし、1年次秋学期以降、これに4単位を追加することができる。

3 前項2に加え、授業期間以外の期間に実施する授業を、4単位を上限として履修することができる。

(教育職員その他資格)

第7条 学則第45条に基づき、ライフデザイン学部で取得できる資格は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 教育職員となる資格
- (2) 社会福祉士試験の受験資格
- (3) 精神保健福祉士試験の受験資格
- (4) 介護福祉士試験の受験資格
- (5) 保育士となる資格
- (6) 社会福祉主事となる資格

2 前項第1号の資格において、ライフデザイン学部で取得することができる教育職員免許状の種類及び教科は、次表のとおりとする。

学科及び専攻等	免許状の種類及び教科
生活支援学科生活支援学専攻	高等学校教諭1種免許状（福祉）
生活支援学科子ども支援学専攻	幼稚園教諭1種免許状
健康スポーツ学科	中学校教諭1種免許状（保健）
	中学校教諭1種免許状（保健体育）
	高等学校教諭1種免許状（保健）
	高等学校教諭1種免許状（保健体育）
	養護教諭1種免許状
人間環境デザイン学科	高等学校教諭1種免許状（工業）
	高等学校教諭1種免許状（工芸）

(資格取得のための授業科目及び単位数)

第8条 ライフデザイン学部で資格を取得しようとする者は、次の各号に定める所定の授業科目の単位を修得しなければならない。

- (1) 教育職員の資格 別表第6に掲げる授業科目の単位を修得
- (2) 社会福祉士試験の受験資格 別表第7に掲げる授業科目の単位を修得
- (3) 精神保健福祉士試験の受験資格 別表第8に掲げる授業科目の単位を修得
- (4) 介護福祉士試験の受験資格 別表第9に掲げる授業科目の単位を修得
- (5) 保育士となる資格 別表第10に掲げる授業科目の単位を修得
- (6) 社会福祉主事となる資格 別表第11に掲げる授業科目の単位を修得

(改正)

第9条 この規程の改正は、学長がライフデザイン学部教授会の意見を聴き、学部長会議での連絡調整を経て行う。

附 則

- 1 この規程は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 前項の規定にかかわらず、平成28年度以前の入学生については、なお従前の例による。

参照頁	ライフデザイン学部	生活支援学専攻	子ども支援学専攻	健康スポーツ学科	人間環境デザイン学科
別表第1	36	44	66	86	104
別表第2	37	44、45	66、67	86、89	104、105
別表第3		46、47	68、69	88、89	106、107
別表第4		56	78	97	114
別表第5					115
別表第6	176、177 (共通)	182、183	180、181	184~193	194~197
別表第7		127	127	127	
別表第8		131		131	
別表第9		136			
別表第10			138~140		
別表第11		163	163	163	163

大学の沿革

- 1887（明治20）年9月 井上円了が私立哲学館を創立
本郷区龍岡町（現在の東京都文京区湯島）の麟祥院で授業開始
- 1889（明治22）年11月 本郷区駒込蓬萊町に新校舎を開設
- 1897（明治30）年7月 原町（現在の文京区白山）に移転（現在の白山キャンパス）
- 1906（明治39）年6月 私立東洋大学と改称
- 1920（大正9）年5月 「私立」の冠称が廃止され、「東洋大学」と改称
- 1949（昭和24）年4月 新制大学に移行、文学部を設置
- 1950（昭和25）年4月 経済学部を設置
- 1956（昭和31）年4月 法学部を設置
- 1959（昭和34）年4月 社会学部を設置
- 1961（昭和36）年4月 川越キャンパス（埼玉県）開設
川越キャンパスに工学部を設置
- 1963（昭和38）年4月 附属姫路高等学校（兵庫県）開設
- 1964（昭和39）年4月 附属牛久高等学校（茨城県）開設
通信教育部を設置
- 1966（昭和41）年4月 経営学部を設置
- 1967（昭和42）年11月 創立80周年記念式典を挙
- 1977（昭和52）年4月 朝霞キャンパス（埼玉県）開設
- 1987（昭和62）年10月 創立100周年記念式典を挙
- 1997（平成9）年4月 板倉キャンパス（群馬県）開設
板倉キャンパスに国際地域学部、生命科学部を設置
- 2005（平成17）年4月 朝霞キャンパス（文・経済・経営・法・社会学部）1・2年次を
白山キャンパスに統一、一貫教育開始
朝霞キャンパスにライフデザイン学部を設置
井上円了記念博物館を開館
- 2006（平成18）年4月 白山第2キャンパス開設
- 2009（平成21）年4月 工学部を再編し理工学部を設置
川越キャンパスに総合情報学部を設置
国際地域学部を白山第2キャンパスに移転
- 2011（平成23）年4月 学校法人京北学園と法人合併
東京都板橋区に総合スポーツセンターを開設
- 2012（平成24）年11月 創立125周年記念式典を挙
- 2013（平成25）年4月 板倉キャンパスに食環境科学部を設置
国際地域学部を白山キャンパスに移転
- 2014（平成26）年4月 附属姫路中学校（兵庫県）開設
- 2015（平成27）年4月 附属牛久中学校（茨城県）開設
東洋大学京北中学高等学校が新たに教育活動を開始
- 2017（平成29）年4月 赤羽台キャンパスに情報連携学部を設置
- 2018（平成30）年4月 朝霞キャンパスにライフデザイン学研究科を設置

2018年度 ライフデザイン学部 履修要覧
2018年3月印刷
2018年4月発行

編集発行 東洋大学ライフデザイン学部

表紙デザイン 人間環境デザイン学科 渡邊 暁子
〒351-8510 埼玉県朝霞市岡48-1

卒業まで使用しますので大切に保管してください



東洋大学